

Title	データブック2004-2006
Author(s)	
Citation	
Issue Date	2007-03
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/13049
rights	(c) 大阪大学21世紀COEプログラム インターフェイスの人文科学 / Interface Humanities
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

Osaka University
The 21st Century COE Program
Interface Humanities

Interface Humanities Data Book 2004-2006

Osaka University The 21st Century COE Program Interface Humanities Research Activities 2004-2006



大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」研究報告書2004-2006

文学研究科 人間科学研究所 言語文化研究科 コミュニケーションデザイン・センター

データブック 2004-2006

Interface Humanities Data Book 2004-2006



第Ⅰ部 概要

- 009 プログラムについて
- 011 研究の概要
- 019 研究メンバー一覧

第Ⅱ部 データリスト

- 031 「インターフェイスの人文科学」研究報告書 2004－2006 総目次
- 039 その他の報告書 総目次
- 059 「インターフェイスの人文科学」ニューズレター 04－07 総目次
- 063 シンポジウム・ワークショップ・セミナー・研究会一覧
- 162 COE 科目
- 169 新聞・テレビ等の報道、出演 他
- 172 個人業績一覧

第I部 概要

プログラムについて

プログラム名等

プログラム名 「インターフェイスの人文科学」(英訳: Interface Humanities)

担当部局 大阪大学大学院文学研究科 人間科学研究科 言語文化研究科
コミュニケーションデザイン・センター(17・18年度) ※以下CSCD

拠点リーダー 鷺田清一(大阪大学理事・副学長)

期 間 平成14年10月～平成19年3月

交付金額

年度	直接経費	間接経費	交付決定額総計
16	110,200,000		110,200,000
17	76,000,000	7,600,000	83,600,000
18	69,700,000	6,970,000	76,670,000

単位: 円

連絡先 〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5大阪大学大学院文学研究科内
21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文科学」事務局

事業推進担当者(16・18年度)

鷺田清一	大阪大学理事・副学長	富山一郎	文学研究科
柏木隆雄	文学研究科	津田 葵	言語文化研究科
小泉潤二	人間科学研究科	工藤真由美	文学研究科
関府寺 司	文学研究科	真田信治	文学研究科
栗本英世	人間科学研究科	永田 靖	文学研究科
Wolfgang Schwentker(17・18年度)	人間科学研究科	中岡成文	文学研究科
中川 敏	人間科学研究科	池田光穂(17・18年度)	CSCD
桃木至朗	文学研究科	小林傳司(17・18年度)	CSCD
秋田 茂(17・18年度)	文学研究科	藤田治彦	文学研究科(～16年度)
平 雅行	文学研究科		CSCD(17年度～)
森安孝夫	文学研究科	渥美公秀	人間科学研究科(～16年度)
伊藤公雄(16年度)	人間科学研究科		CSCD(17年度～)
金水 敏	文学研究科	前迫孝憲	人間科学研究科

研究の概要

プログラムのねらい

私たちの《インターフェイスの人文学》は、ディシプリンを中心に編制され、文献主義に徹してきたこれまでの人文学のありかたを反省し、現代社会に生起している諸問題、とりわけさまざまな文化が接触する界面（インターフェイス）に発生する対立、葛藤、軋轢、あるいはコミュニケーションの不全や断絶に適切に対応できる、新たな研究の姿勢と方法を創出するために企画されたものである。

このような諸文化のインターフェイスと取り組むにあたり、本プログラムはその水平的展開と垂直的展開とともに視野に収めてきた。すなわち、〈横断的な知〉(transboundary studies)と〈臨床的な知〉(clinical studies)である。〈横断的な知〉とは、これまで「単一的」「均質的」と思われがちであった文化の生成を、つねに異なる複数文化の接触という次元でとらえる。つまり、とりわけ相互浸透や交錯、衝突や軋轢の面から動態的に、かつ国家や言語や地域を横断するかたちで考える研究スタイルである。これにたいして〈臨床的な知〉とは、そもそも学術研究が社会もしくは市民のさまざまな活動とふれあう場面で、人文学はいったい何をなしているのかという問題意識に立って、研究者と問題発生の現場、専門家と一般市民とを架橋する〈知〉のあり方を模索するスタイルをいう。

本プログラムの特徴は、横断と臨床という両軸を設定し、しかもそれらを交差させていくところにある。現在の人文学をこれらふたつの〈知〉を核とするものへと構造変換し、水平・垂直それぞれの方向で、複数文化の錯綜のなかで発生する多様な課題にアクチュアルに応接できる、問題解決型・社会連携型の人文学をデザインすることが、《インターフェイスの人文学》の目標である。

研究組織

《インターフェイスの人文学》は、〈横断的な知〉と〈臨床的な知〉の両軸が交わるところに展開されるべきものである。そのために私たちは、従来は厳格に分画されていた人文学のさまざまなディシプリンの相互横断的な組織化と、専門家どうしの内向きの共同研究ではなく、社会の問題発生の現場、さらにはその問題解決に取り組む現場の研究者たちとの強い連携とを、ひとつに重ね合わせて追求した。そこから生まれてきたのが、《インターフェイスの人文学》のモデル研究、つまりディシプリン別に固定化しがちなこれまでの人文学研究の体制を動態的に組み換える、新しい方法と研

究スタイルの事例である。こうした事例の集積にあたっては、研究対象そのものの新たな発見・開拓にとどまらず、研究の方法や姿勢、取り組みの体制じたいを《インターフェイス》の観点から問いなおさなければならないというプログラム当初からの問題意識が、強く働いている。

モデル研究の構築にあたっては、《交錯する世界》《縫合される日本》《越境する芸術・文化》《臨床と対話》という4つのテーマ領域を設定し、そこに「トランスナショナリティ研究」「世界システムと海域アジア交通」「イメージとしての〈日本〉」「言語の接触と混交」「モダニズムと中東欧の芸術・文化」「臨床と対話」という6つの研究プロジェクトを組織した。以下、各プロジェクトの概要を述べる。

トランスナショナリティ研究

このプロジェクトは、これまでの人類学研究を背景にしながら、文化のインターフェイスという観点に立って、いわゆるグローバル化にともなう人・モノ・情報のトランスナショナルな「流れ」の様態の分析に取り組む。

こうした「流れ」はギャップや不均等性、およびある場所での滞留をともなう一方、それにたいする反動あるいは平行現象として、ナショナルまたエスノ・ナショナルな次元で閉じようとするモメントを発現する。トランスナショナルな次元に開かず新たに勃興するナショナリズム、「所属の政治学」の隆盛、移民排斥やゼノフォビアの進行、「先住性」概念の強化、「民族紛争」の深刻化などが、その具体的な分析対象である。さらに、特定の場と結びつかない、「脱領域化」されたアイデンティティのあり方についても検討をおこなう。ここでは、ディアスポラや難民、NGOやビジネスにおけるトランスナショナルなネットワーク形成などが、重要テーマとなる。

フィールドワークは、人類学的研究の出発点であり帰帰点でもある。しかし今日では、調査研究の対象を個別の閉じられた空間に限定することは、対象の実態に即していないばかりか、現実の認識と理解をむしろ阻害する。求められているのは、個別の空間に確実な足場を置きつつも、より広い空間、および時間に視点を拡大していくことである。その点で、トランスナショナリティ研究は、「トランスナショナリティ」という概念が引き起こすイマジネーションや問題意識、さらにその概念が現実の見え方に与える影響を重視しながら、多様な問題を系統化することをめざしている。

世界システムと海域アジア交通

この研究プロジェクトは、海域ルートによる北東アジアと東南アジア、さらには陸路によって連結された内陸アジアをも含めた、大規模な人やモノの移動とその社会的意味を史料研究とフィールド調査の両面から実証し、西洋中心的なグローバルヒストリーの記述モデルの再検討をおこなうものである。そのめざすところは、「日本史」「ヨーロッパ史」「中国史」という伝統的な学問区分を越える、広域的なシステム・ネットワークを主たる研究対象としてとりあげ、かつ対象地域のフィールドと結びついた研究を展開し、歴史学の視野と方法を革新しようすることにある。

他方、そうした先進的な「世界史」研究がみずから語る力をしだいに弱め、市民社会の関心から遠ざかる傾向に

ある研究の現況も否定できない。この研究プロジェクトは、専門家による歴史研究と市民社会とが接触する場面に積極的に関わり、最前線での研究知見をさまざまなかたちで一般市民に還元する企画にも取り組む。研究と市民社会との接続がおこなわれる制度的な場として高等学校における歴史教育に注目して、歴史研究と歴史教育のあいだの双方向的コミュニケーションを積極的に実現する。

■イメージとしての〈日本〉

このプロジェクトでは、全世界的に受容されているアニメやマンガ、ゲームといった日本発のポピュラーカルチャーに注目して、対外的・対内的な「日本」のナショナル・イメージ形成の動的なプロセスの分析をおこなう。

ある文化のイメージは、さまざまな社会的条件のもとで変成し、しかもその自己イメージは他者によるイメージに深く規定され、複雑に形成されてゆく。これまでの人文・社会科学が対象にしてきた体系性ないし首尾一貫性をそなえた「理念」や「イデオロギー」だけでなく、より把握が困難な対象ながら、現代人の「判断」や「評価」の基盤として、いっそう重要性を増しつつある「イメージ」をとりあげ、それをナショナル・イメージという、現代の国際関係・国内政治にとってきわめて重要な課題と結びつけて考察する。

マンガやアニメのように、世代的な社会環境やメディア環境の差異にいちじるしく規定されるポピュラーカルチャーを、人文学の研究対象として設定する行為じたいを意識化し、また問題を言語化するためには、研究過程で生じる対立や齟齬を大切にし、問題関心の差異をつねに研究じたいにフィードバックすることが欠かせない。そのためには、討議プロセスの共働化・共有化もまた、プロジェクト推進の重要な課題となる。

■言語の接触と混交

複数の言語集団が併存している社会、すなわち多言語社会の様相を、日本語を軸に据えて分析するのが、この研究プロジェクトの課題である。多くのマイノリティが暮らしている現代日本の多言語環境を地域社会や学校教育の現実から検証する一方、ブラジルへ渡った日系移民の言語生活、および旧植民地である台湾にみられる日本語の残留状況を調査・検討する。いずれの調査においても、その眼目は、言語の純粋性・均質性を前提にした、19世紀以来の言語系統論的な発想を相対化することにある。それによって、単一言語話者からは逸脱の現象とみなされがちな多言語使用の実態、その社会的条件、地域的バリエーションなどを明らかにする。

研究は、徹底したフィールド調査によって収集されたデータに基づいておこない、単純な理想論に終わらない実質のある多文化共生を、言語面からさまざまに考察・提言していく。

モダニズムと中東欧の藝術・文化

この研究プロジェクトでは、中東欧を背景にした芸術の作り手たちの越境的移動やネットワーク形成の実態にとどまらず、受け手にあたる研究者・批評家・興行主・キュレーターなどによる文化的媒介の意味を分析しながら、20世紀芸術の射程を再検討する。そのねらいは、中東欧を含めたヨーロッパならびに近隣地域の近代諸芸術を、国境を取り払って、より包括的・動態的に捉えること、ナショナリズムに大きく支配されてきた、諸芸術をめぐるナラティブあるいはパラダイムを見直し、書き換えることにある。

中東欧地域のモダニズム芸術とその担い手たちの役割を、越境的現象として、包括的に検討する作業は、ひとつには近代芸術学が、もともと国民国家の形成と密接に結びついていたこと、さらには第二次世界大戦後の東西冷戦によって、モダニズム芸術の生成状況のトータルな研究が封印されてきたことで、大きく阻害された。冷戦構造の崩壊後ようやく、中東欧地域の研究者も国外とのコミュニケーションを求めはじめ、本格的な共同研究が可能になりつつある。内外のこうした動向を見据えながら、この研究プロジェクトは、現地での調査と研究情報の交換、さらには国際的な研究ネットワーク形成のうえに、越境的な芸術・文化研究を展開する。

臨床と対話

この研究プロジェクトは、いわゆる専門家と一般市民、マジョリティとマイノリティ、ジェンダー間、世代間など、異なるコミュニケーション文化圏に属する集団がインタラクティブに理解しあい、議論する新たなコミュニケーションの形態を模索するために、哲学・倫理学（臨床哲学）、社会学、社会心理学、医学、美学、デザイン史、科学技術社会論などの分野を交差させつつ、人文学研究者を結節点としたコミュニケーション回路の設計をおこなう。

これらを通じて、すでにローカルに動き出しているコミュニケーションに別のそれを接続させ、そうした複数のコミュニケーションからひとつに紡ぎだされる創発的コミュニケーションを〈対話〉と呼び、そうした〈対話〉そのものを相互に結び合わせる（対話インターフェイス）を構想する。それは、数多ある「臨床〇〇学」と並ぶもうひとつの新しい研究分野なのではなく、異なるコミュニケーション文化圏に属する人びとのあいだに〈公共的な対話〉を生みだし、それを公共的な意思決定へとグレードアップさせるための〈対話的な知〉の形成にほかならない。

私たちは、新しい人文学の方法や姿勢についての反省的検討をおこなうために、以上の6研究プロジェクトとは別に、さらにふたつの重要な研究プロジェクトを組織した。ひとつは、人文学が取り組むように要請されている現代の諸問題を、学問の生成の歴史（科学史）のなかでどのように位置づけるかという研究であり、いまひとつは、脱ディシプリンの新人文科学の研究活動はどのような原理と手法で遂行されるべきかを検討する方法論的研究である。

前者は、「岐路に立つ人文学」のタイトルのもとで、「人文学と社会」の関係を問いなおす問題群の所在を明らかに

してきた。後者は、本プログラムに参加したすべての若手研究者による「研究集合」において、どのような討議空間をどのようなツールを用いてデザインするかという、すぐれて実践的な観点からすすめられた。

とりわけ「研究集合」では、それぞれのディシプリンにおいてすでに厳密な学問的トレーニングを受けている特任助手、特任研究員、およびRAが、各研究プロジェクトの研究活動に従事しながら、同時にディシプリンを乗り越える研究の創出をめぐる実践知的な方法論を探求した。それは、本プログラム発足当時からの研究支援組織「メディアラボ」の全面的サポートのもとで、「討議空間のデザイン」の開発として取り組まれた。人文学的な知の導出プロセスそのものを、視覚的ツールの積極的な利用によって共働化・共有化する技法は、たんなる技術論にとどまらず、学問的コミュニケーションの現代的形態の開拓に挑むものである。

大阪大学における人文学の研究教育の再編

《インターフェイスの人文学》の理念と活動は、大阪大学全体でも幅広い理解と支援を得た。その結果、〈臨床的な知〉と〈横断的な知〉の両軸と対応するかたちで、ふたつの研究拠点があらたに設置された。さらに、大阪外国語大学との統合にあわせて、文学研究科および人間科学研究科に発足する予定のふたつの新専攻もまた、本研究プログラムの理念を制度化するものである。

〈横断的な知〉と〈臨床的な知〉の制度化

コミュニケーションデザイン・センター

本研究プログラムにおける臨床的な研究軸（とくに「臨床と対話」テーマ領域）を制度的に展開するために、大阪大学は2005（平成17）年、「大阪大学コミュニケーションデザイン・センター」（Center for the Study of Communication-Design、略称CSCD）を設置した。

CSCDは、人文学の立場から、大阪大学における文系の研究のみならず理系の研究のための基礎教養と（非専門家である一般市民との）コミュニケーションのトレーニングを担う全学的機関として位置づけられ、すでに「科学技術コミュニケーションの理論と実践」「臨床コミュニケーション入門」「減災コミュニケーション論」「ディスコミュニケーション論」「パフォーミング・アーツの世界」「アート・プロジェクト入門」「文理融合創造ゼミナール」などの大学院全学共通講義などを開いている。また、科学技術・福祉・減災・アートなどをめぐる一般市民との協働プログラムも複数開設している。

グローバルコラボレーションセンター

本研究プログラムにおける横断的な研究軸(とくに「交錯する世界」テーマ領域)を制度的に展開するために、大阪大学は2007(平成19)年4月に、「大阪大学グローバルコラボレーションセンター」(略称GLOCOL)を開設する。国際協力と共生社会のための研究・教育・実践をおこなうために新設されるこのセンターは、大阪大学と大阪外国語大学との統合による組織再編の一環として発足するものであるが、実質的には、本研究プログラム内の「トランスナショナリティ」研究プロジェクトが進めてきた拠点形成事業に沿って設置されるものである。

本センター設置と同時に、同じく「トランスナショナリティ」的实践に取り組んできた国立民族学博物館と国際協力機構(JICA)との研究・教育連携を強化することになっている。JICAと大阪大学の連携協力協定は2007年2月に締結された。

文学研究科および人間科学研究科における新専攻の設置

文学研究科文化動態論専攻

文学研究科では既設の2専攻(文化形態論専攻、文化表現論専攻)と並ぶ第3の専攻として「文化動態論専攻」を2007(平成19)年10月に開設する。この新専攻では、科学技術の急速な発達とグローバル化に伴う現代社会の急激な変化によって生じてきている、伝統的な人文学の体系の中では解明しきれないような文化的諸問題の研究に、《インターフェイスの人文学》によって開発された新しい分野横断的な問題設定と方法をもってあたる。

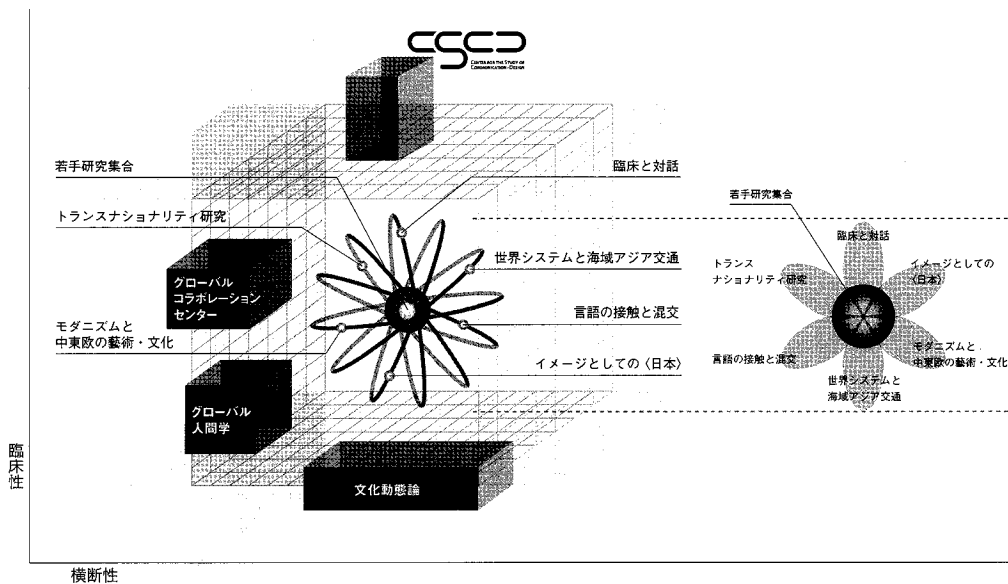
本専攻は、《インターフェイスの人文学》のテーマ領域「交錯する世界」「縫合される日本」「越境する芸術・文化」に準拠するかたちで、「共生文明論」「アート・メディア論」「文学環境論」「言語生態論」の4つのコースを設定する。

人間科学研究科グローバル人間学専攻

人間科学研究科では科内を再編して、2007(平成19)年10月から「人間科学専攻」と「グローバル人間学専攻」の2専攻制に移行する。そのさい新設される「グローバル人間学専攻」では、国際協力論、人間開発学、地域研究ならびにボランティア人間科学(共生社会論)に関する既存の研究分野を大幅に充実させるとともに、大阪外国語大学から移ってくる教員もそこに合流し、グローバル化する現代世界で真の国際性をもってコミュニケートし行動できる人材の養成にあたることになる。

本専攻は、《インターフェイスの人文学》のテーマ領域「交錯する世界」(研究プロジェクト「トランスナショナリティ研究」)に準拠するかたちで、「地域研究講座」「人間開発学講座」のふたつの講座を設置し、地域研究の観点から地域の歴史や政治や社会経済の実現について深く理解するとともに、人間開発や国際協力の観点から現代世界の緊要な課題に取り組むことのできる専門家の育成にあたる。

インターフェイスの人文学》の研究組織、およびその活動に基づいて設置、あるいは設置予定のセンターおよび新専攻を、概念図として示すとつぎようになる。



研究メンバー一覧 (平成16-18年度分)

特任研究員等の在任期間については、平成16-18年度のみを記載。14・15年度については、データブック2002-2003を参照のこと。

岐路に立つ人文学

学内教員

鷺田清一 (代表)	大阪大学理事・副学長	臨床哲学
中岡成文	文学研究科教授	臨床哲学
入江幸男	文学研究科教授	哲学・哲学史
上野 修	文学研究科教授	哲学・哲学史
須藤訓任	文学研究科教授	現代思想文化学
檜垣立哉	人間科学研究科助教授	現代思想
舟場保之	文学研究科助教授	哲学・哲学史
紀平知樹	文学研究科講師	臨床哲学

学外研究協力者

田中朋弘	熊本大学文学部助教授
直江清隆	東北大学大学院文学研究科助教授
納富信留	慶應大学文学部助教授

若手研究集合

COE教員／研究員／リサーチ・アシスタント

藤本武司	文学研究科特任助手
山内晋次	文学研究科特任助手 (16年度)
家高 洋	文学研究科特任研究員
李 吉鎔	文学研究科リサーチ・アシスタント (16年度)／文学研究科特任研究員 (17年度)

表 智之	文学研究科特任研究員 (16年度)
加藤敦典	人間科学研究科リサーチ・アシスタント (16年度)
	日本学術振興会特別研究員 (21世紀COE) (17-18年度)
加藤謙介	人間科学研究科特任研究員
佐藤貴保	文学研究科特任研究員
Stella Zhivkova	文学研究科特任研究員
Piyada Chonlaworn	文学研究科特任研究員 (16年度)
田沼幸子	人間科学研究科特任研究員
Jessica Bauwens	人間科学研究科特任研究員 (16-17年度)
蓮田隆志	日本学術振興会特別研究員 (21世紀COE) (16年度) / 文学研究科特任研究員 (17-18年度)
樋上千寿	文学研究科特任研究員
藤田加代子	文学研究科特任研究員
森 宣雄	文学研究科特任研究員 (16-17年度)
山中千恵	人間科学研究科リサーチ・アシスタント (～16年9月)
	人間科学研究科特任研究員 (16年10月～17年6月15日)
屋良朝彦	文学研究科特任研究員 (16年度)
伊藤 遊	文学研究科リサーチ・アシスタント (16-17年度)
上田 達	人間科学研究科リサーチ・アシスタント (17年5月～)
高阪香津美	言語文化研究科リサーチ・アシスタント (17年5月～18年3月)
松本敬子	言語文化研究科リサーチ・アシスタント (16年度)

井垣明子	メディアラボスタッフ (18年3月～)
久保田美生	メディアラボスタッフ
清水良介	メディアラボスタッフ (16年度)
西田優子	メディアラボスタッフ

学外研究協力者

森 宣雄	英知大学文学部助教授
------	------------



トランスナショナリティ研究

学内教員

小泉潤二（代表者）	人間科学研究科教授	人類学
栗本英世	人間科学研究科教授	人類学
Wolfgang Schwentker	人間科学研究科教授	比較文明学
中川 敏	人間科学研究科教授	人類学
春日直樹	人間科学研究科教授	人類学
木前利秋	人間科学研究科教授	現代社会学

COE 研究員／リサーチ・アシスタント

Dereje Feyissa	人間科学研究科特任研究員（16年度）
田沼幸子	人間科学研究科特任研究員
加藤敦典	人間科学研究科リサーチ・アシスタント（16年度） 日本学術振興会特別研究員（21世紀COE）（17-18年度）
上田 達	人間科学研究科リサーチ・アシスタント（17年5月～）

世界システムと海域アジア交通

学内教員

桃木至朗（代表者）	文学研究科教授	東洋史学
秋田 茂	文学研究科教授	西洋史学
平 雅行	文学研究科教授	日本史学
森安孝夫	文学研究科教授	東洋史学
山内晋次	文学研究科助手（17年度～）	東洋史学

COE 教員／研究員

山内晋次	文学研究科特任助手（16年度）
佐藤貴保	文学研究科特任研究員
Piyada Chonlaworn	文学研究科特任研究員（16年度）

蓮田隆志	日本学術振興会特別研究員 (21世紀COE) (16年度) / 文学研究科特任研究員 (17-18年度)
藤田加代子	文学研究科特任研究員

| その他

水田大紀	文学研究科博士後期課程
------	-------------

■ イメージとしての〈日本〉

| 学内教員

伊藤公雄 (代表者: 16年度)	人間科学研究科教授 (～16年度)	社会学
金水 敏 (代表者: 17-18年度)	文学研究科教授	国語学
富山一郎	文学研究科助教授	日本学
荻野美穂	文学研究科教授	日本学
川村邦光	文学研究科教授	日本学
杉原 達	文学研究科教授	日本学
牟田和恵	人間科学研究科教授	社会学
山中浩司	人間科学研究科助教授	社会学
真鍋昌賢	文学研究科助手	日本学
山中千恵	人間科学研究科助手 (17年6月16日～)	社会学

| 学外研究協力者

伊藤公雄	京都大学大学院文学研究科教授
伊藤 遊	京都国際マンガミュージアム・国際マンガ研究センター研究員
表 智之	京都国際マンガミュージアム・国際マンガ研究センター研究員
Jessica Sugimoto Bauwens	
	京都精華大学マンガ学部マンガプロデュース学科助教授
古川岳志	大阪大学・関西大学 非常勤講師

| COE 研究員 / リサーチ・アシスタント他

表 智之	文学研究科特任研究員 (16年度)
Jessica Bauwens	人間科学研究科特任研究員 (16-17年度)

山中千恵	人間科学研究科リサーチ・アシスタント(～16年9月)
	人間科学研究科特任研究員(16年10月～17年6月15日)
伊藤 遊	文学研究科リサーチ・アシスタント(16～17年度)
古川岳志	イメージとしての〈日本〉リサーチ・コーディネーター(18年度)

言語の接触と混交

学内教員

津田 葵(代表者)	言語文化研究科教授	社会言語学
工藤真由美	文学研究科教授	日本語学
真田信治	文学研究科教授	日本語学
土岐 哲	文学研究科教授	日本語学
西口光一	留学生センター教授	日本語教育学
植田晃次	言語文化研究科助教授	社会言語学
山下 仁	言語文化研究科助教授	社会言語学

学外研究協力者

朝日祥之	国立国語研究所研究員
井脇千枝	九州外国語学院常勤講師
呉 恵卿	甲南大学国際言語文化センター非常勤講師
簡 月真	台湾・国立東華大学助理教授
山東 功	大阪府立大学人間社会学部専任講師
高江洲頼子	沖縄大学人文学部助教授
中東靖恵	岡山大学大学院社会文化科学研究科助教授
仲間恵子	琉球大学法文学部非常勤講師
服部圭子	近畿大学生物理工学部専任講師
森 幸一	サンパウロ大学哲学・文学・人間科学部教授

COE研究員／リサーチ・アシスタント

李 吉鎔	文学研究科リサーチ・アシスタント(16年度)／文学研究科特任研究員(17年度)
松本敬子	言語文化研究科リサーチ・アシスタント(16年度)

高阪香津美

言語文化研究科リサーチ・アシスタント(17年5月～18年3月)

| その他

Woo Wai Sheng

言語文化研究科博士前期課程

佐藤誠子

言語文化研究科博士前期課程

新庄あいみ

言語文化研究科博士後期課程

布尾勝一郎

言語文化研究科博士後期課程

■ モダニズムと中東欧の藝術・文化

| 学内教員

園府寺 司(代表者)

文学研究科教授

美術史学

永田 靖

文学研究科教授

演劇学

伊東信宏

文学研究科助教授

音楽学

三谷研爾

文学研究科助教授

ドイツ文学

| COE 研究員

Stella Zhivkova

文学研究科特任研究員

樋上千寿

文学研究科特任研究員

| その他

池上裕子

日本学術振興会特別研究員

小野尚子

大阪大学大学院文学研究科博士後期課程

■ 臨床と対話

| 学内教員

中岡成文(代表者)

文学研究科教授

臨床哲学

池田光穂

CSCD 教授(17年度～)

文化人類学

小林傳司

CSCD 教授(17年度～)

科学哲学

藤田治彦	文学研究科教授（～16年度）／CSCD教授（17年度～）	美学
渥美公秀	人間科学研究科助教授（～16年度）／CSCD助教授（17年度～）	地域共生論
恒藤 暁	人間科学研究科助教授	ホスピス・緩和ケア

学外研究協力者

稲葉一人	科学技術文明研究所特別研究員
------	----------------

COE研究員

家高 洋	文学研究科特任研究員
加藤謙介	人間科学研究科特任研究員
屋良朝彦	文学研究科特任研究員（16年度）

担当部局長

文学研究科長

柏木隆雄（～18年3月）

天野文雄（18年4月～）

人間科学研究科長

厚東洋輔（～16年4月）

小泉潤二（16年5月～18年4月）

近藤博之（18年5月～）

言語文化研究科長

木村健治（～18年3月）

金崎春幸（18年4月～）

研究教育開発室

拠点リーダー

鷲田清一 大阪大学理事・副学長

室長

柏木隆雄 文学研究科教授

副室長

小泉潤二 人間科学研究科教授

囃府寺 司 文学研究科教授

金水 敏 文学研究科教授

栗本英世 人間科学研究科教授

中岡成文 文学研究科教授

桃木至朗 文学研究科教授

富山一郎（～16年9月） 文学研究科助教授

三谷研爾 文学研究科助教授

藤本武司 COE 特任助手

事務局

事務局長

囃府寺 司 文学研究科教授

藤本武司 COE 特任助手

椎木美恵 技術補佐員（～18年1月）

秋山多美子 事務補佐員（18年2月～）

大石裕子 事務補佐員（～17年3月）

佐野ひとみ 事務補佐員

篠藤 恵	事務補佐員（～17年12月）
マッキー欣子	事務補佐員（18年2月～）
三差かおり	事務補佐員（～18年3月）
保田しおり	事務補佐員（18年1月～）

メディアラボスタッフ

井垣明子	文学研究科特任助手（18年3月～）
久保田美生	文学研究科技術補佐員（16年度）／文学研究科特任研究員（17-18年度）
清水良介	文学研究科技術補佐員（16年度）
西田優子	文学研究科技術補佐員（16年度）／文学研究科特任研究員（17-18年度）

ニュース・レター編集

三谷研爾	文学研究科助教授
金水 敏	文学研究科教授
本間直樹（17年度）	CSCD 助教授
永田 靖（16年度）	文学研究科教授
山中浩司（16-17年度）	人間科学研究科助教授
井垣明子	メディアラボスタッフ（18年3月～）
久保田美生	メディアラボスタッフ
清水良介	メディアラボスタッフ（16年度）
西田優子	メディアラボスタッフ

学外協力者

中村光江	彩都メディアラボ株式会社
石川泰子	編集工房is

第Ⅱ部
データリスト



「インターフェイスの人文学」研究報告書 2004-2006 総目次

第1巻 岐路に立つ人文学

- 007 岐路に立つ人文学 —— 《インターフェイスの人文学》がめざすもの 鷺田清一

第I部 インターフェイス

- 031 組織のインターフェイス —— 企業における技術者 田中朋弘
061 技術のインターフェイス —— 人間-人工物-世界 直江清隆
083 書かれた行為と思想：学問のインターフェイス —— アルキダマス弁論術からの考察 納富信留
119 「異界」とのつきあい方 —— アデーレとアルトゥール 須藤訓任
149 「人と自然の共生」のためのインターフェイス 紀平知樹

第II部 知の存在論から

- 169 曖昧さの新たな倫理へ —— インターフェイス論によせて 檜垣立哉
183 哲学的説明 —— 規定と限定 中岡成文
195 アイデンティティ・ポリティクスとコミュニケーション —— 哲学は何をするのか？ —— 舟場保之
209 隠蔽し誘惑するインターフェイス 上野 修
223 近代理性と公共性に関する二つの問題 入江幸男

第2巻 人文学討議空間のデザインと創出 —— 若手研究集合 ——

- 009 はじめに

第I部 活動中の人文学

- 015 緒論 家高 洋

A. ディシプリンを問い直す

- 035 ユートピア小説と民族誌 —— 人類学における抵抗論と反=抵抗論を越えて 田沼幸子
055 隴を得てまた蜀までも得てみたら —— 多史料時代のベトナム史研究展望 蓮田隆志
065 異質なもの関係を考える —— ジャック・ランシエールの哲学から 家高 洋

B. テーマを深める

- 085 シャガールの作品はなぜ「あんなこと」になったのか？
—— 芸術創造の源へのアプローチ 樋上千寿
- 105 人々をつくりあげるとはどういうことか 上田 達
- 117 ラシーヌ：「古典主義」と「バロック」のあいだに 藤本武司

C. フィールドに関わる

- 127 社会心理学における〈臨床性〉と〈インターフェイス〉
—— アクション・リサーチにおける〈インターフェイス〉の設えをめぐる 加藤謙介
- 151 活動中の民主主義のために —— 文化人類学からの問いかけ 加藤敦典
- 167 *The Dilemma between “The Odd Man Out” and “The Useful Insider”*
Finding One’s Place under the Sun Stella Zhivkova

D. ディスカッションを伝える

- 185 〈問いの共有〉
- 199 ディスカッション・ドラフト検討会要旨

第Ⅱ部 若手研究集合における討議空間デザイン

- 209 第1章 〈インターフェイスの人文学〉と討議空間デザイン論 森 宣雄
- 229 第2章 若手研究集合における「場づくり」と「ツール」の意味
—— プロセスの価値の自立にむけて 久保田美生
- 249 第3章 若手研究集合の活動の経緯 加藤謙介
- 265 第4章 討議空間デザインのツールとメソッド —— DSマップの使い方と考え方 森 宣雄
- 281 第5章 DSマップ・テキスト・リマップの一例 井垣明子
- 289 〈資料編〉若手研究集合活動年表

第3巻 トランスナショナリティ研究

はじめに —— トランスナショナリティ研究の射程

小泉潤二、栗本英世

第I部 トランスナショナリティ研究の展開

- 049 複数のグローバル化 —— 代替的な(ネイティブに代わる)トランスナショナルな過程と行為者たち
グスタボ・リンス・ヒバイロ
(久保明教訳)
- 109 グローバル化を問い直す —— ドミニカ共和国におけるジェンダーと輸出加工労働 ヘレン・サファ
(田沼幸子訳)
- 123 トランスナショナリズム研究の課題 —— 人類学の観点から 上杉富之
- 145 歴史、アイデンティティ、記憶の巻きついた力 ヴァレンティン・ダニエル
(松川恭子、田口陽子訳)
- 167 『再魔術化する世界』をめぐって 山之内 靖

第II部 ローカリティを超えて —— 事例研究

- 195 マグレブ系移民とフランス —— 〈ローカリティ〉のかたち 植村清加
- 217 モンゴル・ウランバートル市におけるトランスナショナルな場の生成 西垣 有
- 247 「アニヤラ」から「カクテル・パーティー」へ
—— 海外に登場するインドの儀礼パフォーマンス 竹村嘉晃
- 267 マレーシアにおける徳教(dejiao)の展開 —— 華人新興宗教の一形態 黄 蘊
- 295 周辺世界における農民と廃品回収業
—— 東インドネシア、西ティモールの事例 森田良成
- 309 おわりに 栗本英世
- 311 執筆者紹介(五十音順)

第4巻 世界システムと海域アジア交通

- 007 巻頭言 桃木至朗
- 009 総論 歴史学の危機と21世紀の挑戦 桃木至朗

第Ⅰ部 躍動する周縁と開かれた中心 —— インターフェイスの場としての海域アジア ——

- 037 9世紀～14世紀前半の日本列島と海域アジア 山内晋次
- 059 A Review of the Periodization of Southeast Asian Medieval/Early Modern History,
in Comparison with That of Northeast Asia Momoki Shiro
Hasuda Takashi
- 091 Maritime Trade and Edo Material Culture:
The Long-Term Trends in Textile Imports and Metal Exports of Tokugawa Japan, ca. 1600-1800
Fujita Kayoko

第Ⅱ部 新しい歴史学と歴史教育の対話

- 115 大学・高校の専門家の協働による歴史教育の刷新にむけて
—— 第4回全国高等学校歴史教育研究会を振り返って —— 佐藤貴保
- 217 全国高等学校歴史教育研究会に参加して
—— 大学と高校の円滑な接続を目指して —— 堀江嘉明
- 239 高校生と考える8世紀の東アジア世界 —— 世界史教材としての『続日本紀』 —— 笹川裕史
- 257 学びの定着をめざす歴史授業の一考察 松木謙一

第5巻 イメージとしての〈日本〉

プロジェクトとしての「イメージとしての〈日本〉」 伊藤公雄

第Ⅰ部 イメージとしての〈日本〉 —— 論文編 ——

- 017 サブ・カルチャーの異質性とクール・ジャパンの実態 前田雅司
- 039 『あの旗を撃て』(1944)と『桃太郎・海的神兵』(1945)に映し出されるイメージとしての〈日本〉
池田淑子
- 061 俳句が海外に与えた影響 —— 日本語残留孤児としての台湾日本語俳句 柴川清美
- 089 芸術社会学・試論 —— 新世界の「創造の現場」から 吉澤弥生
- 109 「ハイブリッド・オリエンタリズム」
—— 「テクノ(ロジー)ミュージック」と「ジャパニメーション」を事例に 太田健二
- 131 「ご主人様」のいない場所 —— 男装コスプレ喫茶をめぐるジェンダー論的考察 東園子
- 153 「ゴシック・ロリィタ」コミュニティにおけるセルフ・アイデンティティ 水野麗

第Ⅱ部 イメージとしての〈日本〉——方法編——

- | | | |
|-----|-------------------------------------|----------------------|
| 187 | イメージとしての〈ポピュラー・カルチャー研究〉 | 古川岳志 |
| 209 | 「イメ日」班における方法論の実験報告——研究ネットワークの構築のために | 真鍋昌賢
伊藤 遊
山中千恵 |
| 219 | 呉智英氏講演録——「ポピュラー・カルチャー研究の課題と可能性」 | |
| 245 | 「イメージとしての〈日本〉」活動彙報 | |
| 265 | 「イメージとしての〈日本〉」報告書総目次2002–2007 | |
| 271 | 執筆者・研究協力者一覧 | |
| 274 | 「イメージとしての〈日本〉」研究プロジェクトメンバー | |

第6巻 言語の接触と混交

- | | | |
|-----|---------------------------------------|------|
| 007 | 総括論文 コミュニケーションの様相からみた多言語共生社会：ちがいを豊かさに | 津田 葵 |
|-----|---------------------------------------|------|

第Ⅰ部 共生を紡ぐ日本社会

- | | | |
|-----|---|--------------------------------|
| 021 | 日本人の共生意識——外国人イメージ・言語意識・言語サービスに関するインタビュー調査から | 布尾勝一郎
佐藤誠子
Woo Wai Sheng |
| 059 | 共生を育む地域日本語活動に向けて | 西口光一
新庄あいみ
服部圭子 |
| 099 | 外国人生徒の学校教育環境：高等学校を中心に | 高阪香津美、津田 葵 |
| 137 | 「共生」の時代における民族と言語、学校 | 呉 恵卿、植田晃次 |

第Ⅱ部 言語接触論からみた日本語：そのさまざまな姿

- | | | |
|-----|-------------------------------------|-------|
| 175 | 複数の日本語への視点 | 工藤真由美 |
| 187 | 「言語」をめぐる移民史——ブラジル日系人の言語状況に関する民族誌的考察 | 森 幸一 |
| 273 | ブラジル日系移民社会と日本語観 | 山東 功 |

315	ブラジル日系移民社会における言語生活 —— ブラジル日系人の言語能力意識と意識にかかわる諸要因	中東靖恵
-----	--	------

第Ⅲ部 東アジアに残留する日本語

337	残留日本語の調査研究について	真田信治
347	台湾におけるリンガフランカとしての日本語	簡 月眞

第7巻 モダニズムと中東欧の藝術・文化

007	序論 モダニズムと中東欧の藝術・文化 —— 新しい世界図と人文学形成への第一歩	関府寺 司
-----	--	-------

第Ⅰ部 境界をこえて —— 移動する藝術・文化

017	中・東欧民俗音楽研究のための序説	伊東信宏
027	マチス・テウチ・ヤーノシュと中欧のアヴァンギャルド —— ブラッショール、ブダペスト、ベルリン、ブカレスト	井口壽乃
047	戦間期東欧の民俗学と柳田学	平賀英一郎
063	ブラハとイディッシュ演劇 —— 1911年のレンベルク一座の興行	佐々木茂人
077	ブラハのゴーレム伝説の四つの源流	春山清純
097	The Avant-garde in Hungary and its audience	Eva Forgacs
121	Russian dancers in Yugoslavia in the 1920s and 1930s	Elizabeth Souritz

第Ⅱ部 流動化にあらがう —— モダニズムとのせめぎあい

147	国民文学史のはざま —— 〈ブラハのドイツ語文学〉研究史をめぐる	三谷研爾
159	話し言葉の「音楽的側面」の記述法を求めて —— レオシュ・ヤナーチェクのモラヴィア民謡研究における「発話旋律」の意義	中村 真
179	Jewish Avant-garde art in Poland Yung Yiddish (Young Yiddish) group	Jerzy Malinowski
191	Architecture of Warsaw Synagogues	Eleonora Bergman
205	Reciprocity and Mysticism: a new model for art in State Socialism	Rachel Beckles Willson

第Ⅲ部 たえざる脱領域化——アイデンティティの書き換え

243	青い鳥を探して——中東欧の現代美術	加須屋明子
259	ハンガリーのターンツハーズモズガロム——彼らはなにをめざしたのか	横井雅子
275	<i>The Zhiva Voda of Bulgarian Folk Songs</i> Interfaces in the Genesis of a Festival	Stella Zhivkova
293	Non-Western Music in Postmodern Condition: A Perspective from Bulgaria	Claire Levy
319	On “Two Voices of Art History”	Piotr Piotrowski
339	The Problem of Modernism: Art Practice under the Gaze of Art History	Anna Brzyski

第8巻 臨床と対話

007	序	中岡成文
-----	---	------

第Ⅰ部 現場力モデル

013	現場力の学問化に向けて	中岡成文
027	〈現場力〉について——言葉による概念の受肉化	池田光穂
043	現場の知とその伝達——看護実践の成り立ちに注目して	西村ユミ

第Ⅱ部 対話モデル——災害・医療・カフェ

063	災害ボランティア活動における対話関係の変遷——新潟県中越地震を事例として	渥美公秀
081	災害の記憶と伝承の可能性：対話と公共性に向けて	関 嘉寛
099	災害における「記憶」と「対話」——モノとの関係をめぐって	加藤謙介
113	医療事故における謝罪と責任への探求	中西淑美
127	哲学カフェ探究——活動とインタフェイス	本間直樹、高橋 綾 松川絵里、榎本直樹

第Ⅲ部 インターフェイスの諸相——科学・芸術・ケア

169	総括報告 COE 授業「科学技術と倫理」	稲葉一人
191	サイエンス・ショップ——人文学、そして大学にとっての意義と可能性	家高 洋
213	一連の「芸術と福祉」国際会議の概要	藤田治彦
217	コンジュ2006「芸術と福祉」国際会議について	要 真理子

- 221 遺族支援システムの構築に向けて——地域における遺族支援の現状と課題
坂口幸弘、森田敬史、赤澤正人、岡本双美子、黒川雅代子、瀬良信勝、西牧真理、米虫圭子、恒藤 暁

■ 別冊 Interface Humanities Data Book 2004-2006

第Ⅰ部 概要

プログラムについて

研究の概要

研究メンバー一覧

第Ⅱ部 データリスト

「インターフェイスの人文学」研究報告書 2004-2006 総目次

その他の報告書 総目次

「インターフェイスの人文学」ニューズレター 04-07 総目次

シンポジウム・ワークショップ・セミナー・研究会一覧

COE科目

新聞・テレビ等の報道、出演 他

個人業績一覧

その他の報告書 総目次

プログラム全体

Le Japon, d'autres visages 日本、もうひとつの顔
Forum 2004 de l'Université d'Osaka à Strasbourg

発行日	2005年2月28日
編集長	金水 敏
翻訳	和田章男
編集	藤本武司
編集補助	竹内史郎、松本陽子
デザイン	西田優子
編集・発行	阪大フォーラム2004委員会 大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

ごあいさつ

005	宮原秀夫
008	サカエ・ムラカミ=ジルー
009	インターフェイスの人文学——大阪大学フォーラム「日本、もうひとつの顔」開催にあたって 鷺田清一

資料

013	フォトギャラリー
018	フォーラムプログラム
020	発表者プロフィール

講演

028	日本、もうひとつの顔 鷺田清一
037	詩と暴力 ジャック・ルボー

日本：死の文化の伝統と現在

- | | | |
|-----|--|----------|
| 062 | 死の習俗 —— その伝統と現在 | 中村生雄 |
| 075 | 日本神話および神道における死 | フランソワ・マセ |
| 087 | 帝王の墓と記念施設 —— フランスと日本 | 江川 温 |
| 100 | 戦後日本ポピュラーカルチャーにおける「戦争」と「死」—— 男の子文化を中心に | 伊藤公雄 |

日本の相貌

- | | | |
|-----|--------------------------|------|
| 114 | 中世日本の二重の顔 —— 宝誌和尚像から落語まで | 荒木 浩 |
| 129 | フランス人の見た幕末日本 | 柏木隆雄 |

演ずる日本

- | | | |
|-----|-----------|--------------|
| 142 | 日本古典演劇の女性 | サカエ・ムラカミ=ジルー |
|-----|-----------|--------------|

○近代日本演劇とその分身 —— 80年代における日本前衛演劇の再生と変容

- | | | |
|-----|----------------------|------|
| 152 | 如月小春の80年代都市的演劇 | 永田 靖 |
| 166 | 台湾における「舞踏」—— 秦かのこの台湾 | 林 于竝 |

○近代日本マンガの言語と身体

- | | | |
|-----|------------|------|
| 176 | 近代日本マンガの言語 | 金水 敏 |
| 187 | 近代日本マンガの身体 | 吉村和真 |

若手研究者フォーラム「インターフェイスの人文学 —— 若手研究者による日本研究の現在」

- | | | |
|-----|---|-----------------|
| 200 | 村上春樹による「一貫性」 | アントナン・ベシュレール |
| 213 | 慣用複合名詞の研究 —— 意味論的分析 | バドーバ・マダリナ・スベランタ |
| 223 | 『折たく柴の記』の上巻における新井白石の人生行路に
周囲の人たちが与えた影響 | ヴァンサン・リンゲンバッハ |
| 231 | 日本の伝統武術の『動き』の歴史 —— その構造、思想と変遷 | カセム・ズガリ |
| 235 | スタッフリスト | |



若手研究集合

インターフェイスの人文学——2005年度〈若手研究集合〉報告書

発行日 2006年3月24日
 編集 〈若手研究集合〉報告書編集委員会
 発行 大阪大学 21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

1 はしがき

第1部

- 5 序論 共同研究プロジェクト「〈人文学の討議空間〉の創造とデザイン」における本報告書の位置
 森 宣雄
- 17 遠き眺めを見つめる——ナショナリズムの「臨床的」研究のためのおぼえがき—— 上田 達
- 25 「近世帝国」概念と東南アジア：世界システム論との対話 蓮田隆志
- 39 Celebrating colonial encounters:
 An examination of the postcolonial discourses and the socio-cultural politics of historical
 education in the Netherlands, in terms of the 400th anniversary of the Dutch East India Company, 2002
 Fujita Kayoko
- 57 民主主義の民族誌と民族誌の民主化——人文学における臨床的アプローチのために
 加藤敦典
- 79 言語調査を内観する——調査者の思いとフィールドの声—— 李 吉鎔
- 101 学知の還元——調査報告を通して学ぶこと—— 高阪香津美
- 119 1970年代以降の科学社会学の展開——「横断性」の観点から 家高 洋
- 139 社会心理学の「歴史」と「横断性」——人文学のインターフェイスの「道具」として—— 加藤謙介
- 157 隠された歴史との対話——実証主義の限界についての方法論的考察—— 森 宣雄
- 183 考現学の混沌から討議空間のデザインを考える——「研究」の〈経験〉と〈表現〉 伊藤 遊
- 199 To Be or not To Be... Interesting
 - A Hamlet Soliloquy on the Choices of Patterns for Social Interaction:
 The Cases of a Musician and a Musicologist -
 Stella Zhivkova
- 215 ふたつの研究会をめぐるエスノグラフィック・ノート アイロニーを超える力 田沼幸子

- 225 Finding meaning in 'yama nashi, ochi nashi, imi nashi' - women and girls creating alternatives
to homosocial and heterosexist pornography Jessica Bauwens
- 239 ディシプリンという場：「非－場」を生きる研究対象と、それへのアプローチ方法 樋上千寿
- 259 2005年度個別論文検討研究会概要

第2部

- 267 「対話」をめぐるグループ・ダイナミクス —— 地域における人と動物の関係の事例より ——
加藤謙介
- 297 在日ブラジル人の子どもたちが直面している現実 —— 母語による会話力調査を通して ——
高阪香津美

プロセスを共有する人文学のために —— 若手研究集合の試み —— (DVD)

- 発行日 2007年3月31日
- 編集 若手研究集合
- 責任編集 若手研究集合DVD版報告書制作チーム（井垣明子、加藤謙介、久保田美生、蓮田隆志）
- 協力 内海博文、清水良介、鈴木径一郎、森 宣雄
- オーサリング 彩都メディアラボ株式会社
- プレス 有限会社松本工房
- 発行 大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

トランスナショナリティ研究

グローバル化と市民社会——トランスナショナリティ研究3

発行日	2004年12月28日
責任編集	木前利秋
編集事務	木村裕之
編集・発行	大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」トランスナショナリティ研究

3	はじめに	
7	1章 グローバル化の中の市民社会——今日の理論的課題	木前利秋
39	2章 シティズンシップの行方——グローバル化の中で	亀山俊朗
63	3章 市民社会とシヴィリティをめぐる	時安邦治
93	4章 グローバリゼーションと社会的排除——メンバーシップの再編をめぐる	樋口明彦
111	5章 フンボルトの大学理念からの決別——大学と市民社会	木村裕之
141	6章 グローバル化した世界におけるNGOの問題圏	関 嘉寛
161	7章 グローバル化の時代における消費者と市民——N.ガルシア＝カンクリーニの所説を中心に (書評論文)	白石真生
177	あとがき	
178	執筆者紹介	

《日本》を超えて——トランスナショナリティ研究4

発行日	2006年2月27日
責任編集	小泉潤二、栗本英世
編集事務	加藤敦典、上田 達
編集・発行	大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」トランスナショナリティ研究

3	はじめに——本報告書について	小泉潤二、栗本英世
---	----------------	-----------

第1部 多文化社会の現状と可能性

22	第1章 日本型多文化主義の可能性	駒井 洋
----	------------------	------

39	第2章 外国人労働者が変える日本文化	ベフ・ハルミ
54	第3章 クレオール時代 —— クレオール化 (Creolization) とクレオール性 (Créolité) についての覚え書き	デイヴィッド・ブレイク・ウイリス (加藤敦典訳)
80	第4章 越境する家族 —— 在豪ベトナム系住民と在日ベトナム系住民の比較研究	川上郁雄
105	第5章 メディア文化の国境の越え方	岩渕功一

第2部 学校教育とトランスナショナリティ

126	第6章 学校文化とエスニシティ —— ニューカマー外国人への教育支援をめぐって	志水宏吉
149	第7章 親の海外駐在と子供 —— 在外日本人児童と在日インターナショナルスクールの調査から	箕浦康子

第3部 「外」からみた日本の社会問題

172	第8章 日本のホームレスの事情とそれに関する行政対策 —— 地域別・国際的な比較研究	トム・ギル
210	第9章 日本における児童虐待問題 —— 児童虐待の『発見』と防止策の展開	ロジャー・グッドマン
220	執筆者紹介	

■ ポスト・ユートピアの民族誌 —— トランスナショナリティ研究5

発行日	2006年2月28日
編集	田沼幸子
編集・発行	大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文科学」

1	はじめに	田沼幸子
A)	分科会「ポスト・ユートピアの民族誌」	
11	ポスト・ユートピアについて	田沼幸子
13	小さな、大きな物語 —— キューバの調査報告のための試論	田沼幸子
21	ユートピアの忘れ得なさ —— ある老人の独立インドをめぐる記憶／想起から	磯田和秀
31	ポスト社会主義ロシアにおける呪術の復興	藤原潤子
41	コメント	小田 亮

B)	シンポジウム「フィールドからのアプローチ」	
47	はじめに——複数の『ポスト』、複数の『ユートピア』	田沼幸子
51	地に呪われたものは立ち上がったのか——マルティニクの煩悶	石塚道子
71	遠き眺め——マレーシア・ナショナリズムの語り方	上田 達
85	革命的なプランの跡で、希望なき民主主義へ?——ベトナムにおける村落民主のゆくえ	加藤敦典
97	新しい社会的リアリティをつくる——フランスにおける相互扶助アソシアシオンの事例	中川 理
115	いまそこにあるユートピア——ある労働者地下組織と『民主化』前後の韓国	太田心平
131	映画『Intervista』と人類学	大杉高司
138	コメント	富山一郎
147	塗り込められた記憶——ニカラグア壁画運動の周辺から	佐々木祐
161	YUMA——ハバナで望む、ここではないどこか、私ではない誰か	田沼幸子
181	贈与と商品、反復と差異	春日直樹
198	“vivre au paradis”——移動、イスラーム『回帰』、フランス市民社会	植村清加
211	同床異夢——共産党根拠地延安(1937年)の賀子珍、アグネス・スメドレー、呉広恵	佐々木一恵
223	教育に託した開発／発展への夢——内戦、離散とパリ人	栗本英世
242	コメント	松田素二
C)	コラム	
257	母たちの出稼ぎ——社会主義と『ヨーロッパ』と男と女	松前もゆる
262	『希望の首都』でありつづけるために	奥田若葉
266	ウランバートル、カラコルム、チンギス・ハーン——ポスト社会主義・モンゴルにおける都市の構想力	西垣 有
273	執筆者紹介	

■ ポストナショナル・シティズンシップ——トランスナショナルリティ研究6

発行日	(印刷中)
責任編集	木前利秋
編集事務	亀山俊朗・高桜善信
編集・発行	大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」トランスナショナルリティ研究プロジェクト

はじめに

第1部 グローバル時代の人権とシティズンシップ

第1章 グローバル時代の人権とシティズンシップ

木前利秋

第2章 The Erosion of Citizenship in Japan

亀山俊朗

第2部 シティズンシップの現代的課題

第3章 多文化的シティズンシップの理論 —— W. キムリッカの構想をめぐって ——

時安邦治

第4章 グローバル化の中の経済的シティズンシップ

伊藤 祐

第5章 文化的シティズンシップと消費 —— ポストモダンにおける包摂と排除 ——

白石真生

第3部 シティズンシップ論からの展開

第6章 ベーシック・インカムの方策的意義と課題

—— 財源・インセンティブ・フリーライダー・社会参加問題の検討を中心に ——

高松善信

第7章 人間の安全保障と社会の再想像

—— 9.11 以後の2つのトランスナショナルな政治的秩序との対照を手がかりに ——

内海博文

あとがき

執筆者紹介

世界システムと海域アジア交通

世界システムと海域アジア交通 2004年度報告書

発行日 2005年2月28日
 責任編集 桃木至朗
 編集 佐藤貴保
 発行 大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

4	巻頭言	桃木至朗
7	第2回全国高等学校歴史教員研修会	桃木至朗、佐藤貴保
83	2004年度主催行事一覧	

世界システムと海域アジア交通 2005年度報告書

発行日 2006年2月28日
 責任編集 桃木至朗
 編集 佐藤貴保
 発行 大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

4	巻頭言	桃木至朗
7	第3回全国高等学校歴史教育研修会「新しい歴史学と歴史教育」概要報告	桃木至朗、佐藤貴保
87	2005年度主催行事一覧	

Creating Global History from Asian Perspectives Proceedings of Global History Seminars and Workshops

世界システムと海域アジア交通 2004-2006

発行日 2007年3月
 責任編集 秋田 茂
 発行 大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

1	Introduction	Shigeru Akita
9	Globalization and the Science of History: Topics, Methods, and the Critique of Global History	Wolfgang Schwentker
28	From World-System Analysis to Global History	Norihisa Yamashita
46	Shift of the Core of European World Economy 1500-1815: Dutch Contributions to the Formation of British Hegemony	Toshiaki Tamaki
63	Global Economy and Indigenous Development: Port Towns in Pre-colonial South India	Tsukasa Mizushima
89	The East Asian International Economic Order in the 1950s	Shigeru Akita
109	Development of Cotton Industry in Postwar Hong Kong and Taiwan	Toru Kubo
126	List of Global History Seminars and Workshops in Osaka	

Global History and Maritime Asia, Working and Discussion Paper Series

Working Paper No. 1

発行月 2005年10月

Fujita Kayoko

In the Twilight of the Silver Century : A Re-Examination of Dutch Metal Trade in the Asian Maritime Trade Networks.

Working Paper No. 2

発行月 2005年12月

Walter Dermal

The Nobility : A Global Perspective

Aoki Atsushi

Local Elites in Medieval China.

Working Paper No. 3

発行月 2006年12月

Jügen Osterhammel

Approaches to Global History and the Question of the "Civilizing Mission".

Working Paper No. 4

発行月 2007年1月

Kent Deng

Foreign Silver, China's Economy and Globalisation of the Sixteenth to Nineteenth Centuries.

Working Paper No. 5

発行月 2007年1月

Susanne Weigelin-Schwiedrzik

World History and Chinese History: 20th Century Chinese Historiography between Universality and Particularity.

イメージとしての〈日本〉

イメージとしての〈日本〉05 海外における日本のポピュラーカルチャー受容と日本研究の現在

発行日 2006年1月31日

責任編集 伊藤公雄

編集 太田健二、吉澤弥生、山中千恵、Jessica Bauwens、伊藤 遊

編集・発行 大阪大学 21世紀 COE プログラム 「インターフェイスの人文科学」

i はじめに 伊藤公雄

第1部 海外における日本のポピュラーカルチャー受容と日本研究の現在

I グローバリゼーションの中の日本のポピュラーカルチャー

5 クラブミュージックから見たグローバリゼーション —— アシッド・ジャズを事例に

太田健二

13 Japanese Comics and Globalization

ジェシカ・パウエンス

23 バックパッカーのカルチュラル・スタディーズへ向けて —— バックパッカー研究の現状と課題

藤田智博

33 日本マンガ的要素の現地化 —— 香港のマンガとポピュラーカルチャー

吳偉明 (屋葺素子訳)

II 海外における日本文化研究の現在——調査報告

45 調査概要

53 アジアにおける日本研究の現在

屋茸素子、藤田嘉代子、山中千恵、
朴ヤンスン、岡田トリシヤ・サラザル

91 ヨーロッパにおける日本研究の現在

東園子、唐澤佑子、杉本悦子、
ジェシカ・パウエンス、レナト・リヴェラ

105 北米における日本研究の現在

前田雅司、稲見直子、スミス・ジョシュ

119 中南米における日本研究の現在

太田健二

127 オセアニアにおける日本研究の現在

藤田智博、伊藤 遊、山中千恵

| 第2部 「イメージとしての〈日本〉若手研究者交流ワークショップ2005」より

I 論文編

141 バイナリズムの狭間で：消化されゆく「日本同性愛文化」表象への一考察

菅沼勝彦

151 Japanese anime becoming mainstream in the West...or is it? レナト・リヴェラ

157 「反戦」に写る自己像——「きけわだつみのこえ」の読みの変容と戦後のナショナリティー

福岡良明

213 「他者」表象の可能性と限界——『日本人の一少女』を読む 梁 仁實

231 津田左右吉が想像した共同体——邪馬台国・ヤマト・日本 一瀬陽子

II 座談会ポピュラーカルチャー研究とこれからの大学

伊藤公雄、吉村和真、金水 敏、川村邦光
(司会 表 智之)

| 第3部 資料編

267 海外日本研究機関一覧

323 イメ日活動彙報

335 執筆者・調査協力者一覧

言語の接触と混交

言語の接触と混交——共生を生きる日本社会

発行日 2005年3月1日
責任編集 津田 葵、真田信治
編集・発行 大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文科学」

5	まえがき	津田 葵
7	韓国系民族学校における「共生」 実践的な取り組みを中心として	呉 恵卿、植田晃次
31	共生を生きる日本社会 中国地方における学校の取り組みをめぐって	高阪香津美、津田 葵
57	共生日本語空間としての地域日本語教室 言語内共生を促進する新しい日本語活動とコーディネータの役割	新庄あいみ、服部圭子、 西口光一
87	外国籍住民が抱えている生活問題について 大阪府下の地方自治体に対するアンケート調査 および外国籍住民に対するインタビュー調査の結果をもとにした考察	羅 曉勤、山下 仁
117	日本力行会による移民教育 異文化教育黎明期に学ぶ共生	眞崎睦子
137	内なる国際化と国際理解教育に関する一考察 日本人高校生への言語連想調査を中心に	松本敬子

言語の接触と混交——国際シンポジウム「多言語・多文化社会としての日本の現状と課題」

発行日 2005年3月1日
責任編集 津田 葵、真田信治
編集・発行 大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文科学」

5	Preface	Aoi Tsuda
9	Language and National Identity-With an Outlook on Language Mixing and Linguistic Purism	Ulrich Ammon
29	Japanese Language Under English Language Imperialism	Harumi Befu
49	The Role of Canada's Multiculturalism Policy in Minority Heritage Language Education: The Case of Japanese as a Heritage Language in Canada	Hiroko Noro

61	Language Maintenance and Loss in Contact Situations: Effects of L2 on L1 Development in Children	Muriel Saville-Troike
75	“Sometimes I’ll start a sentence in English and nihongo de owaru”: A Minimalist Processing Analysis of Bilingual Code-Switching	Rudolph C. Troike

言語の接触と混交——台湾残存日本語の談話データ

発行日	2005年3月1日
責任編集	津田 葵、真田信治
編集・発行	大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

5	はじめに
7	凡例
9	談話1 アミ人と閩南人の日本語談話
11	談話2 アミ人と閩南人の日本語談話
13	談話3 アミ人と閩南人の日本語談話
15	談話4 アミ人と閩南人の日本語談話
20	談話5 アミ人と閩南人の日本語談話
23	談話6 アミ人と閩南人の日本語談話
31	談話7 アミ人と閩南人の日本語談話
51	談話8 アミ人と閩南人の日本語談話
66	談話9 アミ人と閩南人の日本語談話
98	談話10 アミ人と閩南人の日本語談話
113	談話11 アミ人と客家人の日本語談話

言語の接触と混交——共生を拓く日本社会

責任編集	津田 葵、真田信治
発行日	2006年3月1日
編集・発行	大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

5	まえがき	津田 葵
---	------	------

7	中部地方外国人集住地域における共生の歩み：交流のきっかけづくり	津田 葵、高阪香津美
67	「多文化共生」をめぐる現状と未来：ある韓国系民族学校の事例から	呉 恵卿、植田晃次
105	大阪における多言語表示の実態：まちかど多言語表示調査、外国人へのアンケート調査、行政・鉄道へのインタビュー調査から	佐藤誠子、布尾勝一郎、山下 仁
147	メディアが呈示する日本語教室	新庄あいみ、西口光一
181	資料	
217	活動記録	

■ 言語の接触と混交 —— サハリンにおける日本語の残存

責任編集	津田 葵、真田信治
発行日	2006年3月1日
編集・発行	大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

5	Preface
7	The Remnants of Sakhalin Japanese

PartI: Dynamism of language contact in Sakhalin Island

12	Introduction
14	Chapter1 Illustration of Sakhalin Island
20	Chapter2 History of language contact in Sakhalin Island
44	Chapter3 Language contact and the emergence of Japanese-based pidgin at sea trade
59	Chapter4 Dynamism of Japanese-related language contact in Poronaisk
77	Conclusions
79	References

PartII: Spontaneous Speech Database of Sakhalin Japanese

87	Introduction/Legend
89	概要／凡例
91	サハリンの日本語談話集
93	談話1 朝鮮人による日本語談話（その1）
115	談話2 朝鮮人による日本語談話（その2）

135	談話3 日本人による日本語談話
145	ウイльта人による日本語談話
154	ニブフ人による日本語談話

言語の接触と混交 —— ブラジル日系社会言語調査報告 (CD-ROM 付属)

発行日	2006年3月1日
責任編集	工藤真由美
編集・発行	大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

I. ブラジル日系社会の言語調査 —— 調査の経緯と意義 ——

5	1. ブラジル日系社会言語調査の概要
9	2. ブラジル日系人の談話音声資料
15	3. CD談話収録者の言語生活について

II. ブラジル日系社会と沖縄 —— 調査地域と沖縄との接点 ——

23	1. 沖縄県ブラジル移民小史 —— 戦前を中心に ——
33	2. ある沖縄系移民社会の予備的考察 —— 家族・コミュニティ ——

付属CD-ROM：ブラジル日系人の談話音声資料2005

言語の接触と混交 —— ブラジル日系人(沖縄系)言語調査報告 (CD-ROM 付属)

発行日	2007年1月17日
責任編集	工藤真由美
編集・発行	大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

I. ブラジル日系人(沖縄系)言語調査 —— 調査の概要 ——

工藤真由美

1	1. はじめに
1	2. ブラジル日系人(沖縄系)言語調査について
2	3. データの公開にあたって

II. ブラジル日系人(沖縄系)の談話資料——音声資料と文字化資料——

中東靖恵、高江洲頼子、仲間恵子

- 4 1.はじめに
- 4 2.談話収録地点の概要
- 4 3.談話音声資料の話者
- 5 4.談話音声資料の作成にあたって
- 5 5.CD-ROMの構成内容
- 5 6.談話音声文字化資料作成にあたって
- 6 7.談話音声文字化資料

付属CD-ROM: ブラジル日系人(沖縄系)の談話音声資料2006

モダニズムと中東欧の藝術・文化

越境／モダンアート Transboundary / Modern Art

発行日 2007年3月15日
 責任編集 罔府寺 司
 編集 樋上千寿
 発行 大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

005	序——越境する芸術への問いかけ	罔府寺 司
007	Vincent van Gogh in Search for a Place in the Art world	Evert van Uiter
029	Van Gogh als Erzieher: Early Chapters in the Globalization of Conceptual Art	Robert Jensen
047	越境と摩擦 ——ロバート・ラウシェンバーグの《モノグラム》とストックホルム近代美術館	池上裕子
069	Hans Ludwig Cohn Jaffé 1915-1984: From the <i>Bildung</i> to the <i>Ethica</i> of De Stijl	Tsukasa Kōdera
105	中央ヨーロッパとモダニズムについての対論——ハンガリーを中心として	小島 亮 (聞き手: 伊東信宏)

臨床と対話 2004年度報告書——第3回対話シンポジウム

発行日 2005年2月28日
 編集 稲葉一人、大阪大学大学院文学研究科臨床哲学研究室
 発行 大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」臨床と対話

4	まえがき	中岡成文
5	総括	稲葉一人
9	1 医療紛争解決におけるMediationの可能性	稲葉一人、Peter Robinson & Jim Stott
51	2 Mediation(調停)トレーニングを体験する	稲葉一人、Peter Robinson & Jim Stott
123	3 被害者と加害者にとっての語ることと聞かれることの意味 ——対話の前提としての被害者理解、加害者理解——	藤岡淳子
145	4 地域からのADRの発信	
197	資料：ペバダイン大学とストラウス紛争解決研究所	

臨床と対話 2005年度報告書——第4回対話シンポジウム in 愛媛

発行日 2006年2月28日
 編集 稲葉一人、和田直人、家高 洋
 発行 大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」臨床と対話

4	まえがき	中岡成文
5	第4回対話シンポジウム in 愛媛 総括	稲葉一人
9	第4回対話シンポジウム in 愛媛 開催要項	
11	1 対話を促進すること——大阪大学コミュニケーションデザイン・センターの試み	中岡成文
19	2 ADRから対話の促進へ	稲葉一人
29	3 専門家が市民間の対話を促進する仕組みと、人の育成 ——地域において紛争解決を支援する(地域における連携) 総合コーディネーター	稲葉一人、和田直人
89	地域からのADRの発信——市民と一緒に紛争を解決する(市民との連携)—— 司会 稲村 厚、入江秀晃／総合コーディネーター 和田直人	

「臨床と対話」研究グループ2006年度報告書——第5回対話シンポジウム

発行日 2007年3月31日
 編集 稲葉一人、家高 洋
 発行 大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」臨床と対話

4	まえがき	中岡成文
5	対話シンポジウム（第1回～第5回） 総括報告	稲葉一人
9	第5回対話シンポジウム「地域からの対話促進の発信——対話の多様性と可能性」	
10	開催要項	
12	第5回対話シンポジウムの開催にあたって	中岡成文
19	教育現場における対話促進によるもめ事解決策——メディエーション教育への夢を語り合おう！—— NPO法人シヴィル・プロネット関西	
20	講演 米国オハイオ州の「ピア・メディエーション」視察報告	竹村登茂子
34	講演 日本におけるメディエーション教育の課題とその可能性	水野修次郎
49	パネルディスカッション メディエーション教育への夢を語り合おう！ コーディネーター：津田尚廣	
69	メディエーションを広く社会に普及する方法 長崎伝習所メディエーション研究塾	
95	ADR 日本の原点を訪ねて——「村の寄り合い」とADR—— 愛媛和解支援センター	
125	哲学カフェは対話文化のなかでどのような役割を果たすのか カフェフィロ (Café Philo)	
126	哲学カフェ探求	本間直樹、高橋 綾、松川絵里、榎本直樹
165	裁判員評議における人間関係を考える——市民のための評議トレーニング—— NPO法人日本メディエーションセンター	
166	国民が主体的に参加できる裁判員制度とは	田中圭子
169	裁判員制度の評議のためのグループワーク	稲村 厚
173	資料：第1回——第4回対話シンポジウム開催要項	

神戸－中越被災地交流フォーラム——生活支援員の最前線から学びあう——

発行日 2006年2月28日

編集・発行 神戸－中越被災地交流実行委員会

(日本災害救援ボランティアネットワーク、震災がつなぐ全国ネットワーク、中越復興市民会議、
大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」臨床と対話)

2	はじめに	渥美公秀
5	創造的復興のために	村井雅清
16	神戸・阪神での生活支援を通して	中村大蔵

中越震災1年～被災地からの報告～

23	長岡市からの報告	西川久美子
		本間和也
29	旧山古志村からの報告	太平久和
		草間頼雄
33	小千谷市からの報告	保科義明
		本田 均
39	川口町からの報告	星野慶子
		鈴木幸子

グループディスカッション

45	長岡市・小千谷市グループでの議論	ファシリテーター	黒田裕子
57	旧山古志村・川口町グループでの議論	ファシリテーター	中村大蔵
67	おわりに		稲垣文彦

資料編

「インターフェイスの人文学」ニューズレター 04-07 総目次

Interface Humanities 04号

2004年7月30日発行

- | | | |
|--------------------|--|----------|
| 2 | 「研究集合」宣言 —— あるいは知のターミナルの創造のために | 富山一郎 |
| 6 | 特集 モノの人文学 | 藤田治彦 |
| | | 聞き手 三谷研爾 |
| 11 | 「医師と聴診器」 | 山中浩司 |
| 12 | 「音楽を読み解くためのピアノ」 | 筒井はる香 |
| 16 | 「空き瓶と町」 | 森田良成 |
| 17 | 「緑黒釉掛分皿」 | 猪谷 聡 |
| 18 | 「モノ・ツクモ、カガミ・ココロ」 | 荒木 浩 |
| Interface 人とネットワーク | | |
| 22 | 流動性と閉鎖性のダイナミズム トランスナショナルリティ研究 | |
| 24 | 音楽はなにを描くか | ステラ・ジブコバ |
| 25 | 社会にひらかれた対話の知 | 屋良朝彦 |
| ih.Topics | | |
| 26 | Event Report 2004 平成16年度懷徳堂春季講座〈107回〉「生のかたち 死のかたち」 | |
| フィールドのざわめき | | |
| 28 | シルクロード出土文献の現物調査 | 佐藤貴保 |
| 人文学のフロンティア | | |
| 30 | “実験” 美術史学? —— シャガールの源泉を求めて —— | 樋上千寿 |
| 32 | 編集後記 | |

Interface Humanities 05号

2005年2月28日発行

- | | | |
|----|---------------------------------------|------------|
| 3 | 対談・不安をかたどる | 春日 匠×中岡成文 |
| 6 | 不安と非知 | 家高 洋 |
| 12 | 不安のミニマリズム ―― 現代アメリカ小説の行方 ―― | 片渕悦久 |
| 16 | 「失う」不安 | 前田達朗 |
| | Interface 人とネットワーク | |
| 18 | モダニズムと中東欧の藝術・文化 | |
| 20 | ジェンダーの視点から問題知を共有する | ジェシカ・パウエンス |
| 21 | 他者理解へ繋がることば | 松本敬子 |
| | ih.Topics | |
| 22 | 阪大フォーラム「日本、もうひとつの顔」 | |
| | 2004年度「インターフェイスの人文科学」ワークショップ | |
| | コミュニケーションデザイン・センター発足 | |
| | イベント情報 | |
| | 現代を測る | |
| 26 | マンガと差別の悩ましい関係 | 表 智之 |
| | フィールドのざわめき | |
| 28 | フィールドからの「声」 | |
| | ―― 高齢者施設での動物・ロボットを介したケアの事例より ―― | |
| | | 加藤謙介 |
| | 人文学のフロンティア | |
| 30 | テキストから肉声へ ―― フランス古典主義演劇の校訂テキストをめぐる ―― | |
| | | 藤本武司 |
| 32 | 編集後記 | |

3	インタビュー 媒介の知恵	稲葉一人
		聞き手 構成 本間直樹
7	何を「横断」し、どう「臨床」するべきか	中岡成文
9	インターフェイスとメディアのデザイン	池田光穂×小林傳司
12	出来事のデザイン	久保田徹 清水良介
		花村周寛 本間直樹
14	コミュニケーション支援技術について	西田正吾
16	「イメ日」ワークショップの実験報告 —— ディスカッション・ペーパー、インスタレーション	伊藤 遊
18	『海域アジア史研究入門』にむけて	蓮田隆志 藤田加代子
20	オタクとコミュニケーション	井手口彰典
	ih.Topics	
21	イベント・刊行物情報	
	Interface 人とネットワーク	
22	「共生」という器に何を盛るのか 言語の接触と混交	
24	媒体／霊媒としての歴史記述	森 宣雄
25	エキゾチックでも、ユートピアでもなく	田沼幸子
	現代を測る	
26	韓日の歴史問題にみる対話の臨床性	李 吉鎔
	フィールドのざわめき	
28	もめごとの参与観察	加藤敦典
	人文学のフロンティア	
30	グローバルヒストリーの探求	秋田 茂
32	編集後記	

2	座談会 知のプロセスは共有されるか 鷺田清一×森宣雄×蓮田隆志×久保田美生×加藤謙介 司会 三谷研爾	
5	マッピングが可能にした人文学のインターフェイス	田沼幸子
5	哲学における〈接続詞〉	家高 洋
10	コミュニケーションツールとしてのディスカッション ペーパーと討議支援マップ	森 宣雄
10	『討議支援マップ』と他の手法との違いについて	加藤謙介
12	リニアな思考の手前でたちどまる	三谷研爾
	ih.Topics	
21	イベント・刊行物情報	
22	Interface Humanities Illustrated 《インターフェイスの人文学》を描く 現代を測る	
26	「二つの文化」と科学史の役割	山中浩司
	人文学のフロンティア	
28	歴史学の刷新または全体を見るということ	桃木至朗
	人文学のフロンティア	
30	フィガロはなぜ理髪師にして「街のなんでも屋」なのか?	伊東信宏
32	編集後記	

シンポジウム・ワークショップ・セミナー・研究会一覧

発表者等の所属・身分は発表当時のものである。

プログラム全体

日本、もうひとつの顔 大阪大学フォーラム 2004

Le Japon, d'autres visages Forum 2004 de l'Université d'Osaka à Strasbourg

2004年11月5-7日

マルク・ブロック大学 パレ・ユニヴェルシテール、119ホール（フランス、ストラスブール）

主催：大阪大学 大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

共催：マルク・ブロック大学 日仏大学機構

1^{ère} journée : 5 novembre (vendredi)

10:00 – 10:10	Discours d'ouverture de Hideo Miyahara (président de l' Université d'Osaka)
10:10 – 11:10	«Le Japon, d'autres visages», Kiyokazu Washida (philosophe, vice-président de l'Université d'Osaka) 「日本、もうひとつの顔」鷺田清一
11:10 – 12:10	«Recouvrir les morts : Shinkei (1406 – 1475); Charles d'Orléans (1394 – 1465); avec quelques réflexions contemporaines d'un poète français», Jacques Roubaud (poète)
14:00 – 18:00	Première partie : «Le Japon : la tradition et l'actualité de la culture de la mort» 〈日本：死の文化の伝統と現在〉 «Les mœurs de la mort, tradition et actualité», Ikkuo Nakamura (Histoire de la pensée japonaise, professeur à l'Université d'Osaka) 「死の習俗 —— その伝統と現在」中村生雄 «L'idée de mort dans la mythologie japonaise et le shintoïsme», François Macé (Etudes japonaises, professeur à l'Institut National des Langues et Civilisations Orientales)

«Le tombeau royal et impérial en France et au Japon»,

Atsushi Egawa (Histoire occidentale, professeur à l'Université d'Osaka)

「君主の墓—日本とフランス」 江川 温

«La “guerre” et la “mort” dans la culture populaire d'après-guerre au Japon»,

Kimio Ito (Sociologie culturelle, professeur à l'Université d'Osaka)

「戦後日本のポピュラーカルチャーのなかの『戦争』と『死』」 伊藤 公雄

2^e journée :

6 novembre (samedi)

10:00 – 12:00

Deuxième partie : «Figures du Japon» (日本の相貌)

«Le double visage du Japon médiéval»,

Hiroshi Araki (Littérature japonaise, professeur adjoint à l'Université d'Osaka)

「中世日本の二重の顔」 荒木 浩

«Le Japon à la fin de l'époque d'Edo vu par un Français»,

Takao Kashiwagi (Littérature française, professeur à l'Université d'Osaka)

「フランス人が見た幕末日本」 柏木 隆雄

14:00 – 18:00

Troisième partie : «Le Japon qui joue» (演ずる日本)

«Les femmes dans le théâtre classique japonais»,

Sakae Murakami-Giroux (Etudes japonaises, professeur à l'Université Marc Bloch)

(1) «Le théâtre moderne japonais et son double»

「近代日本演劇とその分身」

Yasushi Nagata 永田 靖 (Etudes théâtrales, professeur à l'Université d'Osaka)

Lin Yu Pin 林 于 竝 (Etudes théâtrales, maître de conférences à l'Université Nationale des Beaux Arts de Taipei)

(2) «Le langage et le corps dans le Manga»

「近代日本漫画の言葉と身体」

Satoshi Kinsui 金水 敏 (Langue japonaise, professeur à l'Université d'Osaka)

Kazuma Yoshimura 吉村 和真 (Associé au projet COE de l'Université d'Osaka, chercheur à l'Institut de la culture du Manga, Université Kyoto-Seika)

3^e journée : 7 novembre (dimanche)

Forum des jeunes chercheurs : «Sciences humaines de l'Interface : l'actualité des études japonaises par les jeunes chercheurs»

La troisième journée a pour but de réexaminer l'image traditionnelle du Japon avec la participation des jeunes chercheurs français et japonais. Des communications et des débats ont eu lieu en japonais sur divers aspects de la culture japonaise.

Antonin Bechler

Vaduva Madalina Speranta

Vincent Ringenbach

Kacem Zoughari

2004年度「インターフェイスの人文学」ワークショップ

2004年12月20-21日

大阪大学中之島センター

主催：大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

共催：大阪大学研究推進室文系WG（第4セッション）

12月20日

13:00 - 13:30 基調講演にかえて 鷲田清一（COE 拠点リーダー／大阪大学理事）

13:30 - 16:00 第1セッション「科学技術と社会」

コーディネーター 中岡成文（大阪大学大学院文学研究科教授）

発表者 家高 洋（大阪大学大学院文学研究科特任研究員）

加藤謙介（大阪大学大学院人間科学研究科特任研究員）

佐藤貴保（大阪大学大学院文学研究科特任研究員）

屋良朝彦（大阪大学大学院文学研究科特任研究員）

春日 匠（NPO 法人サイエンスコミュニケーション理事）

16:30 - 19:00 第2セッション「芸術と芸術研究の間」

コーディネーター 三谷研爾

発表者 三谷研爾（大阪大学大学院文学研究科助教授）

藤本武司（大阪大学大学院文学研究科特任助手）

樋上千寿（大阪大学大学院文学研究科特任研究員）

谷本 裕 (NDIビルマネジメント株式会社、ザ・フェニックスホール、
企画・事業担当)

19:00 - 21:00 懇親会

12月21日

10:00 - 12:30 第3セッション「学知のかたち、組織のかたち」
コーディネーター 鷺田清一・金水 敏 (大阪大学大学院文学研究科教授)
発表者 COE「若手研究会」メンバー
吉村和真 (京都精華大学マンガ文化研究所研究員)

13:30 - 17:00 第4セッション「地域から、地域を超えて —— 研究の視座を求めて」
(大阪大学研究推進室文系WG・地域研究ワークショップ第2回)
コーディネーター 栗本英世
発表者 小泉潤二 (大阪大学大学院人間科学研究科教授)
春日直樹 (大阪大学大学院人間科学研究科教授)
中川 敏 (大阪大学大学院人間科学研究科教授)
栗本英世 (大阪大学大学院人間科学研究科教授)
杉原 薫 (大阪大学大学院経済学研究科教授)
足立 明 (京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授)
臼杵 陽 (国立民族学博物館・地域研究企画交流センター教授)
黒木英充 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授)

17:00 閉会の辞
柏木隆雄 (大阪大学大学院文学研究科教授)

国際シンポジウム「大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」」

2006年10月15日
大阪大学中之島センター

9:30 - 10:00 〈開会セッション〉本プログラムの活動について (7F 講義室2)

10:15 - 12:15 第1セッション (7F 講義室2)
言語の接触と混交 —— 共生の現在と未来

「我が国の外国人児童・生徒教育」

手塚義雅（文部科学省初等中等教育局国際教育課長）

「進学を希望する日系南米の子どもたち」

オチャンテ 村井 ロサ メルセデス（三重大学人文社会科学研究所修士課程）

「定時制高校における外国籍生徒の現状と課題」

稲垣洋子（三重県立四日市工業高等学校教諭）

「外国籍児童保護者からの声」

柿崎ヘイナルド（マルアイユニティ勤務）

「社会的アイデンティティと母語について」

永田セリアーニ（ポルトガル語教室ボランティア講師）

13:15 - 15:15

第2セッション（7F 講義室2）

世界システムと海域アジア交通——世界史を書き直す——阪大史学の挑戦

模擬授業「南から見る、北から見る？中国とはなにか？」

桃木至朗（大阪大学文学研究科教授）

佐藤貴保（大阪大学特任研究員〈COE〉）

印牧定彦（京都市立堀川高校教諭）

13:15 - 15:15

第3セッション（7F 講義室3）

トランスナショナルリティー研究——トランスナショナル・グラフィティ

小泉潤二（大阪大学人間科学研究科教授）

栗本英世（大阪大学人間科学研究科教授）

中川 理（大阪大学人間科学研究科助手）

木村 自（国立民族学博物館研究機関研究員）

植村清加（成城大学民俗学研究所研究員）他

15:45 - 17:45

第4セッション（7F 講義室2）

イメージとしての〈日本〉——ポピュラーカルチャー研究の地平を越えて

第1部 映像で振り返る「イメージとしての〈日本〉」班の活動

山中千恵（大阪大学人間科学研究科助手）

伊藤 遊（京都国際マンガミュージアム研究員）

第2部 「世界に広がる〈日本〉イメージ」

表 智之 (京都精華大学研究員)

第3部 ミニワークショップ「イメージとしての〈日本〉のこれから」

伊藤公雄 (京都大学文学研究科教授)

金水 敏 (大阪大学文学研究科教授)

富山一郎 (大阪大学文学研究科助教授)

吉村和真 (京都精華大学マンガ学部助教授)

ジェシカ・パウエンス (京都精華大学講師)

15:45 - 17:45

第5セッション (7F 講義室3)

臨床と対話 —— 医療事故と対話

講演と対談「医療危機と紛争解決」

提題1) 「アメリカにおける医療危機と紛争解決」

エリック・フェルドマン (ペンシルベニア大学 Law School Professor)

提題2) 「医療ADR (裁判外紛争解決) の可能性? Mediation コアモデル」

和田仁孝 (早稲田大学法務研究科教授)

司会 中西淑美 (大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任講師)

18:00 - 19:30

第6セッション (9F 交流サロン)

モダニズムと中東欧の藝術・文化 —— クレズマー音楽レクチャー&コンサート

—— 東欧イディッシュ語文化圏の音楽をめぐって ——

レクチャー&コンサート

アラン・バーン Alan Bern (アコーディオン、ピアノ)

クリスチャン・ダヴィッド Christian Dawid (クラリネット)

討論

アラン・バーン

クリスチャン・ダヴィッド

伊東信宏 (大阪大学文学研究科助教授 音楽学)

樋上千寿 (大阪大学文学研究科特任研究員〈COE〉美術史)

司会 関府寺 司 (大阪大学文学研究科教授 美術史)

19:30 -

レセプション (9F 交流サロン)

岐路に立つ人文学

研究会

文学研究科第一会議室

第1期

第1回	2004年10月14日 18:30 - 鷺田清一（拠点リーダー／大阪大学理事・副学長） 「哲学の臨床」
第2回	2004年11月25日 18:30 - 栗本英世（事業推進担当者／人間科学研究科） 「〈聴く〉こと、対話の可能性と困難性 —— 人類学の臨床」
第3回	2005年1月13日 18:00 - 桃木至朗（事業推進担当者／文学研究科） 「ある『自虐史観』と歴史学の実践」
第4回	2005年2月10日 18:30 - 三谷研爾（文学研究科） 「文学（史）研究とその外部」
第5回	2005年3月24日 16:00 - 金水 敏（事業推進担当者／文学研究科） 「人文学における方法と臨床、越境 —— 言語研究の視点から —— 」
第6回	2005年4月21日 18:00 - 中岡成文（事業推進担当者／文学研究科） 「科学技術をめぐる公共的対話の必要性和手法」
第7回	2005年5月19日 18:00 - 表 智之（京都精華大学表現研究機構研究員） 「オタクの文化社会学」
第8回	2005年6月9日 18:00 - 工藤眞由美（事業推進担当者／文学研究科） 「言語の接触と混交 —— 複数の日本語という視点」
第9回	2005年8月5日 14:00 -

全体討論「インターフェイスの人文学」の方法論について

第10回	2005年11月24日 18:00 - 池田光穂(事業推進担当者/コミュニケーションデザイン・センター) 「『忙しいから後にして!』あるいは我々は如何にして暇人(scholar)から時間と金銭に呪縛されたる知識奴隷(intellectual slave)／研究鬼畜("intelli-agent")へと墮落したのか?またはその解放のための奥義を尋ね生活実践を通して如何なるように自己を改造すべきか?」
------	--

第2期

第1回	2005年10月18日 14:00 - 15:30 研究会の方針をめぐる打ち合わせ 鷺田清一 「モデル開発の必要性について」
第2回	2005年11月14日 16:30 - 18:30 檜垣立哉(人間科学研究科) 「ドゥルーズ以降の問題系(『哲学』の「外部」)」
第3回	2005年12月19日 16:30 - 18:30 舟場保之(文学研究科) 「哲学は何をするのか???」
第4回	2006年1月14日 14:00 - 18:00 直江清隆(東北大学大学院文学研究科) 「生を規定する技術とそのインターフェイス:インターフェイスの強制力」 田中朋弘(熊本大学文学部) 「企業における利益追求と社会的責任——組織のインターフェイス」
第5回	2006年1月15日 13:00 - 17:00 納富信留(慶應大学文学部) 「書き留められた行為と真理——学問のインターフェイス」
第6回	2006年3月22日 16:00 - 18:30 鷺田清一 「人文学のインターフェイスとは——横断的な知と臨床的な知」
第7回	2006年5月29日 16:30 - 19:30 須藤訓任(文学研究科) 「『異界』とのつきあい方——アデーレとアルトゥール」

	中岡成文 (文学研究科) 「哲学的説明——規定と限定」
第8回	2006年7月3日 16:30-18:30 上野修 (文学研究科) 「隠蔽するインターフェイス」
第9回	2006年7月31日 16:30-19:30 紀平知樹 (文学研究科) 「ソーシャルアントルプレナーとしての人文学」 入江幸男 (文学研究科) 「人文学における公共性と批評の可能性」

若手研究集合

研究会

2004年度

メンバー	藤本武司、山内晋次 (以上特任助手)、李 吉鎔、家高 洋、表 智之、加藤謙介、佐藤貴保、ステラ・ジヴコヴァ、ピヤダー・シヨンラオーン、田沼幸子、ジェシカ・パウヴェンス、樋上千寿、藤田加代子、森 宣雄、山中千恵、屋良朝彦 (以上特任研究員)、蓮田隆志 (学振研究員: COE)、伊藤 遊、加藤敦典、松本敬子、(以上リサーチ・アシスタント)、久保田美生、西田優子、清水良介 (以上メディアスタッフ)
第1-2回	2004年4月22日、5月13日 研究会の運営・進行の決定 若手研メーリングリスト立ち上げ
第3回	2004年5月27日 自己紹介研究 ステラ・ジヴコヴァ “Japan and its Culture: A Figurative Hypothesis” 表 智之 「〈おたく〉という自意識・〈日本〉という自画像」
第4回	2004年6月10日 自己紹介研究 李 吉鎔 「韓国語母語話者の丁寧体構造の習得プロセスとその要因」

	田沼幸子	「話せないことを語ること —— クエント (cuento) から見る現代キューバ」
第5回	2004年6月24日	自己紹介研究 ジェシカ・パウヴェンス「ヤオイとスラッシュ」 屋良朝彦「摂食障害」と身体的アイデンティティ
第6回	2004年7月8日	自己紹介研究 森 宣雄「沖縄戦後史という時代経験の潜在と遍在」 樋上千寿「シャガールの「宗教画」をめぐる」
第7回	2004年7月22日	自己紹介研究 ピヤダー・シヨラオーン “Relations between Ayutthaya and Ryukyu” 蓮田隆志「文理侯陳靖をめぐる諸問題：17世紀越日貿易史上の一人物」
第8回	2004年7月29日	人文学カフェ 開発室委員・メディアスタッフとの拡大研究会
第9-15回	2004年9月30日、10月14日、10月21日、11月2日、11月18日、12月16日	ワークショップ各セッションにむけての企画・検討
第16-19回	2005年1月20日、1月27日、2月10日、2月24日、3月10日	2005年度活動内容の検討

2005年度

メンバー	藤本武司（特任助手）、李 吉銘、家高 洋、加藤謙介、ステラ・ジヴコヴァ、田沼幸子、ジェシカ・パウヴェンス、蓮田隆志、樋上千寿、藤田加代子、森 宣雄、山中千恵（以上特任研究員）、加藤敦典（学振研究員：COE）、伊藤 遊、高阪香津美、上田 達（以上リサーチ・アシスタント）、井垣明子、久保田美生、西田優子（以上メディアスタッフ）	
第1-3回	2005年4月14日、4月21日、5月12日	2005年度研究テーマ「〈人文学討議空間〉のデザインと創出」提出
第4-6回	2005年5月26日、6月16日、6月30日	臨床性を語る会
第7-8回	2005年7月7日、7月21日	2005年度若手研報告書の企画・検討→編集委員会立ち上げ
第9回	2005年8月5日	事業推進者との全体会
第10回	2005年9月15日	※「らば・さろん」として開催 大平雅雄（奈良先端科学技術大学院大学） 「対面異文化間コミュニケーションにおける相互理解構築とアイデア創発の支援に関する研究」

第11回	2005年10月13日	ディスカッションペーパー検討会
	上田 達	「ナショナリズムの臨床的研究のための試論 —— マレーシア・ナショナリズムの言説分析」
	藤田加代子	“Celebrating Colonial Encounters: Dutch Heritage and the Absence and Presence of Postcolonial Discourses in the Netherlands and Asia”
	蓮田隆志	「近世帝国」概念と東南アジア —— 世界システム論との対話」
第12回	2005年10月24日	ディスカッションペーパー検討会
	李 吉鎔	「フィールドワークを内観する —— フィールドの思いと声 —— 」
	加藤敦典	「民主主義の人類学と人類学の民主化 —— 臨床性のために」
	高阪香津美	「学知の還元 —— 調査報告会から学ぶこと —— 」
第13回	2005年11月10日	ディスカッションペーパー検討会
	加藤謙介	「心理学における〈横断的な知〉 —— 社会心理学の「歴史」を題材に —— 」
	家高 洋	「1970年代以降の科学社会学の展開 —— 「横断性」の観点から」
第14回	2005年11月24日	ディスカッションペーパー検討会
	伊藤 遊	「考現学から『臨床性』を考える」
	森 宣雄	「隠された歴史との対話 —— 歴史研究における歴史と現在の連帯 —— 」
第15回	2005年12月8日	ディスカッションペーパー検討会
	田沼幸子	「ポスト・ユートピアについて」[「小さな、大きな物語」
	ステラ・ジヴコヴァ	“A Slightly Different Hamlet Soliloquy: To be or not to be... - interesting The choice of a Musician and a Musicologist - ”
第16回	2005年12月22日	ディスカッションペーパー検討会
	ジェシカ・パウヴェンス	“Finding meaning in ‘yama nashi, ochi nashi, imi nashi’ - women and girls creating alternatives to homosocial and heterosexual pornography”
	樋上千寿	「ディシプリンという場 —— 「非-場」を生きる研究対象と、それへの アプローチ方法」
第17-22回	2006年1月12日、1月19日、2月2日、2月23日、3月9日、3月23日	ふりかえりの会 (〈討議空間のデザイン〉検討会)

2006年度

メンバー 藤本武司 (特任助手)、家高 洋、加藤謙介、ステラ・ジヴコヴァ、田沼幸子、蓮田隆志、樋上千寿、(以上特任研究員)、加藤敦典 (学振研究員: COE)、上田 達 (リサーチ・アシスタント)、

井垣明子、久保田美生（以上メディアスタッフ）、清水良介（コミュニケーションデザイン・センター）、内海博文（人間科学研究科サイバー・メディア室、以上学内共同研究者）、伊藤 遊、ジュシカ・パウヴェンス（以上、京都精華大学）、森 宜雄（英知大学、以上学外共同研究者）

第1-2回	2006年4月6日、4月20日	ふりかえりの会
	研究会での議論が報告書掲載論文に与えた影響、研究会自体の機能について検討	
	2005年度の議論と報告書を踏まえた、今年度の研究会の在り方についての議論	
	DVD構想の検討・研究会全体での共有→若手研を端的に示すキーワードの抽出作業開始	
	DVD収録用インタビューの開始	
	冊子版編集委員会の立ち上げ	
第3-4回	2006年5月11日、5月25日	
	DVDの構成の検討	
	冊子版報告書の構成および目標	
第5回	2006年6月8日	ディスカッションドラフト検討会
	田沼幸子	「ユートピア小説と民族誌」
第6回	2006年6月22日	ディスカッションドラフト検討会
	樋上千寿	「シャガールの作品はなぜ「あんなこと」になったのか？ 芸術創造の源へのアプローチ」
	家高 洋	「フッサール、デリダとランシエール」
第7回	2006年7月6日	ディスカッションドラフト検討会
	情報科学技術フォーラム（FIT2006）提出原稿の検討	
	鷺田リーダーとの座談会を踏まえた報告書内容の検討	
	ディスカッションドラフトの在り方について	
第8回	2006年7月20日	ディスカッションドラフト検討会
	上田 達	「人々をつくりあげるとはどういうことか」
	蓮田隆志	「隴を得てまた蜀までも得てみたら —— 多史料時代のベトナム史研究展望 ——」
第9回	2006年8月3日	ディスカッションドラフト検討会
	加藤敦典	「活動中の民主主義のために —— 文化人類学からの問いかけ ——」
	加藤謙介	「社会心理学における〈臨床性〉と〈インターフェイス〉 —— アクション・ リサーチにおける〈インターフェイス〉の設えをめぐる ——」
第10回	2006年8月31日	ディスカッションドラフト検討会
	ステラ・ジヴコヴァ	“The Dilemma between “The Odd Man Out”

or “The Useful Insider” Finding One’s Place under the Sun”

藤本武司 「ラシーヌ『ブリタニキウス』の終結部に関する一考察
—— ヴェスタ聖女ジュニーをめぐって」

マッピングの時系列化の試み

第11－13回 2006年9月14日、9月21日、10月5日
報告書とDVDのコンテンツについての議論
ディスカッションドラフトからの〈問いの共有〉に関する議論

トランスナショナルリティ研究

国際シンポジウム 現代世界における人類学的知識の社会的活用

2004年10月28日－10月30日

主催：国立民族学博物館

共催：渋沢民族学振興基金 大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文科学」

後援：日本文化人類学会

1 国際シンポジウム（国立民族学博物館第4セミナー室）

10月28日

13:00－13:20 オープニングアドレス 山下晋司（東京大学大学院教授）

13:20－14:00 基調講演

William Beeman（ブラウン大学教授）

“*Learning to Live in One World: Margaret Mead’s Unfinished Work and its Wisdom for the International Community*”

14:15－16:00 分科会1「子どもとメディア」

座長 箕浦康子（お茶の水女子大学客員教授）

パネリスト

趙韓恵淨（延世大学校教授）

白石さや（東京大学大学院教授）

松田美佐（中央大学助教授）

16:15 - 18:00

分科会2「民族誌映画の活用」

座長 大森康宏（国立民族学博物館教授）

パネリスト

Wilton S. Dillon（スミソニアン協会名誉教授）

永渕康之（名古屋工業大学大学院助教授）

宮坂敬造（慶應義塾大学教授）

10月29日

10:00 - 11:45

分科会3「男性と女性」

座長 山本真鳥（法政大学教授）

パネリスト

Glenda S. Roberts（早稲田大学大学院教授）

窪田幸子（広島大学助教授）

菅原和孝（京都大学大学院教授）

12:45 - 14:30

分科会4「文化と政策」

座長 桑山敬己（北海道大学大学院教授）

パネリスト

韓 敬九（韓国国民大学校教授）

菊地 暁（京都大学助手）

住原則也（天理大学教授）

14:45 - 16:30

分科会5「開発と文化」

座長 小泉潤二（大阪大学大学院教授）

パネリスト

Kay Warren（ブラウン大学教授）

池田光穂（熊本大学教授）

鈴木 紀（千葉大学助教授）

16:45 - 18:00

「総括セッション」

座長 田村克己（国立民族学博物館教授）

総括 波平恵美子（お茶の水女子大学教授）

2 公開シンポジウム「現代世界の文化人類学：社会との連携を求めて」（国立民族学博物館講堂）

10月30日	司会 田村克己（国立民族学博物館教授）
13:30 - 13:40	館長挨拶
13:40 - 14:20	基調講演 Catherine Bateson（文化関係研究所所長） “An Anthropology for the Future”（同時通訳）
14:30 - 16:30	パネルディスカッション パネリスト 山下晋司（東京大学大学院総合文化研究科教授） 箕浦康子（お茶の水女子大学開発途上国女子教育協力センター客員教授） 大森康宏（国立民族学博物館民族文化研究部教授） 山本真鳥（法政大学経済学部教授） 桑山敬己（北海道大学大学院文学研究科教授） 小泉潤二（大阪大学大学院人間科学研究科長／人間科学部長教授） 波平恵美子（お茶の水女子大学文教育学部教授）

ワークショップ「人類学の複数化とトランスナショナルな関係」

World Anthropologies and Transnational Relations

2005年2月13日 14:00 - 18:00

大阪大学中之島センター 7F第3講義室

主催：大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」トランスナショナルリティ研究

共催：日本文化人類学会

14:00 - 16:00	第I部 基調講演 グスタボ・リンズ・ヒベイロ Gustavo Lins Ribeiro （ブラジル人類学会会長／ブラジリア大学人類学部・アメリカ比較研究所準教授） 「世界の人類学：現代人類学における国際政治（コスモポリティクス）、権力、理論」 “World Anthropologies: Cosmopolitics, Power and Theory in Contemporary Anthropology” 質疑応答
16:15 - 18:00	第II部 討論 「人類学の複数化と人類学会世界協議会（WCAA）の設立」

司会 小泉潤二（大阪大学／日本文化人類学会国際連携委員会委員長）
 基調講演者 グスタボ・リンス・ヒベイロ（ブラジリア大学）
 パネル 石川 登（京都大学）
 ジェリー・イーズ（立命館アジア太平洋大学）
 栗本英世（大阪大学）
 竹沢尚一郎（国立民族学博物館）
 横山廣子（国立民族学博物館）
 （以上、日本文化人類学会国際連携委員会委員）
 春日直樹（大阪大学）
 桑山敬己（北海道大学）
 中川 敏（大阪大学）

Religions, Secularism, and Public Sphere〈宗教・世俗主義・公共圏〉

2005年3月24日 10:15 – 18:00

国立民族学博物館 2F 第4セミナー室

主催：国立民族学博物館

共催：大阪大学 21世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文学」トランスナショナルリティ研究

討論発題者 Talal Asad（ニューヨーク市立大学）
 大澤真幸（京都大学）
 臼杵 陽（国立民族学博物館）

10:30 Opening lecture by Talal Asad (CUNY)

11:30 Discussion and comments

12:00 Lunch

13:30 Speech by Usuki Akira (National Museum of Ethnology)

14:30 Speech by Osawa Masachi (Kyoto University)

15:30 Coffee break

15:45 General discussion

18:00 Closure

ポスト・ユートピア研究会シンポジウム「ポスト・ユートピア：フィールドからのアプローチ」

2005年10月29日－30日

大阪大学大学院人間科学研究科ユメンス・ホール

10月29日

11:00－11:10	田沼幸子 「はじめに—— 様々な『ポスト』、様々な『ユートピア』」
11:15－11:45	石塚道子 「地に呪われた者は立ち上がったのか」＋ 質疑応答（以下同）
13:00－13:30	上田 達 「遠き眺め—— マレーシア・ナショナリズムの語り方」
13:45－14:15	加藤敦典 「革命的なプランの跡で、希望なき民主主義へ？—— ベトナムにおける 村落民主のゆくえ」
14:30－15:00	中川 理 「新しい社会的リアリティをつくる—— フランスにおける相互扶助アソシアシオンの 事例」
15:45－16:15	太田心平 「いまそこにあるユートピア—— ある労働者地下組織と『民主化』前後の韓国」
16:30－17:00	映画『インタビュー』（Intervista）（25分）上映
17:00－17:10	大杉高司 「映画『インタビュー』について」
17:15－17:45	富山一郎〈コメント〉
17:45－18:45	討論

10月30日

10:30－11:00	佐々木 祐 「塗り込められた記憶—— ニカラグア壁画運動の周辺から」
11:15－11:45	田沼幸子 「YUMA—— ハバナで望む、ここではないどこか、私ではない誰か」
13:00－13:30	春日直樹 「贈与と商品、反復と差異」
13:45－14:15	植村清加

	「“vivre au paradis” —— 移動、イスラーム『回帰』、フランス市民社会」
14:30 – 15:00	佐々木一恵 「同床異夢 —— 共産党根拠地延安（1937年）の賀子珍・アグネス・スメドレー、呉広恵」
15:45 – 16:15	栗本英世 「教育に託した開発／発展への夢 —— 内戦、離散とパリ人」
16:30 – 17:00	松田素二〈コメント〉
17:00 – 18:00	討論

トランスナショナリティ研究セミナー 第24回-第80回

大阪大学人間科学研究科東館2Fユメンス・ホール

第24回	2004年4月23日 渥美公秀（大阪大学大学院人間科学研究科 ボランティア人間科学講座助教授） 「災害ボランティアのトランスナショナリティ —— 阪神・淡路大震災の被災地から考える」
第25回	2004年5月14日 武内進一（日本貿易振興機構アジア経済研究所新領域研究センター 国際関係・紛争研究グループ長代理） 「アフリカの紛争とトランスナショナリティ」
第26回	2004年5月21日 加藤敦典（大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程／大阪大学21世紀COE RA） 「ベトナム農村における民事紛争調停の実践 —— トランスナショナル状況における国民国家と村落」 田沼幸子（大阪大学21世紀COE特任研究員） 「話せないことを語る：cuento（クエント）から見る現代キューバ」
第27回	2004年6月4日 クウェシ・クワ・ブラー Kwesi Kwaa Prah（アフリカ社会高等研究所所長） 「アフリカ —— アラブの境界地域におけるナショナリズム、市民権、コンフリクト」（英語講演） “Nationalism, Citizenship and Conflict in the Afro-Arab Borderlands.”
第28回	2004年6月11日 ヴァレンティン・ダニエル E. Valentine Daniel（コロンビア大学教授） 「難民：避難に関する言説」（英語講演）

	“Refugees: A Discourse on Displacement.”
第29回	2004年7月2日 稲賀繁美（国際日本文化研究センター／総合研究大学院大学教授） 「岡倉天心とインド —— 越境する近代国民意識と汎アジア・イデオロギーの帰趨」
第30回	2004年7月9日 ニティ・パワカパン Niti Pawakapan（シンガポール大学人文社会学部東南アジア研究科助教授） 「タイ・ビルマ国境地域における交易と密輸」（英語講演） “Trade and Smuggling in the Thailand-Burma Borderlands.”
第31回	2004年7月16日 箕浦康子（お茶の水女子大学客員教授） 「親の海外駐在と子ども —— 在外日本人児童と在日インターナショナルスクールの調査から」
第32回	2004年7月17日 前川啓治（筑波大学大学院人文社会科学研究科国際政治経済学専攻教授） 「人類学と国際文化論ないし政治経済学」
第33回	2004年7月24日 山之内 靖（フェリス学院大学国際交流学部名誉教授） 「『再魔術化する世界』をめぐる」
第34回	2004年9月28日 マルクス・S・シュルツ Markus S. Schulz（ニューヨーク大学ラテンアメリカ・カリブ研究センター講師） 「サパティスタのトランスナショナル・ネットワーク」（英語講演） “The Transnational Network of the Zapatistas.”
第35回	2004年10月1日 デイヴィッド・ブレイク・ウィリス David Blake Willis（相愛大学人文学部教授） 「太平洋におけるクレオール時代 —— トランスナショナル日本と境界地域のクレオール化についての覚書」（英語講演） “Creole Times in the Pacific: Notes on Creolization for Transnational Japan and Her Borderlands.”
第36回	2004年10月15日 志水宏吉（大阪大学人間科学研究科教授） 「学校文化とエスニシティ —— ニューカマー外国人への教育支援をめぐる」
第37回	2004年10月26日

アンソニー・リード Anthony John Stanhope Reid (シンガポール国立大学アジア研究所所長)

「インドネシア、イスラーム、アチェー」(英語講演)

“Indonesia, Islam and Aceh.”

共催：大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

世界システムと海域アジア交通

第38回	2004年11月5日 オラディン・E・ボラグ Uradyn E. Bulag (ニューヨーク市立大学助教授) 「チンギス・ハーンの頭蓋骨と魂を狩る —— 歴史・イデオロギー・人種的イメージのなかのユーラシア辺境地帯」(英語講演) “Hunting Chinggis Khan’s Skull and Soul: Eurasian Frontiers of Historical, Ideological and Racial Imaginations.”
第39回	2004年11月12日 藤川隆男 (大阪大学文学研究科教授) 「1850年代のオーストラリアの反中国人運動における先住民の忘却」
第40回	2004年11月19日 河村哲二 (武蔵大学経済学部教授) 「グローバリゼーションとアメリカ経済」
第41回	2004年11月26日 太田心平 (日本学術振興会特別研究員) 「『絶望移民』を生む力 —— 現代韓国における386世代の感情生成について」
第42回	2004年12月3日 岩渕功一 (早稲田大学国際教養学部助教授) 「トランスナショナルな現象を社会学、人類学、民俗学、歴史学を横断する視点から読み解くために」 共催：大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」 イメージとしての〈日本〉
第43回	2004年12月10日 井野瀬久美恵 (甲南大学文学部教授) 「大英帝国という歴史空間を再考する —— サラ・フォープス・ボネッタはどう語られたのか」
第44回	2004年12月17日 コスタス・ラバヴィツァス Costas Lapavitsas (ロンドン大学東洋・アフリカ研究学院法社会科学部助教授)

	「貨幣と信用の構成要素としての権力と信頼」(英語講演) “Power and Trust as Constituents of Money and Credit.”
第45回	2005年1月28日 ミリー・クレイトン Millie Creighton (ブリティッシュ・コロンビア大学人類学・社会学科助教授) 「日本人性を想像し、日系を定義する —— 日系人のトランスナショナルなネットワーク」 (英語講演) “Imaging Japaneseness, Defining Nikkei: The Transnational Networking of People of Japanese Descent.”
第46回	2005年2月18日 グスタボ・リンズ・ヒベイロ Gustavo Lins Ribeiro (ブラジリア大学人類学部準教授) 「複数のグローバル化 —— 〈ネイティヴにかわる〉トランスナショナルな行為者たち」(英語講演) “Other Globalizations: Alter-native Transnational Agents.”
第47回	2005年3月4日 アユミ・タケナカ Ayumi Takenaka (プリン・モア・カレッジ助教授) 「再移民 —— なぜ、移民たちは日本や英国からアメリカを目指すのか」(英語講演) “Secondary Migration: Why Do Immigrants Re-migrate from Japan and the U.K. to the U.S.?”
第48回	2005年3月22日 マルティン・リーゼブロット Martin Riesebrodt (シカゴ大学社会学部・神学部教授) 「『宗教概念』の關係の正当化にむけて」(英語講演) “Towards a Relational Legitimation of the Concept of ‘Religion.’”
第49回	2005年4月22日 時安邦治 (学習院女子大学国際文化交流学部助教授) 公開講座・連続セミナー「グローバル化とシティズンシップ」第1回 「多文化的シティズンシップをめぐる」
第50回	2005年5月13日 近藤英俊 (関西外国語大学特任助教授) 「オカルトモダニティ —— アフリカにおける「呪術の近代」論再考」
第51回	2005年5月27日 植村清加 (成城大学民俗学研究所研究員) 「マグレブ系移民とフランス —— ローカリティとその拡張」
第52回	2005年6月3日 亀山俊朗 (大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程)

公開講座・連続セミナー「グローバル化とシティズンシップ」第2回

「近代的シティズンシップ概念の限界と可能性」

第53回	2005年6月17日 渡辺 靖 (慶應義塾大学環境情報学部助教授) 『『アフターアメリカ』再訪』
第54回	2005年6月24日 クリス・グレゴリー Chris Gregory (オーストラリア国立大学準教授) 「トランスナショナルなプロセス —— 人類学理論の持続可能性と危機」(英語講演) “Transnational Processes, Sustainability and the Crisis in Anthropological Theory.”
第55回	2005年6月27日 宮崎広和 (コーネル大学人類学科助教授) 「知の技法としてのアービトラージ —— 贈与論と金融工学における複製・反復・希望」
第56回	2005年6月30日 シュテフィ・リヒター Steffi Richter (ライプチヒ大学東アジア研究所日本学科主任教授) 「趣味の競演、日本の身体の造形 —— 三越デパートと近代的アイデンティティの『デパート化』」 (英語講演) “Contesting Good Taste, Shaping Japanese Bodies: The Department Store Mitsukoshi and the “Departmentalization” of Modern Identities.”
第57回	2005年7月1日 宮崎恒二 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授) 「境域とその変遷 —— サバ (マレーシア) における人の移動」
第58回	2005年7月8日 ダリウシュ・ツイフォヌン Dariusz Zifonun (コンスタンツ大学歴史学・社会学部助教授) 「移民時代の社会学 —— 概念的問題に対する取り組みと実証的研究による発見」(英語講演) “Sociology in the Age of Migration: Conceptual Issues and Empirical Findings.”
第59回	2005年7月15日 アルベルト・カンブロッシオ Alberto Cambrosio (マッギル大学医学部・医学の社会研究学科教授) 「グローバル化時代における生物医学ネットワーク」(英語講演) “Biomedical Networks in an Era of Globalization.”
第60回	2005年7月22日 三尾裕子 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授) 「境域とアイデンティティ —— 中国系移民の「土着化」を中心に」

- 第61回 2005年10月7日
 渋谷 努（東北学院大学文学部非常勤講師）
 「バリ『郊外』での移民出身者を中心とした地域団体——地域意識の醸成過程に関する試論」
-
- 第62回 2005年10月14日
 縄田浩志（鳥取大学乾燥地研究センター総合的砂漠化対処部門講師）
 「アラビア半島と北東アフリカを結ぶレース用ラクダの生産と交易ネットワーク」
-
- 第63回 2005年10月21日
 上杉富之（成城大学文芸学部及び大学院文学研究科教授）
 「人類学から見たトランスナショナリズム研究——研究の成立と展開および今後の可能性」
-
- 第64回 2005年11月11日
 土佐弘之（神戸大学大学院国際協力研究科教授）
 「倫理の跋行的グローバリゼーション——アフリカの人道危機と国際社会」
 （日本アフリカ学会関西支部例会を兼ねる）
-
- 第65回 2005年11月18日
 小田博志（北海道大学大学院文学研究科助教授）
 「他者を迎え入れる社会——異人歓待、アジール、入国管理」
-
- 第66回 2005年11月25日
 関 嘉寛（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）助手）
 連続セミナー「グローバル化とシティズンシップ」第3回
 「リスクのグローバル化と減災——被災者の人権を考える」
-
- 第67回 2005年12月2日
 樋口明彦（大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程）
 連続セミナー「グローバル化とシティズンシップ」第4回
 「社会的包摂と正義——グローバル化時代の2つの世界、2つの規範」
-
- 第68回 2005年12月9日
 トマス・ロイター Thomas Reuter（メルボルン大学人類学・地理学・環境研究学部／「エリザベス2世」上級研究員／オーストラリア人類学会前会長）
 「2002年テロ攻撃後のインドネシア・バリにおける新たな文化復興運動」（英語講演）
 “Globalisation and Regionalism: The Rise of a New Cultural Revival Movement in Bali, Indonesia, after the 2002 Terror Attack.”
-
- 第69回 2006年1月27日
 出口 顯（島根大学法文学部社会文化学科教授）

「スウェーデンの国際養子とアイデンティティ」

-
- 第70回 2006年2月10日
 イヤル・ベン アリ Eyal Ben-Ari (エルサレム・ヘブライ大学社会学文化人類学科教授)
 『『人権』と『精密戦争』—— アル・アクサ・インティファダにおける犠牲者、イスラエル軍、
 グローバルな言説』(英語講演)
 “‘Human Rights’ and ‘Precision Warfare’: Casualties, the Israeli Military and Global Discourses
 in the Al-Aqsa Intifada.”
-
- 第71回 2006年2月24日
 内海博文 (大阪大学大学院人間科学研究科特任助手)
 連続セミナー「グローバル化とシティズンシップ」第5回
 「人間の安全保障と秩序問題の現在—— 9.11以後の、2つのトランスナショナルな政治的秩序を
 てがかりに」
-
- 第72回 2006年3月10日
 報告1) シャリニ・ランデリア Shalini Randeria (チューリヒ大学教授)
 「新しいグローバルな構成の説明無責任性—— 狡猾な国家、国際機構、
 市民社会」(英語講演)
 “The New Global Architecture of Unaccountability: Cunning States,
 International Organisations and Civil Society.”
 報告2) ママドゥ・ディアワラ Mamadou Diawara (フランクフルト大学教授)
 「グローバルな歌い手—— アフリカのローカル音楽とトランスナショナルな
 演奏家の出現」(英語講演)
 “Global Singers: Local Music in Africa and the Rise of Transnational Players.”
-
- 第73回 2006年4月21日
 厚東洋輔 (大阪大学大学院人間科学研究科教授)
 「グローバリゼーションと社会概念の変容」
-
- 第74回 2006年5月26日
 ジョン・リー John Lie (カリフォルニア大学バークレイ校社会学部教授/国際・地域研究所長)
 「ディアスポラのナショナリズム」(英語講演)
 “Diasporic Nationalism”
-
- 第75回 2006年5月26日
 ファトゥ・ソウ Fatou Sow (フランス国立学術研究センター (CNRS) 研究員/シェイク・アンタ・
 デイオップ大学準研究員)

	「グローバリゼーションの文脈でアフリカ開発を再考する——もしジェンダーが問題になるならば」 (英語講演) “Re-thinking African Development in the Context of Globalization: And if Gender Mattered.” (日本アフリカ学会第43回学術大会プレイベントを兼ねる)
第76回	2006年6月16日 三島憲一(東京経済大学経済学部教授) 「ドイツの外国人労働者をめぐる議論——現代の社会統合における文化論的錯覚について」
第77回	2006年6月26日 アンナ・ツイン Anna Lowenhaupt Tsing(カリフォルニア大学サンタクルーズ校教授) 「先住民の声」(英語講演) “Indigenous Voice.”
第78回	2006年7月7日 小泉潤二(大阪大学大学院人間科学研究科教授) 「『トランスナショナリティ』という問題群——グアテマラ北西部の30年から」
第79回	2006年10月20日 ヴォルフガング・シュヴェントカー Wolfgang Schwentker(大阪大学大学院人間科学研究科助教授) 「二十世紀におけるメガシティの誕生」
第80回	2006年11月2日 石田慎一郎(日本学術振興会特別研究員) 「ADRの技術移転と多元的法体制の再編——ケニアの事例を中心に」 共催：大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」臨床と対話
第81回	2006年11月17日 木前利秋(大阪大学大学院人間科学研究科教授) 「グローバル化の下での人権とシティズンシップ」
第82回	2006年12月22日 真島一郎(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授) 「中間集団とトランスナショナリティ——《社会・体・倫理》の忘却にまつわる人類学史から」
第83回	2007年2月9日 赤尾光春(北海道大学スラブ研究センター研究員) 「追放(ガルート)から離散(ディアスポラ)へ——ユダヤ教超正統派と「帰還」の神話学」
第84回	2007年2月13日 フランク・ハイデマン Frank Heidemann(ミュンヘン大学文化科学研究科教授)

“On the relationship of Local Society and the State: The appropriation of state ideology and institutions in a South Indian farming community.”

「地域社会と国家の関係 —— 南インドの農業共同体における国家イデオロギーと国家機構の流用 ——」

第85回 2007年2月23日
宮武公夫（北海道大学大学院文学研究科教授）
「人類学写真」の現在

世界システムと海域アジア交通

第2回全国高等学校歴史教員研修会

2004年8月9－11日

大阪大学附属図書館本館 A6F 図書館ホール

8月9日

12:00	開場
12:20－12:50	開会挨拶と趣旨説明 桃木至朗（大阪大学教授）
13:00－14:40	中世日本の三国世界観と神国思想 —— 天竺・震旦・本朝 —— 平 雅行（大阪大学教授）
15:00－16:40	東南アジアにおける外来文明や「世界」との向き合い方 —— 日本史との比較 —— 桃木至朗（大阪大学教授）
16:40－16:50	自由質問票記入時間

8月10日

9:10－10:00	前日の質問への回答、受講者のフリートーキング
10:10－11:40	中央ユーラシア史から見たアジア史・日本史 森安孝夫（大阪大学教授）
12:50－14:00	中世日本列島と海域世界

	山内晋次 (大阪大学特任助手)
14:10 - 15:20	琉球王国と東アジア国際秩序 岡本弘道 (大阪樟蔭女子大学非常勤講師)
15:30 - 16:40	近世東北アジアと日本列島 杉山清彦 (大阪大学助手)
16:40 - 16:50	自由質問票記入時間

8月11日

9:10 - 10:30	前日の質問への回答、受講者のフリートーキング
10:40 - 12:20	世界システム・アジア交易圏と近代日本 秋田 茂 (大阪大学教授)
14:00 - 16:00	全体討論会
16:00	閉会挨拶

■ 拡大書評会 山下範久『世界システム論で読む日本』を読む

2004年10月27日 15:00 - 17:30

大阪大学大学教育実践センター人文社会科学棟 2F 217 演習室

主催：大阪大学 21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

共催：海域アジア史研究会

科学研究費「近代世界システム以前の諸地域システムと広域ネットワーク」研究班

後援：サントリー文化財団

講師

蓮田隆志 (大阪大学大学院文学研究科博士後期課程 近世ベトナム史)

米田 誠 (大阪大学大学院文学研究科博士前期課程 オーストラリア近代史)

山下範久 (北海道大学大学院文学研究科歴史文化論講座助教授 歴史社会学)

■ ワークショップ「海から見た東北アジア：東南アジアとの対話」

2004年10月29 - 30日

メルパルク沖縄 (那覇市)

主催：大阪大学 21 世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文学」

国立シンガポール大学アジア研究所 (ARI)

Friday, 29	October 2004
8:30 – 9:00	Registration
9:00 – 9:15	Opening Words Anthony Reid (National University of Singapore)
9:15 – 9:30	Practical Information Piyada Chonlaworn & Fujita Kayoko (Osaka University)
9:30 – 10:00	Plenary Takara Kurayoshi (University of the Ryukyu) The Kingdom of Ryukyu: Its Formation in the Maritime Asian World
10:00 – 11:45	Session 1: Power and Authority in the Maritime Asian World
10:00 –	Paper 1 Yamauchi Shinji & Momoki Shiro (Osaka University) The Relationship between Maritime Merchants and State/Kingship in Northeast/Southeast Asian Seas from the 10th to the 15th Centuries
10:30 –	Paper 2 Geoff Wade (National University of Singapore) Ryukyu in the Ming Shi-lu 1360s-1560s
11:00 –	Paper 3 Okamoto Hiromichi (Kyoto University) The Ming Dynasty's "Tributary System" and the Role of the Ryukyu Kingdom: Focusing on Giving a Tribute as an Act
11:30 –	Discussion Chair: Sun Laichen
13:00 – 14:15	Session 2: Trade, Merchants, and Commodities 1
13:00 –	Paper 4 Fujita Akiyoshi (Tenri University) Maritime Trade Networks and the Japanese Islands in Northeast Asia
13:30 –	Paper 5 Qian Jiang (University of Hong Kong) Bridging East Ocean and West Ocean: Hokkien Merchants in Maritime Asia
14:00 –	Discussion Chair: Geoff Wade
14:30 – 15:45	Session 3: Trade, Merchants, and Commodities 2
14:30 –	Paper 6 Kenneth R. Robinson (International Christian University) Choson Korea and Maritime Trade in Southeast Asian Goods, 1392-1609
15:00 –	Paper 7 Xie Bi-zhen (Fujian Normal University) A Study on the Intermediary Maritime Trade of Ryukyu Kingdom

15:30 – **Discussion** Chair: John E. Wills, Jr.

16:00 – 17:15 **Session 4: Military Powers**

16:00 – **Paper 8** Sun Laichen (California State University, Fullerton)
Gunpowder Technology and Commerce in East and Southeast Asia,
c. 1368-1683: Toward Defining an “Age of Gunpowder” in Asian History

16:30 – **Paper 9** Adam Clulow (Columbia University)
Japan's Wild Geese: Japanese Mercenaries in Southeast Asia

17:00 – **Discussion** Chair: James Francis Warren

Saturday, 30 October 2004

9:00 – 10:15 **Session 5: New Approaches to the Study of Maritime Northeast/Southeast Asia**

9:00 – **Paper 10** James Francis Warren (Murdoch University)
Weather, History and Empire: The Typhoon Factor and the Manila Galleon
Trade, 1565-1815

9:30 – **Paper 11** Liu Shih-feng (Academia Sinica)
Maritime Salvage and Refugee Repatriation Networks of the East Asian Rim
in the Qing Dynasty

10:00 – **Discussion** Chair: Kenneth R. Robinson

10:30 – 11:45 **Session 6: Currencies and Precious Metals in Global History**

10:30 – **Paper 12** Kuroda Akinobu (University of Tokyo)
Invisible Corridor of Copper Currencies Crossing the China Sea:
The Dawn of the Silver Century

11:00 – **Paper 13** Fujita Kayoko (Osaka University)
In the Twilight of the Silver Century: A Re-examination of Dutch Metal
Trade in the Asian Maritime Trade Networks

11:30 – **Discussion** Chair: Anthony Reid

12:45 – 14:00 **Session 7: Korea-Southeast Asia Relations**

12:45 – **Paper 14** Ha Woo-bong (Chonbuk National University)
A Study on Cultural Interchange Between Korea and Vietnam
in the Chosun Dynasty

13:15 – **Paper 15** Cho Hung-guk (Pusan National University)
Historical Relations between Korea and Thailand in the Late 14th Century

13:45 –	Discussion	Chair: Hasuda Takashi (Osaka University)
14:15 – 15:30	Session 8: Northeast Asia in the Age of Commerce	
14:15 –	Paper 16	Nakajima Gakusho (Kyushu University)
		South Kyushu during the Age of Commerce: A Node of Northeast Asian Maritime Trade
14:45 –	Paper 17	John E. Wills, Jr. (University of Southern California)
		Taiwan in Three Prisms: Japanese Destination, Southeast Asian Analogue, Chinese Frontier
15:15 –	Discussion	Chair: Leonard Blussé
15:45 – 17:00	General Discussion Chair: Momoki Shiro (Osaka University)	
	Discussion	All
	Concluding Remarks	Anthony Reid

第1回地域研究ワークショップ「世界史とアジア研究」

2004年11月30日 13:00 – 16:00

文学研究科本館2F第1会議室

共催：大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」世界システムと海域アジア交通

全学研究推進室文系WG

報告1	「21世紀の世界とアジアの歴史」 桃木至朗（大阪大学文学研究科 東洋史学）
報告2	「狩猟採集社会像と東南アジア考古学」 小川英文（東京外国語大学外国語学部 考古学）
報告3	「イギリス帝国史からグローバルヒストリーへ」 秋田 茂（大阪大学文学研究科 西洋史学）

総合討論

■ 海域アジア史ワークショップ

2005年1月22日 15:30 - 18:00

文学研究科本館2F第1会議室

Dr. Ch'en Kuo-tung

“The History of Maritime Trading Networks in Early-Modern Asia”

Ota Atsushi

“The Impact of the Canton Trade on Southeast Asia: Collapse of the VOC System
and New Interregional Trade Pattern, c. 1760-1800”

■ 第3回全国高等学校歴史教育研究会

2005年8月9日 - 11日

大阪大学附属図書館本館A6F図書館ホール

8月9日

13:20	開場
13:50 - 14:00	開会挨拶
14:00 - 14:30	イントロダクション 桃木至朗（大阪大学教授）
14:50 - 16:30	講演1 「世界システムから見た20世紀史の全体像」 秋田 茂（大阪大学教授）
16:30 - 16:40	自由質問票記入時間

8月10日

9:30 - 10:00	質問回答とフリートーキング
10:10 - 11:50	講演2 「家族・女性・ジェンダー：日本古代を中心に」 武田佐知子（大阪外国語大学教授）
12:50 - 14:30	講演3 「歴史と記憶—— 自称する歴史——」 富山一郎（大阪大学助教授）
14:50 - 16:30	講演4 「新しい時代区分論」 桃木至朗

16:30 – 16:45 自由質問票記入時間

8月11日

9:30 – 11:00 質問回答とフリートーキング

11:10 – 12:30 報告1 「世界史Aの東アジア世界——冊封体制を中心に——」

毛戸祐司（京都府立田辺高等学校教諭）

報告2 「高等学校『世界史』の教育内容開発」

森 才三（広島大学付属福山中・高等学校教諭）

報告3 「歴史用語の精選と体感できる授業をめざして」

松木謙一（神奈川県立柏陽高等学校教諭）

14:00 – 16:00 総合討論

16:00 閉会挨拶

International Workshop “Criticism to Sinocentrism: From Inside and Outside”

2005年10月22日 13:30 – 18:00

待兼山会館2F会議室

Ueda Makoto (Faculty of Letters, Saint Paul’s University, Tokyo, Japan)

「東ユーラシアという歴史的枠組みの有効性」

Ricardo Duchesne

(Department of Social Science, Faculty of Arts, University of New Brunswick Saint John, New Brunswick, Canada)

“Was the rise of the West informed primarily by the assimilation of Eastern inventions diffused across the “Chinese-led” global economy?”

第4回全国高等学校歴史教育研究会 阪大史学の挑戦

2006年8月1-3日

大阪大学附属図書館本館 A6F 図書館ホール

8月1日

13:20	開場
13:50 - 14:00	開会挨拶 桃木至朗 (大阪大学教授)
14:00 - 14:30	イントロダクション
14:50 - 16:30	世界史上のシルクロードと唐帝国 森安孝夫 (大阪大学教授)
16:30 - 16:40	自由質問票記入時間

8月2日

9:30 - 10:00	前日の質問への回答、受講者のフリーターキング
10:10 - 11:50	鎌倉新仏教論はなぜ破綻したか 平 雅行 (大阪大学教授)
12:50 - 14:30	1930～50年代アジア国際秩序とイギリス帝国 —— グローバルヒストリーの視点から —— 秋田 茂 (大阪大学教授)
14:50 - 16:30	東南アジア史 誤解と正解 桃木至朗 (大阪大学教授)
16:30 - 16:45	自由質問票記入時間

8月3日

9:30 - 10:30	前日の質問への回答、受講者のフリーターキング
10:40 - 11:40	生徒が参加する世界史授業をめざして 笹川裕史 (大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎教諭)
12:40 - 13:40	質問回答とフリーターキング
14:00 - 16:00	総合討論 (高大連携のあり方・今後の研究会について etc.)
16:00 -	閉会挨拶

第2回 COE – ARI ワークショップ

躍動する周縁と開かれた中心 —— 相互交渉の場（インターフェイス）としての海域アジア ——

2006年10月27 – 29日

長崎歴史文化博物館ホール

Work Shop

Friday, 27

October 2006

8:30 – 9:00	Registration
9:00 – 9:15	Welcome Remarks by Momoki Shiro (Osaka University, Japan)
9:15 – 9:30	Practical Information by Team Momoki
9:30 – 11:30	Session 1: The Periodisation Issues & The Early Age of Commerce Chair: Li Tana Momoki Shiro & Hasuda Takashi (Osaka University, Japan) A Periodization of Southeast Asian Medieval/early Modern History, in Comparison With Northeast Asia
10:00 –	Geoff Wade (Asia Research Institute, National University of Singapore) An Earlier Age of Commerce in Southeast Asia: 10th-13th Centuries?
10:30 –	Yamauchi Shinji (Graduate School of Letters, Osaka University, Japan) The Japanese Archipelago And Maritime Asia From The 9th-13th Centuries
11:00	Comments By Anthony Reid Discussion
11:45 – 13:15	Session 2: The 17th Century Chair: Geoff Wade Leonard Blussé (Leiden University, The Netherlands) Kaikin And Nihon Machi: The Maritime Prohibitions And The Virtual Isolation of The Japan Towns in Southeast Asia (1636-1650)
12:15 –	Iioka Naoko (Department of History, National University of Singapore) Introducing Wei Zhiyan (Gi Shien): Networks of A 17th Century Chinese Merchant And Their Implications
12:45 –	Comments By Yoon Byung Nam Discussion
14:15 – 16:15	Session 3: The Late Early Modern To Modern Periods

	Chair: Roy Bin Wong
14:15 –	James K. Chin (Centre of Asian Studies, The University of Hong Kong, Hong Kong SAR, China)
	Merchants, Brokers And Pirates: Chinese Maritime Merchants Revisited
14:45 –	Ota Atsushi (Department of History, National University of Singapore)
	Emergence of New Order in The South China Sea Trade, C. 1760-1800
15:15 –	Tana Li (Australian National University, Australia)
	“national” And “overseas” Markets in Early 19th-century Vietnam: A Comparison of Commodity Prices in Vietnam, Canton And Some Southeast Asian Ports
15:45 –	Comments By Kwee Hui Kian
	Discussion
16:30 – 18:00	Photo Session & Museum Guided Tour

Saturday, 28

October 2006

8:30 – 9:00	Registration
9:00 – 10:30	Session 4: Maritime Trade And Peasant Economy
	Chair: James K. Chin
9:00 –	Kwee Hui Kian (Asia Research Institute, National University of Singapore)
	Integrating Two Fields: A Survey of The Scholarship On Late Imperial Southeast China And Early Modern Southeast Asia
9:30 –	Fujita Kayoko (Osaka University, Japan)
	Maritime Trade And Peasant Economies: The Experience of A Northeast Asian Rimland in A Global Perspective, Ca. 1600-1800
10:00 –	Comments By Roy Bin Wong
	Discussion
10:45 – 12:45	Session 5: The Empire And Rimlands
	Chair: Leonard Blussé
10:45 –	Sugiyama Kiyohiko (Faculty of Letters, Komazawa University)
	The Structure of Qing Imperial Rule As Seen From The Eight Banners: From The Studies of Manchu-qing Imperial History in Japan
11:15 –	Yoon Byung Nam (Department of History, Sogang University, South Korea)
	Trading Posts in Korea And Japan: A Comparative View
11:45 –	Arano Yasunori (Graduate School of Arts, Rikkyo University, Japan)

The Emergence And Development of New East Asian Regional Order
in The 17th Century: The Experience of Tokugawa Japan

12:15 – Comments By Ota Atsushi
Discussion

14:00 – 16:00 **Session 6: Big Visions**

Chair: Akita Shigeru

14:00 – Ohashi Atsuko (Graduate School of International Development, Nagoya University, Japan)
(Comparing) Forced Cultivation Systems in Java, Luzon, Ryukyu And Northern India

14:30 – Anthony Reid (Asia Research Institute, National University of Singapore)
“indo-sinesia”: Southeast Asian Understandings of Maritime India And Continental China

15:00 – Roy Bin Wong (University of California, Los Angeles, USA)
Comparing And Connecting Maritime Histories Across Eurasia, 1500-1800

15:30 – Comments By George Bryan Souza
Discussion

16:15 – 18:00 General Discussion

(– 19:00) Chair: Anthony Reid

Post-workshop Excursion & Nmhc First Anniversary Symposium

Sunday, 29 **October 2006**

10:00 – 16:00 **Excursion**

Dejima, A Walk Along The Nakajimagawa River, Chinese Temples On The Teramachi Street;
Others Upon Request

13:30 – 16:30 **Open Symposium @ Nmhc**

Keynote Speaker: Leonard Blussé (Leiden University, Netherlands)

Panellists: Arano Yasunori (Rikkyo University, Japan)

Ha Woobong (Chonbuk University, South Korea)

Oishi Kazuhisa (Omura City Regional Culture Development Division,
Nagasaki, Japan)

Coordinator: Hattori Hideo (Kyushu University, Japan)

第2回韓日英国史フォーラム

The Second Korean-Japanese Conference of British History

Intellectual framework, Education and a birth of 'History' in modern Britain

2006年11月23日

大阪大学中之島センター

Sponsored by: Haskins Society Japan
 Korean-Japanese Forum for the Study of British History (韓日英国史研究フォーラム)
 The 21st Century COE Project of Osaka University: "Interface Humanities"
 And Grant-in Aid (B) on Global History Project, Osaka University

Introduction: Hirokazu Tsurushima (Kumamoto University & Haskins Society Japan)

Session One: Intellectual framework

Seungrae Cho (Chongju University)
 "Two Rival Views of Liberty in Early Modern Britain"
 Rie Tomita (Tokai Women's University)
 "Seventeenth Century Revolutions in Scottish Parliamentary Acts"
 Tarou Inai (Hiroshima University)
 "The King's two bodies in Tudor Monarchy"
 Woon-Ok Yeom (Hanyang University)
 "Making a 'Social Body' and Gender: Edwin Chadwick's 1842 Sanitary Report"

Session Two: Institutionalization of Education

Young-Suk Lee (Gwangju University)
 "Disputes on Examination and Intellectuals in the Late Victorian Age"
 Yoshihito Yasuhara (Hiroshima University)
 "The Social Origins and Post-Graduate Careers of Cambridge Senior Wranglers 1748-1909"
 Joong-Lak Kim (Kyungpook National University)
 "The Institutionalization of Higher Education for Women in Cambridge, 1870-1948"
 Sung-Sook Lee (Hanyang University)
 "Education and Gender Equality in Britain, 1840-1902"

Session Three: A birth of 'History'

William M. Aird (University of Cardiff)

"Edward A Freeman's Methods of Historical Study"

Comment by Hirokazu Tsurushima (Kumamoto University)

"Mr John Horace Round (1854-1928) and his attack against Professor Freeman;

Science or Description?"

Sangsoo Kim (Hankuk University of Foreign Studies)

"The Relationship between History and Literature: Intertextuality and Agency"

海域アジア史研究会

2004年度

5月例会

2004年5月22日 13:30 - 17:00

文学部棟

富田 暁 (岡山大学)

研究報告「ムラユ世界のアラブ人 —— Van Den Berg の報告書を中心にして ——」

糸山大樹 (大阪大学)

史料講読「『洋務人材登用』に関する档案史料 (『光緒宣統両朝上諭档』所収)」(後半)

6月例会

2004年6月26日 15:00 - 17:00

大阪歴史博物館

大阪歴史博物館特別展「初期伊万里展 —— 染付と色絵の誕生 ——」観覧

10月例会

ワークショップ「海から見た東北アジア：東南アジアとの対話」にむけて

2004年10月9日 13:30 - 19:00

文学部棟

山内晋次・桃木至朗

"The Relationship between Maritime Merchants and State/Kingship in Northeast/Southeast Asian Seas from the 10th to the 15th Centuries"

岡本弘道

"The Ming Dynasty's 'Tributary System' and the Role of the Ryukyu Kingdom: Focusing on Giving a Tribute as an Act"

藤田明良

“Maritime Trade Networks and the Japanese Islands in Northeast Asia”

藤田加代子

“In the Twilight of the Silver Century: A Re-examination of Dutch Metal Trade in the Asian Maritime Trade Networks”

中島楽章

“South Kyushu during the Age of Commerce: A Node of Northeast Asian Maritime Trade”

10月特別例会

“Indonesia, Islam and Aceh” 「インドネシア、イスラーム、アチー」

2004年10月26日 16:30 – 18:30

大阪大学吹田校舎銀杏会館3F大会議室

共催：大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

トランスナショナルリティ研究

11月例会

2004年11月13日 13:30 – 18:00

豊中キャンパス文学部棟

岡田雅志（大阪大学）

史料講読「ベトナム阮朝硃本資料を読む——『興化公文』所収、西北山地政策に関する嗣徳三年十月初八日付上奏文」

後藤敦史（大阪大学）

研究報告「弘化一嘉永期における江戸幕府の対外政策と海防掛」

特別例会

The 18th IAHAにむけて “Critical Dialogues between Maritime Asian Studies and the World-System Theory: The ‘Early-Modern Empire’ Concept from the Viewpoint of Asian History”

2004年11月27日 13:00 – 17:00

文学研究科本館2F第1会議室

山下範久（北海道大学）

“The Concept of Early Modern Empire: Imaginative (Non-)Construction of Spatial Universality and the Destinies of Marcher Areas”

岡本弘道（京都大学）

“Ming Dynasty’s ‘Tributary System’ and Ryukyu: Focusing on Paying a Tribute as a Practice”

藤田加代子（大阪大学）

“The European Presence in Early Modern Asia: An Examination of the Concept of ‘Early Modern

Empire' ”

蓮田隆志 (大阪大学)

“Seeing Mainland Southeast Asian experiences from the Early Modern Empire perspective”

1月例会	2005年1月22日 13:00 - 15:00 文学部棟 深見純生 (桃山学院大学) 研究報告「ターンブラリング (単馬令) の発展と埋没 —— 13世紀マレー半島中部がジャーヴァ カからシャムへ —— 」
2月例会	ワークショップ「14世紀の東アジア海域と倭寇」 2005年2月25日 17:00 - 20:00 待兼山会館 共催: 科研近代世界システム以前の諸地域システムと広域ネットワーク 李領 (韓国 Korea National Open University) 研究報告「歴史地理学的検討を通してみる「庚申年 (1380) の倭寇」の実態 —— 鎮浦江戦を中 心として」
3月例会	2005年3月12日 13:30 - 17:00 文学研究科2F史学科共同研究室 共催: 科研近代世界システム以前の諸地域システムと広域ネットワーク ピャダー・シヨラオン (大阪大学特任研究員 (COE)) 研究報告「タイ古代の酒について」

2005年度

4月例会	2005年4月22日 18:00 - 21:00 待兼山会館 John Bintliff (Leiden University) 研究報告 “Constantinople-Istanbul and its Incorporation into the Modern World System from the 11th-20th centuries AD”
5月例会	2005年5月28日 13:30 - 18:00 文学研究科本館2F第1会議室 藤田明良 (天理大学) 研究報告「東アジアの港町と媽祖信仰」 須永 敬 (岐阜市立女子短期大学)

研究報告「海域アジアの民俗学 ——〈日韓国境域〉における民俗宗教研究の視点から ——」	
6月例会	<p>『海域アジア史研究入門』にむけて</p> <p>2005年6月24日 18:00 - 21:00</p> <p>史学科共同研究室</p> <p>山内晋次 (大阪大学)</p> <p>研究報告「9 - 14世紀の日本列島と海域アジア世界」</p> <p>藤田加代子 (大阪大学)</p> <p>研究報告「第Ⅲ部 近世後期〈17世紀半ば～19世紀初頭〉(2) 17世紀半ば以降の経済史」</p>
7月例会	<p>2005年7月23日</p> <p>大阪歴史博物館特別展「東アジア中世海道 —— 海商・港・沈没船 ——」見学会</p>
9月例会	<p>2005年10月1日 13:30 - 18:00</p> <p>文学研究科</p> <p>松方冬子 (東京大学史料編纂所)</p> <p>(1) 「インドネシア国立文書館所蔵一般書記局文書」</p> <p>(2) 「「鎖国を見直す」ことを見直す」</p>
10月例会	<p>2005年10月21日 18:00 - 20:00</p> <p>文学研究科</p> <p>太田 淳 (日本学術振興会特別研究員)</p> <p>研究報告「18世紀後半、東南アジア島嶼部における交易パターンの変容：広東貿易、アヘン、 「海賊」のインパクト」</p>
11月例会	<p>2005年11月26日 13:30 - 18:00</p> <p>文学研究科</p> <p>共催：第1回「大阪大学歴史教育研究会」</p> <p>(1) 桃木至朗「歴史の研究と教育に関する問題提起：海域アジア史を中心として」</p> <p>(2) 今後の進め方に関する意見交換</p>
1月例会	<p>2006年1月14日</p> <p>待兼山会館</p> <p>『海域アジア史研究入門』刊行にむけて</p>

2006年度

4月例会	2006年4月22日 13:30 - 18:00 文学部棟2階 史学科共同研究室 村尾 進 (天理大学) 「都市広州・珠江・澳門—— 海域アジアの諸問題が輻輳する空間 ——」 川口洋平 (長崎県教育庁) 「港市長崎の成立と変容」
5月例会	2006年5月27日 13:30 - 18:00 文学部棟2階 史学科共同研究室 アダム・クルロ Adam Clulow (コロンビア大学/東大史料編纂所) 研究報告 "Pirating in the Shogun's Waters: The Dutch East India Company in Hirado, 1615-1621"
6月例会	2006年6月24日 13:30 - 18:00 文学部棟2階 史学科共同研究室 栗山保之 (東洋大学) 研究報告 「『インド洋西海域世界』に関する歴史研究についての諸問題」
7月例会	2006年7月21日 共催: 科研「近代世界システム以前の諸地域システムと広域ネットワーク」 サントリー文化財団特別助成「東・東南アジアにおける前近代と近代の連続と 断絶に関する理論的研究」 田口宏二郎 (追手門学院大学) 研究報告 「『中国中心』論? (Between the core and the center)」
12月例会	2006年12月23日 14:00 - 文学部棟2F 東洋史演習室 河上麻由子 (九州大学) 研究報告 「梁の武帝の仏教政策と南海諸国」
2月例会	2006年2月21日 15:00 - 18:00 待兼山会館2階・会議室 共催: 科研「近代世界システム以前の諸地域システムと広域ネットワーク」 Yoon Byung Nam (Sogang University) "Another Look at the Nagasaki Trade in Early Modern Japan: How Did Each Party See the Foreign Trade."

グローバルヒストリー・ワークショップ（セミナー）

第2回

Globalization in Northeast Asia in the 20th Century

2005年6月25日～26日

Part 1 From the Harbin Station : Globalization goes West

待兼山会館 2F 会議室

共催：大阪大学 21 世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文学」世界システムと
海域アジア交通 大阪大学グローバルヒストリー研究会 中国現代史研究会

6月25日

14:00 - 14:10	趣旨説明 左近幸村（北海道大学大学院）
14:10 - 15:00	“From the Harbin Station, 1895-2005” David Wolff (Woodrow Wilson Center, Senior Scholar / 成蹊大学・日本学術振興会外国人特別研究員)
15:00 - 15:50	“Chinese network in Northeast Asia: Its growth, decline and revival” 上田貴子（近畿大学）
15:50 - 16:00	休憩
16:00 - 16:20	コメント 松野周治（立命館大学）
16:20 - 18:00	ディスカッション

Part 2 To the Harbin Station : Globalization comes East

大阪大学中之島センター 7F 第3講義室

共催：大阪大学 21 世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文学」世界システムと
海域アジア交通 大阪大学グローバルヒストリー研究会 ロシア東欧史研究会

6月26日

10:00 - 11:00	“To the Harbin Station, 1898-1920” David Wolff (Woodrow Wilson Center, Senior Scholar / 成蹊大学・日本学 術振興会外国人特別研究員)
11:00 - 12:00	コメント

神長英輔（日本学術振興会特別研究員／東京大学教養学部非常勤講師）
左近幸村（北海道大学大学院）

12:00 - 13:00 ディスカッション

第3回 「グローバルヒストリーとアジア／ヨーロッパ」 *Global History and Asia/Europe*

2006年1月14日-15日

大阪大学中之島センター

共催：大阪大学 21世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文科学」世界システムと
海域アジア交通 大阪大学グローバルヒストリー研究会

Juergen Osterhammel (University of Constanz)

“‘Civilization’ and the ‘Civilizing Mission’ as Keys to Nineteenth-Century World”

コメント：Wolfgang Schwentker (Osaka University)

Kaoru Sugihara (Osaka University)

“The Emergence of a Resource-saving Path of Economic Development in East Asia”

コメント：Shigeru Akita (Osaka University)

Robert Bickers (University of Bristol)

“Shanhailanders and others: British communities on the China coast, 1843-1954”

コメント：Toru Kubo (Shinshu University)

Tsukasa Mizushima (University of Tokyo)

“Institution as Social Grammar: Colonial Land System in India and Malaysia”

コメント：Tomotaka Kawamura (Toyama University)

第4回 2006年4月20 - 22日

4月20日

待兼山会館 2F 会議室

共催：大阪大学グローバルヒストリー研究会 大阪大学経済史・経営史研究会

Jan Luiten van Zanden (Utrecht University, The Netherlands)

“Wages, Prices, and Living Standards in China, Japan, and Europe”

斎藤 修（一橋大学）

“Wages and Incomes as Indicators of the Standard of Living: Early Modern England and Japan Compared”

コメンテーター：山本千映（関西大学）、尾高煌之助（法政大学）

4月21日

大阪大学中之島センター

Jan Luiten van Zanden (Utrecht University, The Netherlands)

“Girlpower: The European Marriage Pattern (EMP) and labour markets in the North Sea region in the late medieval and early modern period”

コメント：斎藤 修（一橋大学）

Toru Kubo (Shinshu University)

“History of East Asian Cotton Industry in the 20th Century”

コメント：秋田 茂（大阪大学）

4月22日

京都産業大学

共催：大阪大学グローバルヒストリー研究会 オランダ史研究会

Jan Luiten van Zanden (Utrecht University, The Netherlands)

“Common workmen, philosophers and the birth of the European knowledge economy.

About the price and the production of useful knowledge in Europe 1350-1800”

第5回

America's Wars and the Making of the World Order

2005年7月15日－16日

関西大学

Satoru Mori (University of Tokyo)

“The Vietnam War's Impact on the Special Relationship: Johnson-Wilson Years”

Andrew Rotter (Colgate University)

“Just and Unjust Wars: The American Experience, 1892-2004”

Robert McMahon (Ohio State University)

“The Impact of the Korean War and the American Order in East Asia”

Takeshi Matsuda (Osaka University of Foreign Studies)

“Cold War Politics, Racism and ‘Soft Power’ ”

Hideki Kan (Seinan Jogakuin University)

“The Cold War and the Nixon Administration’s Initiative for Sino-American Rapprochement”

Masaaki Gabe (Ryukyu University)

“The U.S.-Japan Security Relation and the Cold War in Asia”

Hiroshi Matsuoka (University of Tsukuba)

“The Vietnam War and the American Order”

第6回

Maritime Trade and Trading Metropolises: Europe and Asia, 17th to 20th Centuries

2006年8月30日 – 31日

Museum für die Geschichte der Stadt Hamburg

Organised by PD Dr Frank Hatje, Prof Toshiaki Tamaki and Dr Klaus Weber,

in cooperation with Prof Dr Franklin Kopitzsch (Arbeitsstelle für Hamburgische

Geschichte, Universität Hamburg) and Wirtschaftsgeschichtliche Forschungsstelle (Hamburg)

Franklin Kopitzsch (Universität Hamburg)

Key Note Lecture

Session I: Economy and Political Order in Europe and Asia

Shigeru Akita (Osaka University)

“The International Order of Asia and Hong Kong in the 1930s and 1950s from a Comparative Perspective”

Toshiaki Tamaki (Kyoto Sangyo University)

“A Tale of Three Cities – Amsterdam, London, and Hamburg: Dutch Contributions to the Growth of European Economy”

Tsukasa Mizushima (University of Tokyo)

“The Development of a Port City and Its Impact on Indian Economy: Pondicherry in the mid-18th Century”

Session II : Merchant Networks Going East & Going West

Takashi Oishi (Kobe City University of Foreign Studies)

“Reaching Kobe, Japan, Along the Chain of Colonial Ports and Settlements: Intra-regional Networks of Indian Merchants from the 1880s to the 1930s”

Margrit Schulte Beerbühl (Universität Düsseldorf)



Klaus Weber (The Rothschild Archive, London)

“Central Europe’s Informal Atlantic Empire? German Merchants in London, Cadiz, Bordeaux and the Caribbean (c. 1650 - 1850)”

Jorun Poettering (Universität Hamburg)

“Hamburg’s 17th-Century Admiralty Toll-Books: Investigating the City’s Foreign Merchants”

Session III: Imperial and Neutral Maritime Ports

Miki Suguiru (Tokyo International University)

“The Merchants’ Divisions of Functions and Specialization in Early Modern Amsterdam in a Comparative Perspective”

Silvia Marzagalli (Université de Nice)

“Strengths and Weaknesses of 18th-century Atlantic trade: the Case of Bordeaux”

Frank Hatje (Universität Hamburg)

“Liberty, Neutrality, and Trade: Hamburg, 17th to 19th Centuries”

第7回

ワークショップ：「中国」のインパクトと東アジア国際秩序

2006年11月11、12、15日

共催：大阪外国語大学(現代「中国」の社会変容と東アジアの新環境) 特別研究Ⅱプロジェクト

11月11日

千里中央ライフサイエンスセンター

清水 学(上智大学)

「上海協力機構と中央ユーラシアの再編成」

コメント：岩下明裕(北海道大学スラブ研究センター)

加藤美保子(北海道大学大学院博士課程)

「ロシア外交における「多極化世界の構築」とアジア太平洋

—— 对中国、東南アジア政策を中心に ——」

コメント：五島文雄(大阪外国語大学)

許育銘(台湾東華大学歴史系副教授)

「戦後處理と地縁政治再編の企み —— 1940、50年国民政府の琉球対策について」

コメント：田中 仁(大阪外国語大学)

朱 瀛泉(南京大学国際関係学院教授)

「中国の平和的台頭とアジアの国際関係」

(中国語通訳: 許 衛東 大阪外国語大学)

コメント: 姫野勉(大阪大学)、左近幸村(北海道大学大学院)

朱 東芹(中国華僑大学華僑研究所副教授)

「中国における新華僑の問題について」

コメント: 堤 一昭(大阪外国語大学)

11月12日

大阪大学中之島センター

Zhu Yingquan(南京大学国際関係学院、歴史学部)

“Economic Globalization and International Relations” (経済全球化与国際関係)

コメント: 久保 亨(信州大学)

Norihisa Yamashita(Hokkaido University)

From World-System Analysis to Global History

コメント: 秋田 茂(大阪大学)

11月15日

東京大学大学院総合文化研究科

共催: 現代中国学会・関東部会研究会

Zhu Yingquan(南京大学国際関係研究院)

“Economic Globalization and International Relations” (経済全球化与国際関係)

第8回

Global History Workshop: Global History and Chinese History

2007年1月13日-15日

1月13-14日

大阪大学中之島センター

Kent G. Deng (London School of Economics)

“Miracle or Mirage? : Foreign Silver, China's Economy and Globalization from the Sixteenth to

the Nineteenth Centuries”

Comment: Akinobu Kuroda (University of Tokyo)

Susanne Weigelin-Schwiedrzik (University of Vienna)

“World History and Chinese History: 20th Century Chinese Historiography between Universality and Particularity”

Comment: Shin Kawashima (University of Tokyo)

Wolfgang Schwentker (Osaka University)

“The Growth of the Mega-cities in the Twentieth century”

Toru Kubo (Shinshu University)

“Development of Cotton Industry in Postwar Hong Kong and Taiwan”

Kaoru Sugihara (Kyoto University)

“Energy Use and the East Asian Path of Economic Development”

1月15日

法政大学・市ヶ谷キャンパス

Co-organized with NPO-IF Research Institute of World History and the Research Group on the 1980s

Susanne Weigelin-Schwiedrzik (University of Vienna)

“World History and Chinese History: 20th Century Chinese Historiography between Universality and Particularity”

Comment: Toru Kubo (Shinshu University)

1月15日

大阪大学文学研究科

Kent G. Deng (London School of Economics)

“The State and Market in China’s Traditional Maritime Sector”

Comment: Atsushi Aoki (Osaka University)

グローバルヒストリー・セミナー 第2回-第21回

- | | |
|---------|---|
| 第2回 (1) | <p>2004年4月16日</p> <p>大阪大学経済学研究科</p> <p>共催：大阪大学経済史・経営史研究会</p> <p>David Washbrook (St Antony's College, University of Oxford, UK)</p> <p>"South Asia in World Capitalism"</p> |
| 第2回 (2) | <p>2004年4月17日</p> <p>大阪大学文学研究科</p> <p>David Washbrook (St Antony's College, University of Oxford, UK)</p> <p>"Colonialism and the Economy of South-East India, c.1700-1900"</p> <p>Tsukasa Mizushima (University of Tokyo)</p> <p>"South India between 1770s and 1880s: a view from the bottom"</p> |
| 第3回 (1) | <p>2004年5月7日</p> <p>大阪大学経済学研究科</p> <p>共催：大阪大学経済史・経営史研究会</p> <p>Jack Goldstone (George Mason University, USA)</p> <p>"Efflorescences and Economic Growth in World History: Rethinking the</p> <p>"The Rise of the West" and the Industrial Revolution"</p> <p>コメント：杉原 薫 (大阪大学)</p> |
| 第3回 (2) | <p>2004年5月8日</p> <p>大阪大学中之島センター</p> <p>Jack Goldstone (George Mason University, USA)</p> <p>"It's all about State Structure-New Findings on Revolutionary Origins from</p> <p>Global Data"</p> <p>コメント：山下範久 (北海道大学)</p> |
| 第4回 (1) | <p>2004年6月8日</p> <p>大阪大学経済学研究科</p> <p>共催：大阪大学経済史・経営史研究会</p> <p>John Brewer (California Institute of Technology, USA)</p> <p>"Fiscal Military State and After"</p> <p>コメント：堂目卓生 (大阪大学)</p> |

-
- 第4回 (2) 2004年6月9日
 大阪大学文学研究科
 John Brewer (California Institute of Technology, USA)
 “Historians and the Study of Everyday Life”
 コメント：秋田 茂 (大阪大学)
-
- 第5回 (1) 2004年7月23日
 大阪大学経済学研究科
 共催：大阪大学経済史・経営史研究会
 Bruce Cumings (University of Chicago, USA)
 “The Korea-Centric Japanese Imperium and the Transformation
 of the International System from the 1930s to the 1950s”
 コメント：秋田 茂 (大阪大学)、久保 亨 (信州大学)
-
- 第5回 (2) 2004年7月23日
 大阪大学文学研究科
 北川勝彦 (関西大学)
 「1930年代におけるコンゴ盆地条約改定問題と日本
 —— 外務省記録に基づいて」
-
- 第6回 2004年11月1日
 大阪大学文学研究科
 Leos Muller (Sodertorn University College, Sweden)
 “Swedish East India Company and Trade in Tea, 1731-1813”
 コメント：玉木俊明 (京都産業大学)
-
- 第7回 2004年12月15日
 大阪大学文学研究科
 共催：大阪大学経済史・経営史研究会
 Patrick K. O'Brien (London School of Economics, UK)
 “Colonies in a Globalizing Economy 1815-1948”
-
- 第8回 (1) 2005年2月7日 17:00 – 19:00
 大阪大学文学研究科本館2F第1会議室
 Dennis Flynn (University of the Pacific, USA)
 “Globalization Began in 1571.[/b]”
 コメント：川村朋貴 (富山大学)
-

-
- 第8回(2) 2005年2月9日 15:00 – 17:00
 大阪大学経済学研究科法経大学院総合研究棟607号室(中会議室)
 共催: 大阪大学経済史・経営史研究会
 Dennis Flynn (University of the Pacific, USA)
 “Born Again: Globalization’s Sixteenth-Century Origins”
 コメント: 川村朋貴(富山大学)
-
- 第8回(3) 2005年2月10日
 東京大学大学院人文・社会学系研究科
 共催: 東南アジア史学会
 Dennis Flynn (University of Pacific, USA)
 “Silver Circulation and South Asia in the 17-18 Centuries”
 コメント: 水島 司(東京大学)
-
- 第9回 2005年5月7日 14:00 – 16:00
 大阪大学待兼山会館
 共催: 大阪大学経済史経営史研究会
 Patricia Hudson (Cardiff University, UK)
 “Everyday Life in textile manufacturing communities”
 コメント: 橋野知子(神戸大学経済学研究科)
-
- 第10回 2005年7月16・17日
 北九州市立大学
 共催: 営科研研究会
 古矢 旬(北海道大学)
 「『アメリカ帝国』論の可能性」
 五十嵐武士(東京大学)
 「アメリカ非公式型共和国と現在」
 佐々木雄太(愛知県立大学)
 「帝国主義的介入の政治的・社会的要因と介入の論理
 —— 第二次世界大戦後のイギリスの場合 ——」
 Bruce Cumings(University of Chicago)
 “Westward Expansion and the Pacific in American Global Power”
 山下範久(北海道大学)
 “Empire as a Mode of Globality: Rethinking the Early Modern Globality and Alternation of ‘Long

Centuries’ ”

第11回

2005年9月27日 15:00 – 18:00

大阪大学待兼山会館2F会議室

主催：大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

世界システムと海域アジア交通

協賛：大阪大学文学研究科世界史講座

15:00 – 16:00

ヴァルター・デーメル Walter Deme

(ドイツ国防軍大学ミュンヘン校歴史学研究所教授)

“Aristocracy in the Global Perspective”

16:00 – 17:00

青木 敦 (大阪大学大学院文学研究科助教授)

“Local Elites in Medieval China”

17:15 – 18:00

討論

第12回

2005年10月4日 12:30 – 18:00

大阪大学文学研究科本館2F第1会議室

12:30 – 14:30

第1部

秋田 茂 (大阪大学文学研究科)

「1950年代の東アジア国際経済秩序

—— スターリング圏との関連で」

15:30 – 18:00

第2部

David Washbrook (University of Oxford)

“The British Community in India”

第13回

2005年12月8日 13:00 – 18:20

大阪大学待兼山会館2F会議室

13:00 – 14:40

(1)

Tamaki Toshiaki (Kyoto Sangyo University)

“Shift of the Core of European World Economy

1500-1815: The Dutch Produced British Hegemony”

14:50 – 16:30

(2)

Anthony C. Howe (University of East Anglia)

“Free Trade and Global Order: the rise and fall of

a Victorian Vision”

16:40 – 18:20

(3)

Peter J. Cain (Sheffield Hallam University)

“Bayly’s new Global History and Traditional theories of

European Imperialism”

-
- 第14回 2006年3月28日
 大阪大学大学院文学研究科
 Paul Kratoska (National University of Singapore)
 “How the British altered the ecology of Irrawaddy Delta”
-
- 第15回 2006年4月20日
 大阪大学大学院文学研究科
 共催：世界史講座
 Harriet T. Zurndorfer (University of Leiden)
 “Science without Modernization: China’s First Encounter with Useful and Reliable Knowledge from Europe”
 コメント：片山 剛（大阪大学）
-
- 第16回 2006年5月20日
 大阪大学大学院文学研究科
 Pierrick Pourchasse (University of Bretagne, France)
 “The Consulates, an essential Service for the World of Trade: A Comparative Approach between France and Scandinavia”
 コメント：玉木俊明（京都産業大学）
 Wolfgang Schwentker (Osaka University)
 “Globalization and Historiography: Themes, Methods and the Critique of Global History”
 コメント：秋田 茂（大阪大学）
-
- 第17回 2006年7月15日
 大阪大学中之島センター
 Antony G. Hopkins (University of Texas, Austin)
 “Interactions between the Universal and the Local”
 コメント：秋田 茂（大阪大学）
-
- 第18回 2006年9月21日
 大阪大学中之島センター
 共催：営科研研究会
 Ilya V. Gaiduk (Russian Academy of Sciences, Institute of World History)
 “The Cold War: New Approaches, New Documents”
 コメント：菅 英輝（西南学院大学）
-

第19回

2006年10月6日

京都産業大学

共催：京都産業大学経済学部

Lars Magnusson (Uppsala University, Sweden)

“Proto-industrialization in Sweden: Context and consequences”

コメント：斉藤 修 (一橋大学)

“‘Proto-industrialization’ in the light of a recent debate in global economic history”

第20回

2006年10月30日

Time, Space, and Economic Institutions of Early-Modern Maritime Asia

大阪大学大学院文学研究科

共催：世界史講座

R. Bin Wong (UCLA Asia Institute)

“Maritime Asia in the Longue Duree: Institutional Change in Regional Focus”

George Bryan Souza (National University of Singapore)

“A Global History of the Political Economy of Commerce and Commodities in Asia and the Early Modern World—an Introduction”

第21回

2007年2月17日

千里中央・阪急千里朝日ビル

共催：大阪外国語大学 (現代「中国」の社会変容と東アジアの新環境) 特別研究Ⅱプロジェクト

中華人民共和国の60年を問う —— 日本における中国研究の到達点 ——

毛里和子 (早稲田大学)

「当代中国外交研究のための覚え書」

コメント：西村成雄 (大阪外国語大学)

高原明生 (東京大学)

「成長か均衡か —— 中華人民共和国の経済政策論争と中央・地方関係」

コメント：許 衛東 (大阪外国語大学)

山田辰雄 (放送大学)

「歴史のなかの中華人民共和国」

コメント：田中 仁 (大阪外国語大学)

中央アジア学フォーラム 第21回-第28回

第21回 2004年4月3日

【書 評】 山本明志 (大阪大学)
ラケヴィルト (訳注)『元朝秘史』: Igor de Rachewiltz, *The Secret History of Mongols: A Mongolian Epic Chronicle of the Thirteenth Century*. Translated with a historical and philological commentary. 2 vols., Brill, Leiden/ Boston, 2004.

【資料紹介】 石川 巖 (東方研究会)
「敦煌出土チベット語宗教文献『衰退期』 (IOL Tib J 733, 734 part 1, 735)」

【資料紹介】 松田和信 (仏教大学)
「1930年アッカン発見バーミヤン写本のその後 —— 特に集異門足論の断簡をめぐる —— 」

【資料紹介】 吉田 豊 (神戸市外国語大学)
P.O. Skjaervo, *Khotanese Manuscripts from Chinese Turkestan in the British Library. A complete catalogue with texts and translations*. British Library, London, 2002.

第22回 2004年8月7日

【研究発表】 岩尾一史 (神戸市外国語大学)
「吐蕃の税制関係術語 —— dpya', khral, khva —— 」

【資料紹介】 小笠原明子 (甲南大学)
「史君墓の構造と石槨の画像について」

【研究発表】 吉田 豊 (神戸市外国語大学)
「新出薩宝史君墓誌のソグド語版の解説 —— シルクロードの鴛鴦夫婦 —— 」

【書 評】 山本孝子 (神戸市外国語大学)
Sarah E. Fraser, *Performing the Visual*. Stanford University Press, Stanford, California, 2004.

【書 評】 坂尻彰宏 (大阪大学)
榮新江「再論敦煌藏経洞の宝物 —— 三界寺与藏経洞 —— 」鄭炳林 (主編)『敦煌仏教芸術文化国際学術研討会論文集』蘭州, 蘭州大学出版社, 2002, pp. 14-29.

- 第 23 回 2004 年 12 月 18 日
- 【調査報告】 武田和哉 (奈良市教育委員会文化財課奈良市埋蔵文化財調査センター)
「契丹墓誌調査概要報告二題 —— 蕭孝恭墓誌・蕭氏夫人墓誌 —— 」
- 【研究発表】 赤木崇敏 (大阪大学)
「帰義軍時代沙州オアシスの社会秩序」
- 【調査報告】 荒川正晴 (大阪大学)
「コータン遺跡参観報告 —— マザルターグ遺址を中心に —— 」
- 【書 評】 堂山英次郎 (大阪大学)
N. Sims-Williams(ed.), *Indo-Iranian Languages and Peoples*. (Proceedings of the British Academy 116), Oxford, 2002.

- 第 24 回 2005 年 4 月 2 日
神戸市外国語大学
- 【学界展望】 山本孝子 (神戸市外国語大学)
「敦煌変文 言語研究史」
- 【研究発表】 鈴木宏節 (大阪大学)
「8 世紀中葉の北アジア情勢とカルルク」
- 【研究発表】 森安孝夫 (大阪大学)
「チベット語 Pelliot 1283 文書の新解釈」
- 【研究発表】 吉田 豊 (神戸市外国語大学)
「ソグド語律典について」

- 第 25 回 2005 年 7 月 30 日 13:30 - 18:00
大阪大学文学研究科
- 【研究発表】 中村健太郎 (奈良県職員)
「ウイグル語仏典奥書から見えるモンゴル時代史の一側面」
- 【論文紹介】 田村 健 (大阪大学)
「中央～西アジアのトルコ人奴隷に関する論文紹介」
- 【研究発表】 中田裕子 (龍谷大学)
「ソグド系突厥と康待賓の反乱について」
- 【書 評】 大澤 孝 (大阪外国語大学)
「書評：林俊雄 著『ユーラシアの石人』(東京, 雄山閣, 2005)」

- 第 26 回 2005 年 12 月 17 日
- 【研究発表】 吉田 豊 (神戸市外国語大学)

		「コータン出土の世俗文書の年代に関する問題」
	【研究発表】	堀 直 (甲南大学)
		「清代回疆のバザール —— 商業史の一端として —— 」
	【研究発表】	福林靖博 (国立国会図書館)
		「ソグディアナから華南へ —— 漢唐間のソグド人の活動から見た —— 」
	【新刊紹介】	影山悦子 (神戸市外国語大学)
		É. de la Vaissière et É. Trombert(eds.), <i>Les Sogdiens en Chine</i> , (Études thématiques 17), École française d'Extrême-Orient, Paris, 2005, 444 p, +20 pls.
第 27 回	2006 年 4 月 8 日	
	【新刊紹介】	齊藤茂雄 (大阪大学)
		「クリヤシュトルヌイ著『中央アジアの歴史とルーン文字碑文』」 Кляшторный, С. Г., История центральной Азии и памятники рунического письма. Санкт- Петербург, 2003.
	【研究発表】	牛根靖裕 (立命館大学)
		「安西王家のチャガン・ノール分地の変遷にみる 13・14 世紀のオルドス高原 南部」
	【研究発表】	武田和哉 (奈良市教育委員会)、 重森 博・小野亜由美・中尾みのり (有限会社エムズ)
		「写真画像解析による契丹大字『北大王墓誌』の再検討 —— 石刻調査・ 文物調査における写真図化技術の活用と手法 —— 」
	【書 評】	森美智代 (早稲田大学)
		Lilla Russell-Smith, <i>Uyghur Patronage in Dunhuang. Regional Art Centres on the Northern Silk Road in the Tenth and Eleventh Centuries</i> . Leiden / Boston : Brill, 2005.
第 28 回	2006 年 9 月 30 日	
	【新刊紹介】	鈴木 桂 (東京大学)
		Proceedings of the First International Conference on the Mediaeval History of the European Steppe, Szeged, Hungary, May 11-16, 2004. <i>Acta Orientalia Academiae Scientiarum Hungaricae</i> 58-1&2, 2005.
	【研究発表】	赤木崇敏 (大阪大学)
		「敦煌出土帰義軍時代仏教徒祈願文」

- 【調査報告】 鈴木宏節（大阪大学）
「2006年モンゴル国突厥関連遺蹟調査簡報」
- 【研究発表】 森安孝夫（大阪大学）
「西ウイグル仏教のクロノロジー —— ベゼクリクのグリェンヴェーデル番号
第8窟（中国最新番号第18窟）の壁画年代再考 —— 」

イメージとしての〈日本〉

第1研究部会 日本イメージ研究会

2004年4月27日 16:20 - 19:00

豊中キャンパス美学棟1F日本学B教室

報告者 吉田雄介（大阪大学）
テキスト 清谷信一『Le OTAKU —— フランスおたく事情』（KKベストセラーズ, 1998）他

第2研究部会 ワークショップ対策集中研究会

- | | | |
|------|--|---------------|
| 1回目 | 2004年6月29日 | 15:30 - 18:10 |
| | 文学部中庭会議室 | |
| 報告者 | 伊藤 遊（大阪大学）、表 智之（大阪大学）
山中千恵（大阪大学）、Jessica Bawens（大阪大学） | |
| テキスト | 金水 敏『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』（岩波書店, 2003） | |
| 2回目 | 2004年7月6日 | 16:30 - 18:00 |
| | 豊中キャンパス美学棟1F日本学B教室 | |
| 報告者 | 東 園子（大阪大学）、池田淑子（大阪大学） | |
| 3回目 | 2004年7月27日 | 16:30 - 18:00 |
| | 豊中キャンパス美学棟1F日本学B教室 | |
| 報告者 | 東 園子（大阪大学）、池田淑子（大阪大学） | |
| 4回目 | 2004年11月1日 | |

	報告者	椿原敦子(大阪大学)、来田 淳(大阪大学)
	テキスト	岩渕功一『トランスナショナル・ジャパン』(岩波書店, 2001)
5回目	2004年11月9日	
	報告者	松川恭子(大阪大学)、魏仙芳(大阪大学)
	テキスト	岩渕功一『トランスナショナル・ジャパン』(岩波書店, 2001)
6回目	2004年11月16日	
	報告者	屋葺素子(大阪大学)、椿原敦子(大阪大学)
	テキスト	岩渕功一編著『グローバル・プリズム』(平凡社, 2005)
7回目	2004年11月30日	
	報告者	屋葺素子(大阪大学)、椿原敦子(大阪大学)

【イメージとしての〈日本〉】研究ワークショップ第4回「資料としてのポピュラーカルチャー」

2004年7月30日 15:00～18:00

待兼山会館2F会議室

講師	金水 敏(大阪大学文学部)
コメンテーター	東 園子(大阪大学人間科学研究科)
	池田淑子(大阪大学言語文化研究科)
司会	表 智之

【イメージとしての〈日本〉】研究ワークショップ第5回「メディア文化の国境の超え方」

2004年12月3日

大阪大学大学院人間科学研究科ユメヌ・ホール

講師	岩渕功一
コメンテーター	屋葺素子(大阪大学)
	椿原敦子(大阪大学)
司会	加藤敦典(大阪大学)

「『イメージとしての日本』」若手研究者交流ワークショップ

2004年9月25日-26日

大阪大学中之島センター第3講義室

9月25日

- 12:00 - 14:30 セッションA「グローバリズムの中の消費される〈日本〉」
 Craig Norris (Monash大学)
 「マンガ体験とエスニックアイデンティティ —— アジア系オーストラリア人の事例から」
 大橋庸子 (大阪市立大学)
 「〈観光日本〉イメージの生産 —— 観光政策審議会における語りから」
 李婉寧 (大阪大学)
 「合理化の世界的潮流 —— コンビニの日中比較を事例として」
 司会 伊藤公雄 (大阪大学)
 コメンテーター 富山一郎 (大阪大学)、山中千恵 (大阪大学)、伊藤 遊 (大阪大学)
-
- 15:00 - 16:00 セッションB「差異と差別のマンガ学」
 吉村和真 (京都精華大学)、田中 聡 (立命館大学)、表 智之 (大阪大学)
 「差別と向き合うマンガたち」
 表 智之 (大阪大学)
 「差別論の新たな場としてのマンガ」
 司会 富山一郎 (大阪大学)
 コメンテーター 伊藤公雄 (大阪大学)、杉原 達 (大阪大学)

9月26日

- 10:00 - 12:00 セッションC「ジェンダー、セクシュアリティ、ポピュラーカルチャー」
 Mark McLelland (Queensland大学)
 「変態的貿易：やおい美学の国際化 —— 比較文化的観点からの考察」
 Jessica Bauwens (大阪大学)
 「性差別に抵抗する意外な社会運動：やおいとスラッシュ」
 司会 牟田和恵 (大阪大学)
 コメンテーター 川村邦光 (大阪大学)、東 園子 (大阪大学)、堀江有理 (大阪大学)
-
- 14:00 - 16:30 セッションD「文化研究の困難」
 北出真紀江 (大阪大学／ラジオパーソナリティ)

「メディア研究とメディア現場の狭間で」

古川岳志 (大阪大学)

「イメージとしての現代文化研究」

司会 富山 一郎 (大阪大学)

コメンテーター 石田 佐恵子 (大阪市立大学)、山中浩司 (大阪大学)

国際シンポジウム「イメージとしての〈日本〉」

Imagining Japan: A Symposium

2005 年 3 月 4 – 5 日

Japanese Studies Centre

Monash University (Clayton Campus)

Friday, 4

March 2005

9:00 – 9:30

Registration

9:30 – 10:00

Welcome

Ross Mouer (Director Japanese Studies Centre)

Introduction to Japan as Image COE project

Ito Kimio (Interface Humanities Centre of Excellence, Osaka University)

Opening the Symposium

Alison Tokita (Manga Library)

10:00 – 11:00

Session 1: “Background for Understanding Popular Culture in Japan”

Chair: Alison Tokita

Ito, Kimio (Co-ordinator of the 21st Century Osaka University COE project)

“Sexuality and Violence in Japanese Popular Culture: Focusing on Boys’ culture”

Manabe Masayoshi (Faculty of Letters, Osaka University, Core member of [<Japan> as Image] project)

“The Decline of Rokyoku: ‘1960s’ as a significant point in the history of popular culture in Japan”

11:30 – 13:00

Session 2: “Manga Performance Workshop by Sato Maki: Performance and Articulation of Manga: the Grammar of Manga”

Commentary by Kinsui Satoshi and Yoshimura Kazuma

Kinsui Satoshi (Co-ordinator of the 21st Century Osaka University COE project)

	<p>“Language in contemporary Japanese manga”</p> <hr/> <p>Kazuma Yoshimura (Kyoto Seika University)</p> <p>“The body in contemporary Japanese manga”</p> <hr/> <p>Sato Maki (Manga artist; student at Kyoto Seika University)</p> <p>Manga Performance</p>
14:00 – 15:30	<p>Session 3: “The Global Construction and Consumption of Japan”</p> <p>Chair: Audrey Yue (University of Melbourne)</p> <p>Craig Norris (Japanese Studies Centre, Monash University)</p> <p>“The Imagined Worlds of Australia’s Manga fans”</p> <hr/> <p>Joshua Sarcewicz (Student, East Stroudsburg University [USA])</p> <p>“The Otaku Sub culture in America”</p> <hr/> <p>Lerissa Hjorth (RMIT University and University of Melbourne)</p> <p>“Mobile Phones and Diversity in the Spread of Japanese ‘Cute Culture’ in the Asia-Pacific”</p>
16:00 – 17:30	<p>Session 4: Responses to manga culture in Australia: translation and dojinshi:</p> <p>Manga translation workshop and Dojinshi workshop</p> <p>James Rampart (student, Monash University)</p> <p>“An Introduction to the Workshop Concept”</p> <p>Working as Dojinshi in the Overseas Production of <i>Manga</i>: Some Views from the Front Line</p> <hr/> <p>Kenny Chan (Monash University)</p> <p>“Manga in Singapore & Funky Ninja Magic”</p> <hr/> <p>Queen Chan (Sydney)</p> <p>“Adopting Manga: From Hong Kong to America”</p> <hr/> <p>Plenary Feedback Session on the Translation Workshop Format: An Invitation for Constructive Suggestions</p> <p>Chair: Alison Tokita</p>
Saturday, 5	March 2005
9:30 – 11:00	<p>Session 5: “Workshop/Installation: <Japan> as Image”</p> <p>Omote Tomoyuki (Researcher of the 21st Century Osaka University COE project)</p> <p>“Exporting (or exported) Otaku”</p> <hr/> <p>Yamanaka Chie (Researcher of the 21st Century Osaka University COE project)</p> <p>“Centralized <Pop-Japan>”</p> <hr/>

Ito Yu (RA of the 21st Century Osaka University COE project)

“Exported Japan - On Japan’s cultural policy”

Jessica Bauwens (Researcher of the 21st Century Osaka University COE project),

“Girls’ popular culture going its own way; The diffusion of Japanese cute and Yaoi”

Renato Rivera (Graduate student of Humanities, Osaka University),

“Japanese anime becoming mainstream - or is it?”

11:30 – 13:00

Parallel sessions 6 & 7:

Session 6: Manga Culture, Japanese Art and Cinema

Chair: Eiichi Tosaki (Japanese Studies Centre, Monash University)

“Imagining Gi-wafu: Gi-yofu Kenchiku, Manga and Japanese Contemporary Art”

Rio Otomo, MIALS (University of Melbourne)

“The Hong Kong Connection: Wong Kar-Wai’s *2046* and Japanese as the Language of Desire”

Katy Stevens (La Trobe University)

“Technaural Violence in *Chakushin ari*”

Session 7: New directions in cross-cultural research on popular culture

Chair: Alison Tokita (Monash University)

“*Fuyu no sonata*: Japan’s new image of Korea”

Ross Mouer and Craig Norris (Monash University)

“Knowing Japan Through Image and Reality: A Reading of Peter Carey’s *Wrong About Japan*”

Peter Eckersall (University of Melbourne)

“The Impact of Cultural Policy on the Avant Garde: The End of *Angura* System?”

14:00 – 15:30

Session 8: “Alternative Imaginings in Japanese popular culture”

Chair: Jon Hogg

Mark McLelland (University of Queensland)

“A Short History of ‘Hentai’”

Dean Chan (Edith Cowan University)

“Imagining ‘Asia’ in Japanese Videogames”

Kirsty Boyle (Artist/independent scholar)

“Robot culture”

16:00 – 17:15

Session 9: Roundtable Discussion: “Issues for Future Research”

Chair: Yoshimura Kazuma, Ito Kimio, Kinsui Satoshi

17:15 - 17:30 Closing

若手研究者交流ワークショップ2005「イメージとしての〈日本〉」

2005年6月25 - 26日

大阪大学中之島センター

6月25日

12:00 - 13:30 セッションA ジェンダー、セクシュアリティ、ポピュラーカルチャー
菅沼勝彦 (The University of Melbourne)
「バイナリズムの狭間で：消化されゆく「日本同性愛文化」表象への一考察」
坂井はまな (大阪大学)
「海外BDSM界における〈日本〉イメージについて」
司会 牟田和恵 (大阪大学)
コメンテーター 川村邦光、マット・ソーン (京都精華大学)

14:00 - 16:00 セッションB ポピュラーカルチャーと〈日本〉イメージ
依田恵美 (大阪大学)
「外国人らしさを担う役割語」
Renato Rivera (京都大学)
“Mainstream Acceptance of Japanese Animation in the West... Or is it?”
司会 金水 敏 (大阪大学)
コメンテーター 石田佐恵子 (大阪市立大学)、吉村和真氏 (京都精華大学)、
表 智之氏 (京都精華大学) 他

6月26日

10:00 - 12:00 セッションC 〈プレゼンテーション〉のデザイン
清水良介 (大阪大学コミュニケーションデザイン・センター)、
久保田美生 (大阪大学COEメディアラボ)、西田優子 (大阪大学COEメディアラボ)
「 $3\text{m} \times 3\text{m} = 9\text{m}^2 +$ —— 参加型ドローイングの報告」
表 智之 (京都精華大学)、伊藤 遊 (大阪大学)、山中千恵 (大阪大学)、Jessica Bauwens (大阪大学)、Renato Rivera (京都大学)

「越境するポップカルチャー、奪用される〈日本〉」

司会 伊藤公雄 (京都大学)

コメンテーター 石田佐恵子 (大阪市立大学)、岡田朋之 (関西大学)、
山中浩司 (大阪大学)

13:00 - 15:30 セッションD イメージとしての〈日本〉をめぐるポリティクス

福岡良明 (香川大学)

「『反戦』に映る自己像 —— 「きけわだつみのこえ」の読みの変容と戦後の
ナショナリティ —— 」

梁仁實 (京都大学)

「『他者』表象の可能性と限界 —— 『日本人的1少女』を読む」

Alwyn Spies (The University of British Columbia)

「イメージとしての〈日本〉と家父長制の投射」

一瀬陽子 (大阪大学)

「〈ニホン〉 —— 津田左右吉が想像した共同体」

司会 富山一郎 (大阪大学)

コメンテーター 阿部 潔 (関西学院大学)、マット・ソーン (京都精華大学)

16:00 - 17:00 セッションE 総括: ポップカルチャー研究とこれからの大学

座談会 伊藤公雄 (京都大学)、吉村和真 (京都精華大学)

金水 敏 (大阪大学)、川村邦光 (大阪大学)

司会 表 智之 (京都精華大学)

18:00 - 20:00 懇親会

呉智英氏講演会

「ポピュラー・カルチャー研究の課題と可能性」

2006年7月8日 15:00 - 17:00

文学部41教室

講師 呉智英 (評論家/日本マンガ学会会長)

司会 古川岳志 (大阪大学他非常勤講師)

研究者交流ワークショップ ポピュラー・カルチャー研究のゆくえ
「イメージとしての〈日本〉」の研究プロジェクトから見てきた課題をふまえて

2006年9月9日 13:00 - 17:00

文学研究科本館 2F 第1会議室

13:00 - 14:30	第1部 〈カルチャー〉再考 —— 運動としての文化／研究
	パネリスト 吉澤弥生 (NPO recip 地域文化に関する情報とプロジェクト) 櫻田和也 (NPO remo 記録と表現とメディアのための組織)
	司会 古川岳志 (大阪大学)
15:00 - 16:30	第2部 ポピュラー・カルチャー研究の展望
	パネリスト 南田勝也 (神戸山手大学／ポピュラー音楽学会) 栗谷佳司 (同志社大学／ポピュラー音楽学会) 吉村和真 (京都精華大学／日本マンガ学会) 伊藤公雄 (京都大学) 富山一郎 (大阪大学) 金水 敏 (大阪大学)
	司会 古川岳志 (大阪大学)

「『ベルばら』ブームとは何だったのか—— 1970年代・女性・革命

2006年2月11日 14:00 - 16:00

京都国際マンガミュージアム 3階 研究室1

主催：大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」イメージとしての〈日本〉

京都国際マンガミュージアム

第1部	講演「『ベルばら』の時代」 藤本由香里 (評論家／明治学院大学・法政大学兼任講師)
第2部	パネルディスカッション 藤本由香里、伊藤公雄 (京都大学教授)、川村邦光、東 園子 (総合司会)

■ 街歩きワークショップ「方法としての『街歩き』at 飛田・釜ヶ崎・山王・新世界」

2006年2月25日 13:00 - 17:00

大阪市阿倍野区周辺地域

主催：イメージとしての〈日本〉、qudlic

講師 加藤政洋（立命館大学助教授）

言語の接触と混交

■ 大阪大学洪庵忌「適塾のタベ」講演

2005年6月6日

適塾

講演者 津田 葵（大阪大学言語文化研究科教授）

講演タイトル 「共生を生きる日本社会 —— 21世紀COE研究プロジェクトから」

■ 国際語用論学会第9回大会発表

2005年7月12日

リバ・デル・ガルダ（イタリア）

発表者 津田 葵（大阪大学言語文化研究科教授）

講演タイトル "A Pragmatic Perspective of Multicultural Wedding Receptions in Japan"

■ 第16回社会言語科学会招待講演

2005年10月1日

龍谷大学

講演者 津田 葵（大阪大学言語文化研究科教授）

講演タイトル 「共生を生きる日本社会：学校での取り組みを中心に —— 21世紀COE研究プロジェクトから」

平成17年度文化庁日本語教育大会関西大会座談会

2005年11月13日

立命館大学

座談者 西口光一（大阪大学留学生センター教授）

座談会 「多文化社会の日本語コミュニケーション」

第26回多言語化現象研究会

2005年12月23日 13:00 - 18:00

国立民族学博物館

発表者 布尾勝一郎（大阪大学言語文化研究科博士前期課程）

佐藤誠子（大阪大学言語文化研究科博士前期課程）

発表タイトル 「大阪における多言語表示の実態とその受容について——外国籍住民・短期滞在者へのアンケート調査から——」

例会

2004年度

6月例会 2004年6月10日 14:40 - 17:00

COE言語研究班室

移住連全国フォーラム分科会テーマ「子どもの教育」、「労働者の権利を守るために」についての報告と討議

7月例会 2004年7月8日 14:40 - 17:00

COE言語研究班室

担当者 服部圭子（大阪大学言語文化研究科博士後期課程）

内 容 異文化間教育学会第25回大会（2004年5月29 - 30日、同志社大学）での研究発表
会「異文化間教育・研究と地域・実践」、ならびに国際理解教育学会第14回研究大会
（2004年6月5 - 6日、京都ノートルダム女子大学）でのミニシンポジウム「持続可能な
社会：開発と環境の視点に立った国際理解教育」についての報告と討議

2004年7月22日 14:40 - 17:00

COE言語研究班室

内 容 移住連全国フォーラム分科会テーマ「日本語支援の「いま」「これから」～多文化共生
のまちづくりを目指して」、「外国人差別をウォッチしよう」についての報告と討議

8月例会

2004年8月19日 14:40 - 17:00

COE言語研究班室

担当者 山下 仁 (大阪大学言語文化研究科助教授)

討 議 「共生を生きる日本社会：現実の姿と将来への展望」

9月例会

2004年9月16日 14:40 - 17:00

COE言語研究班室

担当者 津田 葵 (大阪大学言語文化研究科教授)

西口光一 (大阪大学留学生センター教授)

植田晃次 (大阪大学言語文化研究科助教授)

山下 仁 (大阪大学言語文化研究科助教授)

討 議 「外国籍の子供に対する教育 (日本語教育・母語保持教育)」

「オールドカマーの体験からみた共生の問題」

「多言語・多民族社会の可能性についての考察」

10月例会

2004年10月7日 14:40 - 17:00

COE言語研究班室

担当者 西口光一 (大阪大学留学生センター教授)

新庄あいみ (大阪大学言語文化研究科博士前期課程)

討 議 「言語内共生または共生日本語 —— 共生日本語の理論と実践」

11月例会

2004年11月11日 14:40 - 17:00

COE言語研究班室

担当者 松本敬子 (大阪大学 21世紀 COE RA)

討 議 「国際理解教育」「異文化理解教育」「多文化共生教育」の概念規定について

2004年11月25日 14:40 - 17:00

COE言語研究班室

担当者 津田 葵 (大阪大学言語文化研究科教授)

高阪香津美 (大阪大学言語文化研究科博士前期課程)

西口光一 (大阪大学留学生センター教授)

服部圭子 (大阪大学言語文化研究科博士後期課程)

新庄あいみ (大阪大学言語文化研究科博士前期課程)

討 議 「「共生を生きる日本社会」における「学校」を中心としたドメイン分析」

「共生日本語空間としての地域日本語教室
—— 言語内共生を促進する新しい日本語活動とコーディネータの役割」

12月例会 2004年12月16日 14:40 - 17:00
COE 言語研究班室
担当者 植田晃次 (大阪大学言語文化研究科助教授)
山下 仁 (大阪大学言語文化研究科助教授)
呉 恵卿 (大阪大学言語文化研究科博士後期課程)
討 議 「オールドカマーの体験からみた共生の問題」
「多言語・多民族社会の可能性についての考察」

2005 年度

5月例会 2005年5月12日 14:40 - 17:00
COE 言語研究班室
担当者 津田 葵 (大阪大学言語文化研究科教授)
内 容 大阪大学21世紀COE研究プログラムにおける言語研究の方向性についての検討

7月例会 2005年7月7日 14:40 - 18:00
COE 言語研究班室
担当者 植田晃次 (大阪大学言語文化研究科助教授)
山下 仁 (大阪大学言語文化研究科助教授)
新庄あいみ (大阪大学言語文化研究科博士後期課程)
布尾勝一郎 (大阪大学言語文化研究科博士前期課程)
内 容 在日朝鮮人研究会西日本部会第28回例会での研究発表会報告、移住連全国フォーラム分科会テーマ「日本の移民政策と市民社会の役割」、「コミュニティ通訳のこれから」、「多言語表示・差別表示調査」についての報告と討議

2005年7月28日 14:40 - 17:00

COE 言語研究班室
担当者 津田 葵 (大阪大学言語文化研究科教授)
高阪香津美 (大阪大学21世紀COE RA)
佐藤誠子 (大阪大学言語文化研究科博士前期課程)
内 容 移住連全国フォーラム分科会テーマ「子どもの教育」についての報告と討議

8月例会 2005年8月29日 14:40 - 17:30
COE 言語研究班室

- 担当者 津田 葵 (大阪大学言語文化研究科教授)
 高阪香津美 (大阪大学 21 世紀 COE RA)
 山下 仁 (大阪大学言語文化研究科助教授)
 佐藤誠子 (大阪大学言語文化研究科博士前期課程)
 布尾勝一郎 (大阪大学言語文化研究科博士前期課程)
 植田晃次 (大阪大学言語文化研究科助教授)
 呉 恵卿 (大阪大学言語文化研究科博士後期課程)
 西口光一 (大阪大学留学生センター教授)
 服部圭子 (大阪大学言語文化研究科博士後期課程)
 新庄あいみ (大阪大学言語文化研究科博士後期課程)
- 討 議 「外国籍児童・生徒への教育」
 「街の言語景観」
 「韓国系民族学校における「共生」の実態 —— アンケート調査の結果から ——」
 「日本における言語内共生のための課題」

9月例会 2005 年 9 月 28 日 14:40 – 17:00

COE 言語研究班室

- 担当者 津田 葵 (大阪大学言語文化研究科教授)
 高阪香津美 (大阪大学 21 世紀 COE RA)
 山下 仁 (大阪大学言語文化研究科助教授)
 佐藤誠子 (大阪大学言語文化研究科博士前期課程)
 布尾勝一郎 (大阪大学言語文化研究科博士前期課程)
- 討 議 「外国籍児童・生徒への教育」
 「日本における多言語社会の実態」

10月例会 2005 年 10 月 20 日 14:40 – 17:00

COE 言語研究班室

- 担当者 植田晃次 (大阪大学言語文化研究科助教授)
 呉 恵卿 (大阪大学言語文化研究科博士後期課程)
 西口光一 (大阪大学留学生センター教授)
 服部圭子 (大阪大学言語文化研究科博士後期課程)
 新庄あいみ (大阪大学言語文化研究科博士後期課程)
- 討 議 「「民族教育」における「共生」の実態」
 「メディアで提示される日本語ボランティア像の批判的研究」
-

12月例会

2005年12月1日 14:40 - 18:00

COE 言語研究班室

担当者 津田 葵 (大阪大学言語文化研究科教授)

高阪香津美 (大阪大学 21 世紀 COE RA)

山下 仁 (大阪大学言語文化研究科助教授)

佐藤誠子 (大阪大学言語文化研究科博士前期課程)

布尾勝一郎 (大阪大学言語文化研究科博士前期課程)

植田晃次 (大阪大学言語文化研究科助教授)

呉 恵卿 (大阪大学言語文化研究科博士後期課程)

西口光一 (大阪大学留学生センター教授)

服部圭子 (大阪大学言語文化研究科博士後期課程)

新庄あいみ (大阪大学言語文化研究科博士後期課程)

討 議 「外国人集住都市における多文化共生に向けての取り組み」

「多言語社会と共生」

「民族教育」における「共生」の実際」

「メディアが創る、人々が抱く、日本語ボランティアと外国人像」

2006 年度

4月例会

2006年4月27日 14:40 - 17:00

COE 言語研究班室

担当者 津田 葵 (大阪大学言語文化研究科教授)

高阪香津美 (大阪大学言語文化研究科博士後期課程)

佐藤誠子 (大阪大学言語文化研究科博士前期課程)

植田晃次 (大阪大学言語文化研究科助教授)

討 議 「外国籍児童・生徒をとりまく教育環境 —— コミュニケーションに着目して」

「多言語表示に関する今後の研究のありかたについて」

「「共生」の時代における民族と言語」

5月例会

2006年5月18日 14:40 - 17:00

COE 言語研究班室

担当者 西口光一 (大阪大学留学生センター教授)

服部圭子 (近畿大学生物理工学部専任講師)

新庄あいみ (大阪大学言語文化研究科博士後期課程)

討 議 「地域日本語活動の必要性和その実践」

7月例会

2006年7月13日 14:40 - 17:00

COE言語研究班室

担当者 津田 葵 (大阪大学言語文化研究科教授)

高阪香津美 (大阪大学言語文化研究科博士後期課程)

山下 仁 (大阪大学言語文化研究科助教授)

佐藤誠子 (大阪大学言語文化研究科博士前期課程)

ウー ワイシェン (大阪大学言語文化研究科博士前期課程)

植田晃次 (大阪大学言語文化研究科助教授)

呉 恵卿 (大阪大学言語文化研究科博士後期課程)

西口光一 (大阪大学留学生センター教授)

服部圭子 (近畿大学生物理工学部専任講師)

新庄あいみ (大阪大学言語文化研究科博士後期課程)

討 議 「外国人師弟の学校教育環境」

「多言語表示に関する意識調査の方法論について」

「共生の時代における民族と言語」

「日本語パートナーによる日本語学習支援」

8月例会

2006年8月28日 14:40 - 17:00

COE言語研究班室

担当者 津田 葵 (大阪大学言語文化研究科教授)

内 容 COE国際シンポジウムにおける「言語の接触と混交 共生の現在と未来」セッションの
討議課題とサブテーマ設定についての検討

「言語の接触と混交」研究グループ全体ミーティング

2004年10月28日

文学研究科日本語研究室

発題者 真田信治 (大阪大学文学研究科教授)

工藤真由美 (大阪大学文学研究科教授)

津田 葵 (大阪大学言語文化研究科教授)

山下 仁 (大阪大学言語文化研究科助教授)

内 容 「言語の接触と混交」の研究課題と関連テーマについての検討

国際シンポジウム「インターフェイスの人文学」第1セッション「言語の接触と混交 共生の現在と未来」プレ会議

2006年10月14日 17:00 - 18:00

大阪大学中之島センター

- 発題者 手塚義雅（文部科学省初等中等教育局国際教育課長）
 オチャンテ・村井・ロサ・メルセデス（三重大学人文社会学研究科修士課程）
 稲垣洋子（三重県立四日市工業高等学校教員）
 柿崎ヘイナルド（マルアイユニティ勤務）
 永田セリアーニ（ポルトガル語教室ボランティア講師）
- 内 容 セッション準備、ならびに文部科学省の取組みと研究者の研究活動のインターフェイスについて
 討議

モダニズムと中東欧の芸術・文化

日本ポーランド美術史・音楽学シンポジウム
 JAPANESE-POLISH WORKSHOP

2004年11月15 - 22日

ポーランド美術史家協会（ワルシャワ ポーランド）

ニコラウス・コペルニクス大学（トルン ポーランド）

Monday, 15 November 2004

Visits Old City
 Jewish Historical Institute, Jewish and Powązki Cemeteries

Monday, 16 November 2004

10:00 - WORKSHOP I
 Spotkanie Japońskich i Polskich Historyków Sztuki i Muzykologów
 Society of Art Historians
 Zakład Historii Sztuki Nowoczesnej Wydziału Sztuk Pięknych

Uniwersytetu Mikołaja Kopernika w Toruniu
Department of Art History, Graduate School of Letters
Osaka University
zapraszają na

otwarcie Spotkania

Prof. Michitaka Suzuki (Uniwersytet w Okayamie): Siemiradzki in Meiji Japan

Prof. Nobuhiro Ito (Uniwersytet w Osace): What did Szymanowski experience in Biskra?:

An attempt of reconstruction based on Bartok's collection

Prof. Kenji Mitani (Uniwersytet w Osace): Kafka receptions in Japan

11:30 – 13.00

przerwa

Chitoshi Hinoue (Uniwersytet w Osace): 'Absence' or 'unconsciousness' of Jewish Art in Japan

Prof. Tsukasa Kodera (Uniwersytet w Osace): AICA Congress in Warsaw, 1960: "L'art, les nations, l'univers"

Akiko Kasuya (Muzeum Narodowe Sztuki Nowoczesnej w Osace): Contemporary Korean and Japanese women artists

Wednesday, 17

November 2004

9:00 –

WORKSHOP II

University Hotel

Visits meeting with prof. Marek Zaidlewicz - prorector of N.C. University

Old City

Museum with Brunch of Oriental Art

Prof. Kenji Mitani:

Department of German Literature - meeting with prof. of German literature

18:30

to Warsaw (by train)

Thursday, 18

November 2004

Visits Royal Castle, National Museum, Fryderyk Chopin Museum

Prof. Nobuhiro Ito, Ms Maki Ono :

Warsaw University (Institute of Musicology) - meeting with prof. Zofia Helman

Prof. Michitaka Suzuki:

National Museum (collection of icons, Gallery of Coptic Art) with prof.

Waldemar Deluga

Friday, 19 November 2004	
7:15 –	to Cracow (by train)
	Visits Royal Castle, Princes Czartoryski Foundation
	National Museum (Branches of Polish Art of XVIII-XIX Century in
	Sukiennice and Feliks Jasiński Collection)
	Jewish quarter and Jewish Museum
	Prof. Nobuhiro Ito:
	Jagellonian University (Institute of Musicology) – meeting with prof. Jadwiga Paja
18:35 –	to Warsaw (by train)
	Prof. Michitaka Suzuki:
	trip to Lublin (Castle Museum with Orthodox frescos) and Kodeń (Orthodox
	church) with dr Andrzej Baranowski
Saturday, 20 November 2004	
	Visits Museum in Łazienki, Center for Contemporary Art
	Museum in Wilanów
19:00 –	Jewish Theater

シンポジウム Transboundary / Modern Art

2005年5月31日 10:00 – 17:00

大阪大学中之島センター10F 佐治敬三メモリアルホール

主催：大阪大学 21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

後援：美術史学会

10:00	開会の辞 園府寺 司 (大阪大学)
	「越境する芸術への問いかけ」
10:10	エフェルト・ファン・アイテルト (アムステルダム大学)
	「ファン・ゴッホ 美術界に場をもとめて」
11:00 – 11:50	ロバート・ジェンセン (ケンタッキー大学)

「〈教育者〉としてのファン・ゴッホ 観念的美術のグローバリゼーションとその初期現象」

13:00	クリス・ストルウェイク（ファン・ゴッホ美術館） 「オランダにおけるファン・ゴッホ 1900年頃における近代美術の導入」
13:50	池上裕子（イェール大学／大阪大学） 「移動と衝突 スtockホルム近代美術館におけるロバート・ラウシェンバークの《モノグラム》」
14:40	休憩
15:00	アンナ・ブジスキー（ケンタッキー大学） 「ヨーロッパのモダニズムと美術をめぐる言説のメカニズム —— ポーランドを中心に ——」
15:50	関府寺 司（大阪大学） 「〈芸術・国家・世界〉 AICA（国際批評家連盟）ワルシャワ大会（1960年）」
16:40	閉会の辞

シンポジウム「中東欧の近現代芸術——美術・建築・音楽・演劇——」

2005年10月30日－31日

大阪大学中之島センター

主催：大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

科学研究費 基盤研究（B）「中・東欧の近現代芸術に関する国際・学際共同研究」

10月30日

10:00－10:15	関府寺 司（大阪大学） 「モダニズムと中東欧の芸術」
-------------	-------------------------------

美術・建築

10:15－11:00	ピョートル・ピョトロフスキ（アダム・ミツキエヴィチ大学 ポズナン ポーランド） 「『美術史の二つの声』について」
11:00－11:45	関口時正（東京外国語大学） 「ポーランド近代美術のいくつかの特殊性について —— マテイコからカントルまで」
12:00－12:45	アンナ・ブジスキー（ケンタッキー大学）1989年 「『現代芸術』の歴史的論理」
14:15－15:00	イエジー・マリノフスキ（ニコラウス・コペルニクス大学 トルン ポーランド） 「ポーランドにおけるユダヤ人前衛芸術家たち 「若いイデッシュ」グループ」

- 15:00 – 15:45 エレオノーラ・ベルグマン (ユダヤ歴史研究所 ワルシャワ)
「ワルシャワ・シナゴグの建築」
-
- 16:00 – 16:45 エヴァ・フォルガッチ (アート・センター・カレッジ・オブ・デザイン、パサデナLA)
「ハンガリーのアヴァンギャルドとその観衆」
-
- 16:45 – 17:30 ベトラニ・ジョルト (ミュンヘン美術館 ブダペスト) 「島」
「視覚文化におけるハンガリー —— 若手世代の存在」

10月31日

音 楽

- 9:30 – 10:00 伊東信宏 (大阪大学)
「モルドヴァのプラスバンド：民族の表象を超えて」
-
- 10:00 – 10:45 レイチェル・ベックレス・ウィルソン (ロンドン大学)
「共産主義下に天才は生まれるか？ ブダペストの音楽美学 1949 – 89 年」
-
- 10:45 – 11:30 クレール・レヴィ (ブルガリア学術アカデミー芸術研究所)
「東、西、そしてポップフォーク —— 1989 年以後におけるブルガリア音楽アイデンティティの矛盾」
-
- 11:45 – 12:30 横井雅子 (国立音楽大学)
「ハンガリーのターンツハーズ運動とその影響」

演 劇

- 14:00 – 14:30 永田 靖 (大阪大学)
「亡命と客演 —— 中東欧でロシア演劇に出会う」
-
- 14:30 – 15:15 アレクサンドル・チェプーロフ (サンクト・ペテルブルグ演劇アカデミー ロシア)
「セルゲイ・ラドロフとヨーロッパ演劇」
-
- 15:15 – 16:00 ニコライ・ペソチンスキー (サンクト・ペテルブルグ演劇アカデミー ロシア)
「演劇の左翼戦線 —— 1920 ~ 30 年代におけるロシア、ドイツ間の理念の移動」
-
- 16:15 – 17:00 ヴラジスラフ・イワーノフ (国立芸術学研究所 ロシア)
「ディアスポラのロシア演劇 —— 両大戦間のユーゴスラヴィアとラトヴィア」
-
- 17:00 – 17:45 エリザベス・スーリツ (国立芸術学研究所 ロシア)
「ユーゴスラヴィアにおけるロシアのダンサーたち —— マルガリータ・フローマン、クラウディア・イサチェンコとエレナ・ポリャコワ」
-
- 17:45 – 18:00 閉会の辞

「モダニズムと中東欧の藝術・文化」研究会

2004年度

第1回	2004年4月12日 16:20 - 19:00 文学部美学棟 1F B13 教室
第2回	2004年4月26日 16:20 - 19:00 文学部美学棟 1F B13 教室 伊東信宏 (大阪大学文学研究科助教授) 「民族間の通貨としての音楽：モルドヴァを例に」
第3回	2004年5月10日 16:20 - 17:50 文学部美学棟 1F B13 教室 Stella Todorova Zivkova (大阪大学音楽学客員研究員) “Bulgaria and the Bulgarians: Identity, Tradition and Globalization - The Musical Perspective - ”
第4回	2004年5月17日 16:20 - 17:50 文学部美学棟 1F B13 教室 関府寺 司 (大阪大学文学研究科教授) 「近代美術史 (学) とユダヤをめぐる問題 —— 問題設定と調査領域 —— 」
第5回	2004年6月3日 16:20 - 17:50 文学部美学棟 1F B13 教室 佐々木茂人 (同志社大学非常勤講師) 「ゴルディンの『野生の人』からカフカの『変身』まで —— 削られた第5幕をめぐる —— 」
第6回	2004年6月14日 18:00 - 19:30 文学部文学部棟 4F 文41 教室 東欧ユダヤ音楽 クレズマー・コンサート 樋上千寿 (大阪大学特任研究員 (COE)) 「シュテートルの音楽：東欧ユダヤ音楽クレズマーとシャガール」 演奏 Orkester Dreydel (樋上千寿=クラリネット、白石雅子=アコーディオン、金谷優里=ピアノ)
第7回	2004年6月28日 16:20 - 17:50 文学部美学棟 1F B13 教室 三谷研爾 (大阪大学文学研究科助教授) 「世紀転換期のプラハ・ドイツ人社会」

- | | |
|------|--|
| 第8回 | <p>イエジー・マリノフスキー教授（ニコラウス・コペルニクス大学教授）講演会</p> <p>2004年7月12日 16:20 - 18:30</p> <p>待兼山会館2F会議室</p> |
| 第9回 | <p>バーバラ・プリュス＝マリノフスカ美術部長（ポーランド国立美術館近代美術部長）講演会</p> <p>2004年7月13日 10:30 - 12:00</p> <p>待兼山会館2F会議室</p> |
| 第10回 | <p>2004年7月22日 15:00 - 16:30</p> <p>文学部美学棟1F B13教室</p> <p>小島 亮（中部大学国際関係学部教授）</p> <p>「中欧論再考」</p> |
| 第11回 | <p>2004年10月25日 16:20 - 17:50</p> <p>文学研究科本館2F第1会議室</p> <p>ズデンカ・シュヴァルツォヴァー（プラハ・カレル大学日本学科科長）</p> <p>「チェコにおける日本文化研究の歴史と現状」</p> |
| 第12回 | <p>2004年11月1日 16:20 - 17:50</p> <p>文学部美学棟1F B13教室</p> <p>伊東信宏（大阪大学文学研究科助教授）</p> <p>三谷研爾（大阪大学文学研究科助教授）</p> <p>樋上千寿（大阪大学特任研究員〈COE〉）</p> <p>加須屋明子（国立国際美術館 主任研究官）</p> <p>「モダニズムの越境 —— ポーランド・ワークショップに向けて」</p> |
| 第13回 | <p>2004年11月29日 16:20 - 17:50</p> <p>文学部美学棟1F B13教室</p> <p>春山清純（神戸薬科大学）</p> <p>「ゴーレム伝説の系譜 —— プラハのゴーレム像を中心として —— 」</p> |
| 第14回 | <p>2005年1月24日 16:20 - 17:50</p> <p>待兼山会館会議室</p> <p>J. スーハン（ワルシャワ現代芸術ギャラリー副館長）</p> <p>“The Invisible Gallery”</p> |
| 第15回 | <p>2005年2月21日 16:20 - 17:50</p> <p>待兼山会館会議室</p> <p>ミロスワフ・パウカ</p> |

“What the Butler Saw”

- 第16回 2005年3月7日 16:20 - 17:50
 共通教育管理講義棟6F会議室
 David Crowley (イギリス王立芸術学院デザイン史部門)
 “Finding Poland in Japan: Polish Art and Russo-Japanese War”
 「日露戦争期のポーランドにおけるジャポニズム」

- 第17回 2005年3月14日 16:20 - 17:50
 A.ラクネル (現代美術作家 ハンガリー)
 “Antal Lakner-Subversive art developments”

2005年度

- 第1回 2005年5月6日 16:20 - 17:50
 文学部美学棟1F B13教室
 中村 真 (大阪大学文学研究科博士後期課程)
 「いかにしてレオシュ・ヤナーチェクは「民族的」な芸術音楽を目指すに至ったのか? : 初期の理論的著作群を中心に」

- 第2回 2005年5月20日 16:20 - 17:50
 文学部美学棟1F B13教室
 永田 靖 (大阪大学文学研究科教授)
 「亡命ロシア演劇とモスクワ芸術座ブラハ・グループ」

- 第3回 2005年6月17日 16:20 - 17:50
 文学部美学棟1F B13教室
 若林一弘 (東欧民俗学)
 「『戦間期東欧の民俗学』始末」
 ※講演はインタビュー形式 (聞き手: 伊東信宏)

- 第4回 2005年7月8日 16:20 - 18:30
 共通教育B棟B108講義室
 関口時正 (東京外国語大学教授)
 「ポーランドの歴史的モダニズムと歴史的アヴァンギャルド —— 対立の構図」

- 第5回 2005年7月15日 16:20 - 17:50
 待兼山会館2F会議室
 西 成彦 (まさひこ) (立命館大学教授)

「東中欧の多言語状況とモダニズム —— ポーランド分割からホロコーストまで」

- | | |
|-----|---|
| 第6回 | 2005年10月21日 16:20 - 17:50
文学部美学棟 1F B13 教室
“Thema and variations”
バーンク・シャーリ Bank Sary
エルジェーベト・シラーギ Erzsebet Szilagyi |
| 第7回 | 2005年11月18日 16:20 - 17:50
文学部美学棟 1F B13 教室
小野尚子（大阪大学文学研究科博士前期課程）
「アルフォンス・ムハ作《スラヴ叙事詩》 —— 演出家としてのムハとその舞台？ —— 」 |
| 第8回 | 2006年1月27日 16:20 - 17:50
文学部美学棟 1F B13 教室
大津留厚（神戸大学文学部教授）
「『中央ヨーロッパの可能性』をめぐって」
コメンテーター 吉田耕太郎（東京外国語大学大学院／大阪大学ドイツ文学研究室） |

臨床と対話

ヴァルデンフェルス教授講演会

2004年4月27日 15:00 - 17:00
待兼山会館 2F 会議室
Bernhard Waldenfels (元ボッフム大学教授)
“Bodily Experience between Selfhood and Otherness”

第4回アーツ・アンド・クラフツ運動史国際会議

2004年7月26 - 28日
トインビー・ホール（英・ロンドン）
主催：トインビー・ホール

共催：大阪大学 21 世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文学」
イリノイ大学シカゴ校ジェイン・アダムズ・ハル・ハウス博物館

死別の悲しみからの回復を助けるワークショップ

2004 年 9 月 19 日 11:00 – 17:30

大阪市立大学看護短期大学

主催：21 世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文学」臨床と対話

財団法人ラスキン文庫創立 20 周年記念シンポジウム 「芸術と大地の美——ウィリアム・モリスと〈保全〉の思想——」

2004 年 10 月 30 日 14:00 – 16:30

日本女子大学百年館低層棟 506 教室

主催：財団法人ラスキン文庫

共催：大阪大学 21 世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文学」

講演	川端康雄（日本女子大学教授）
	「ロマンティック・エコロジストとしてのモリス」
シンポジウム	横山千晶（慶應義塾大学教授）
	「ラスキン、モリスと〈保全〉思想の系譜」
	藤田治彦（大阪大学大学院教授）
	「モリスの古建築物保護運動」
	菅 靖子（津田塾大学助教授）
	「レッド・ハウスの 1 世紀半」

第3回対話シンポジウム@東京大学

2004年12月1日-2日

東京大学医学部付属病院入院棟レセプションルーム

12月1日

医療紛争におけるMediationの可能性

The promise of Mediation in medical conflict

コーディネーター 稲葉一人 (科学技術文明研究所)

14:00 - 16:30 招聘講師との意見交換

招聘講師: Peter Robinson (Acting Director of the Straus Institute)

Jim Stott (Assistant Director of the Straus Institute)

12月2日

Mediation (調停) トレーニングを体験する

Mediation Training

コーディネーター 和田仁孝 (早稲田大学法務研究科教授)

13:00 - 13:15 ベバダインロースクール・ストラウス研究所の概要

13:15 - 17:00 招聘講師によるトレーニング

招聘講師: Peter Robinson (Acting Director of the Straus Institute)

Jim Stott (Assistant Director of the Straus Institute)

(1) STAR方式によるトレーニング (いかにしてトレーニングを行うか)

(2) 調停における倫理

第3回対話シンポジウム@大阪大学中之島センター

2004年12月4日-5日

大阪大学中之島センター

12月4日

Mediation (調停) トレーニングを体験する

Mediation Training

コーディネーター 稲葉一人 (科学技術文明研究所)

13:00 ~ 13:15 ベバダインロースクール・ストラウス研究所の概要

13:15 ~ 17:00 招聘講師によるトレーニング

招聘講師：Peter Robinson (Acting Director of the Straus Institute)

Jim Stott (Assistant Director of the Straus Institute)

(1) STAR方式によるトレーニング (いかにしてトレーニングを行うか)

(2) 調停における法律家の役割

12月5日

被害者と加害者にとっての語ることと聞かれることの意味

The Meaning of be heard by and talk to for victims and offenders

コーディネーター 藤岡淳子 (大阪大学)

10:00 ~ 11:00 対話の前提としての被害者理解、加害者理解

進行 藤岡淳子

(1) VOMの現状報告

(2) エクササイズ「被害者体験、加害者体験を想像する」

11:00 ~ 13:00 被害者と加害者にとっての語ることと聞かれることの意味

進行 森本志磨子 (弁護士)

地域からのADRの発信

The Message from Local ADR Center

コーディネーター 岡村正文 (中四国民間調停研究会代表)

14:00 ~ 15:30 ADR実施団体による現状の報告

15:30 ~ 17:00 「裁判外紛争解決手続の促進に関する法律」施行後におけるADRの行方

COE 公開授業／社会のなかの人文学【Cafe Talk 54 鷺田清一+川俣正】

2005年7月15日 19:00 - 21:00

彩都IMI大学院スクール・IMI大講義室

主催：川俣ゼミ (CafeTalk+Tadashi KAWAMATA 主催団体)

大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

共催：大阪大学コミュニケーションデザイン・センター (CSCD)

彩都IMI大学院スクール

協賛：アサヒビール株式会社

コーディネーション：木ノ下智恵子

倉敷2005「芸術と福祉」国際会議

(第5回アーツ・アンド・クラフツ運動史国際会議・第2回セツルメント運動史国際会議)

2005年7月26－29日

岡山県倉敷市倉敷公民館大ホール

主催：倉敷2005「芸術と福祉」国際会議実行委員会 デザイン史フォーラム

共催：川崎医療福祉大学 吉備国際大学 倉敷芸術科学大学

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター

大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

独立行政法人日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究事業「文学・芸術の社会的媒介機能」

科学研究費基盤研究(B)「近代工芸運動の総合的国際比較研究」

協力：大原美術館 倉敷民藝館

協賛：日本民藝館 日本地域福祉施設協議会 大阪市社会福祉研修・情報センター

カシオ科学振興財団

後援：岡山県 倉敷市 岡山県教育委員会 倉敷市教育委員会 岡山県社会福祉協議会

倉敷市社会福祉協議会

第5回アーツ・アンド・クラフツ運動史国際会議

5th International Conference on the History of the Arts and Crafts Movement, July 26-27

7月26日

「国際アーツ・アンド・クラフツ運動」

The International Arts and Crafts Movement

司会進行 要真理子(大阪大学講師)

10:00

開会挨拶

倉敷2005会長 大原謙一郎(大原美術館理事長)

10:30

開催趣旨説明

倉敷2005実行委員長 藤田治彦(大阪大学教授)

11:00

「アーツ・アンド・クラフツ運動とトインビー・ホール」

	リユーク・ゲーガン (トインビー・ホール館長)
11:30	「アーツ・アンド・クラフツ運動とハル・ハウス」 ペグ・ストローベル (ハル・ハウス博物館館長)
13:30	講演「19-20世紀イングランドのアーツ・アンド・クラフツ運動」 ターニャ・ハロッド (イギリス王立美術大学客員教授)
15:30	講演「ケルト・デザイン伝統とアイルランド・スコットランドの アーツ・アンド・クラフツ運動」 鶴岡真弓 (立命館大学教授)
17:00	コメンタリー 高階秀爾 (大原美術館館長)
17:30	第1日目閉会
18:00	懇親会 (-20:00)

7月27日

「アーツ・アンド・クラフツと民芸」

The Arts and Crafts and The Mingei Movements

司会進行 赤木里香子 (岡山大学助教授)

9:10	挨拶 安井昭夫 (倉敷民藝館理事長)
9:20	講演「工芸と倉敷」 児島塊太郎 (倉敷芸術科学大学教授／加計美術館館長)
11:00	講演「民藝と茶の湯」 熊倉功夫 (林原美術館館長)
13:30	東アジア工芸運動シンポジウム 「アーツ・アンド・クラフツと民芸」 長田謙一 (千葉大学教授) 竹中 均 (神戸市立外国語大学助教授) リー・ピョンナム (韓国 釜山市立美術館学芸官) パトリシア・リン (台湾 朝陽科技大學助理教授) 司会 藤田治彦 (大阪大学教授)
15:00	見学会 (大原美術館・倉敷民藝館・児島塊太郎窯・備中和紙工房など)
18:30	関連行事 (無料) 有隣会主催「第50回大原孫三郎・總一郎記念講演会」

第2回セツルメント運動史国際会議

2nd International Conference on the History of the Settlement Movement, July 28-29

7月28日

「欧米の地域福祉と日本」

Regional Welfare of the World and Japan

司会進行 赤木里香子(岡山大学助教授)

9:20 挨拶 藤田和弘(吉備国際大学学長)

9:30 講演「トインビー・ホールとセツルメント運動」

リューク・ゲーガン(トインビー・ホール館長)

11:15 講演「ハル・ハウスとセツルメント運動」

ベグ・ストローベル(ハル・ハウス博物館館長)

13:45 ヨーロッパの地域福祉シンポジウム

「セツルメントとヨーロッパの若い世代」

ヘンリ・ブラーケンブルフ(オランダ教育プロジェクト財団ディレクター)

ジル・ゴールズワージー(トインビー・ホール館員)

ケイト・ブラッドリー(ロンドン大学大学院、トインビー・ホール嘱託館員)

アンジェラ・ジョンストン(バッキンガムシャー・チルトンズ大学大学院)

司会 井岡 勉(同志社大学教授)

15:15 講演「日本における地域福祉施設の現状」

小椋 昭(社会福祉法人石井記念愛染園わかさ保育園園長)

16:45 講演「石井十次と岡山孤児院」

横田賢一(山陽新聞社)

18:15 関連行事 映画上映会(有料)(-20:00)

「岡山孤児院 石井十次の生涯」

7月29日

「日本の地域福祉と岡山・倉敷」

Regional Welfare of Japan and Kurashiki, Okayama

司会進行 要 真理子(大阪大学講師)

9:10 挨拶 岡田喜篤(川崎医療福祉大学学長)

9:20 講演「近代日本における岡山県の福祉・文化の歴史的重要性」

	赤松 力（川崎医療福祉大学講師）
10:30	講演「近代岡山県の児童福祉事業」 内田節子（吉備国際大学教授）
11:30	講演「しいのみ学園・福祉と芸術」 昇地 三郎（しいのみ学園長理事）
12:20	閉会の挨拶
14:00	施設見学会（社会福祉法人旭川荘）
17:00	解散

第4回対話シンポジウム in 愛媛 —— 地域での、市民との連携の元での紛争解決とは

2005年12月10日～11日

ホテル奥道後コンベンションホール「錦晴の間」

主催：大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

共催：大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 愛媛和解支援センター

後援：愛媛大学 愛媛新聞社 愛媛県土地家屋調査士会 土地家屋調査士会四国ブロック協議会

愛媛県マンション管理士会 松山市社会福祉協議会 愛媛県行政書士会

愛媛県不動産コンサルティング協会 NPO 法人個別労使紛争処理センター愛媛支部 他

総合コーディネーター

稲葉一人（科学技術文明研究所特別研究員）、和田直人（愛媛大学法文学部講師）

12月10日

13:00 - 13:30	趣旨説明と意気込み
13:30 - 14:20	基調講演 中岡成文（大阪大学文学部教授／大阪大学コミュニケーションデザイン・センター長） 「対話を促進するということ —— 大阪大学コミュニケーションデザイン・センターの試み」 稲葉一人（科学技術文明研究所特別研究員） 「ADRから対話の促進へ」
14:30 - 17:15	パネルディスカッション1 「専門家が市民間の対話を促進する仕組みと、人の育成 —— 地域において紛争解決を支援する —— 地域連携」

パネリスト

ADR機関設立を目指す各法律家団体所属の法律家、司法書士、土地家屋調査士、社会保険労務士、不動産鑑定士、行政書士他のADR立ち上げ団体からの識者

12月11日

9:00 - 12:00

パネルディスカッション2

「地域からのADRの発信 —— 市民と一緒に紛争を解決する —— 市民連携」

パネリスト

NPO法人日本メディエーションセンター（東京） NPO法人シヴィル・プロネット関西（大阪）

中四国メディエーション・センター（広島） 赤ひげネット（島根） 愛媛和解支援センター（愛媛）

各団体の活動報告・活動目標と課題・質疑応答・総括

司会 稲葉一人（科学技術文明研究所特別研究員）

和田直人（愛媛大学講師）

13:00 - 15:00

調停ワークショップ —— 実際の調停を感じる ——

【ワークショップ「科学技術と倫理」】

2006年2月11日 10:00 - 16:00

クレオ大阪北（大阪市立男女共同参画センター北部館）会議室1

主催：大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文科学」

共催：大阪大学コミュニケーションデザイン・センター

平成17年度厚労省科研費「根拠に基づくガイドライン」の適切な作成・利用・普及に向けた
基盤整備に関する研究：患者、医療消費者の参加推進に向けて研究班

10:00 - 12:30

午前の部

「事例によって学ぶ臨床試験 —— 市民がエビデンスを理解するための準備作業」

担当 中山健夫（京都大学大学院医学研究科助教授）

プロトコール

1 概説

2 事例を用いたグループワーク

3 発表と総括

13:30 - 16:00

午後の部

「過去の事例から医学研究の倫理を考える」

担当 土屋貴志 (大阪市立大学文学研究科助教授)

プロトコール

- 1 基礎的説明
- 2 事例を用いたグループワーク
- 3 発表と総括

神戸 - 中越被災地交流フォーラム

2006年1月23日

人と防災未来センター防災未来館 (神戸市)

主催: 神戸 - 中越被災地交流実行委員会

(日本災害救援ボランティアネットワーク、震災がつなぐ全国ネットワーク、中越復興
市民会議、大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文科学」臨床と対話)

共催: 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター

後援: 人と防災未来センター

協力: fromHUS (大阪大学人間科学部中越地震学生ボランティアグループ)

1月23日

講演 創造的復興のために

村井雅清 (被災地 NGO 協働センター代表)

講演 神戸・阪神での生活支援を通して

中村大蔵 (特別養護老人ホーム園田苑施設長)

中越震災1年～被災地からの報告～・意見交換会

長岡市からの報告

西川久美子 (長岡市社会福祉協議会生活支援員)

本間和也 (長岡市社会福祉協議会職員)

旧山古志村からの報告

大平久和 (長岡市社会福祉協議会山古志支所生活支援
相談員)

草間頼雄 (長岡市社会福祉協議会山古志支所職員)

小千谷市からの報告 保科義明 (小千谷市社会福祉協議会生活支援相談員)

本田 均 (小千谷市社会福祉協議会職員)

川口町からの報告

星野慶子（川口町社会福祉協議会生活支援相談員）

鈴木幸子（川口町社会福祉協議会職員）

グループディスカッション

長岡市・小千谷市グループでの議論

ファシリテーター

黒田裕子（特定非営利活動法人 阪神高齢者・障害者
ネットワーク理事長）

旧山古志村・川口町グループでの議論

ファシリテーター

中村大蔵

1月24日

伊川谷工房・あじさいの家視察

第5回対話シンポジウム 地域からの対話促進の発信——対話の多様性と可能性

2006年11月3－4日

大阪大学吹田キャンパス銀杏会館（ホール・会議場）

主催：大阪大学21世紀COE「インターフェイスの人文科学」

共催：大阪大学コミュニケーションデザイン・センター カフェフィロ（Café Philo）

特定非営利活動法人 シヴィル・プロネット関西 長崎伝習所メディアエーション研究塾

特定非営利活動法人 日本メディアエーションセンター 愛媛和解支援センター

後援：読売新聞大阪本社

総合コーディネーター

稲葉一人（科学技術文明研究所特別研究員）

11月3日

10:00 - 10:30 第5回対話シンポジウムの開催にあたって

中岡成文（大阪大学大学院文学研究科教授／大阪大学CSCDセンター長）

10:30 - 13:00 哲学カフェは対話文化のなかでどのような役割を果たすのか

《カフェフィロ（Café Philo）》

発表者 本間直樹（カフェフィロ代表）

榎本直樹、高橋 綾、松川絵里（以上カフェフィロメンバー）

14:00 - 18:00 教育現場における対話促進によるもめ事解決策
—— メディエーション教育への夢を語り合おう ——

《特定非営利活動法人 シヴィル・プロネット関西》

講演 竹村登茂子（読売新聞社編集局文化部次長）
水野修次郎（麗澤大学教授）

パネル・ディスカッション

コーディネーター

津田尚廣（シヴィル・プロネット関西代表理事）

パネリスト

寺野雅之（大阪府立茨田高校教諭）

峯本耕治（特定非営利活動法人TPC教育サポートセンター代表理事）

山中祥匡（臨床心理士）

水野修次郎（麗澤大学教授）

竹村登茂子（読売新聞社編集局文化部次長）

11月4日

10:00 - 12:00 メディエーションを広く社会に普及する方法

《長崎伝習所メディエーション研究塾》

発表者 梅枝眞一郎（長崎伝習所メディエーション研究塾代表）、他メンバー6名

13:00 - 15:30 ADR日本の原点を訪ねて —— 「村の寄り合い」とADR ——

《愛媛和解支援センター》

発表者 松下純一（愛媛和解支援センター代表）、他メンバー3名

15:30 - 17:30 裁判員評議における人間関係を考える —— 市民のための評議トレーニング ——

《特定非営利活動法人 日本メディエーションセンター》

発表者 田中圭子（日本メディエーションセンター代表理事）

安藤信明（日本メディエーションセンター常任理事／事務局長）

稲村 厚（日本メディエーションセンター常任理事／事務局次長）

17:30 - 18:00 総括 稲葉一人（総合コーディネーター／科学技術文明研究所特別研究員）

懐徳堂講座

平成16年度懐徳堂春季講座(107回)「生のかたち 死のかたち」

2004年5月25-28日

大阪大学中之島センター

コーディネーター 永田 靖(大阪大学大学院教授)

5月25日 18:30-20:00

講演「生と死の習俗——その伝統と現代」

中村生雄(大阪大学大学院教授・日本思想史)

5月26日 18:30-21:30

シンポジウム「都市の生と死——魔虚とパラダイスのはざままで」

大橋良介(大阪大学大学院教授 美学・哲学)

藤田治彦(大阪大学大学院教授 環境美学・建築史)

鈴木 毅(大阪大学大学院助教授 建築工学)

上倉庸敬(大阪大学大学院教授 美学・芸術学 司会)

5月27日 18:30-20:30

対談「生と死の表象——近現代文学を中心に」

内藤 高(大阪大学大学院教授 比較文学)

出原隆俊(大阪大学大学院教授 国文学)

5月28日 18:30-20:30

対話「生と死はみんなの現場」

中岡成文(大阪大学大学院教授 臨床哲学)

西川 勝(京都市長寿すこやかセンター 臨床哲学)

平成16年度 懐徳堂秋季講座(108回)「日本語の“おもい”と“すがた”」

2004年10月26日-28日

大阪大学中之島センター

主催：(財)懐徳堂記念会

10月26日	18:30 - 20:30 ヴァーチャル日本語 ——「役割語」とは何か —— 金水 敏 (大阪大学大学院教授 国語学・言語学)
10月27日	18:30 - 20:30 ジェンダーと日本語 佐竹久仁子 (武庫川女子大学非常勤講師 日本語学)
10月28日	18:30 - 20:30 日本語は一言語か 真田信治 (大阪大学大学院教授 社会言語学・方言学)

メディアラボ

ワークショップ

※西洋美術史演習〈人文学研究におけるメディア利用実習Ⅱ〉／21世紀COE科目メディア人文学演習／21世紀COE科目メディア人文学特殊演習として開催

2004年度

特別公開ワークショップ〈Digital自分CM WORKSHOP〉

日程	2004年7月20 - 22日
内容	自分を紹介するマルチメディア映像を参加者それぞれが作成して発表。
講師	久保田テツ (早稲田大学メディアネットワークセンター非常勤講師)

映像ワークショップ「ココロゆさぶら劇場」

日程	2004年6月16、30日、7月1日
内容	自分の心がちょっとゆさぶられるものを撮影・編集し、1分程度の小作品をつくる。
講師	久保田美生 (メディアラボスタッフ・特任研究員)

まっさらな自分本をつくる

日程	2004年7月6 - 8日
内容	オリジナルのハードカバーの本をデザインし、DTP&手製本に挑戦することを通して、本の「もの」 としての側面を捉える。

講師 西田優子 (メディアラボスタッフ・特任研究員)

情報デザインワークショップ

日程 2004年7月19 - 20、22日

内容 身近なモノやコトを再考察し、手や体を動かして「情報デザイン」を感覚的に身につけていく。

講師 清水良介 (CSCD 特任助手)

〈特別ワークショップ〉映像編集ソフトウェアを利用した音響制作ワークショップ

日程 2004年7月11 - 13日

内容 ビデオカメラで音を収録し、その素材を映像編集ソフト上でエディットしながら「映像付き音響作品」を制作。日常生活に溢れるサウンドのあり方を意識的に捉えることを目指す。

講師 久保田テツ (CSCD 特任講師)

2005年度

映像編集ワークショップ

日程 2005年12月20日 - 1月20日

内容 ドキュメンタリー映像の制作。基本的な撮影編集の技術を用いて「映像で伝える」ことを体を通して学ぶ。

講師 久保田美生 (メディアラボスタッフ・特任研究員)

グラフィックデザインワークショップ

日程 2006年1月26 - 27日、2月2 - 3、7 - 9、16日

内容 パロディ広告 (アドバスターズ等) をヒントに、発想されたグラフィックを Illustrator 等で作成し、Tシャツにシルクスクリーンを用いてプリントする。

講師 西田優子 (メディアラボスタッフ・特任研究員)

2006年度

メディアとしての音

日程 7月11、18、24、25日

内容 メディアとの関係性から生まれる「音の意味」を、複製技術誕生以降の音楽の歴史やフィールドワークから学ぶと共に、具体的に「映像に音をつける」実習を通じて検証してゆく。

講師 小島 剛 (音楽家、NPO 大阪アーツアボリア副理事)

情報／映像を「書く」—— remoscope workshop／映像を「書く」ための身体づくり

日程 7月12 - 13、19 - 20日

内容 規定されたルールの範囲で映像作品を制作、その後、それらの作品を囲み、「句会」のように

語らう映像表現ワークショップ「remoscope」を通じ、映像で「書く」ことのできる身体づくりを目指す。

講師 甲斐賢治 (NPO remo 記録と表現とメディアのための組織・代表理事／NPO recip 地域文化に関する情報とプロジェクト・理事)

ブログによるマルチメディア情報発信

日程 7月12-13、19-20日

内容 「日記サイト」とほぼ同義に捉えられるようになったブログについて、今あらためて機能と特性を理解し、さらにマルチメディア化などの進化を学びながら、実際の開設と運営に必要な技術を学ぶ。

講師 岩淵拓郎 (美術家／メディアピクニック代表)

写真からつくる映像

日程 7月27-28日、8月3-4日

内容 アニメーションの技法を用いて映像作品を制作。素材を静止画に限定し、それらを写真加工ソフトで切り抜き、動きを与えてアニメーションを作成。

講師 久保田テツ (CSCD 特任講師)
久保田美生 (メディアラボスタッフ・特任研究員)

つながるデザイン

日程 7月31日、8月1、7、8日

内容 「デザイン」という言葉は、グラフィック、ウェブ、建築、ファッションなど様々な分野で使われている。フィールドワークを通して「デザイン」の根本である「何かと何かをつなげる行為」を考え、実践する。

講師 井垣明子 (メディアスタッフ・特任助手)

MAKING GAMES —— アナログゲーム制作から考える遊びのルールとグラフィック ——

日程 1月15、17、18、24、25日、2月13-14日

講師 岩淵拓郎

技術講座講師 井垣明子 (メディアスタッフ・特任助手)

内容 実際のゲーム制作を通し、遊びを遊びとして成立させるための要素について考えながら、実際にオリジナルの「アナログゲーム」を制作する。(あわせてDTPソフトの技術講習も行う。)

らぼらん Vol.1

2005年9月15日 14:00 - 15:30

「対面異文化間コミュニケーションにおける相互理解構築とアイデア創発の支援に関する研究」などの研究内容紹介
対話型コミュニケーションについてCOE若手研究員と討議

ゲスト 大平雅雄(奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科助手／東京大学先端科学技術研究センター知識創造研究室協力研究員)

主催：メディアラボ

社会のカフェ+らぼらん Vol.2

メディアの自由 情報を発信すること——Linkage Projectのアプローチ

2006年5月1日 13:30 - 15:00

豊中キャンパス CSCD オレンジカフェ (いちよう祭特設カフェ)

共催：社会のカフェ (from 大淀南借家太陽2)、メディアラボ

Video Table Vol.1

2006年7月20日 18:15 - 20:30

主催：Video Table

協力：メディアラボ

アーティスト・レクチャー

2006年7月24日 18:00 - 20:00

ゲスト ROGUES' GALLERY

主催：久保田テツ (CSCD 特任講師)、メディアラボ

COE科目

2004年度

博士前期課程

文学研究科

授業コード	授業科目名	講義題目	担当教官	単位	開講時期
204701	インターフェイス人文学講義	社会の中の人文学	鷲田清一	2	1学期
204710	歴史学方法論講義	歴史学のフロンティア	秋田 茂ほか	4	通年
204720	メディア人文学演習	人文学研究におけるメディア利用実習 I	園崎寺 司ほか	2	1学期
204721	メディア人文学演習	人文学研究におけるメディア利用実習 II	園崎寺 司ほか	2	2学期
202313	日本文学作家作品研究演習	日本文学と〈翻訳〉	後藤昭雄ほか	2	2学期
203722	社会言語学演習	ネオ方言のフィールドワーク	真田信治	4	通年
203702	現代日本語学講義	現代日本語研究の中心と周辺	工藤眞由美	2	2学期
204110	芸術学講義	メディア論研究	藤田治彦	4	通年
204142	美学講義	芸術とメディア 2	大橋良介ほか	2	1学期
204317	音楽学講義	芸術とメディア 2	根岸一美ほか	2	1学期
204341	演劇学講義	芸術とメディア 2	天野文雄ほか	2	1学期

人間科学研究科

授業コード	授業科目名	講義題目	担当教官	単位	開講時期
210545	コミュニケーションメディア特講 I	コミュニケーション学習に関する理論と方法	前迫孝憲	2	1学期
211093	コミュニケーション社会学演習 I(C)	グローバリゼーションのなかの日本のポピュラーカルチャー	伊藤公雄	2	1学期
211094	コミュニケーション社会学演習 II(C)	グローバリゼーションのなかの日本のポピュラーカルチャー	伊藤公雄	2	2学期
210702	文明動態学演習 I	西洋思想史における知識人の役割	Wolfgang Schwentker	2	1学期
210703	文明動態学演習 II	西洋思想史における知識人の役割	Wolfgang Schwentker	2	2学期
210709	人類学演習 I(A)	トランスナショナルリティ研究論文講読	栗本英世・小泉潤二ほか	2	1学期
210710	人類学演習 II(A)	トランスナショナルリティ研究論文講読	小泉潤二・栗本英世ほか	2	2学期
211067	人類学演習 I(B)	トランスナショナルリティ研究講義	小泉潤二・栗本英世ほか	2	1学期
211068	人類学演習 II(B)	トランスナショナルリティ研究講義	小泉潤二・栗本英世ほか	2	2学期
210810	地域共生論特講	地域共生論の最前線 ― 臨床現場と語り	渥美公秀	2	1学期
210818	国際協力論特講	アフガン遠隔教育	中村・内海・渥美	2	1学期

言語文化研究科

授業コード	授業科目名	講義題目	担当教官	単位	開講時期
300110	言語コミュニケーション論 A	社会言語学の課題	津田 葵	1	1学期
300120	言語コミュニケーション論 B	社会言語学の課題	津田 葵	1	2学期
300112	言語コミュニケーション論 A	批判的社会言語学の可能性	山下 仁	1	1学期
300122	言語コミュニケーション論 B	批判的社会言語学の可能性	山下 仁	1	2学期

博士後期課程

文学研究科

授業コード	授業科目名	講義題目	担当教官	単位	開講時期
209700	インターフェイス人文学特殊講義	科学技術と倫理 I	稲葉一人ほか	2	1学期
209701	インターフェイス人文学特殊講義	科学技術と倫理 II	稲葉一人ほか	2	2学期
209710	インターフェイス人文学特殊講義	医療・生命の倫理	霜田 求ほか	2	1学期
209711	インターフェイス人文学特殊講義	生と死と生活の現場から	霜田 求ほか	2	2学期
209721	インターフェイス人文学特殊講義	〈公共〉への参加と対話: 誰のための科学?	渥美公秀ほか	2	2学期
209730	インターフェイス人文学特殊講義	社会の中の人文学	鷲田清一	2	1学期
209740	歴史学方法論特殊講義	歴史学のフロンティア	秋田 茂ほか	4	通年
209750	メディア人文学特殊演習	人文学研究におけるメディア利用実習 I	関府寺 司ほか	2	1学期
209751	メディア人文学特殊演習	人文学研究におけるメディア利用実習 II	関府寺 司ほか	2	2学期
206114	日本学研究方法論特殊演習	日本研究の展開	中村生雄ほか	4	通年
206140	文化交流史特殊演習	歴史記述にかかわる理論的諸問題 1	富山一郎	2	1学期
206141	文化交流史特殊演習	歴史記述にかかわる理論的諸問題 2	富山一郎	2	2学期
207313	日本文学作家作品研究特殊演習	日本文学と〈翻訳〉	後藤昭雄ほか	2	2学期
208721	社会言語学特殊演習	ネオ方言のフィールドワーク	真田信治	4	通年
208703	現代日本語学特殊講義	現代日本語研究の中心と周辺	工藤眞由美	2	2学期
209110	芸術学特殊講義	メディア論研究の諸問題	藤田治彦	4	通年
209142	美学特殊講義	芸術とメディア 2	大橋良介ほか	2	1学期
209350	音楽学特殊講義	芸術とメディア 2	根岸一美ほか	2	1学期
209360	演劇学特殊講義	芸術とメディア 2	天野文雄ほか	2	1学期

人間科学研究科

授業コード	授業科目名	講義題目	担当教官	単位	開講時期
211120	文明動態学特別研究 I(B)	科学技術と倫理 I	稲葉一人ほか	2	1学期
211121	文明動態学特別研究 II(B)	科学技術と倫理 II	稲葉一人ほか	2	2学期
211118	文化社会学特別研究 I(B)	医療・生命の倫理	霜田 求ほか	2	1学期
211119	文化社会学特別研究 II(B)	生と死と生活の現場から	霜田 求ほか	2	2学期

211122	地域共生論特別研究 I(B)	社会の中の人文学	鷲田清一	2	1学期
211123	地域共生論特別研究 II(B)	〈公共〉への参加と対話:誰のための科学?	渥美公秀ほか	2	2学期
211116	コミュニケーション社会学演習 I(C)	グローバリゼーションのなかの日本のポピュラーカルチャー	伊藤公雄	2	1学期
211117	コミュニケーション社会学演習 II(C)	グローバリゼーションのなかの日本のポピュラーカルチャー	伊藤公雄	2	2学期
210955	文明動態学演習 I	西洋思想史における知識人の役割	Wolfgang Schwentker	2	1学期
210956	文明動態学演習 II	西洋思想史における知識人の役割	Wolfgang Schwentker	2	2学期
210959	人類学演習 I(A)	トランスナショナリティ研究論文講読	栗本英世・小泉潤二ほか	2	1学期
210960	人類学演習 II(A)	トランスナショナリティ研究論文講読	小泉潤二・栗本英世ほか	2	2学期
211072	人類学演習 I(B)	トランスナショナリティ研究講義	小泉潤二・栗本英世ほか	2	1学期
211073	人類学演習 II(B)	トランスナショナリティ研究講義	小泉潤二・栗本英世ほか	2	2学期
211021	地域共生論特論	地域共生論の最前線 ― 臨床現場と語り	渥美公秀	2	1学期

言語文化研究科

授業コード	授業科目名	講義題目	担当教官	単位	開講時期
300590	言語コミュニケーション論特別研究 A	ディスコース研究の理論と実際	津田 葵	2	1学期
300600	言語コミュニケーション論特別研究 B	ディスコース研究の理論と実際	津田 葵	2	2学期

2005 年度

博士前期課程

文学研究科

授業コード	授業科目名	講義題目	担当教官	単位	開講時期
204701	インターフェイス人文学講義	社会のなかの人文学	鷲田清一	2	1学期
204730	インターフェイス人文学演習	中東欧モダニズム研究	園府寺 司、永田 靖ほか	4	通 年
204710	歴史学方法論講義	歴史学のフロンティア	秋田 茂ほか	4	通 年
204720	メディア人文学演習	人文学研究におけるメディア利用実習 I	園府寺 司ほか	2	1学期
204721	メディア人文学演習	人文学研究におけるメディア利用実習 II	園府寺 司ほか	2	2学期
201531	東洋史演習	世界史の中の東南アジア大陸部(1)	桃木至朗	2	1学期
201532	東洋史演習	世界史の中の東南アジア大陸部(2)	桃木至朗	2	2学期
202322	日本文学講義	英語論文から見る日本文学研究	荒木 浩	4	通 年
203722	社会言語学演習	地域語のフィールドワーク	真田信治	4	通 年
203702	現代日本語学講義	複数の日本語と言語類型論	工藤真由美	2	2学期
204317	芸術学総論講義	芸術とグローバリズム	大橋良介ほか	2	1学期

人間科学研究科

授業コード	授業科目名	講義題目	担当教官	単位	開講時期
211312	インターフェイスメディア論特定演習	コミュニケーションと学習に関する理論と方法	前迫孝憲	2	1学期
211313	インターフェイス社会学特定演習Ⅰ	グローバル化のなかの日本文化受容 (1)	伊藤公雄	2	1学期
211314	インターフェイス社会学特定演習Ⅱ	グローバル化のなかの日本文化受容 (2)	伊藤公雄	2	2学期
211315	インターフェイス文明学特定演習Ⅰ	西洋思想史研究における日本の思想	Wolfgang Schwentker	2	1学期
211316	インターフェイス文明学特定演習Ⅱ	日本思想史研究における西洋の思想	Wolfgang Schwentker	2	2学期
211317	インターフェイス人類学特講Ⅰ	トランスナショナルリティ研究セミナー	小泉潤二・栗本英世ほか	2	1学期
211318	インターフェイス人類学特講Ⅱ	トランスナショナルリティ研究セミナー	小泉潤二・栗本英世ほか	2	2学期
211319	インターフェイス共生論特講	地域共生論の最前線 ― 臨床現場と語り	渥美公秀	2	1学期

言語文化研究科

授業コード	授業科目名	講義題目	担当教官	単位	開講時期
300219	言語コミュニケーション論A	社会言語学の課題	津田 葵	2	1学期
300220	言語コミュニケーション論B	社会言語学の課題	津田 葵	2	2学期
300319	応用言語学特論A	応用言語学の可能性	山下 仁	2	1学期
300320	応用言語学特論B	応用言語学の可能性	山下 仁	2	2学期
300321	応用言語学特論A	学習と社会的現実の構成における言語の媒介的役割	西口光一	2	1学期
300322	応用言語学特論B	学習と社会的現実の構成における言語の媒介的役割	西口光一	1	2学期
300229	言語技術特殊研究A	言語とイデオロギー (1)	植田晃次	2	1学期
300230	言語技術特殊研究B	言語とイデオロギー (2)	植田晃次	2	2学期

博士後期課程

文学研究科

授業コード	授業科目名	講義題目	担当教官	単位	開講時期
209700	インターフェイス人文学特殊講義	科学技術と倫理Ⅰ	稲葉 一人・講師ほか	2	1学期
209701	インターフェイス人文学特殊講義	科学技術と倫理Ⅱ	稲葉 一人・講師ほか	2	2学期
209710	インターフェイス人文学特殊講義	臨床医療の現場から	霜田 求・講師ほか	2	1学期
209721	インターフェイス人文学特殊講義	〈公共〉への参加と対話: 誰のための科学?	渥美公秀ほか	2	2学期
209730	インターフェイス人文学特殊講義	社会のなかの人文学	鷲田清一	2	1学期
209760	インターフェイス人文学特殊演習	中東欧モダニズム研究	園府寺 司・永田 靖ほか	4	通 年
209740	歴史学方法論特殊講義	歴史学のフロンティア	秋田 茂ほか	4	通 年
209750	メディア人文学特殊演習	人文学研究におけるメディア利用実習Ⅰ	園府寺 司ほか	2	1学期
209751	メディア人文学特殊演習	人文学研究におけるメディア利用実習Ⅱ	園府寺 司ほか	2	2学期
206531	東洋史特殊演習	世界史の中の東南アジア大陸部 (1)	桃木至朗	2	1学期

206532	東洋史特殊演習	世界史の中の東南アジア大陸部(2)	桃木至朗	2	2学期
207322	日本文学特殊講義	英語論文から見る日本文学研究	荒木 浩	4	通 年
206114	日本学研究方法論特殊演習	日本研究の展開	富山一郎ほか	4	通 年
206144	文化交流史特殊演習	歴史記述にかかわる理論的諸問題1	富山一郎	2	1学期
206145	文化交流史特殊演習	歴史記述にかかわる理論的諸問題2	富山一郎	2	2学期
208721	社会言語学特殊演習	地域語のフィールドワーク	真田信治	4	通 年
208702	現代日本語学特殊講義	複数の日本語と言語類型論	工藤真由美	2	2学期
209350	芸術学総論特殊講義	芸術とグローバリズム	大橋良介ほか	2	1学期

人間科学研究科

授業コード	授業科目名	講義題目	担当教官	単位	開講時期
211430	インターフェイス社会学特別演習Ⅰ	グローバルゼーションのなかの 日本文化受容(1)	伊藤公雄	2	1学期
211431	インターフェイス社会学特別演習Ⅱ	グローバルゼーションのなかの 日本文化受容(2)	伊藤公雄	2	2学期
211432	インターフェイス文明学特別演習Ⅰ	西洋思想史研究における日本の思想	Wolfgang Schwentker	2	1学期
211433	インターフェイス文明学特別演習Ⅱ	日本思想史研究における西洋の思想	Wolfgang Schwentker	2	2学期
211434	インターフェイス人類学特別講義Ⅰ	トランスナショナルリティ研究セミナー	小泉潤二・栗本英世ほか	2	1学期
211435	インターフェイス人類学特別講義Ⅱ	トランスナショナルリティ研究セミナー	小泉潤二・栗本英世ほか	2	2学期
211436	インターフェイス共生論特別講義	地域共生論の最前線 ― 臨床現場と語り	渥美公秀	2	1学期

言語文化研究科

授業コード	授業科目名	講義題目	担当教官	単位	開講
300507	言語コミュニケーション論特別研究A	ディスコース研究の理論と実際	津田 葵	2	1学期
300508	言語コミュニケーション論特別研究B	ディスコース研究の理論と実際	津田 葵	2	2学期
300551	言語文化教育論特別研究A	社会的現実の構成と言語発達	西口光一	2	1学期
300552	言語文化教育論特別研究B	社会的現実の構成と言語発達	西口光一	2	2学期

2006年度

博士前期課程

文学研究科

授業コード	授業科目名	講義題目	担当教官	単位	開講時期
204701	インターフェイス人文学講義	社会のなかの人文学	鷲田清一	2	2学期
204730	インターフェイス人文学演習	中東欧モダニズム研究	園府寺 司ほか	2	通年
204710	歴史学方法論講義	歴史学のフロンティア	秋田 茂ほか	4	通年
204720	メディア人文学演習	人文学研究におけるメディア利用実習Ⅰ	園府寺 司ほか	2	1学期
204721	メディア人文学演習	人文学研究におけるメディア利用実習Ⅱ	園府寺 司ほか	2	2学期
203722	社会言語学演習	方言のフィールドワーク	真田信治	4	通年
203702	現代日本語学講義	言語接触論からみた日本語の諸相	工藤眞由美	2	2学期
204317	芸術学総論	芸術と場所	永田 靖ほか	2	1学期

人間科学研究科

授業コード	授業科目名	講義題目	担当教官	単位	開講時期
211312	インターフェイスメディア論特定演習	コミュニケーションに関する理論と方法	前迫孝憲	2	1学期
211313	インターフェイス社会学特定演習Ⅰ	イメージとしての「日本」を考える(Ⅰ)	伊藤公雄	2	1学期
211314	インターフェイス社会学特定演習Ⅱ	イメージとしての「日本」を考える(Ⅱ)	伊藤公雄	2	2学期
211315	インターフェイス文明学特定演習Ⅰ	都市空間と文化理論	Wolfgang Schwentker	2	1学期
211316	インターフェイス文明学特定演習Ⅱ	ハンナ・アーレントと日本政治思想	Wolfgang Schwentker	2	2学期
211317	インターフェイス人類学特講Ⅰ	トランスナショナルリティ研究セミナー	小泉潤二・栗本英世 春日直樹	2	1学期
211318	インターフェイス人類学特講Ⅱ	トランスナショナルリティ研究セミナー	小泉潤二・栗本英世 春日直樹・中川 敏	2	2学期
211319	インターフェイス共生論特講	共生論の最前線 ― 臨床現場と語り	渥美公秀	2	1学期

言語文化研究科

授業コード	授業科目名	講義題目	担当教官	単位	開講時期
300327	応用言語学特論A	応用言語学の可能性	山下 仁	2	1学期
300328	応用言語学特論B	応用言語学の可能性	山下 仁	2	2学期
300229	言語技術特殊研究A	言語とイデオロギー	植田晃次	2	1学期
300230	言語技術特殊研究B	言語とイデオロギー	植田晃次	2	2学期

博士後期課程

文学研究科

授業コード	授業科目名	講義題目	担当教官	単位	開講時期
209700	インターフェイス人文学特殊講義	科学技術と倫理Ⅰ	稲葉 一人ほか	2	1学期
209701	インターフェイス人文学特殊講義	科学技術と倫理Ⅱ	稲葉 一人ほか	2	2学期
209721	インターフェイス人文学特殊講義	〈公共〉への参加と対話:誰のための科学?	渥美公秀ほか	2	2学期
209730	インターフェイス人文学特殊講義	社会のなかの人文学	鷲田清一	2	2学期
209760	インターフェイス人文学特殊演習	中東欧モダニズム研究	関府寺 司ほか	2	通年
209740	歴史学方法論特殊講義	歴史学のフロンティア	秋田 茂ほか	4	通年
209750	メディア人文学特殊演習	人文学研究におけるメディア利用実習Ⅰ	関府寺 司ほか	2	1学期
209751	メディア人文学特殊演習	人文学研究におけるメディア利用実習Ⅱ	関府寺 司ほか	2	2学期
206146	日本学研究方法論特殊演習	日本研究の展開	富山一郎ほか	4	通年
206144	文化交流史特殊演習	歴史記述にかかわる理論的諸問題1	富山一郎	2	1学期
206145	文化交流史特殊演習	歴史記述にかかわる理論的諸問題2	富山一郎	2	2学期
208721	社会言語学特殊演習	方言のフィールドワーク	真田信治	4	通年
208702	現代日本語学特殊講義	言語接触論から見た日本語の諸相	工藤真由美	2	2学期
209350	芸術学総論	芸術と場所	永田 靖ほか	2	1学期

人間科学研究科

授業コード	授業科目名	講義題目	担当教官	単位	開講時期
211430	インターフェイス社会学特別演習Ⅰ	イメージとしての「日本」を考える(Ⅰ)	伊藤公雄	2	1学期
211431	インターフェイス社会学特別演習Ⅱ	イメージとしての「日本」を考える(Ⅱ)	伊藤公雄	2	2学期
211432	インターフェイス文明学特別演習Ⅰ	都市空間と文化理論	Wolfgang Schwentker	2	1学期
211433	インターフェイス文明学特別演習Ⅱ	ハンナ・アーレントと日本政治思想	Wolfgang Schwentker	2	2学期
211434	インターフェイス人類学特別講義Ⅰ	トランスナショナルリティ研究セミナー	小泉潤二、栗本英世、春日直樹	2	1学期
211435	インターフェイス人類学特別講義Ⅱ	トランスナショナルリティ研究セミナー	小泉潤二、栗本英世、春日直樹、中川 敏	2	2学期
211436	インターフェイス共生論特別講義	共生論の最前線 ― 臨床現場と語り	渥美公秀	2	1学期

新聞・テレビ等の報道、出演 他

メンバーの肩書きについてはI部「研究メンバー一覧」を参照のこと。

日付	媒体	媒体名・掲載タイトル	内 容	メンバー	グループ
2004.9.24	雑誌	『週間読書人』2555号 「多様な関わりようを教える — 互いに異質であることの 認識の共有」	伊井春樹編『国際日本文学研究報告集』 (第一巻『国際化の中の日本文学研究』、第二巻 『日本文学 翻訳の可能性』、第三巻『海外にお ける源氏物語の世界 — 翻訳と研究 —』) に関する秋山虔東京大学名誉教授による書評 (同書は本プログラム2002-2003年度の成果の 一部である)	伊井春樹 (2002- 2003年度 事業推進 担当者)	イメージとしての〈日本〉
2004.10.5	新聞	京都新聞	「イメージとしての〈日本〉 若手研究者交流ワーク ショップ」についての紹介		イメージとしての〈日本〉
2005.2.24	新聞	読売新聞夕刊 「阪大「コミュニケーションデ ザイン・センター」4月開設 — 鷺田清一大学院教授: 「圏外」の他者と向き合おう」	大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 設立の理念について、木村未来記者によるイン タビュー	鷺田清一 ほか	臨床と対話
2005.4.10	TV	NHK教育 「新日曜美術館 ゴッホ 天才の挑戦」	番組制作協力ならびに「ゴッホ展」会場での トーク、解説	園府寺 司	モダニズムと中東欧の 藝術・文化
2005.4.18	TV	NHK BS 「迷宮美術館 52回 あなたの しらないゴッホの素顔」	企画協力ならびに「ゴッホ展」会場からの作品等 紹介・解説	園府寺 司	モダニズムと中東欧の 藝術・文化
2005.4.27	新聞	毎日新聞 「大阪大学コミュニケーショ ンデザイン・センター／社会 と大学、連携の軸に — 専 門家と一般市民の溝「対話」 で埋める方策模索」(「キャ ンパスナウ」)	大阪大学コミュニケーションデザイン・センター による社会学連携の取り組みについて。 池田知隆記者署名記事	鷺田清一 ほか	臨床と対話
2005.5.6	TV	NHK総合 「スタジオパークからこんに ちは」	「ゴッホ展」紹介	園府寺 司	モダニズムと中東欧の 藝術・文化
2005.6.4	ラジオ	NHKラジオ第一 全国 「かんさい土曜ホットタイム」	ファン・ゴッホ研究暦、「ゴッホ展」企画などに ついての鼎談	園府寺 司	モダニズムと中東欧の 藝術・文化
2005.6.10	TV	NHK総合 「ぐるっと関西おひるまえ」	「ゴッホ展」紹介	園府寺 司	モダニズムと中東欧の 藝術・文化
2005.11.4	新聞	朝日新聞 「米牛肉問題 阪大院生ら 「模擬会議」 — 「専門家」の 役割実感」(「文化」)	大阪大学コミュニケーションデザイン・センター が行った試行プログラムの一つ「模擬コンセンサ ス会議」に関する織井優佳記者署名記事		臨床と対話

2005.11.21	新聞	日本経済新聞 「阪大、社会の理解求め新センター ― 市民と対話できる力磨け ― 科学技術への理解拡大願い、説明、分かりやすく」(「大学が動く／ウェブ関西」)	大阪大学コミュニケーションデザイン・センターの活動に関する本田幸久記者の署名記事	中岡成文 小林傳司 渥美公秀	臨床と対話
2006.8.22	新聞	朝日新聞 「臨床の歴史学」に熱気(阪大) 高校教員120人、意見交換	第4回全国高校歴史教育研究会に関する渡辺延志記者署名記事。森安・平の講義を詳しく紹介。	桃木至朗 秋田 茂 森安孝夫 平 雅行	世界システムと 海域アジア交通
2006.11.3	新聞	朝日新聞夕刊 「テーブルトーク」コーナー	伊藤 遊がインタビューイとして登場。「イメージとしての〈日本〉」研究プロジェクトのひとつであるオーストラリアでのマンガ読者調査の結果などを紹介。	伊藤 遊	イメージとしての〈日本〉
2006.11.4	新聞	リビング京都 東南 2006年11月4日号特集「情報」の宝庫 図書館が面白い!	伊藤 遊がインタビューイとして登場。京都国際マンガミュージアムの概要紹介と同時に、日本におけるマンガ文化隆盛の背景としての大人／子ども文化境界曖昧性についての解説。	伊藤 遊	イメージとしての〈日本〉
2006.11.17	新聞	読売新聞夕刊 「阪大 高校世界史の講義」	来年度に全学共通教育で開講予定の、高校世界史の修得を前提にしない「市民のためのアジア史」「市民のためのヨーロッパ史」に関する紹介(同様の記事は、共同通信が配信した地方紙数社にも掲載)		世界システムと 海域アジア交通
2006.11.22	新聞	読売新聞 「マンガ世界へ発信拠点」	伊藤 遊がインタビューイとして登場。京都国際マンガミュージアムの紹介と伊藤の研究テーマ等について。	伊藤 遊	イメージとしての〈日本〉
2006.11.23	新聞	読売新聞 「『歴史は暗記』イメチェン(大阪大) 高校教師向け研修会」	第4回全国高校歴史教育研究会および大阪大学歴史教育研究会に関する岡本公樹記者署名記事。	桃木至朗	世界システムと 海域アジア交通
2006.12.1	新聞	京都市総合企画局市長公室 広報課「市民新聞」 2006年12月1日号 「京に輝く」コーナー	表 智之がインタビューイとして登場。京都国際マンガミュージアムの概要紹介と同時に、ポピュラーカルチャーとしてのマンガの日常性について解説。	表 智之	イメージとしての〈日本〉
2006.12.7	新聞	朝日新聞夕刊 「高校の地理歴史 学ぶべきは何? ― 専門家に提言・考えを聞く」	地理・日本史・世界史の専門家各1人へのインタビューを中心とする小林正典記者署名記事。うち世界史に桃木へのインタビューを掲載。	桃木至朗	世界システムと 海域アジア交通
2006.12.7	雑誌	『週刊新潮』 「タウン」コーナー	伊藤 遊がインタビューイとして登場。京都国際マンガミュージアムの所蔵資料を紹介すると同時に、エロマンガ雑誌の歴史について解説。	伊藤 遊	イメージとしての〈日本〉
2006.12.16	新聞	朝日新聞夕刊 「大学2割で『高校補習』 『授業で困る』世界史や数学」	各大学での高校補習的授業の動向について紹介した阪本輝昭記者署名記事。阪大の「市民のためのアジア史」「市民のためのヨーロッパ史」にも言及。	桃木至朗	世界システムと 海域アジア交通

2006.12.27	新聞	朝日新聞 2006年12月27日連載 「まんが熱京」	表 智之がインタビューイとして登場。絶版マンガ本について解説。	表 智之	イメージとしての〈日本〉
2007.1.2	雑誌	京都商工会議所 『京ビジネスレビュー』 2007年1月2日(N0.673)号	表 智之がインタビューイとして登場。日常生活におけるマンガ研究のあり方の展望と、市民参加型施設としての京都国際マンガミュージアムの役割について解説。	表 智之	イメージとしての〈日本〉
2007.2	雑誌	日本経済新聞社 『日経トレンドイ』 2007年2月号	表 智之がインタビューイとして登場。京都国際マンガミュージアムの概要紹介と同時に、コミュニケーションツールとしてのマンガについて解説。	表 智之	イメージとしての〈日本〉
2007.2.19	新聞	朝日新聞 「『中央ユーラシア』史観 『シルクロードと唐帝国』の 森安孝夫氏に聞く 騎馬遊 牧民が主役の前近代アジア」	森安の新著(講談社「興亡の世界史」第5巻)を詳しく紹介した渡辺延志記者の署名記事。	森安孝夫	世界システムと 海域アジア交通
2007.3.6	新聞	朝日新聞夕刊 「歴史教育をどうするのか 学ぶ意味が見える工夫を 大量の暗記求める入試見直 せ」	歴史教育の再建に関する桃木の提言を掲載	桃木至朗	世界システムと 海域アジア交通
2007.3.11	新聞	朝日新聞 3月11日・19日・26日 「紙上特別講義」	3週連続で各分野の研究者にインタビューするシリーズに桃木が出演(阪本輝昭記者担当)	桃木至朗	世界システムと 海域アジア交通
2007.3.18	ラジオ	京都三条ラジオカフェ 「日曜午後の遊び時間」	トーク番組のゲストとして伊藤 遼が登場。 京都国際マンガミュージアムで企画中のイベント「KYOTO MANGA FESTA」について解説すると共に、マンガがペーパーメディアにとどまらない文化であることを解説。	伊藤 遼	イメージとしての〈日本〉

個人業績一覧

第2部 031ページ～062ページに含まれる業績は原則として除きます。

岐路に立つ人文学

著書(編著・単著・共著の図書等)

- 鷺田清一 『教養としての「死」を考える』, 洋泉社, 2004/4
- 鷺田清一 『ことばの顔』, 中公文庫, 中央公論新社, 2004/4
- 鷺田清一 『ちくはぐな身体——ファッションって何?』, ちくま文庫, 筑摩書房, 2005/1
- 鷺田清一 (共編著)『表象としての身体』(野村雅一氏との共編著) 叢書《身体と文化》第3巻, 大修館書店, 2005/7
- 鷺田清一 『〈想像〉のレッスン』, NTT出版ライブラリー・リゾナント015, NTT出版, 2005/10
- 鷺田清一 『てつがくを着て、まちを歩こう』, ちくま学芸文庫, 筑摩書房, 2006/6
- 鷺田清一 『感覚の幽い風景』, 紀伊國屋書店, 2006/7
- 鷺田清一 『「待つ」ということ』, 角川選書, 角川学芸出版, 2006/8
- 鷺田清一 (共編著)『身体をめぐるレッスン(全4巻)』(荻野美穂・石川准・市野川容孝氏との共編著), 岩波書店, 2006/11-2007/2
- 鷺田清一 (責任編集)『「夢みる身体 Fantasy」(身体をめぐるレッスン・1)』, 岩波書店, 2006/11
- 中岡成文 (共著)『生命, 第1章 講義の七日間——生命に肉薄する言葉』(岩波応用倫理学講義第1巻), 岩波書店, 2004/7
- 中岡成文 (共著)『ケアの社会倫理学——医療・看護・介護・教育をつなぐ、第6章 臨床哲学とケア』, 有斐閣選書, pp. 181-200, 2005/8
- 入江幸男 (共著)「倫理」, 『ドイツ観念論を学ぶ人のために』, 世界思想社, pp. 144-157, 2006/1
- 上野 修 『スピノザの世界——神あるいは自然』, 講談社, 2005/4/1
- 上野 修 (共編著)「第3部第2章 スピノザと真理」, 『真理の探究——17世紀合理主義の射程』, 知泉館, pp. 155-176, 2005/6
- 上野 修 『スピノザ——「無神論者」は宗教を肯定できるか』, 日本放送出版協会, 2006/7/2
- 須藤訓任 (共著)「学説と人格のあわい——「哲学史」の成立条件を求めて」, 『西洋哲学史観と時代区分』, 昭和堂, pp. 265-311, 2004/10

- 須藤訓任 (共著)「美のかたち——身体性の観点から」, 竹市明弘・小浜善信編『哲学は何を問うべきか』, pp. 225-244, 晃洋書房, 2005/10
- 檜垣立哉 『生と権力の哲学』, ちくま新書, 筑摩書房, 2006/5
- 檜垣立哉 (共著)『生命と現実 木村敏との対話』, 河出書房新社, 2006/10
- 舟場保之 (共著)「カントにコミュニケーション合理性を読み込む可能性について」, 御子柴善之・檜垣良成編『理性への問い』, 晃洋書房, pp. 119-139, 2007/1
- 紀平知樹 (共著)『ポストモダン時代の倫理』, ナカニシヤ出版, 2007
- 田中朋弘 (共編著)『ビジネス倫理学——哲学的アプローチ』, ナカニシヤ出版, 2004
- 田中朋弘 (共著)『生命・情報・機械』, 九州大学出版会, 2005
- Tanaka, Tomohiro (共著) *TAKING LIFE AND DEATH SERIOUSLY- BIOETHICS FROM JAPAN*, Elsevier, 2005
- 田中朋弘 (共著)『岩波応用倫理学講義 第四巻 経済』, 岩波書店, 2005
- 直江清隆 (共著) 東洋大学哲学科編『哲学をつくる』, 知泉書館, 2005
- 直江清隆 (共著) 新田孝彦・蔵田伸雄・石原孝二編『科学技術倫理を学ぶ人のために』, 世界思想社, 2005
- Naoe, Kiyotaka (共著) Pieter Vermaas, Peter Kroes, Andrew Light, Steven Moor (eds), *Philosophy and Design: From Engineering to Architecture*, Springer, 2007.
- 納富信留 『哲学者の誕生——ソクラテスをめぐる人々』, ちくま新書, 2005/8
- 納富信留 『ソフィストとは誰か?』, 人文書院, 2006/9

■ 定期刊行物に掲載された論文

- 鷺田清一 「〈民族〉と〈モード〉」, 『民族藝術』, 20, 民族藝術学会, pp. 36-40, 2004/3
- 鷺田清一 「法の声、声の法」, 『法社会学』, 60, 日本法社会学会, pp. 14-23, 2004/3
- 鷺田清一 「働くことの意味?」, 『倫理学研究』, 34, 関西倫理学会, pp. 23-32, 2004/4
- 鷺田清一 「身体クライシス」, 『大航海』, 53, 新書館, 2005/1
- 鷺田清一 「〈健康〉と現代社会」, 『理学療法学』, 32 (1), 日本理学療法学会, pp. 6-10, 2005/2
- 鷺田清一 「メディアと感情の交差」, 『科学』, 岩波書店, pp. 742-745, 2005/6
- 鷺田清一 「社会学連携の新しいかたち——大阪大学コミュニケーションデザイン・センターの実験」, 『21世紀フォーラム』, 100, 政策科学研究所, pp. 12-19, 2005/12
- 鷺田清一 「〈老い〉はまだ空白のままである」, 『中央公論』, 2006年1号, 中央公論新社, pp. 229-235, 2006/1
- Washida, Kiyokazu “Senior Care Is Not a “Problem””, *JAPAN ECHO*, 33(2), pp. 53-55, 2006/4
- Washida, Kiyokazu “Cuidar a los mayores no es un problema”, *GUADERNOS DE JAPÓN*, Volumen XIX, número 2, Inter-Edit, Cirlulo Internacional de Editores, p. 35-37, 2006/7

- 鷺田清一 「可逆的? (1) 癖と方法」, 『WEBちくま』, 筑摩書房, 2006/6/9
- 鷺田清一 「可逆的? (2) 〈顔〉の秘密」, 『WEBちくま』, 筑摩書房, 2006/6/23
- 鷺田清一 「可逆的? (3) 〈顔〉の秘密 (承前)」, 『WEBちくま』, 筑摩書房, 2006/7/7
- 鷺田清一 「可逆的? (4) こころの在り処」, 『WEBちくま』, 筑摩書房, 2006/7/21
- 鷺田清一 「可逆的? (5) こころの在り処 (承前)」, 『WEBちくま』, 筑摩書房, 2006/8/11
- 鷺田清一 「可逆的? (6) こころの在り処 (承前2)」, 『WEBちくま』, 筑摩書房, 2006/8/25
- 鷺田清一 「可逆的? (7) 所有の逆説」, 『WEBちくま』, 筑摩書房, 2006/9/22
- 鷺田清一 「可逆的? (8) 所有の逆説 (承前)」, 『WEBちくま』, 筑摩書房, 2006/10/21
- 鷺田清一 「可逆的? (9) 自由の隘路」, 『WEBちくま』, 筑摩書房, 2006/11/17
- 鷺田清一 「可逆的? (10) 自由の隘路 (承前)」, 『WEBちくま』, 筑摩書房, 2006/12/8
- 鷺田清一 「可逆的? (11) 多様性という名のアパルトヘイト」, 『WEBちくま』, 筑摩書房, 2007/1/19
- 鷺田清一 「可逆的? (12) 多様性という名のアパルトヘイト (承前)」, 『WEBちくま』, 筑摩書房, 2007/2/16
- 中岡成文 「「倫理なんて」という前に」, 『図書』, 664, pp. 12-15, 2004/8
- 中岡成文 「大学における科学技術コミュニケーション教育」, *Science & Technology Journal*, 14/4, pp. 22-23, 2005/4
- 中岡成文 「科学論から1930年代を見る —— 下村寅太郎の思想を中心に」, 『日本思想史学』, 37, pp. 20-28, 2005/9
- 中岡成文 「倫理 (学) 的实践の新展開 —— 「コミュニケーションデザイン」をめぐる ——」, 『倫理学研究』, 36, pp. 143-168, 2006
- 入江幸男 「相互知識はいかにして可能か」, 『アルケー』, 12, 関西哲学会, pp. 54-67, 2004/7
- 入江幸男 「後期フイヒテの『現象論』について」, 『フイヒテ研究』, 12, 日本フイヒテ協会, pp. 4-12, 2004/12
- 入江幸男 「三つの「なぜ」の根は一つか」, 『メタフシカ (別冊)』, 35, 大阪大学大学院文学研究科哲学講座, pp. 59-68, 2004/12
- Irie, Yukio „Der transzendente Beweis der Sittlichkeit bei Fichte“, *Philosophia OSAKA*, 1, Published by Philosophy and History of Philosophy / Studies on Modern Thought and Culture Division of Studies on Cultural Forms, Graduate School of Letters, Osaka University, pp. 13-22, 2006/3
- 入江幸男 「知を共有するとはどういうことか」, 『メタフシカ』, 37, 2007/3
- 上野 修 「コギトの確実性 —— 様相の観点から ——」, 『メタフシカ』, 35, 大阪大学大学院文学研究科哲学講座, pp. 1-12, 2004/12
- 上野 修 「必然、永遠、そして現実性 —— スピノザの必然主義」, 『スピノザーナ』, 6, pp. 5-21, 2005/3
- Ueno, Osamu “The Certainty of the Cogito: A Modal Perspective”, *Philosophia OSAKA*, 1, pp. 1-12, 2006/3
- 上野 修 「現実性と必然性 —— スピノザを様相的観点から読み直す」, 『哲学』, 57, pp. 77-92, 2006/4

- Ueno, Osamu “Spinoza on Prophetic Certainty”, *Philosophia* OSAKA, 2, pp. 63-83, 2007
- 須藤訓任 「人間において最善なところ」,『アルケー』,13, 関西哲学会編, pp. 30-45, 2005/6
- 須藤訓任 「『習俗の倫理』について——ニーチェの「遠近法主義」の前景と背景——」,『メタフュシカ』,36, 大阪大学大学院文学研究科哲学講座, pp. 1-13, 2005/12
- Suto, Norihide „Erlebnis und Gedanke der ewigen Wiederkehr des Gleichen bei Nietzsche“, *Philosophia* OSAKA, 1, pp. 23-31, 2006/3
- 檜垣立哉 「『人間』が解体される場所」,『ちくま』,6月号, 筑摩書房, pp. 14-15, 2006/6
- 檜垣立哉 「ドゥルーズとメルロ＝ポンティ」,『メルロ＝ポンティ研究』,メルロ＝ポンティサークル, pp. 19-32, 2006/7
- 檜垣立哉 「顔の彼方の生」,『哲学雑誌』,第121巻(793号),「レヴィナス——ヘブライズムとヘレニズム」,有斐閣, pp. 81-99, 2006/9
- 檜垣立哉 「身体の何が構築されるのか」,『現代思想』,10月臨時増刊, 青土社, pp. 108-115, 2006/10
- 檜垣立哉 「第三の時間について——ドゥルーズの時間論」,『思想』, 岩波書店, pp. 4-20, 2007/2
- 檜垣立哉 「〈生の哲学〉における身体・空間論の展開」,『年報人間科学』, 2006/3
- 舟場保之 「『本音主義批判』とコミュニケーション」,『情況』, 情況出版, pp. 102-108, 2004/5
- 舟場保之 「応答可能性としての責任とカント」,『日本カント研究5——カントと責任論』,日本カント協会, pp. 23-37, 2004/7
- 舟場保之 「カント実践哲学のコミュニケーション論的転回へ向けて」,『別冊情況——特集カント没後200年』, 情況出版, pp. 201-211, 2004/12
- Funaba, Yasuyuki „Zur Möglichkeit des unvollendeten Projekts der Moderne“, *Philosophia* OSAKA, 1, pp. 57-64, 2006/3
- Funaba, Yasuyuki „Die Kantische Philosophie aus der Sicht der kommunikativen Rationalität“, *Philosophia* OSAKA, 2, pp. 85-96, 2007
- 舟場保之 「カントによる死刑制度擁護論からの抜け道を求めて」,『倫理学研究』,37, 関西倫理学会, pp. 16-22, 2007
- 紀平知樹 「フッサール現象学における自明性——排中律の擁護と意識の目的論的構造」,『待兼山論叢(哲学篇)』,40, 2006/1
- 田中朋弘 「内部発号とはどのような義務か」,『倫理学研究』,35, 関西倫理学会, pp. 44-55, 2005
- 直江清隆 「人間生態系と役割論」,『情況』,3(5-11), pp. 152-175, 2004
- 直江清隆 「近代技術と環境の倫理」,『地球に未来を』,11, pp. 19-34, 2004
- 直江清隆 「技術と善き生」,『東北哲学会年報』,11, pp. 53-62, 2005
- 直江清隆 「機能と意図の問題圏に寄せて」, *Moralia*, 13, pp. 1-14, 2006

- 直江清隆 「技術倫理からみた臨床研究の問題」,『臨床倫理学』,4,臨床倫理検討システム開発プロジェクト+プロジェクト研究《医療システムと倫理》,pp. 79-83,2007
- 納富信留 「魂にとって “知る” とは何か?」,哲学若手研究者フォーラム『哲学の探求』(2004年度 哲学若手研究者フォーラム論文集),32,pp. 17-28,2005/5
- 納富信留 「プラトン『国家』の新しい校訂版について——S. R. Slings, Platonis Rempublicam, OCT——」;
付,資料:プラトン『国家』第一巻のテキストについて——Slings新校訂と旧校訂との異同」,
『フィロロギカ——古典文献学のために』,1,フィロロギカ編集委員会,pp. 99-119,2006/5
- 納富信留 「哲学者となること——栗原裕次「記憶と対話」への応答——」,『ベディラヴィウム』,60,ベディラヴィウム会,pp. 86-95,2006/12

■ 定期刊行物以外(論文集、報告書、図書等)に収録された論文

- 鷺田清一 「ヘーゲルとフランス実存主義」,今村仁司・座小田豊編『知の教科書 ヘーゲル』,講談社選書メチエ,pp. 154-165,2004/3
- 鷺田清一 「ヒト胚利用の恩恵が、いかに多大でも、「倫理」をしのぐことにはならない」,文藝春秋編『日本の論点2005』,文藝春秋,2004/11
- 鷺田清一 「(1) イメージと表面 (2) モード化される身体」,徳丸吉彦・青山昌文編『芸術・文化・社会』,放送大学教育振興会,pp. 24-38,2006/3
- 鷺田清一 「身体という幻」,^{ファンタズム}「顔」,この所有しえないもの」,鷺田清一編『身体をめぐるレッスン・1 夢みる身体』,岩波書店,pp. vii-xv,221-248,2006/11
- 入江幸男 「グローバル化の中での社会問題と公共性」,『哲学的概念としてのグローバリゼーションとローカリゼーション』(2002年度-2004年度科学研究費補助金・基盤研究(B)(2)研究成果報告書/代表:溝口宏平),pp. 19-27,2005/3
- 檜垣立哉・小泉義之(対談)「西田から「哲学」を再開するために」,『Kawade道の手帳 西田幾多郎』,河出書房新社,2005/7
- 檜垣立哉 「ドゥルーズの政治学とは何か、何であるべきか」,『Kawade道の手帳 ドゥルーズ』,河出書房新社,2005/1
- 舟場保之 「ハーバーマースは十分に普遍主義的か」,『哲学的概念としてのグローバリゼーションとローカリゼーション』(2002年度-2004年度科学研究費補助金(B)(2)研究成果報告書),pp. 82-91,2005/3
- 舟場保之 「トラブルと理性の公的使用」,『現代におけるグローバル・エシックス形成のための理論的研究』(2003年度-2006年度科学研究費補助金基盤研究(B)中間報告書),pp. 1-6,2005/9
- 舟場保之 「『9.11』とフェミニストによるアーレント再読」,『現代におけるグローバル・エシックス形成の

- ための理論的研究』(2003年度-2006年度科学研究費補助金基盤研究(B) 中間報告書), pp. 53-55, 2005/9
- 舟場保之 「『グローバル・エシックスとは何か?』をどのように問うのか?」, 『現代におけるグローバル・エシックス形成のための理論的研究』(2003年度-2006年度科学研究費補助金・基盤研究(B)(2) 研究成果報告書/代表: 舟場保之), pp. 20-27, 2007
- 紀平知樹 「持続可能な開発としてのエコツーリズム」, 田中朋弘・柘植尚則編『ビジネス倫理学』, ナカニシヤ出版, pp. 145-173, 2004/11
- 紀平知樹 「均された世界と生——自然科学と開発による生活世界の喪失」, 『哲学的概念としてのグローバル化とローカリゼーション』(2002年度-2004年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2)) 研究成果報告書/研究代表者: 溝口公平), pp. 28-38, 2005/3
- 紀平知樹 「フッサール」, 村松茂美・小泉尚樹・嵯峨一郎編『はじめて学ぶ西洋思想——思想家たちとの対話』, ミネルヴァ書房, pp. 193-199, 2005/3
- 紀平知樹 「生物多様性の保全と持続的な利用」, 『擬似法的な倫理からプロセスの倫理へ——「生命倫理」の臨床哲学的変換の試み』(2003年度-2006年度科学研究費補助金基盤研究(B) 研究成果中間報告書/研究代表者: 紀平知樹), pp. 79-95, 2006/3
- 紀平知樹 「自然との別の関係を求めて」, 大阪大学大学院文学研究科広域文化形態論報告書『現代社会とコミュニケーション』, 2007
- 田中朋弘 「ビジネスという倫理空間——ビジネス・エシックス教育の方法」, 『臨床コミュニケーションモデルの開発と実践』(平成14・15年度科学技術振興調整費研究報告書/研究代表者: 鷺田清一), pp. 229-237, 2004
- 直江清隆 「フォード・ピント事件」, 『経済倫理の諸伝統の比較研究』(科学研究費補助金中間報告書), pp. 153-161, 2005
- 直江清隆 「状況に「くしかるべく」応じた行為」, 東洋大学哲学科『哲学をつくる』, 知泉書館, pp. 191-219, 2005
- 直江清隆 「技術の哲学と倫理」, 新田孝彦・蔵田伸雄・石原孝二編『科学技術倫理を学ぶ人のために』, 世界思想社, pp. 149-173, 2005
- Naoue, Kiyotaka “Design Culture and Acceptable Risk”, Pieter Vermaas, Peter Kroes, Andrew Light, Steven Moor (eds), *Philosophy and Design: From Engineering to Architecture*, Springer, 2007
- 納富信留 「プラトン」, 東洋大学哲学科編『東洋大学哲学講座2 哲学を使いこなす』, 知泉書館, pp. 3-32, 2004/6
- Notomi, Noburu “Images of Socrates in Japan: A Reflection on the Socratic Tradition”, Livio Rossetti ed. *Greek Philosophy in the New Millennium, Essays in Honour of Thomas M. Robinson, Studies in Ancient Philosophy* 6, Academia Verlag, Sankt Augustin, pp. 175-186, 2004/7

- Notomi, Noburu “Ethical Examination in Context: The Criticism of Critias in Plato’s Charmides”, Maurizio Migliori, Linda M. Napolitano Valditara edd., Davide Del Forno co-editor, *Plato Ethicus: Philosophy is Life* (Proceedings of the International Colloquium Piacenza (Italy) 2003), *Lecturae Platonis*, 4, Academia Verlag, Sankt Augustin, pp. 245-254, 2004/7
- 納富信留 「ソフィストの挑戦——ゴルギアス『ないについて』の反哲学」, 慶応義塾大学言語文化研究所 飯田隆編『西洋精神史における言語と言語観——継承と創造』, 慶応義塾大学出版会, pp. 151-190, 2006/3
- 納富信留 (共著)「プラトン『国家』の対話設定年代について」, 『古典古代史の近年の動向に対応したギリシャ・ローマ思想史ならびに文学史の書きかえ』(平成14-17年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書/研究代表者: 逸身喜一郎), 東京大学大学院人文社会系研究科, pp. 11-58, 2006/3
- Notomi, Noburu “Plato’s Metaphysics and Dialectic”, Mary Louise Gill and Pierre Pellegrin (eds.), *A Companion to Ancient Philosophy* (Blackwell Companions to Philosophy), Blackwell Publishing, Malden, Oxford, and Carlton, pp. 192-211, 2006/6
- 納富信留 「他者との対話としての哲学」, 三井善止編『他者のロゴスとパトス』, 玉川大学出版部, pp. 39-64, 2006/10

エッセー・評論・翻訳・書評・解説・事典(辞典)項目、その他

- 鷺田清一 (解説)「双児のころごし 鎌田實・高橋卓志『生き方のコツ、死に方の選択』」, 集英社文庫, 2004/5
- 鷺田清一 「(1) ホームレスな生活」, 『エクスナレッジ』1, 2004/5
- 鷺田清一 「(2) 巣の建築?」, 『エクスナレッジ』2, 2004/7
- 鷺田清一 「(3) 闘(しきい)」, 『エクスナレッジ』3, 2004/11
- 鷺田清一 (書評)「現代社会憂う成熟した知性のささやき チャールズ・テイラー『〈ほんもの〉という倫理』」, 『朝日新聞』朝刊, 2004/4/18
- 鷺田清一 「待つということ(1) 待ちきれなくて」, 『本と旅人』, 角川書店, 2004/5
- 鷺田清一 「待つということ(2)「わたし、もうこれ以上待てないわ」」, 『本と旅人』, 角川書店, 2004/6
- 鷺田清一 「待つということ(3)「わたしには、行くところがありません」」, 『本と旅人』, 角川書店, 2004/7
- 鷺田清一 「待つということ(4)「ジャガーさんよ、ファンをいつまでからかってんだ」」, 『本と旅人』, 角川書店, 2004/8
- 鷺田清一 「待つということ(5)「待つ身が辛いかね、待たせる身が辛いかね」」, 『本と旅人』, 角川書店

- 店, 2004/10
- 鷺田清一 「待つということ (6) 「忘れてええことと、忘れたらあかんことと、ほいから忘れなあかんこと」, 『本と旅人』, 角川書店, 2004/11
- 鷺田清一 「待つということ (7) 「あなたが言いよんでいるのは、こういうことじゃないの?」, 『本と旅人』, 角川書店, 2004/12
- 鷺田清一 「待つということ (8) 待機中」, 『本と旅人』, 角川書店, 2005/2
- 鷺田清一 「待つということ (9) 「期待していいの?」, 『本と旅人』, 角川書店, 2005/3
- 鷺田清一 (翻訳) 「B・ヴァルデンフェルス『講義・身体現象学——身体としての自己』 (*Das leibliche Selbst, Vorlesungen zur Phänomenologie des Leibes*)」, (山口一郎氏との共同監訳), 知泉書館, 2004/4
- 鷺田清一 (書評) 「建築の「強さ」とことん検証の評論集 隈研吾『負ける建築』」, 『朝日新聞』朝刊, 2004/5/30
- 鷺田清一 (書評) 「伝わらない不安直視する「対話」 平田オリザ『地図を創る旅——青年団と私の履歴書』」, 『朝日新聞』朝刊, 2004/6/13
- 鷺田清一 (書評) 「切迫感漂う亡き師の「総括」 熊野純彦『戦後思想の一断面——哲学者廣松渉の軌跡』」, 『朝日新聞』朝刊, 2004/6/27
- 鷺田清一 (書評) 「三角測量と強靱な視線が生む「語り」 川田順造『人類の地平から』『アフリカの声』『人類学的認識論のために』」, 『朝日新聞』朝刊, 2004/9/19
- 鷺田清一 (書評) 「「福祉」の未来を見つめる格闘と葛藤 落合恵子『母に歌う子守唄』」, 『朝日新聞』朝刊, 2004/10/31
- 鷺田清一 (書評) 「湯沢英彦『クリスチャン・ボルタンスキー』」, 『朝日新聞』朝刊, 2005/11/14
- 鷺田清一 (解説) 「「食べないと死ぬ」から「食べると死ぬ」へ」, 「十代に何を食べたか」, 平凡社ライブラリー, 2004/12
- 鷺田清一 (書評) 「青木淳『原っぱと遊園地』」, 『朝日新聞』朝刊, 2005/1/9
- 鷺田清一 (書評) 「向こうから「乗りだして」くる顔 J.L. ナンシー『肖像の眼差し』」, 『朝日新聞』朝刊, 2005/1/23
- 鷺田清一 (書評) 「「みつともない」からやめるのです 村上陽一郎『やりなおし教養講座』」, 『朝日新聞』朝刊, 2005/2/20
- 鷺田清一 (書評) 「えらぶらず、ぎりぎりまで考える 福田定良遺稿集『堅気の哲学』」, 『朝日新聞』朝刊, 2005/3/20
- 鷺田清一 (解説) 「南木佳士『神かくし』」, 文春文庫, 文藝春秋, 2005/4
- 鷺田清一 (書評) 「木田元『新人生論ノート』」, 『日本経済新聞』朝刊, 2005/4/10
- 鷺田清一 (書評) 「明るく薄っぺらな「晴れ舞台」を徹底解剖 榎木野依『戦争と万博』」, 『朝日新聞』朝

刊, 2005/4/24

鷺田清一 (書評)「『人生まるごと』の仕事人を訪ねる旅 秋山真志『職業外伝』」,『朝日新聞』朝刊, 2005/5/15

鷺田清一 (書評)「『似ている』から始まる思考の魅力 松田行正『眼の冒険——デザインの工具箱』」,『朝日新聞』朝刊, 2005/6/26

鷺田清一 (書評)「『人間よりも進みすぎた』隣人に学びたい 山際寿一『ゴリラ』」,『朝日新聞』朝刊, 2005/7/3

鷺田清一 (書評)「『弱さ』晒す人間同士のいたわりの作法 永沢光雄『声をなくして』」,『朝日新聞』朝刊, 2005/7/31

鷺田清一 (書評)「体験を引き受けなおす真摯な自己描写 宮地尚子『トラウマの医療人類学』」,『朝日新聞』朝刊, 2005/9/18

鷺田清一 (書評)「変化し続ける路上生活者住居の記録 長嶋千聡『ダンボールハウス』」,『朝日新聞』朝刊, 2005/10/23

鷺田清一 (書評)「『微細な応答の積み重ねで「特異」を解く 森岡正芳『うつし／臨床の詩学』」,『朝日新聞』朝刊, 2005/10/30

鷺田清一 (書評)「音楽の「なぜ」を精密に語ることばたち 『グレン・グールド発言集』」,『朝日新聞』朝刊, 2005/11/20

鷺田清一 (書評)「無視されてきた西欧の辺境で小説は進化した ミラン・クンデラ『カーテン——7部構成の小説論』」,『朝日新聞』朝刊, 2005/12/4

鷺田清一 (書評)「見晴らしのよい「最強の民族音楽」史 岡田暁生『西洋音楽史』」,『朝日新聞』朝刊, 2005/12/18

鷺田清一 (書評)「『自己統治』強調で制約がより大きく 齋藤純一『自由』」,『朝日新聞』朝刊, 2006/1/29

鷺田清一 (書評)「市民との公共的な討議で方向の模索を 中島秀人『日本の科学／技術はどこへいくのか』」,『朝日新聞』朝刊, 2006/2/26

鷺田清一 (書評)「『水平的な共生めざす「まつろわぬ」宣言 『ピープルの思想を紡ぐ』」,『朝日新聞』朝刊, 2006/3/19

鷺田清一 (書評)「『静かな革命家』に密着して描いた肖像 瀧口範子『にほんの建築家 伊東豊雄・観察記』」,『朝日新聞』朝刊, 2006/3/26

鷺田清一 (書評)「『味わい本発見 梅原 猛『梅原猛の授業 仏になろう』」,『週刊ポスト』, 1858, 小学館, 2006/4/28

鷺田清一 (解説)「『ノイズでありつつづけること 森岡正博『自分と向き合う「知」の方法』」,ちくま文庫, 筑摩書房, 2006/5

- 鷺田清一 (書評)「こまやかなまなざしと「棒の如き」思索 小澤勲編著『ケアってなんだろう』」,『週刊医学界新聞』,2692,医学書院,2006/7/24
- 鷺田清一 (書評)「古美術と現代芸術、一瞬の交差 太田垣実『京都芸術の新・古・今』」,『京都新聞』朝刊,2006/9/3
- 中岡成文 「コミュニケーションをデザインするとは」,『生産と技術』,57 (3), pp. 63-64, 2005/7
- 入江幸男 (事典項目)「オースティン」,「言語行為」,「批評」,『現代倫理学事典』,弘文堂,2006/12
- 上野 修 「(ブックガイド)『エチカ』」,『現代思想』,32 (11), pp. 48-51, 2004/9
- 上野 修 「スピノザから見える不思議な光景」,『本』,5, pp. 22-4, 2005/4/1
- 上野 修 (書評)「佐藤一郎著『個と無限——スピノザ雑考』」,『フランス哲学・思想研究』,10, pp. 218-221, 2005/8
- 上野 修 「二〇〇五年読書アンケート」,『みすず』,48 (1), p. 84, 2006/2
- 上野 修 「二〇〇六年読書アンケート」,『みすず』,49 (1), p. 57, 2007/2
- 上野 修 (辞典項目)「正義/力」,「論理/信」,「決定論/自由」,「時間/意味」,「個/責任」,「まなざし/人間」,『imidas 2005』, pp. 1198-1201, 2005/1
- 須藤訓任 「リチャード・ウォーリン著『ハイデガーの子どもたち』を読む」,『図書新聞』,263, 図書新聞, 2004/9/11
- 須藤訓任 「「強者」とは誰のことか——ニーチェの場合」,『文知の可能性 日本学会会議哲学系 公開シンポジウム 提題レジュメ集』,第19期日本学会会議哲学研究連絡委員会, 2005/9
- 須藤訓任 (単著・共訳・「解題」執筆担当) ジークムント・フロイト著『フロイト全集 第17巻』,岩波書店, 2006
- 須藤訓任 (事典項目)「うらみ」(p. 74),「負い目」(pp. 90-91),「軽蔑」(pp. 230-231),「媚び」(pp. 303-304),「ショーペンハウアー」(p. 448),「善悪二元論」(pp. 536-537),「憎悪/憎しみ」(p. 549),「ニーチェ」(pp. 663-665),「ニヒリズム」(pp. 666-667),「無」(pp. 814-815),『現代倫理学事典』,弘文堂, 2006
- 舟場保之 (書評) 朝倉輝一『討議倫理学の意義と可能性』,『メタフュシカ(別冊)』,35, 大阪大学大学院文学研究科哲学講座, pp. 145-152, 2004/12
- 舟場保之 (解説)「ハーバーマス」(pp. 249-251),「ロールズ」(pp. 262-268), 村松・小泉・長友・嵯峨編『はじめて学ぶ西洋思想』,ミネルヴァ書房, 2005/3
- 舟場保之 (共訳) A・ホネット著『正義の他者』,法政大学出版局, pp. 93-119, 2005/5
- 舟場保之 (共訳) J・ボーマン, M・ルッツ・パツハマン編『カントと永遠平和』, 未来社, pp. 81-106, 2006/1
- 舟場保之 (書評)「『カントの自我論』を読む。あるいは単純な独我論批判」(中島義道著『カントの自我論』), 御子柴善之・檜垣良成編『理性への問い』, 晃洋書房, pp. 173-178, 2007/1
- 田中朋弘 (共訳) ビーチャム&ボウィ編『企業倫理学 1』, 晃洋書房, 2005

- 直江清隆 (翻訳) フィンバーグ『技術への問い』, 岩波書店, 2004
- 直江清隆 (共訳) ヤニヒ『制作的行為と認識の限界』, 国文社, 2004
- 直江清隆 (共訳) ダンジガー『心を名づけること』, 勁草書房, 2005
- 直江清隆 (事典項目)「科学倫理/研究倫理」, 『応用倫理学事典』, 丸善, 2007
- 直江清隆 (事典項目)「アクターネットワークと責任主体」, 『応用倫理学事典』, 丸善, 2007

講演・口頭発表等

- 鷺田清一 「私たちが住みたい都市 (伊東豊雄・山本理顕氏と)」, 工学院大学連続シンポジウム・1, 工学院大学, 2004/4/10
- 鷺田清一 「『危機』というジャーゴン —— 夢の語り口について」, 大阪大学中之島センター竣工記念講演会, 大阪大学, 大阪大学中之島センター, 2004/4/28
- 鷺田清一 「看護と哲学をつなぐもの」, 愛知医科大学看護学研究科創立記念式典, 愛知医科大学, 2004/5/22
- 鷺田清一 「健康」, 日本理学療法学会, 仙台国際センター, 2004/5/28
- 鷺田清一 「いま協同することの意味」, くらしと協同の研究所2004年総会記念シンポジウム, ハートピア京都, 2004/6/19
- 鷺田清一 「高齢者の心の理解と心のケア」, 平成16年度近畿老人福祉施設研究協議会京都大会, 「施設から地域への発信 新たなケアの方向性をさぐる」第10研究分科会「老いを問い直す」, 国立京都国際会館, 2004/7/27
- 鷺田清一 「めいわくかけてありがとう」, 「第29回近畿知的障害養護学校教育研究大会 (近畿知的障害養護学校教育研究協議会)」, ぱ・る・るプラザ KYOTO, 2004/8/20
- 鷺田清一 「教養としての「死」を考える」, 特別講座シリーズ 「ケアの文化」の創造②, たんぽぽの家, 奈良市男女共同参画センターあすなら, 2004/8/22
- 鷺田清一 「からだの現在」, 日本体育学会第55回大会 (社団法人日本体育学会), 若里市民文化ホール (長野市), 2004/9/25
- 鷺田清一 「ケアにおける専門性」, 第35回日本看護学会 (成人看護I), 名古屋国際会議場, 2004/10/1
- 鷺田清一 「思いを抱えて (震災後10年)」(高木慶子・柳田邦男氏と), 第47回日本病院・地域精神医学会神戸総会「『つなぐ』—— むすぶ手、かよう心、人と人との暮らしづくり」, 神戸国際会議場, 2004/10/2
- 鷺田清一 「専門と臨床のあいだ」(田中毎実・鳥光美緒子氏と), シンポジウム 臨床の人間形成論の構築, 教育哲学会第47回大会, 横浜国立大学, 2004/10/16
- 鷺田清一 「聴くことは疲れるが、でも聴かなければならない —— 聴くことの意味」, 第20回日本歯科医学

- 会総会, パシフィコ横浜, 2004/10/30
- 鷺田清一 「哲学の臨床」, 広島大学総合科学部, 広島大学, 2004/12/22
- 鷺田清一 「生命とは何か、人間とは何か——生命の起源から人間まで」, (佐藤洋一郎・池内了・秋道智弥氏と), 第4回KOSMOSフォーラム「21世紀の新しい生命観を探る」, 財団法人国際花と緑の博覧会記念協会, フェニックスホール(梅田), 2005/2/5
- 鷺田清一 「講演デザインの夢、デザインの責任」, (川崎和男・伊藤志信・D.クリングステット氏と), シンポジウム「世界が求めるデザイン力とは」, フロンティア研究推進機構国際デザインシンポジウム(大阪大学大学院工学研究科フロンティア研究機構), ステラホール(梅田), 2005/2/18
- 鷺田清一 「文化と科学の首都とマニフェストする」, シンポジウム「都市再生デザインと建築」, 日本建築家境界近畿支部, 大阪市中央公会堂, 2005/2/19
- 鷺田清一 「医療の技術、医療の倫理」, 第4回再生医療学会総会, 大阪市公会堂, 2005/2/28
- 鷺田清一 「「めいわくかけて、ありがとう」——「弱い」ということの意味」, 京都歯科学術研究会総会, 2005/5/28
- 鷺田清一 「歩く人文学」(猪木武徳・嘉田由紀子・小林傳司・野村雅一氏と), 人間文化研究機構第1回公開シンポジウム, 2005/6/25
- 鷺田清一 「からだの現在」, 第39回日本作業療法学会, 2005/6/26
- 鷺田清一 「宗教性をめぐって」(河合隼雄・山折哲雄・藤見幸雄氏と), 日本心理臨床学会第24回大会, 2005/9/8
- 鷺田清一 「文化としてのケア」, 西宮看護専門学校創立50周年記念式典, 2005/9/10
- 鷺田清一 「死と臨床」, 平成17年度大阪府医師会基本的医療課題講演会, 2005/9/29
- 鷺田清一 「こころを育む」(安西祐一郎・葛西敬之・遠山敦子・中村桂子氏と), こころを育む総合フォーラム中間報告, 2005/10/7
- 鷺田清一 「弱さについて」, 第36回日本看護学会——地域看護——, 2005/10/29
- 鷺田清一 「専門家と市民のカルチャー・ギャップ」, 第9回関西科学技術セミナー《市民のための科学技術?》, 2005/11/8
- 鷺田清一 「文化としてのケア」, 平成17年度日本看護協会九州地区看護研究学会, 2005/11/12
- 鷺田清一 「分からないことの大切さ」, 大谷大学2005年度宗教シンポジウム, 2005/11/13
- 鷺田清一 「ケアと自己決定」(立岩真也・川本隆史・清水哲郎・上野千鶴子氏と), 東京大学21世紀COEプログラム「死生学の構築」, 2005/11/26
- 鷺田清一 「生命・アート・社会」, アーツ・イン・ヘルスケア学会設立発起人会記念講演会, 2005/12/20
- 鷺田清一 「聴くことの意味」, 和歌山市民会館, 市民公開講座《緩和ケアにおける傾聴》, 第12回日本死の臨床研究会近畿支部会, 2006/1/29

- 鷺田清一 「人が人にかかわるとは?」, 日本看護学会, 仙台国際センター, 2006/7/18
- 鷺田清一 「21世紀の美術教育の軸足をどこに置くか——共生・感受性・アート」, 第46回大学美術教育学会新潟大会, 新潟大学, 2006/9/3
- 鷺田清一 「科学技術と死生観——命領域の技術化を問う」(岩槻邦男・中畑龍俊・位田隆一氏と), KOSMOSフォーラム《21世紀の新しい人間観を探る》, 国際花と緑の博覧会記念協会, オーバルホール, 2006/9/10
- 鷺田清一 「ひとを育む——今、大切なこと」, こころを育む総合フォーラム, 松下教育研究財団, 学術総合センター, 一橋記念講堂, 2006/10/21
- 鷺田清一 「老いの空白」, 医学・哲学倫理学会, 大阪大学, 2006/10/29
- 鷺田清一 「だれかを喪うということ」, 第30回日本死の臨床研究会年次大会, 大阪国際会議場, 2006/11/4
- 鷺田清一 「日本的なこと」(喜多俊之・成実弘至氏と), 民族藝術学会第103回研究特別例会, 清流亭(南禅寺), 2006/11/18
- 鷺田清一 「臨床の知の創造——患者と看護者のコミュニケーションの諸相」(濱口恵子・西村ユミ氏と), 第26回日本看護科学学会学術集会, 神戸国際会議場, 2006/12/2
- 鷺田清一 「聴くことと語ること」, 平成18年度第4回学術講演会, 京都府歯科医師会, 京都府歯科医師会会館, 2006/12/16
- 中岡成文 「臨床哲学の実践と課題」, 日本哲学会第63回大会ワークショップ「哲学教育を考える」, 2004/5
- 中岡成文 「臨床哲学とコミュニケーションデザイン」, 日本倫理学会第56回大会共通課題「倫理学の現実(リアリティ)」, 2005/10
- Nakaoka, Narifumi “Invention of Boundaries —— Kyoto-School Philosophers Confronting Western Modernity”, ボローニャ大学言語学・東洋学科, 2006/2
- 中岡成文 「自己変容の意味と可能性——境界線はいかにして浸透可能か」, winwinカフェ, MCM(医療コンフリクトマネジメント)研究会, 早稲田大学大学院法務研究科, 2006/7/3
- Irie, Yukio, „Eine Aporie der Fichteschen Wissenschaftslehre —— Einige Schwierigkeiten mit der intellektuellen Anschauung? ——“, Internationaler Fichte-Kongress, Universität Halle, 2006/10/4-7
- Ueno, Osamu “Faith and Reason in Spinoza’s Tractatus Theologico-Politicus”, XIXth World Congress of the International Association for the History of Religions (IAHR), 日本学術会議, 日本宗教学会, 東京, 2005/3/29
- 上野 修 「『スピノザの世界 神あるいは自然』(講談社現代新書)」, 第1回 handai metaphysica 研究例会——上野教授「スピノザの世界 神あるいは自然」(講談社現代新書)の合評会, 2005/7/16
- 上野 修 「共同討議I:「哲学史を読み直す(第一回):スピノザ」現実性と必然性——スピノザを様相的

- 観点から読み直す」, 第65回日本哲学会大会, 東北大学, 2006/5/20
- 須藤訓任 「人間において最善なところ」, 第57回関西哲学会課題研究発表「人間は特異な存在者か」, 立命館大学, 2004/10/24
- 須藤訓任 (コメンテーター) 日独哲学シンポジウム関西プログラム「絶対的なものに即して/のあとに?」, 第3セッション・シンポジウム「絶対者と空無の思想」, 2006/3/29
- 舟場保之 「『グローバル・エシックスとは何か?』をどのように問うのか?」, 日本倫理学会第57回大会・ワークショップ「グローバル・エシックスとは何か?」, 東京大学, 2006/10/13
- 舟場保之 「カントによる死刑制度擁護論の抜け道を求めて」, 関西倫理学会2006年度大会・シンポジウム「サンクションの可能性と限界」, 熊本大学, 2006/11/5
- 紀平知樹 「食べ物から考える環境問題」, 「高校生学びのすすめ」, 愛媛県立宇和島南中等教育学校, 2006/7/24
- 紀平知樹 「臨床哲学としての事例の意味と限界」, 日本倫理学会「倫理学者の棲み分け」に関するワークショップ, 東京大学, 2006/10/13
- 紀平知樹 「環境の価値——価値の経済的評価とその問題点」, 関西倫理学会2006年度大会, 熊本大学, 2006/11/5
- Naoe, Kiyotaka “Schutz and Scheler”, International Conference, “Alfred Schutz and his Intellectual Partners”, Waseda University, 2004/4/4
- 直江清隆 「技術と善き生」, 東北哲学会第54回大会, 福島大学, 2004/10/24
- Naoe, Kiyotaka “Design Culture and acceptable Risk”, 14th Biennial International Conference of the Society for Philosophy and Technology, Delft University of Technology, Netherlands, 2005/7/21
- 直江清隆 「設計、人間システム、責任」, 論理・情報・設計に関する神戸シンポジウム, 論理・情報・設計に関する神戸シンポジウム, 神戸大学, 2005/9/5
- 直江清隆 「人工物のmoralityをめぐる」, 日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究事業《資源配分メカニズムと公正》技術哲学研究会, 東京大学, 2005/12/25
- Notomi, Noburu “Plato on Power and the Other: the critique of Gorgias”, VII Symposium Platonicum, Wuerzburg, Germany, International Plato Society, 2004/7/26
- 納富信留 「ソフィストの挑戦——ゴルギアスの反哲学——」, 東洋大学 白山哲学会大会, 東洋大学白山キャンパス, 2004/10/23
- 納富信留 「古代ギリシア人は「心」にどう向き合ったか——「錯覚」の考古学——」, 日本心理学会第69回大会 シンポジウム「心理学と考古学の出会——「モノ」はいかに「こころ」を語ることができるか——」, 慶応義塾大学 三田キャンパス, 2005/9/12
- 納富信留 「プラトン『国家』の新しい校訂版について——S. R. Slings, Platonis Rempubicam, OCT——」,

第4回フィロロギカ研究会, 慶應義塾大学 三田キャンパス, 2005/10/16

- Notomi, Noburu “La metafisica come risveglio dell’anima”, *Psyche in Platone*, Como, Italy, International Plato Society, 2006/2/2
- Notomi, Noburu “Glaucón’s Challenge in its Context”, Old Chestnut Seminar, Department of Philosophy, King’s College, London, UK, 2006/5/25
- Notomi, Noburu “The Art of Extempore Speech: Alcidas against Writing”, Guest Lecture at the Department of Speech Communication, Argumentation Theory and Rhetoric, University of Amsterdam, Amsterdam, the Netherlands, 2006/11/10
- Notomi, Noburu “Protagoras: Protagonist of the Sophistic Movement?”, National Protagoras Society, University of Leiden, Leiden, the Netherlands, 2006/11/20
- Notomi, Noburu “Plato’s Argument against Parmenides: the Sophist revisited”, History of Philosophy Colloquium, Department of Philosophy, University of Utrecht, Utrecht, the Netherlands, 2006/12/8
- Notomi, Noburu “Plato on What is Not”, Centre for the Study of the Platonic Tradition and the Programme in Mediterranean and Near Eastern Studies, Trinity College, Dublin, Ireland, 2007/2/9
- Notomi, Noburu “A Protagonist of the Sophistic Movement? Protagoras in Historiography”, B Club, Faculty of Classics, University of Cambridge, UK., 2007/3/5
- Notomi, Noburu “Socrates in the Socratic Literature”, Classics Seminar, Department of Classics, University of Exeter, UK., 2007/3/6

トランスナショナルリティ研究

■ 著書（編著・単著・共著の図書等）

- 小泉潤二 （共著）『中米地域先住民民族への協力のあり方』, 平成16年度独立行政法人国際協力機構客員研究員報告書, 2006
- Schwentker, Wolfgang Grandner, Margarete; Rothermund, Dietmar (eds), *Globalisierung und Globalgeschichte*, Wien, Mandelbaum, 2005
- Schwentker, Wolfgang *Los samuráis (Die Samurai スペイン語訳)*, Madrid, Alianza Editorial, 2006
- Schwentker, Wolfgang (ed), *Megastädte im 20. Jahrhundert*, Göttingen, Vandenhoeck&Ruprecht, 2006

- 春日直樹 『遅れの思考：ポスト近代を生きる』, 東京大学出版会, 2007
- 木前利秋 (編著) SGCIME 編『模索する社会の諸相』, 御茶の水書房, 2005

定期刊行物に掲載された論文

- 小泉潤二 「人類学会世界協議会 (WCAA) の設立 —— 人類学・民族学の国際連携に向けて」, 『文化人類学』, 69 (4), pp.607-612, 2005
- Koizumi, Junji “Pluralizing Anthropology”, *Anthropology News*, 46 (7), p. 9, 2005
- 栗本英世 「平和構築の現場 —— 南部スーダン調査の報告」, 『阪大Now』 72, pp. 48-51, 2004
- 栗本英世 「南部スーダン再訪記 —— 内戦終結を目前にした解放区の現状」, 『アフリカレポート』 39, pp. 3-8, 2004
- 栗本英世 「スーダン内戦の終結と戦後復興」, 『海外事情』, 53 (4), pp. 2-21, 2005
- Kurimoto, Eisei “Resurgence in the Midst of Predicaments: Studies on North East Africa by Japanese Anthropologists, 1996-2005”, *Japanese review of Cultural Anthropology*, 6, pp. 69-103, 2005
- 栗本英世 「戦後スーダンの政治的動態 —— 包括的平和協定の調停から1年3ヵ月を経て」, 『海外事情』, 54 (4), pp. 77-92, 2006
- 栗本英世 「グローバル化、ディアスポラ、エスニック・マイノリティ —— エチオピア・ガンベラ地方におけるアヌワ人の虐殺をめぐる」, 日本平和学会編『グローバル化と社会的「弱者」』, 『平和研究』, 31, 早稲田大学出版部, pp. 3-21, 2006
- Schwentker, Wolfgang “The Spirit of Modernity: Max Weber’s “Protestant Ethic” and Japanese Social Sciences”, *Journal of Classical Sociology*, 5(1), S. 73-92 (rP), 2005
- Schwentker, Wolfgang “Max Webers “Die protestantische Ethik und der ‘Geist’ des Kapitalismus” nach 100 Jahren – Perspektiven der Sozialwissenschaften in Ostasien. Bericht über ein Symposium an der Universität Osaka”, *Japanstudien* 17, S. 271-277 (zusammen mit Kimae Toshiaki), 2005
- Schwentker, Wolfgang 「マックス・ヴェーバーを視野に歴史を書く: W.J.モムゼン1930-2004」, 『歴史学研究』, 9, pp. 18-26, 43, 2005
- Schwentker, Wolfgang 「近代の精神。マックス・ヴェーバーの「プロテスタンティズムの倫理」と日本の社会科学」, 『思想』, 978, pp. 63-81, 2005
- Schwentker, Wolfgang „Geschichte schreiben mit Blick auf Max Weber: Wolfgang J. Mommsen“, in: *Jahrbuch der Heinrich Heine*, Universität Düsseldorf, S. 209-219, 2005
- Schwentker, Wolfgang 「グローバリゼーションと歴史学 —— グローバルヒストリーのテーマ・方法・批判」
 (“Globalisierung und Geschichtswissenschaft. Themen, Methoden und Kritik der Globalgeschichte”

(2005) の日本語訳),『西洋史学』,No. 224, 日本西洋史学会編,2007

Nakagawa, Satoshi “A Personal Account of What ‘I’ Did at ‘IIAS’”, *IIAS Newsletter*, 42, 2006

木前利秋 「公共圏論の原像と変容」,『未来』,460号,pp. 6-10, 2005

木前利秋 「ヴェーバーとモダニティ論の新たな地平」,『思想』,No. 978, pp. 25-43, 2006

Ueda, Toru “Pembinaan dan Perkembangan Konsep Native di Borneo Utara pada Zaman Kolonial”, *Akademika*, 68, Januari, pp. 65-89, 2006

定期刊行物以外(論文集、報告書、図書等)に収録された論文

小泉潤二 「フィールドワークと民族誌」,山下晋司編『文化人類学入門——古典と現代をつなぐ20のモデル』,弘文堂,pp. 14-26, 2005

小泉潤二 「解釈人類学」,綾部恒雄編『文化人類学20の理論』,弘文堂, pp. 144-161, 2006

Koizumi, Junji “Etnicidad y Estado nacional en Huehuetenango, Guatemala: el resultado de las elecciones y el problema del nacionalismo comunal”, Ochiai, Kazuyasu (ed.), *El mundo maya: miradas japonesas*, UACSHUM (Unidad Academica de Ciencias Sociales y Humanidades), Mexico, pp. 157-177, 2006

小泉潤二 「マム——揺れるグアテマラの現代マヤ」,黒田悦子・木村秀雄編『講座 世界の先住民族——ファーストピープルの現在 08 中米・カリブ海、南米』,明石書店, pp. 146-161, 2007

栗本英世 「文化人類学から考える平和」,吉田康彦編『21世紀の平和学——人文・社会・自然科学・文学からのアプローチ』,明石書店,pp. 58-71, 2004

栗本英世 「スーダンとエチオピアにおける民族の20世紀——マイノリティ民族集団の視点」,端信行編『民族の20世紀』,ドメス出版,pp. 254-280, 2004

栗本英世 「越境の人類学——難民の生活世界」,江溯一公,松園万亀雄編『新訂 文化人類学』,放送大学教育振興会,pp. 138-149, 2004

栗本英世 「現代の民族紛争——新たな戦争のかたち」,江溯一公,松園万亀雄編『新訂 文化人類学』,放送大学教育振興会,pp. 124-137, 2004

栗本英世 「紛争と権力——現代アフリカ」,山内進,加藤博,新田一郎編『暴力——比較文明史的考察』,東京大学出版会,pp.211-234, 2005

栗本英世 「人種主義的アフリカ観の残影——「セム」「ハム」と「ニグロ」」,竹沢泰子編『人種概念の普遍性を問う——西洋的パラダイムを超えて』,人文書院,pp. 356-389, 2005

Kurimoto, Eisei “Multidimensional Impact of Refugees and Settlers in the Gambela Region, Western Ethiopia”, In Ohta, I. and Yntiso D. Gebre (eds), *Displacement Risks in Africa: Refugees, Resettlers and Their Host Population*, Kyoto, Kyoto University Press, pp. 338-358, 2005

- 栗本英世 「『あなたのクラン名はなんですか?』—— 変容するアニエワ社会における出自集団」, 田中雅一・松田素二編, 『ミクロ人類学の実践—— エイジェンシー/ネットワーク/身体』, 世界思想社, pp. 406-423, 2006
- Schwentker, Wolfgang „Globalisierung und Geschichtswissenschaft. Themen, Methoden und Kritik der Globalgeschichte“, in: Margarete Grandner, Dietmar Rothermund, Wolfgang Schwentker (eds), *Globalisierung und Globalgeschichte*, Wien, Mandelbaum, S. 36-59, 2005
- Schwentker, Wolfgang „Die Megastadt als Problem der Geschichte“, in: Wolfgang Schwentker (ed), *Megastädte im 20. Jahrhundert*, Göttingen, Vandenhoeck&Ruprecht, S. 7-26, 2006
- Schwentker, Wolfgang „Die Doppelgeburt einer Megastadt: Tōkyō 1923-1964“, in: Wolfgang Schwentker (ed), *Megastädte im 20. Jahrhundert*, Göttingen, Vandenhoeck&Ruprecht, S. 139-164, 2006
- Schwentker, Wolfgang „“Meistererzählungen” in der japanischen Historiographie“, in: Michael Lackner (ed), *Selbstbehauptungsdiskurse in Ostasien*, München, Iudicium, 2007
- 中川 敏 「交換」, 山下晋司編『文化人類学入門—— 古典と現代をつなぐ20のモデル』, 弘文堂, 2005
- 中川 敏 「焼畑から来る米、店から来る米」, 杉島敬志・中村潔編『現代インドネシアの地方社会—— ミクロロジーのアプローチ』, NTT出版, pp. 212-234, 2006
- 中川 敏 「言語システムと人格問題」, Conference Handbook 24 – The Twenty Fourth Conferences of The English Linguistic Society of Japan, 4-5 November, University of Tokyo, Hongo Campus, pp.197-202, 2006
- 中川 敏 「フィールドワーク—— 出会いとすれ違い」, 志水宏吉編『実践的研究のすすめ』, 有斐閣, 2007
- Dereje Feyissa “The Experience of Gembella Regional Dtate”, in D. Turton (ed.), *Ethnic Federalism: The Ethiopian Experience in Comparative Perspective*, Oxford, James Currey, pp. 208-230, 2006.
- 加藤敦典 「むらの紛争解決を支えるもの—— ベトナム・ハティン省の農村より——」, 戒能・松本・榊澤『2001年度-2005年度科学研究費補助金(特定領域研究)「アジア法整備支援-体制移行国に対する法整備支援のパラダイム構築」司法改革班・ワーキングペーパー「学際的協働を求めて」』, 名古屋大学法政国際教育協力研究センター, pp. 189-201, 2006

■ エッセー・評論・翻訳・書評・解説・事典(辞典)項目・その他

- 小泉潤二 (事典項目)「ウルフ *Sons of the Shaking Earth*, 1959」(p. 27), 「ギアツ『文化の解釈学』, 1973」(p. 53), 「ギアツ『解釈人類学と反=反相対主義』2002」(p. 55), 「ギアツ『ヌガラ』1980」(p. 392), 「キャンシアン *Economics and Prestige in a Maya Community*, 1965」(p. 400), 「反=反相対主義」(p. 818), 「リゴベルタ・メンチュとは誰か」(p. 853), 『文化人類学文献事典』, 弘文堂, 2004

- 栗本英世 (書評)「富川盛道著『ダトーガ民族誌——東アフリカ牧畜社会の地域人類学的研究』, 弘文堂」,
『アフリカ研究』, 69号, pp. 203-208, 2006
- Schwentker, Wolfgang (書評) Manfred Kittel, *Nach Nürnberg und Tokio, "Vergangenheitsbewältigung" in Japan und Westdeutschland 1945 bis 1968*, München 2004. *Periplus. Jahrbuch für aussereuropäische Geschichte*,
16, pp. 208-212, 2006
- Schwentker, Wolfgang (事典項目)「解釈学の根本問題」, 『人間科学のフロンティア』, 有斐閣, 2007
- Schwentker, Wolfgang (事典項目)「近代化」「軸の時代」「希望」「寛容のパラドクス」「文明の衝突」「理念型」「合理化」
「解釈学的差異」「記憶」「正義」, 大阪大学レクチャーシリーズ『哲学の基礎概念』, 大阪大学出版
会, 2007
- 木前利秋・中村健吾 (翻訳) ウルリッヒ・ベック『グローバル化の社会学』, 国文社, 2005
- 木前利秋 (書評) ユルゲン・ハーバーマース『他者の受容』, 『週刊読書』, 2577号, 2005
- 木前利秋 (書評) アジット・S・バラ/フレデリック・ラベール『グローバル化と社会的排除』, 『週刊読書』, 2577
号, 2005
- 木前利秋 (書評) 川上周三『ヴェーバー社会科学の現代的展開』, 『週刊読書』, 2676号, 2007
- 加藤敦典 (事典項目)「Eric R.Wolf: *Peasant Wars of the Twentieth Century*」, 『文化人類学文献事典』, 平凡
社, p. 27, 2004

講演・口頭発表等

- Koizumi, Junji "On the Assessment of the Present Situation of International Collaboration: The Case of the Japa-
nese Society of Cultural Anthropology." Paper presented at the Conference, "World Anthropol-
ogies: Strengthening the International Organization and Effectiveness of the Profession", Recife, Br
azil, 2004/6/9-14
- Koizumi, Junji "Interface Humanities." Paper presented at the Seminar to Commemorate the Opening of the Osa-
ka University San Francisco Office, San Francisco, California, 2004/9/9-10
- Koizumi, Junji "Japanese Anthropology in World Anthropologies." Paper presented at the session "Antropologías
mundiales: podemos pensar fuera de los discursos hegemónicos?" at Primer Congreso Latino-
americano de Antropología, Rosario, Argentina, 2005/6/11-15
- Koizumi, Junji "The Use of a Survey Paradigm for Effective Pre-Project Research for Development Programs: An
Example from Japanese ODA in Guatemala." Paper presented at Consejo de Estudios Latinoameri-
canos de Asia e Oceania (CELAO) : Inaugural Conference, Melbourne, Australia, 2005/7/14-16
- Koizumi, Junji "Towards Empirical Pre-project Research for Development Programs: A Case of an ODA Program

- in Guatemala.” Paper presented at the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences, Inter-Congress 2005, Pardubice, Czech Republic, 2005/8/29-9/3
- Koizumi, Junji “Transformation of the Public Image of Anthropology: The Case of Japan”, Paper presented at the workshop “A WCAA Debate: The Public Image of Anthropology” at the European Association of social Anthropologists (EASA) 9th Biennial Conference, University of Bristol, Bristol, UK, 2006/9/21
- Koizumi, Junji “Opening of a New Center for International Cooperation at Osaka University: Global Collaboration Center (GLOCOL)”, Paper presented at Inaugural Seminars, Session A: “Human Sciences and Global Collaboration” at the Opening Ceremony and Seminars for the Launching of Osaka University Bangkok Center for Education and Research, Bangkok, 2006/10/17
- Koizumi, Junji, and Eisei Kurimoto “Public Image of Anthropology in Japan”, Paper presented at the joint conference comprising an intercongress of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (IUAES) and the 2006 annual conferences of the Pan-African Association of Anthropologists (PAAA) and Anthropology Southern Africa (ASnA), “Transcending Postcolonial Conditions: Towards Alternative Modernities”, University of Cape Town, Cape Town, South Africa, 2006/12/3-7
- Schwentker, Wolfgang 「イントロダクション」, マックス・ヴェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』と東アジアの社会科学, ヒューマンサイエンスプロジェクト, 大阪大学人間科学部, 2005/2/17-18
- Schwentker, Wolfgang 「戦後日本のヴェーバー研究と欧米政治思想」, 政治思想学会, 日本大学, 2005/5/28
- Schwentker, Wolfgang “Convenor of the Section on “History, Politics and International Relations””, Three-Annual-Conference of the European Association of Japanese Studies, European Association of Japanese Studies, Vienna University, 2005/8/31-9/3
- Schwentker, Wolfgang „Globalisierung und Globalgeschichte. Themen, Methoden und Kritik der Globalgeschichte“, Zentrum Moderner Orient, Berlin, 2005/9/7
- Schwentker, Wolfgang “Rangaku in 19th Century Osaka. The Case of Ogata Koan, Handai-Groningen Symposium”, 大阪大学およびGroningen University, Groningen University, NL, 2005/10/17
- Schwentker, Wolfgang „Deutschland und Japan in der Geschichte“, ドイツ文化研究会, ドイツ学術交流会, 徳島県阪東, 2005/11/3-5
- Schwentker, Wolfgang „Samurai und Soldaten. Zum Wandel des Militärs im modernen Japan“, Institut für Wirtschafts- und Sozialgeschichte, Universität Wien, 2005/12/20
- Schwentker, Wolfgang 「戦後日本のヴェーバー研究と欧米政治思想」, シンポジウム「マックス・ウェーバーと現代社会」, ハイデルベルク大学と京都大学, 京都大学, 2006/3/17-18
- Schwentker, Wolfgang 「社会思想の比較: ドイツと日本」, DAAD 友の会, 山梨県山中湖, 2006/3/23-26

- Schwentker, Wolfgang 「Shin Jin-Wookの“Modernisierung und Zivilgesellschaft in Südkorea”について」,「選択された近代」研究会, 東京経済大学「選択された近代」科研, 大阪大学人間科学研究科, 2006/6/15
- Schwentker, Wolfgang “The Spirit of Modernity: Max Weber’s Protestant Ethic in Japanese Social Thought”, Kansai Modern Japan Group, 大阪産業大学, 2006/7/19
- Schwentker, Wolfgang “Cultural Identity and Asian Modernities in Postwar Japanese Thought, 1945-60”, International Conference: Globalization and Modernization in East Asia, Busan National University, Busan, Korea, 2006/11/10-11
- Schwentker, Wolfgang 「野口雅広の『マックス・ヴェーバーの文化理論』について」, 政治思想研究会, 早稲田大学, 2007/2/10
- 田沼幸子 「ノスタルジアを生きる、ディアスポラを夢見る：キューバの日常生活における移民、ユーモアとエロス」, 日本ラテンアメリカ学会西日本研究部会, 神戸大学, 2004/4/17
- 田沼幸子 「小さな、大きな物語：キューバ調査研究報告のための試論」, 第39回日本文化人類学会研究大会, 北海道大学, 2005/5/21
- 田沼幸子 「ユートピア小説と民族誌」, 第40回日本文化人類学会研究大会, 東京大学, 2006/6/3
- Dereje Feyissa 「ローカルな闘争をグローバルな用語で表現する —— ガンベラ地方におけるエスニック・エンタイトルメントの政治学」, 京都大学アフリカ地域研究資料センター 第128回アフリカ地域研究会, 京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科東棟2階第一セミナー室, 2005/1/20
- 加藤敦典 「現代ベトナム農村社会における民事紛争とその調停：村落共同体の自主管理能力をめぐる」, 日本文化人類学会第38会研究大会, 日本文化人類学会, 東京外国語大学, 2004/6/5-6
- 加藤敦典 「村落共同体文化研究の視点から見た現代ベトナム農村の民事紛争調停制度」(発表はベトナム語), 第2回国際ベトナム学会議, 国際ベトナム学会議, ホーチミン市統一会堂, 2004/7/14-16
- 加藤敦典 「ポスト・ユートピアにおける民主化と地方分権 —— ベトナムの事例を中心に」, 日本文化人類学会第39回研究大会, 北海道大学, 2005/5/22
- 加藤敦典 「むらの紛争解決を支えるもの —— ベトナム・ハティン省の農村より ——」, 科学研究費補助金(特定領域研究)「アジア法整備支援-体制移行国に対する法整備支援のパラダイム構築」司法改革班・研究会, 早稲田大学, 2005/10/22
- 加藤敦典 「革命的なプランの跡で, 希望なき民主主義へ? —— ベトナムにおける村落民主のゆくえ」, 『ポスト・ユートピア：フィールドからのアプローチ』, ポスト・ユートピア研究会, 大阪大学, 2005/10/29
- 上田 達 「隣人を作り上げる」, 日本文化人類学会第40回研究大会, 東京大学, 2006/6/2-3

世界システムと海域アジア交通

著書(編著・単著・共著の図書等)

- 桃木至朗 (編著)「近代世界システム以前の諸地域システムと広域ネットワーク」(科学研究費報告書), 大阪大学, 2007
- 秋田 茂 (編)『イギリス帝国と20世紀 1 パクス・ブリタニカとイギリス帝国』, ミネルヴァ書房, 2004/5
- 秋田 茂 「1950年代の東アジア国際経済秩序とスターリング圏」, 渡辺昭一編『帝国の終焉とアメリカ——アジア国際秩序の再編』, 山川出版社, pp. 134-165, 2006
- 秋田 茂 「イギリス帝国と近代アジア・日本」, 懷徳堂記念会編『世界史・日本史を書き直す——阪大史学の挑戦』, 和泉書院, 2007
- 秋田 茂 「近世から近代へ 近世後期の世界システム」, 桃木至朗編『海域アジア史研究入門』, 岩波書店, 2007
- 平 雅行 (共編)『日本史B指導資料』, 実教出版株式会社, 2004/4
- 平 雅行 『真言宗一』, 本願寺維持財団, 2004/9
- 平 雅行 『中世寺院の暴力とその正当化』(科学研究費補助金(C)(2)研究成果報告書, 2005/3
- 平 雅行 (共編)『周縁文化と身分制』, 思文閣出版, 2005/3
- Moriyasu, Takao *Die Geschichte des uigurischen Manichäismus an der Seidenstrasse. -Forschungen zu manichäischen Quellen und ihrem geschichtlichen Hintergrund -*, Übersetzt von Christian Steineck, (Studies in Oriental Religions 50), Wiesbaden, Harrassowitz Verlag, 2004/12
- 森安孝夫 (共編)『中国歴史研究入門』, 名古屋大学出版会, pp. 158-171, pp. 408-411, 2006/1
- 森安孝夫 『シルクロードと唐帝国』, 『興亡の世界史』第5巻, 講談社, 2007/2
- 山内晋次 (共編)『改訂日本古代史新講』, 梓出版社, 2004/4
- 山内晋次 (共著)『街道の日本史33 大坂——摂津・河内・和泉——』, 吉川弘文館, 2006
- 佐藤貴保 (共著)『中国歴史研究入門』, 名古屋大学出版会, 2006
- 蓮田隆志 (共編)『東南アジア史学会関西例会通報総集編』18 (2003年度版), 東南アジア史学会関西例会, 2004

定期刊行物に掲載された論文

- 桃木至朗 「ベトナム王朝国家における「国土」「歴史」「伝統」」, 『歴史評論』, 659, pp. 19-33, 2005/3
- 秋田 茂 「イギリス帝国と国際秩序」, 『歴史学研究・増刊号』, 794, 歴史学研究会, pp. 6-15, 2004/10

- 秋田 茂 「イギリス帝国史研究と地域史の対話」,『歴史科学』,179-180 合併号,大阪歴史科学協議会,pp. 21-27,2005/5
- Akita, Shigeru “Recent Japanese Historiography on British Imperial and Commonwealth History”, *The Korean Journal of British Studies*, Vol. 14, pp. 427-444, 2005/12
- 秋田 茂 「1930年代のイギリス「非公式帝国」と東アジア世界」,『東北学院大学 ヨーロッパ研究所紀要』,2007/3
- 平 雅行 「中世寺院の暴力とその正当化」,『九州史学』,140, pp. 57-71, 2005/2
- 平 雅行 「若き日の親鸞」,『真宗教学研究』,26, pp. 107-126, 2005/6
- 平 雅行 「法然上人とその時代 上」,『知恩』,745, pp. 6-19, 2006
- 平 雅行 「法然上人とその時代 下」,『知恩』,746, pp. 6-19, 2006
- 平 雅行 「善鸞義絶状と偽作説」,『史敏』,3, pp. 1-18, 2006
- 平 雅行 「鎌倉幕府の将軍祈祷に関する一史料」,『大阪大学大学院文学研究科紀要』,47, pp. 1-40, 2007
- 平 雅行 (共著)「これからの親鸞伝研究の課題 上」,『真宗』,1223, pp. 56-70, 2006/2
- 平 雅行 (共著)「これからの親鸞伝研究の課題 下」,『真宗』,1224, pp. 34-53, 2006/3
- 森安孝夫 「前近代中央アジアにおける税役」,『東方学会報』,88, pp. 14-16, 2005/8
- Moriyasu, Takao “Taxes and Labour Services in Pre-modern Central Asia”, *Transactions of the International Conference of Eastern Studies*, 50, pp. 164-169, 2005/12
- 山内晋次 「10-13世紀の東アジアにおける海域交流」,『唐代史研究』,7, 唐代史研究会, pp. 101-115, 2004/8
- 山内晋次 「9-13世紀の日中貿易史をめぐる日本史料」,『大阪市立大学東洋史論叢別冊特集号「文献資料学の新たな可能性」』, pp. 27-44, 2006
- 佐藤貴保 (共著)「『烏臺筆補』訳註稿(2)」,『内陸アジア言語の研究』,19, pp. 109-155, 2004
- 佐藤貴保 「十二世紀後半における西夏と南宋の通交」,『待兼山論叢(史学編)』,39, pp. 1-24, 2004
- 佐藤貴保 「西夏と黒河流域」,『オアシスプロジェクト会報(総合地球環境学研究所)』,5(1), pp. 16-23, 2005
- 佐藤貴保 (共著)「『烏臺筆補』訳註稿(3)」,『内陸アジア言語の研究』,20, pp. 77-122, 2005
- 佐藤貴保 「西夏の用語集に現れる華南産の果物——12世紀後半における西夏貿易史の解明の手がかりとして——」,『内陸アジア言語の研究』,21, pp. 93-127, 2006
- Fujita, Kayoko “Learning “Shared Experiences” of Industrialisation: A Critical Review of Cross-Cultural Exhibitions and an Analysis of Museum Visitors’ Perceptions in Japan and the United States”, *Asian Cultural Studies*, 33, 2007
- 蓮田隆志 「「華人の世紀」と近世北部ベトナム——1778年の越境事件を素材として——」,『アジア民衆史研究』,10, pp. 76-94, 2005

蓮田隆志 「17世紀ベトナム鄭氏政權と宦官」,『待兼山論叢(史学編)』,39,pp. 1-23,2005

【定期刊行物以外(論文集、報告書、図書等)に収録された論文】

- 桃木至朗 「ベトナム北部・北中部における港市の位置」,歴史学研究会編『港町の世界史1 港町と海域世界』,青木書店,pp. 179-205,2005/12
- 桃木至朗 「『詳説世界史』(山川出版社)の東南アジア史記述とそれに対するコメント・解説」,早瀬晋三編『不可視の時代の東南アジア史・文献資料読解による脱構築』(2003年度-2005年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書),pp. 88-129,2006/3
- 桃木至朗・蓮田隆志(共編著)「中近世東南アジア史時代区分試論:東北アジア史との比較を通して」,『近代世界システム以前の諸地域システムと広域ネットワーク』(科学研究費報告書),大阪大学,pp. 5-25,2007
- 平 雅行 「青蓮院の門跡相論と鎌倉幕府」,河音能平・福田榮次郎編『延暦寺と中世社会』,法蔵館,pp. 90-150,2004/6
- 平 雅行 「神仏と中世文化」,歴史学研究会・日本史研究会編『日本史講座 第4巻 中世社会の構造』,東京大学出版会,pp. 167-195,2004/9
- 平 雅行 「殺生禁断と殺生罪業観」,脇田晴子・コルカット・平 雅行編『周縁文化と身分制』,思文閣出版,pp. 240-268,2005/3
- Taira, Masayuki “La légitimation de la violence dans le bouddhisme au Moyen Age”, *Légitimités, Légitimations*, Eco le française d’Extrême-Orient, Paris, pp. 79-104,2006/2
- Moriyasu, Takao “From Silk, Cotton and Copper Coin to Silver. Transition of the Currency Used by the Uighurs during the Period from the 8th to the 14th Centuries”, D. Durkin-Meisterernst / S. Raschmann / J. Wilkens / M. Yaldiz / P. Zieme (eds.), *Turfan Revisited - the First Century of Research into the Arts and Cultures of the Silk Road*, Berlin, Dietrich Reimer Verlag, pp. 228-239,2004/5
- 森安孝夫 「亀茲国金花王と碯砂に関するウイグル文書の発見」,『三笠宮殿下米寿記念論集』,刀水書房,pp. 703-716,2004/11
- 佐藤貴保 「ロシア蔵カラホト出土西夏文『大方広仏華嚴經』経帙文書の研究——西夏榷場使関連漢文文書群を中心に——」,荒川正晴編『東トルキスタン出土「胡漢文書」の総合調査』(平成15年度-平成17年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書),pp. 61-76,2006
- 佐藤貴保 「西夏時代末期における黒水城の状況——二つの西夏語文書から——」,井上充幸ほか『オアシス地域史論叢——黒河流域2000年の点描——』,総合地球環境学研究所,2007
- 佐藤貴保 「西夏時代における黒河流域の交通路」,総合地球環境学研究所ほか,『カラホトの歴史と環境に関する国際シンポジウム論文集』,総合地球環境学研究所,2007

- 蓮田隆志 「正和本『大越史記全書』・NVH本「大越史記本紀統編」条文対照表」, 早瀬晋三『不可視の時代の東南アジア史——文献史料読解による脱構築——』(科研報告書), pp. 197-203, 2006
- Fujita, Kayoko “The Economic Expansionism and Ideology of Tokugawa Japan and its Peripheries: A Case Study from Early Modern East Asia (late 16th - mid-19th century)”, Wade, Geoff (eds.), *Asian Expansions: The Historical Processes of Polity Expansion in Asia*, National University of Singapore Press, 2007/2008
- Fujita, Kayoko “Japan Indianised: The Long-Term trends in Textile Imports and Consumption in Tokugawa Japan, ca. 1600-1800”, Riello, Giorgio, and Prasannan Parthasarathi (eds.), *A Global History of Cotton Textile 1250-1850*, Oxford University Press, 2007/2008

エッセー・評論・翻訳・書評・解説・事典(辞典)項目、その他

- 桃木至朗 「『東南アジア史の危機』と新しい挑戦」, 『世界史のしおり』, pp.1-4, 2004/4
- 桃木至朗 「連載ゼミナール グローバル・ヒストリー 第1回「古代世界の統合と交流」」, 『世界史のしおり』, 4月号, 2006
- 桃木至朗 「連載ゼミナール グローバル・ヒストリー 第2回「隋唐・イスラームの統合から国風文化の時代へ」」, 『世界史のしおり』, 10月号, 2006
- 桃木至朗 「連載ゼミナール グローバル・ヒストリー 第3回「ユーラシア規模の交流と破局」」, 『世界史のしおり』, 1月号, 2007
- 桃木至朗 「『歴史は推理だ』を意識させる授業」, 『社会科教育』, 44 (3), pp. 78-80, 2007
- 秋田 茂 (書評)「ウィリアム・G・ウッドラフ著(原剛, 菊池紘一, 松本康正, 南部宣行, 篠永宣孝訳)『概説現代世界の歴史——1500年から現代まで——』」, 『社会経済史学』, 70-1, pp. 125-127, 2004/5
- 秋田 茂 (学界展望)「2004年の歴史学界——回顧と展望——ヨーロッパ・現代・一般」, 『史学雑誌』, 114 (5), pp. 370-373, 2005/5
- 秋田 茂 「特集 第20回国際歴史学会議シドニー大会 個別テーマ7: 経済的グローバル化——歴史的展望と研究状況」, 『歴史学研究』, 815, pp. 57-61, 2006/6
- 平 雅行 (共著)「はじめに 日本史講座4」, 歴史学研究会・日本史研究会編『日本史講座 第4巻 中世社会の構造』, 東京大学出版会, pp. 5-10, 2004/9
- 平 雅行 「親鸞の歩みとところ 上下」, 真宗大谷派難波別院「南御堂」, 518・519, 2005/11
- 平 雅行 「仏教宗派表」, 『日本古代史大辞典』, 大和書房, 巻末資料, 2006/1
- 平 雅行 「シンポジウム「中世仏教の国際環境」に寄せて」, 『日本史研究』, 524, pp. 52-56, 2006
- 森安孝夫 「シルクロード「学」へのまなざし」, NHK「新シルクロード」プロジェクト編『NHKスペシャル 新

- シルクロード 1 楼蘭・トルファン』, 日本放送出版協会, pp. 196-210, 2005/2
- 森安孝夫 「中央アジア・シルクロードと中国史」, 『東洋史からアジア史へ——変わる世界史、広がるアジア——』(明治大学文学部特別企画シンポジウム報告), 明治大学文学部, pp. 3-6, 2005/3
- 森安孝夫 「遊牧騎馬民族がつくった世界史」(2005年度懷徳堂春秋記念講座要旨), 『懷徳』, 74, pp. 94-95, 2006/1
- 山内晋次 「モノと図像が語る琉球史 39/40 冊封琉球使と航海安全の祈り(上)・(下)」, 『沖縄タイムス』, 沖縄タイムス社, 2005/1/17-24
- 佐藤貴保 「大学教員と高校教員の対話——大阪大学「全国高等学校歴史教育研究会」の活動」, 『世界史のしおり』, 2007年, pp. 15-17, 2007/1
- 蓮田隆志 (事典項目)「アユタヤ」(p. 50), 「阮朝」(p. 272), 「スコタイ」(p. 496), 「チャクリー朝」(p. 631), 「チャンパ」(p. 633), 『国際政治事典』, 弘文堂, 2005
- 藤田加代子 (書評)「早瀬晋三著『海域イスラーム社会の歴史——ミンダナオ・エスノヒストリー』」, 『東南アジア——歴史と文化——』, 33, pp. 160-163, 2004
- 藤田加代子 (事典項目)「アジア間貿易」(pp. 1-2), 『歴史学事典 第13巻 所有と生産』, 弘文堂, 2006
- 藤田加代子 (書評)「書評 フィリップ・オドレール著『フランス東インド会社とボンディシエリ』」, 『西洋史学』, 223, 2007
- 水田大紀 (書評)C. A. Barly, *The Birth of the Modern World, 1780-1914 - Global Connections and Comparisons-* (Oxford, 2004), 『西洋史学』, 218, pp. 71-73, 2005/9

講演・口頭発表等

- Momoki, Shiro “Su bien doi xa hoi Dai Viet the ky XIV qua van khac, khao sat truong hop vung Ha Tay”, Hoi thao khoa hoc quoc te lan thu II ve Viet Nam hoc (第2回ベトナム学国際会議), Ho Chi Minh City, 2004/7/14-16
- Momoki, Shiro “Mandala Champa Seen from Chinese Documents”, Workshop: New Scholarship on Champa, Asia Research Institute, National University of Singapore, 2004/8
- Momoki, Shiro “Viet Nam hoc o Nhat Ban, qua khu, hien tai va tuong lai, 1st Vietnamese-Japanese Students’ Scientific Exchange Meeting”, Osaka University, 2004/11
- 桃木至朗 「大越陳朝碑文研究序説」, 東洋史研究会大会, 京大会館, 2005/11
- 桃木至朗 「アンコールワットの東南アジア史——陸の歴史(1)」, 芦屋市立公民館・春の公民館講座「東南アジアの多様性に迫る」第1回, 2005/5/7
- 桃木至朗 「ベトナム戦争とASEANの東南アジア史——陸の歴史(2)」, 芦屋市立公民館・春の公民館講座

- 「東南アジアの多様性に迫る」第2回, 2005/5/14
- 桃木至朗 「海と貿易がつくった歴史」, 懷徳堂春季講座「世界史を書き直す 阪大史学の挑戦」第2回, 大阪大学中之島センター, 2005/5/27
- 桃木至朗 「東南アジア史から日本が見える」, 大阪府立岸和田高校夏期講演会, 2005/8/19
- 桃木至朗 「アジアの海域と日本」, 吹田市中学校教育研究会・社会科部会, 吹田市立青山台中学校, 2005/8/24
- 桃木至朗 「鎖国とはなんだったのか——アジアのなかの近世日本——」, 三重県立桑名高校出前講義, 2005/10/4
- 桃木至朗 「20世紀の東南アジアとベトナム戦争」, 西高進路セミナー, 舞鶴西高校, 2005/11/10
- Momoki, Shiro “Three Historiographies of Early Southeast Asia, and the Fourth?”, RCAPS Seminar, Beppu, Ritsumeikan Asia Pacific University, 2006/1/16
- 桃木至朗 「海と貿易の世界史」, 国際文化講座ゆうかり塾「歴史からの問いかけ〜アジアの中の日本」第8回, 八尾高校, 2006/3/4
- 桃木至朗 「3つの東南アジア史、そして4つめはあるか?」, 神奈川県高等学校社会科部会研究大会, 神奈川県民センター, 2006/3/7
- Momoki, Shiro “Vietnamese Empire and Its Expansion, c.980-1840”, Asian Expansions: The Historical Processes of Polity Expansion in Asia, Asia Research Institute, National University of Singapore, Singapore, 2006/5/12-13
- 桃木至朗 「アジアの海から見直す日本史」, 平成18年度日本史世界史合同部会, 熊本県高等学校教育研究会地歴・公民科部会, 熊本第一高校, 2006/8/5
- Momoki, Shiro “Ly thuyet khu vuc hoc va so sanh khu vuc hoc o Viet Nam va Nhat Ban” (ベトナム語講演「地域研究の理論と日越の地域研究の比較」), 日本学セミナー, ハノイ国家大学社会・人文科学部東洋学部日本学科, ハノイ国家大学社会・人文科学部, 2006/8/24-25
- Momoki, Shiro “Mot so van de so sanh lich su Trung the Viet Nam va Nhat Ban” (ベトナム語講演「ベトナムと日本の中世史の比較に関する諸問題」), 『日本学セミナー』, ハノイ国家大学社会・人文科学部東洋学部日本学科, ハノイ国家大学社会・人文科学部, 2006/8/24-25
- 桃木至朗 「東南アジア史」, 夏期講座「辺境の世界史」, 神奈川県高等学校教科研究会・社会科部会歴史分科会世界史推進委員会夏期講座, 神奈川県立外語短大, 2006/8/29
- 桃木至朗 「「イメージが湧く」東南アジア史をめざして」, 2006年度第12回部会, 佐賀県高等学校学力向上対策事業世界史部会, 佐賀東高校, 2006/12/7
- 桃木至朗 「地域研究・海域史・近代東北アジア」, 21世紀COEスラブ・ユーラシア学の構築研究会シンポジウム「近代東北アジアにおける国際秩序と地域的特性の形成」, 北海道大学スラブ研究センター,

- 北海道大学, 2007/3/9-10
- 秋田 茂・横井勝彦 (総合司会) 国際シンポジウム「帝国の終焉と国際秩序の再編—— アジアをめぐる欧米諸国の相克——」, 日本西洋史学会第54回大会, 東北学院大学, 2004/5/21
- 秋田 茂 「イギリス帝国と国際秩序」, 2004年度歴史学研究会大会報告, 一橋大学, 2004/5/29
- 秋田 茂 「イギリス帝国史研究と地域史の対話」, 2004年度大阪歴史科学協議会大会報告, 関西大学, 2004/6/12
- Akita, Shigeru “The East Asian International Economic Order in the 1950s”, Anglo-Japanese Relations and International Politics in East Asia, at London (LSE), UK, 2004/7/6-7
- 秋田 茂 「グローバルヒストリーの構築とアジア世界」, 大阪大学大学院文学研究科教員研究フォーラム, 2004/11/18
- 秋田 茂 「グローバルヒストリー研究の現状」, 市民社会のグローバルヒストリー研究会, 大阪大学中之島センター, 2004/12/23
- 秋田 茂 「1950年代の東アジア経済秩序とスターリング圏」, 東北学院大学渡辺科研研究会, 東京大学, 2004/12/25
- 秋田 茂 「『バクス・ブリタニカ』とイギリス帝国」, 大学講座「帝国の興亡VII: イギリス帝国」, 伊丹市教育委員会, 2005/1/22
- 秋田 茂 「戦間期のイギリス帝国とアジア世界」, 大学講座「帝国の興亡VII: イギリス帝国」, 伊丹市教育委員会, 2005/1/29
- Akita, Shigeru “Comments to Session I: American Empire in World History”, ReAS’s 4th International Symposium in Tokyo: “American Empire, Past and Present”, at Tokyo Green Palace, Tokyo, 2005/3/12
- 秋田 茂 「1930-50年代のアジア国際経済秩序とイギリス帝国」, 中国上海・華東師範大学特別講座, 2005/3/14
- 秋田 茂 「アジアからのグローバルヒストリーの構築をめざして」, 中国上海・華東師範大学特別講座, 2005/3/16
- Akita, Shigeru “The British Empire and International Order of Asia, 1930s-1950s”, 20th International Congress of Historical Sciences, at Sydney, 2005/7/3-9
- Akita, Shigeru “The British Empire as the ‘Imperial Structural Power’ and the Asian International Order”, The 7th GEHN (Global Economic History Network) Workshop on Imperialism, at Istanbul, Turkey, 2005/9/11-12
- Akita, Shigeru “The Formation of Global History and Asia”, Osaka University-Groningen University Symposium, at Groningen, The Netherlands, 2005/10/24-26
- 秋田 茂 「大英帝国と近代アジア・日本」, 第110回懷徳堂秋季講座「世界のなかの日本—— 阪大史学の

- 挑戦2」,大阪大学中之島センター,2005/10/28
- 秋田 茂 「1930年代のイギリス非公式帝国と東アジア世界」,2005年度東北学院大学ヨーロッパ文化研究所シンポジウム「アジア世界における大英帝国と大日本帝国」(社会経済史学会東北部会共催),東北学院大学,2005/12/17
- 秋田 茂 「1950年代の東アジア国際経済秩序とスターリング圏」,2005年度「比較の中の東南アジア研究」第8回会合,京都大学東南アジア研究所,2006/3/22
- 秋田 茂 「グローバルヒストリーの構築と西洋史研究——関係史の視点から」,日本西洋史学会第56回大会・公開講演「世界史とヨーロッパ史」副講演,千葉大学,2006/5/13
- Akita, Shigeru “The International Order of Asia and Hong Kong in the 1930s and 1950s from a Comparative Perspective”, The 6th Global History Workshop: ‘Maritime Trade and Trading Metropolises: Europe and Asia, 17th to 20th Centuries’, at Hamburg, Germany, 30-31, 2006/8
- Akita, Shigeru Comments on “The Culture of Porcelain” by Maxine Berg, and “Culture and Consumption: National Drinks and National Identity in the Atlantic World” by Steven Topic and M.C. McDonald, The 10th GEHN (Global Economic History Network) Workshop on Cultures and Economies: Patterns and Variations, at Washington DC, United States, 2006/9/7-10
- Akita, Shigeru Chair of Session Thirteen: British Business and Empire in Asia, The 5th Anglo-Japanese Conference of Historians: Migration and Identity in British History, at London, United Kingdom, 27-29, 2006/9
- Akita, Shigeru Chair of Concluding General Discussions, The Second Korean-Japanese Conference of British History: Intellectual framework, Education and a birth of ‘History’ in modern Britain, at Osaka, Japan, 23, 2006/11
- Akita, Shigeru “British Economic Thoughts and India at the turn of the 19th-20th centuries”, Workshop on British Empire and Economic Thought, at Yokohama, Japan, 9-10, 2006/12
- Akita, Shigeru “Creating Global History from Asian Perspectives”, Seminar on Global History, at Austin, Texas, United States, 28, 2007/2
- Akita, Shigeru “The East Asian International Economic Order in the 1950s”, Seminar on British Imperial History, at Liverpool, United Kingdom, 21, 2007/3
- Akita, Shigeru “The British Empire as ‘Imperial Structural Power’ within an Asian International Order”, Inviting Lecture of Liverpool John Moores University, at Liverpool, United Kingdom, 22, 2007/3
- 平 雅行 「中世の神国思想と仏教」,宗教史研究会例会,2004/4
- 平 雅行 「若き日の親鸞」,第12回真宗教学学会講演会,真宗大谷派・真宗教学学会,2004/11
- 平 雅行 「来世観の変容と天皇家の葬送」,死と生の習俗をめぐる比較史研究,2004/12

- 森安孝夫 「中央アジア・シルクロードと中国史」, 明治大学文学部特別企画シンポジウム: 東洋史からアジア史へ—— 変わる世界史、広がるアジア ——, 明治大学リパティ・タワー1階1012教室, 2004/10
- 森安孝夫 「遊牧騎馬民族が作った世界史」, 2005年度懷徳堂春期講座 [第109回]
- 「世界史を書き直す—— 阪大史学の挑戦 ——」, 大阪大学中之島センター, 2005/5
- 森安孝夫 「唐代の仏教的世界地理と「胡」の実態」, International Conference 2005 “Life and Religion on the Silk Road”, organized by the Korean Association for Central Asian Studies, Seoul, 2005/11
- 山内晋次 「前近代東アジア海域史の諸相」, 洛北史学会第6回大会, 2004/6
- 山内晋次 「東アジア海上交易史をめぐる日本側の史資料」, 科研特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成—— 寧波を焦点とする学際的創生 ——」文献資料研究部門・第二回研究集会, 大阪市立大学, 2005/12
- 山内晋次 「海域アジア史からみた日宋貿易時代の福岡」, 福岡市中央市民センター・まちづくりセミナー第2弾, 福岡市中央市民センター, 2006/1
- 山内晋次 「海域アジア史研究のポテンシャル」, 2006年度歴史学入門講座〈京都〉, 歴史学入門講座実行委員会, 京都市(機関紙会館), 2006/7/2
- 山内晋次 「日宋貿易史研究からみた『シリーズ港町の世界史』」, 文部科学省特定領域研究 東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成—— 寧波を焦点とする学際的創生 ——, ワークショップ「徹底討論『シリーズ 港町の世界史』をめぐる—— 東アジア海域史研究の未来 ——」, 文部科学省特定領域研究 東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成—— 寧波を焦点とする学際的創生 ——, 福岡市, 九州大学, 2006/7/22
- 山内晋次 「9世紀～14世紀前半の日本列島と海域世界—— 日本における近年の研究動向 ——」, 「古代東亜海域的文化交流—— 以11-16世紀寧波—— 博多関係を中心」學術研究会, 浙江工商大学日本文化研究所・文部科学省特定領域研究「11～16世紀の東アジア海域と寧波—— 博多関係」研究班, 中国・杭州市, 浙江工商大学・日本文化研究所, 2007/1/27
- 佐藤貴保 「西夏皇帝の側近集団—— 西夏語・漢語文献からの復原 ——」, 東洋史研究会大会, 東洋史研究会, 京都大学京大会館, 2004/11/3
- 佐藤貴保・荒川慎太郎 「ロシア所蔵カラホト出土西夏文2736号文書再読」, オアシスプロジェクト歴史文献班研究会, 総合地球環境学研究所オアシスプロジェクト, 総合地球環境学研究所, 2005/5/16
- 佐藤貴保 「西夏時代のカラホトの交通路をめぐる諸問題」, 内陸アジア史上の都市と交通路研究会, 内陸アジア史上の都市と交通路研究会, 大阪大学文学部, 2005/12/10
- 佐藤貴保 「西夏時代における銀川～エチナ間の交通路について」, オアシスプロジェクト歴史文献班研究会, 総合地球環境学研究所オアシスプロジェクト, 大谷大学, 2006/2/13

- 佐藤貴保 「西夏時代における黒河流域の交通路」, カラホトの歴史と環境に関する国際シンポジウム, 中国社会科学院・総合地球環境学研究所ほか, 中華人民共和国内蒙古自治区額濟納旗, 2006/9/17
- 佐藤貴保 「西夏時代における黒河中流域」, 第12回沙漠誌分科会, 沙漠学会沙漠誌分科会, 甲南大学, 2007/2/17
- Chonlaworn, Piyada “Ayutthaya’s Relations with East Asian and the Role of the Overseas Chinese”, the 18th IAHA Conference, IAHA (International Association of Historians of Asia), Academia Sinica, Taipei, 2004/12/6-10
- Hasuda, Takashi “Khao cuu lai ve su thanh lap nha Le Trung Hung”, Hoi thao khoa hoc quoc te lan thu II ve Viet Nam hoc (第2回ベトナム学国際会議), Ho Chi Minh City, 2004/7/14-16
- 蓮田隆志 「『華人の時代』と近世北部ベトナム: 1778年の越境事件を素材として」, 『アジア民衆史研究会2004年度第3回研究会』, アジア民衆史研究会, 早稲田大学, 2004/10/9
- Hasuda, Takashi “Seeing Mainland Southeast Asian Experiences from the Early Modern Empire Perspective”, the 18th IAHA Conference, IAHA (International Association of Historians of Asia), Academia Sinica, Taipei, 2004/12/6-10
- 蓮田隆志 「ベトナム後期黎朝成立史再考」, 第327回東南アジア史学会関西例会, 大阪市立大学文化交流センター, 2006/3/18
- 蓮田隆志 「良倉鄧考——近世ベトナムにおける階層移動と族結合の出現とをめぐる一考察——」, 第334回東南アジア史学会関西例会, 大阪市立大学文化交流センター, 2006/11/11
- 蓮田隆志 「海が閉じるとき, 海が開くとき——海から見るアジアとそのダイナミズム——」, アジア太平洋海域シンポジウム——海が結ぶアジア, 立命館アジア太平洋大学・読売新聞西部本社, 立命館アジア太平洋大学, 2006/11/15
- Fujita, Kayoko “The European Presence in Early-Modern East and Southeast Asia: An Examination of the Concept of Early Modern Empire”, the 18th IAHA Conference, IAHA (International Association of Historians of Asia), Academia Sinica, Taipei, Taiwan, 2004/12/6-10
- Fujita, Kayoko “Different Lands/Shared Experiences: Critical Review of a Cross-Cultural Exhibition and an Analysis of Museum-Visitors’ Perception”, the 11th EAJIS Conference, the European Association for Japanese Studies (EAJS), University of Vienna, Vienna, Austria, 2005/8/31-9/3
- 藤田加代子 「史料出版と研究機関の21世紀的關係——関西・海域アジア史研究会からの提言——」, 「日本関係海外史料 オランダ商館長日記」合評会——原文編・訳文編 十までの総括として——, 東京大学史料編纂所特殊史料部, 東京大学史料編纂所, 2005/12/2
- Fujita, Kayoko “The Long-Term Trends in Textile Imports and Metal Exports of Tokugawa Japan, ca. 1600-1800”, the GEHN Conference “Meanings of Trade: Textiles and the World Economy, 1500-1820”, the

Global Economic History Network (GEHN), Gokhale Institute of Politics & Economics, Pune, India, 2005/12/18-20

Fujita, Kayoko “The Economic Expansionism and Ideology of Tokugawa Japan and Its Peripheries: A Case Study from Early Modern East Asia (Late 16th - Mid-19th Century)”, the Workshop “Asian Expansions: The Historical Processes of Polity Expansions in Asia”, Asia Research Institute, National University of Singapore, Singapore, 2006/5/12-13

Fujita, Kayoko, “A Passage to St. Louis: The Shibusawa Keizō Collection for the Museum of Commerce and the Exhibition ‘Different Lands/Shared Experiences’”, the 10th ASCJ Conference, the Asian Studies Conference Japan (ASCJ), International Christian University, Tokyo, Japan, 2006/6/24-25

水田大紀 「「天成の臣民」は英国化をめざす——マルタの本国官僚任用試験実施の請願を通じて——」, 日本西洋史学会第56回大会 近現代史部会I, 日本西洋史学会, 千葉大学, 2006/5/14

イメージとしての〈日本〉

■ 著書(編著・単著・共著の図書等)

- 伊藤公雄 (共編著)『新版 ジェンダーで学ぶ社会学』, 世界思想社, 2006
- 伊藤公雄 *International Encyclopedia of Men & Masculinities*, Routledge (編集委員および項目執筆、印刷中)
- 富山一郎 (共著)「南島人とは誰のことか」, 竹沢泰子編『人種概念の普遍性を問う』, 人文書院, 2005/2
- 富山一郎 (編著)『記憶が語りはじめる』, 東大出版会, 2006
- 荻野美穂 「ジェンダー論、その軌跡と射程」, 二宮宏之編『歴史はいかに書かれるか』, 岩波書店, pp. 189-215, 2004/6
- 荻野美穂 『戦後世界における家族計画とジェンダーの史的研究』(2002年度-2004年度科学研究費補助金研究成果報告書), 2005/3
- 荻野美穂 「国民国家日本の人口政策と家族：戦前・戦中期を中心に」, 比較家族史学会監修／田中真砂子他編『国民国家と家族・個人』, 早稲田大学出版部, pp. 95-122, 2005/9
- 荻野美穂 「家族計画援助と白人性」, 藤川隆男編『白人とは何か?』, 刀水書房, pp. 221-232, 2005/10
- 荻野美穂 「人口政策と家族：国のために産むことと産まぬこと」, 倉沢愛子・杉原 達他編『アジア・太平洋戦争3巻 動員・抵抗・翼賛』, 岩波書店, pp. 151-178, 2006/1
- 荻野美穂 (共著) 日本女性学会ジェンダー研究会『Q&A男女共同参画／ジェンダーフリー・パッシング』, 明

石書店, 2006/6

- 荻野美穂 (編著)『身体をめぐるレッスン2 資源としての身体』, 岩波書店, 2006/12
- 荻野美穂 (共著)『産む・産まない・産めない』, 講談社現代新書, 2007/1
- 杉原 達 (共編)『岩波講座 アジア・太平洋戦争』, 1-8, 岩波書店, 2005/6
- 杉原 達 『戦時期日本の中国人強制連行に関する歴史的研究』(科学研究費補助金研究成果報告書), 2006/3
- 牟田和恵 『ジェンダー家族を超えて』, 新曜社, 2006
- 牟田和恵 (共編著)『新版 ジェンダーで学ぶ社会学』, 世界思想社, 2006
- 山中浩司 (編著)『臨床文化の社会学——職業・技術・標準化』, 昭和堂, 2005
- 山中浩司 (共編著)『遺伝子研究と社会——生命倫理の実証的アプローチ』, 昭和堂, 2007
- 山中千恵 (共著)『ポスト韓流のメディア社会学』, ミネルヴァ書房, 2007

定期刊行物に掲載された論文

- 伊藤公雄 「Teaching Sociology——社会学教育の方法をめぐって」, 『フォーラム現代社会学』, 3, 関西社会学会, 世界思想社, pp. 54-64.
- 伊藤公雄 「イタリア・ファシズムと〈男らしさ〉」, 『現代のエスプリ』, 446, pp. 118-127, 2004
- 伊藤公雄 「ヘイト／フォビアの構図」, 『インパクション』, 143, インパクト出版会, pp. 28-37, 2004
- 伊藤公雄 「人口減少時代の男性／女性の生活スタイル」, 『発達』, 101, ミネルヴァ書房, pp. 74-80, 2004
- 伊藤公雄 「イメージとしての社会学」, 関西社会学会編『フォーラム現代社会学』, 4, 世界思想社, pp. 5-9, 2005
- 伊藤公雄 「男性にとつての男女共同参画」, 『部落解放』, 7月号, 解放出版, pp. 45-53, 2005
- 伊藤公雄 「ジェンダーの視点で見た日本とイタリア」, 『日本ジェンダー研究』, 10, 日本ジェンダー学会, pp. 75-79, 2005
- 金水 敏 「日本語の敬語の歴史と文法化」, 『言語』, 33 (4), 大修館書店, pp. 34-41, 2004/4
- 金水 敏 「全国共通語「おる」の機能とその起源」, 『近代語研究』, 12, 近代語学会編, 武蔵野書院, pp. 393-412, 2004/8
- 金水 敏 「研究手帳:〈アルヨことば〉その後」, 『いずみミニ通信』, 3, 和泉書院, pp. 5-6, 2004/11
- 金水 敏 「近代日本小説における「(人が) いる／ある」の意味変化」, 『待兼山論叢(文学篇)』, 38, 大阪大学大学院文学研究科, pp. 1-14, 2004/12
- 金水 敏 「歴史的に見た「いる」と「ある」の関係」, 『日本語文法』, 5 (1), 日本語文法学会編, くろしお出版, pp. 138-157, 2005/3

- 金水 敏 「日本語敬語の文法化と意味変化」,『日本語の研究』,1 (3), 日本語学会, pp. 18-31, 2005/7
- 金水 敏 「存在表現の歴史と方言」,『国語と国文学』,82 (11), 東京大学国語国文学会, pp. 180-191, 2005/11
- 金水 敏 「シンポジウム 対照役割論への誘 (いざな) い (総括)」,『KLS 26: Proceedings of the Twenty-seventh Annual Meeting June 4-5, 2005』, pp. 400-405, 関西言語学会, 2006/6/10
- 金水 敏 「ファンタジーとしての『ダ・ヴィンチ・コード』」,『文学』,7 (4) (7・8月号), pp. 111-114, 岩波書店, 2006/7
- 金水 敏 「日本語アスペクトの歴史的研究」,『日本語文法』,6 (2), 日本語文法学会編, くろしお出版, pp. 33-44, 2006/9
- 金水 敏 「役割語研究の展開」,『日本語学研究』,17, 韓国日本語学会, pp. 3-7, 2006/12
- 富山一郎 「経験が重なり合う」(ハングル),『当代批評』,センガグナム (韓国), 9月号, pp. 302-311, 2004/9
- 富山一郎 「鎮圧の後」,『情況』,5 (9) (第三期), 情況出版, pp. 126-131, 2004/10
- 富山一郎 「沖縄戦『後』ということ」,『日本史講座』,10, 歴史学研究会・日本史研究会編, 東大出版会, pp. 291-324, 2005/7
- 富山一郎 「研究アクティビズムのために」,『インパクション』,153, pp. 10-21, 2006
- 荻野美穂 「近代家族と生殖技術」,『日本学報』,24, 大阪大学大学院文学研究科日本学研究室, pp. 39-47, 2005/3
- 荻野美穂 「障害を理由とした中絶とフェミニズム: アメリカの場合、日本の場合」,『思想』,979, pp. 85-111, 2005/11
- 牟田和恵 「「縮減」される意味と問題 —— セクシュアル・ハラスメントと法・制度」,『フォーラム現代社会学』,3, 2004
- 牟田和恵 「家族の近現代 —— 生と性のポリティクスとジェンダー」,『社会科学研究』,57, 東京大学社会科学研究所, 2006
- 牟田和恵 「フェミニズムの歴史からみる社会運動の可能性 —— 「男女共同参画」をめぐる状況を通しての一考察」,『社会学評論』,57 (2) (通巻226号), pp. 292-310, 2006
- Muta, Kazue “Sexual Harassment and Empowerment of Women in Japan”, *NIASnytt, Nordic Institute of Asian Studies*, March No.1, Copenhagen, Denmark, pp. 12-13, 2004
- 真鍋昌賢 「民俗学史における問題としての「芸術」 —— 特集にあたっての序言」,『日本学報』,25, 大阪大学大学院文学研究科日本学研究室, pp. 1-8, 2006/3
- 真鍋昌賢 「「地域」からはじまる「日本」研究 —— 日本学事始め演習の実践記録と今後の課題 —— 」,『日本学報』,25, 大阪大学大学院文学研究科日本学研究室, pp. 71-82, 2006/3
- 真鍋昌賢 「比較の夢 —— 町田嘉章と「民謡」の録音・採譜 —— 」,『口承文芸研究』,30, pp. 150-157, 2007

- 真鍋昌賢 「研究対象としての「二次的な声の文化」」,『口承文芸研究』,30,pp.214-220,2007
- 山中千恵 「韓流を語ることの現在」,『韓国朝鮮の文化と社会』,5,pp.133-144,2006
- 山中千恵,伊藤 遊 「マンガを通じた国際交流への期待 —— モナシュ大学の事例から」,『マンガ研究』,9,pp.6-17,2006
- 伊藤 遊 「「差別と向き合うマンガたち」を考える」,『人権と部落問題』,725,部落問題研究所,pp.66-69,2004/12
- 表 智之 (共著)「差別と向き合うマンガたち(1)～(12)」,『人権と部落問題』,716～721,723～728,部落問題研究所,2004/4～2005/3

■ 定期刊行物以外(論文集、報告書、図書等)に収録された論文

- 伊藤公雄 「戦後男の子文化のなかの『戦争』」,中久郎編『戦後日本のなかの「戦争」』,世界思想社,pp.151-179,2004/2
- 伊藤公雄 「学術の総点検」,原ひろ子・蓮見音彦・池内了・柏木恵子編『ジェンダー問題と学術』,ドメス出版,pp.31-38,2004
- 伊藤公雄 「解釈と実践 —— カルチュラル・スタディーズの射程」,盛山和夫・土場学・野宮大志郎・織田輝哉編『〈社会〉への知/現代社会学の理論と方法(下)』,勁草書房,pp.145-164,2005
- Ito, Kimio “An introduction to men's studies” in Maclelland, M. and R. Dasgupta (eds.), *Genders, Transgenders and Sexualities in Japan*, Routledge, pp. 145-152, 2005
- 伊藤公雄 「『過程』と『媒介』の思想 —— アントニオ・グラムシの視座」,大橋良介,高橋三郎,高橋由典編『学問の小径』,世界思想社,pp.249-263,2005
- 金水 敏 「敬語動詞における視点中和の原理について」,『文法と音声 IV』,音声文法研究会編,くろしお出版,pp.181-192,2004/5
- 金水 敏 「文脈的結果状態に基づく日本語助動詞の意味記述」,影山太郎・岸本秀樹編『日本語の分析と言語類型』柴谷方良教授還暦記念論文集,くろしお出版,pp.47-56,2004/7
- 金水 敏 「金剛寺一切経の古訓点本 —— 『維摩経』を中心に —— 」,石塚晴通教授退職記念会編『日本学・敦煌学・漢文訓読の新展開』,汲古書院,pp.95-115,2005/5
- 金水 敏 「古代・中世の「をり」と文体」,築島裕博士傘寿記念会編『築島裕博士傘寿記念 国語学論集』,汲古書院,pp.212-229,2005/10
- 金水 敏 「古代・中世日本語用例のローマ字表記について」,『文法と音声 V』,音声文法研究会編,くろしお出版,pp.177-190,2006/9/7
- 金水 敏 「役割語としてのピジン日本語の歴史素描」,上田功・野田尚史編『言外と言内の交流分野:小泉

- 保博士傘寿記念論文集』, pp. 163-177, 大学書林, 2006/4/30
- 金水 敏 「「～でいる」について」, 益岡隆史・野田尚史・森山卓郎編『日本語文法の新地平 1 形態・叙述内容編』, pp. 143-156, くろしお出版, 2006/10/28
- 富山一郎 「帝国日本の人種および人種主義」, 「人種」の概念と実在性をめぐる学際的基礎研究」(2001年度-2003年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書/代表: 竹沢泰子), pp. 187-194, 2004/5
- 荻野美穂 「ART時代の家族の行方」, 「出生力に関連する諸政策が出生調節行動を介して出生力に及ぼす影響に関する研究報告書」, 国立社会保障・人口問題研究所, pp. 63-66, 2005/3
- 荻野美穂 「近代日本のセクシュアリティと避妊」, 「家族・身体・セクシュアリティ」, 大阪府立大学女性学研究センター, pp. 74-103, 2006/11
- 荻野美穂 「生殖技術と近代家族の融解」, 『F-GENS』, お茶の水女子大学 21世紀COEプログラム, 2007/3
- 杉原 達 「日本と台湾、アジアの戦後史の闇」, 徐勝編『東アジアの冷戦と国家テロリズム』, お茶の水書房, pp. 17-20, 2004/12
- 杉原 達 「帝国との向き合いかた —— 中国人強制連行の戦後」, 歴史学研究会編『帝国への新たな視座』, 青木書店, pp. 67-103, 2005/5
- 杉原 達 「帝国という経験 —— 指紋押捺を問い直す視座から」, 杉原 達他編『アジア・太平洋戦争』, 1, 岩波書店, pp. 47-86, 2005/11
- Muta, Kazue “Las mujeres japonesas en el siglo XX y mas alla”, Amelia Saiz Lopez (ed.), *Mujeres Asiaticas Cambio Social y Modernidad*, CIDOB, Barcelona, pp. 15-36, 2006
- Muta, Kazue “The New Woman in Japan: Radicalism and Ambivalence toward Love and Sex”, in Ann Heilmann and Margaret Beetham(eds.), *New Woman Hybridities: Femininity, Feminism, and International Consumer Culture, 1880-1930*, London, Routledge, 2004
- 牟田和恵 「セクシュアル・ハラスメントとソーシャル・コントロール」, 宝月誠・進藤雄三編『社会的コントロールの現在』, 世界思想社, 2005
- 牟田和恵 「親密なかかわり」, 井上俊・船津衛編『自己と他者の社会学』, 有斐閣, 2005
- 牟田和恵 「愛する —— 性愛とジェンダー」, 伊藤公雄・牟田和恵(編)『新版ジェンダーで学ぶ社会学』, 世界思想社, 2006
- 山中浩司 「医療における「臨床」と「技術」」, 山中浩司『臨床文化の社会学』, 昭和堂, pp. 11-26, 2005
- 山中浩司 「職業と標準化」, 山中浩司『臨床文化の社会学』, 昭和堂, pp. 79-102, 2005
- 山中浩司 「検査医療と標準化」, 山中浩司『臨床文化の社会学』, 昭和堂, pp. 176-204, 2005
- 山中浩司 「バイオテクノロジー時代における生物試料」, 山中浩司・額賀淑郎『遺伝子研究と社会 —— 生命倫理の実証的アプローチ』, 昭和堂, pp. 115-145, 2007

- 真鍋昌賢 「芸能のポピュラリティーと演者の実践——浪曲師・天龍三郎の口演空間の獲得史——」, 赤坂憲雄編『現代民俗誌の地平2 権力』, 朝倉書店, pp. 135-152, 2004/6
- 真鍋昌賢 「浪花節の「盛衰」と「新作」——近・現代の語り芸研究のための提案——」, 福田晃編『講座日本の伝承文学十巻 ヨミ・カタリ・ハナシの伝承世界』, 三弥井書店, pp. 251-264, 2004/8
- 真鍋昌賢 「芸術化への意志——浪花節改良をめぐる実践と志賀志那人——」, 志賀志那人研究会 代表・右田紀久恵編『都市福祉のバイオニア 志賀志那人 思想と実践』, 和泉書院, pp. 111-124, 2006
- 真鍋昌賢 「『声の文学』としての語り物——近代における浪花節の変貌』, 大阪大学大学院文学研究科東アジア国際フォーラムプロジェクト編『台湾における日本文学・国語学の新たな可能性 アジアの表象／日本の表象』(2004・2005年度大阪大学大学院文学研究科共同研究報告書), 大阪大学文学研究科, pp. 118-121, 2006/3
- 真鍋昌賢 「ラジオと高齢者——「深夜」とは誰のものか?——」, 小川伸彦・山泰幸編『現代文化の社会学・入門』, ミネルヴァ書房, pp. 231-247, 2007
- 山中千恵 「読まれえない「体験」・越境できない「記憶」——韓国における『はだしのゲン』の受容めぐって——」, 『はだしのゲンのいた風景——マンガ・戦争・記憶』, 梓書房, pp. 211-245, 2006
- Yamanaka, Chie “Domesticating Manga? National identity in Korean comics culture”, *Reading Manga: Local and Global Perceptions of Japanese Comics*, Leipzig University Press, pp. 191-202, 2004
- 山中千恵 「『韓国マンガ』という戦略——グローバリゼーション・「反日」・儒教文化」, 岩渕功一編『越える文化、交錯する境界——トランス・アジアを翔るメディア文化』, 山川出版社, pp.109-132, 2004
- 伊藤 遊 吉村和真・福岡良明編著『「はだしのゲン」がいた風景』, 梓出版, 2006
- Ito, Yu (共著)“Barefoot Gen in Japan. An attempt at media history”, Jaqueline Berndt & Steffi Richter(eds.), *Reading Manga: Local and Global Perceptions of Japanese Comics*, Leipzig University Press, 2006

■ エッセー・評論・翻訳・書評・解説・事典(辞典)項目・その他

- 金水 敏 (書評)「李 長波著『日本語指示体系の歴史』」, 『国語学』, 55-3 (通巻第218号), 日本語学会, pp. 1-6, 2004/7
- 金水 敏 (事典項目)「役割語」(pp. 282-284), 真田信治, 庄司博史編『日本の多言語社会』, 岩波書店, 2005/10
- 富山一郎 (鼎談)「保安処分の新展開」(崎山政毅・田崎英明と), 『インパクション』, 141, pp. 72-83, 2004/5
- 富山一郎 「溢れ出る情動と問答無用の暴力」, 『インパクション』, 141, pp. 84-85, 2004/5
- 富山一郎 「戦場の記憶」, 高等学校国語教科書『新現代文』, 筑摩書房, pp. 219-226, 2004/5
- 富山一郎 「分析ということ、記憶ということ、あるいは正しい政治」, 『日本思想史研究会会報』, 23, pp.

1-8, 2005/12

- 富山一郎 「『戦場の記憶』から」『評論』, 153, 日本経済評論社, pp. 10-13, 2006/2
- 富山一郎 「裏切られた希望、あるいは希望について、文富軾著『失われた記憶を求めて』をめぐる省察」, 『日本学報』, 25, 大阪大学大学院文学研究科日本学研究室, pp. 107-129, 2006/3
- 荻野美穂 「シンポジウム・コメント」, 『F-GENS』, 創刊号, お茶の水女子大学21世紀COEプログラム, pp. 96-98, 2004/4
- 荻野美穂 (書評) 「Tiana Norgren, Abortion before Birth Control: The Politics of Reproduction in Postwar Japan」, 『人口問題研究』, 60-3, 国立社会保障・人口問題研究所, p. 82, 2004/9
- 荻野美穂 (翻訳) ジョン・W・スコット著「改訂版への序文」(pp. 9-18), 「第10章 ジェンダーと政治について再考する」(pp. 402-442), 『ジェンダーと歴史学』改訂版, 平凡社, 2004/10
- 荻野美穂 「人工妊娠中絶：アメリカにおける論争」, 『日本医師会雑誌』, 132-10, p. 1326, 2004/11
- 荻野美穂 「『反射する当事者性』と身体政治：〈女性〉にとって男性史とはなにか」(海妻径子との対談), 『情況』, 11月号, pp. 120-139, 2004/11
- Ogino, Miho, “Commentary”, 『F-GENS』, 3, お茶の水女子大学21世紀COEプログラム, pp. 217-218, 2005/3
- 荻野美穂 「出産のユートピアの語り方」, 『助産婦雑誌』, 4月号, pp. 328-329, 2005/4
- 荻野美穂 「戦後の家族計画と夫婦の性の変遷」, 『現代性教育研究月報』, 6月号, pp. 1-5, 2005/5
- 杉原 達 「上田正昭・姜尚中・杉原 達・朴一(座談会)『歴史のなかの「在日」』, 藤原書店編集部編『歴史のなかの「在日」』, 藤原書店, pp. 11-88, 2005/3
- 牟田和恵 (岡野八代との共訳) ドゥルシラ・コーネル『女たちの絆』, みすず書房, 2005
- 真鍋昌賢 (改訂版) 「第三巻解説」, 上笠一郎編『叢書 日本の児童遊戯』別巻, クレス出版, pp. 57-62, 2005/4
- 真鍋昌賢 「寛容な客——ニセ者の芸能史にむけて——」, 『月刊みんぱく』, 30-6, pp. 6-7, 2005/6
- 伊藤 遊 「テレビドラマ・映画レビュー：描かれたオウム真理教団と「教祖」」, 川村邦光編『文化／批評』, 春季号, 文化／批評編集委員会, pp. 91-99, 2005/3

講演・口頭発表等

- 伊藤公雄 (パネルとして参加報告) International Symposium on Trafficking in Persons, at U Thant Conference Hall, United Nations University, 主催：外務省, 独立行政法人国立女性教育会館, 国際移住機構, 2006
- 伊藤公雄 “Fascismo/Nazione-stato/Mascolinità”, at Roma University, 2005
- Kinsui, Satoshi “Interaction between Honorification and Identification in the History of Japanese Grammar”,

- Functional Approaches to Japanese Grammar: Towards the Understanding of Human Language, University of Alberta, 2004/8/22
- 金水 敏 「「俺」の歌、「僕」の歌——日本流行歌に見る「男性性」の表現——」,「日本学・敦煌学・漢文訓読の新展開」国際学術会議,北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟,2004/9/3
- Kinsui, Satoshi “Interaction between Argument and Non-argument in the Historical Change of the Japanese Syntax”, Oxford-Kobe Seminars, The Second Linguistics Seminar International Symposium: The History and Structure of Japanese Kobe Institute Oxford University, 2004/9/29
- 金水 敏 「対照役割語研究の構想」, 関西言語学会第30回記念大会 シンポジウム「対照役割語研究への誘い」, 関西大学千里山キャンパス2号館B102教室, 2005/6/5
- 金水 敏 「役割語研究の動向」, 共同研究会「日本語史・日本語学研究の新展開」, 高麗大学校 国際館115号室, 2005/9/30
- Kinsui, Satoshi “On the Short History of *Oru*”, Lecture Room 1, the Oriental Institute, Oxford University, 2005/11/2
- Kinsui, Satoshi “On “Role Language” in Contemporary Japanese: An Investigation of Prototypical Styles in Japanese”, Main Hall, Taylor Institution, Oxford University, 2005/11/4
- 金水 敏 「役割語研究の動向」, 国際シンポジウム「アジアの表象／日本の表象」, チュラーロンコーン大学 文学部, 2005/12/22
- 金水 敏 「役割語研究の展開」, 韓国日本語学会第13回学術発表大会, 東義大学校 (韓国・釜山), 2006/3/18
- 金水 敏 「ヴァーチャル日本語 役割語について」, 日本語教師養成講座・開講講演, 名古屋YWCA, 2006/4/22
- 金水 敏 「現代に生きる古典日本語 (招待パネル “Classical Japanese”, Chair: Haruo Shirane)」, 2006日本語教育国際研究大会, コロンビア大学, ニューヨーク市, The Association of Teachers of Japanese/ National Council of Japanese Language Teachers, 2006/8/5
- 金水 敏 「役割語とは何か——音声的アプローチも含めて——」, 日本音響学会2006年秋季研究発表会, 金沢大学角間キャンパス, 日本音響学会, 2006/9/13
- 金水 敏 「日本語存在表現の歴史と文法化」, 文法学会研究会 連続公開講義, 東京大学駒場キャンパス, 2006/9/23
- Kinuhata, Tomohide, Iwata, Miho, Eguchi, Tadashi and Kinsui, Satoshi, “Genesis of Indeterminate Pattern in Japanese”, 16th Japanese/Korean Linguistics Conference, 京都大学文学部, 2006/10/7
- 金水 敏 「役割語研究の展開」, 皇學館大学国文学会講演会, 皇學館大学, 2006/11/9
- 金水 敏 「日本の近代化とことばの性差」, 韓日国際学術交流フォーラム, 韓国外国語大学, 韓国外国語大

- 学大学院日本近代文学会, 大阪大学大学院文学研究科, 2006/12/9
- 富山一郎 「運動を媒介するということ」, Symposium of Editors of Critical Journal, Changbi Publishers and Yonsei University, 延世大学 (韓国), 2006/6/9-10
- 富山一郎 「歴史記述における感情記憶の問題」, 日韓歴史家会議 (第六回), 日韓文化交流基金, ホテルはあといん乃木坂, 2006/10/27-29
- 富山一郎 「媒介の知」, Globalizing Academic Publishing Asisa Conference, 台湾清華大, 2006/11/1-3
- Ogino, Miho “Reproductive Technologies and the Feminist Dilemma in Japan”, at the conference, “Going Too Far: Rationalizing Unethical Medical Research in Japan, Germany, and the United States”, University of Pennsylvania, USA, 2004/4-5
- 荻野美穂 「夫婦生活のエロス化と避妊」, 日本女性学研究会近代女性史分科会, 2004/10
- 荻野美穂 (コメント) お茶の水女子大学 COE プログラム 「ロンダ・シービングー講演会: Exotic Abortifacients: The Gender Politics of Plants in the Eighteenth-Century Atlantic World」, 2004/12
- 荻野美穂 「公共的存在としての胎児」, 第59回公共哲学京都フォーラム, 2005/3
- 荻野美穂 「身体史からスポーツを考える: 性差はどのように語られてきたか」, 日本スポーツとジェンダー研究会大会講演, 2005/7
- 杉原 達 「猪飼野を語る」, 青智鉉写真集「猪飼野」のつとめ, 2004/4
- 杉原 達 (コメント) 政治経済学・経済史学会秋季学術大会・共通論題「労働のグローバル化と国家・地域——歴史と現状」, 早稲田大学, 2004/10
- 杉原 達 「中国人強制連行の戦後——国の隠蔽過程——」, 七尾港に強制労働・労働された中国人の戦後補償を求める訴訟を支援する会, 石川県教育会館, 2006/7/22
- 杉原 達 「在日朝鮮人問題と大阪——その歴史と現在の課題——」, 守口市教職員組合, 守口市生涯学習センター, 2006/11/2
- Yamanaka, Hiroshi & Ueyama, T. “Private industries, academic medicine and clinical institutions: Complex situations facing with growing trend toward commercialization and privatization” in Japan 4S and EASST Meeting, European Association for the study of science and Technology, Society for Social Studies of Science, Paris, 2004/8/26
- 山中浩司 「医療・生命科学における市場化と公共性のデータベース」の紹介」, 生命科学シンポジウム, 上智大学生命科学研究所, 上智大学, 2007/1/13
- 上山隆大・山中浩司 「医療・生命科学における市場化と公共性」, データベース作成・ビデオインタビュークリップ, <http://mtslab.cc.sophia.ac.jp/>
- 真鍋昌賢 「岡町と能勢街道——町場の暮らしにみる豊中の近代」, 新修豊中市史「社会教育」発刊記念講演「わがまち豊中を知る」, 2004/7

- 真鍋昌賢 「『義士伝』から『乃木伝』へ —— 浪花節における武士道のゆくえ —— 」, 日本国際文化学会第
三回全国大会, 2004/7
- 真鍋昌賢 「1920-30年代における『民衆娯楽』としての浪花節」, 芸能史研究会8月例会, 2004/8
- 真鍋昌賢 「『民俗芸術』概念の成立と展開」, 国際日本文化研究センター共同研究「出版と学芸ジャンルの
再編成 —— 近世から近代へ」, 2004/9
- 真鍋昌賢 「浪曲師の声をめぐる期待の交差: 1930-1940年代 —— 演者の人生史に内在する視点から —— 」,
国立歴史民俗博物館共同研究「20世紀における戦争」, 2005/1
- 真鍋昌賢 「志賀志那人の民衆娯楽思想を位置づけるために」, 志賀志那人研究会, 主催者: 森田康夫, 大阪
市社会福祉研究センター, 2005/1
- 真鍋昌賢 「人はいかにして〈客〉になるのか —— 近代日本芸能史の受容史観についての対話 —— 」, 京
都市立芸術大学プロジェクト研究「近代日本における音楽・芸能の再検討」, 京都市立芸術大
学, 2005/5/28
- 真鍋昌賢 「ニセ者の芸能史試論」, 京都市立芸術大学プロジェクト研究「近代日本における音楽・芸能の再
検討」, 2005/11
- 真鍋昌賢 「声の文学としての語り物」, 国際フォーラム「アジアの表象/日本の表象」, チュラロンコン大学 (タ
イ), 2005/12/22
- 真鍋昌賢 「浪花節の改良と芸術化への意志 —— 1920年代における志賀志那人と宮川松安の実践」, プ
ロジェクト研究「近代日本における音楽・芸能の再検討」, 京都市立芸術大学, 京都市立芸術大
学, 2006/5/20
- 真鍋昌賢 「口承文芸研究は『落日』をのりこえたか」, 第30回口承文芸学会大会「シンポジウム口承文芸研
究のこれから」, 白百合女子大学, 2006/6/3
- 真鍋昌賢 「アナウンサーのことば, DJのことば —— 「二次的な声の文化」とイントネーション」, プロジェク
ト研究「近代日本における音楽・芸能の再検討」, 京都市立芸術大学, 2006/7/15
- 真鍋昌賢 「芸能史の『近代』を論じるために」, プロジェクト研究「近代日本における音楽・芸能の再検討」,
京都市立芸術大学, 2006/9/2
- 真鍋昌賢 「庶民文化の芸術化をめざして —— 浪花節の改良運動 —— 」, 社会福祉啓発シンポジウム「志
賀志那人の思想と実践に学ぶ —— 地域福祉の再構築に向けて」, 大阪市社会福祉研修・情報セ
ンター, 大阪市立住まい情報センター, 2006/11/18
- 山中千恵 「日韓ポピュラーカルチャーの現在」, 河合塾文化講演会, 河合塾大阪校, 2004/6
- 山中千恵 「海峡を渡る風にのって」, 河合塾文化講演会, 河合塾大阪校, 2005/9
- Yamanaka, Chie “Centralized ‘Pop-Japan’ – What the acceptance of Japanese popular culture in Korea tells us”,
Monash University, Japanese Studies Centre (Clayton Campus), 2005/3

- Yamanaka, Chie “<Japan> and Korean Manwha”, Reading Manga From Multiple Persepectives: Japanese Comics And Globalisation, Leipzig University, 2005/7
- 山中千恵 「韓国 of ケータイ・ネット利用と 若者の文化」, 第10回日本社会情報学会, 京都大学, 2005/9
- Yamanaka, Chie “Manwha, manga and cultural identity: On comics readers and nationalism in Korea”, Revising History in Contemporary East Asia, University of Leipzig, 2006/6
- Yamanaka, Chie “The penetration of cross-cultural understanding through television format”, ARC, Asia Pacific Research Futures Network and the Korea Foundation, Monash University, 2006/8
- Yamanaka, Chie “The Reception of Japanese Manga in Korea: On Japan as ‘Other’ and Nationalism for Korean comics Readers”, La globalisation culturelle et le rôle de l’Asie, CERI, 2007/3
- Bauwens, Jessica 「ナース集団の抵抗による医療革命——アメリカ合衆国とニュージーランドの事例をあげて」, 第55回関西社会学大会, 医療Ⅱ, 2004/5/23
- 伊藤 遊 「TVドラマ・映画における「オウム真理教事件」」, 第6回「文化／批評」研究会, 大阪大学, 2004/3/2
- 伊藤 遊 (コメント) 第1回「民俗藝術研究会」, 2004/11/13

言語の接触と混交

著書(編著・単著・共著の図書等)

- 工藤眞由美 (共著)『日本語のアスペクト・テンス・ムード体系——標準語研究を超えて——』, ひつじ書房, 2004/11
- 工藤眞由美 (共著)『方言における述語構造の類型論的研究』(科学研究費報告書), 2005/3
- 工藤眞由美 (共著)『方言における述語構造の類型論的研究』(科学研究費報告書 CD-ROM 版), 2005/3
- 工藤眞由美 (共著)『方言における述語構造の類型的研究Ⅱ』(科学研究費報告書), 2006/3
- 工藤眞由美 (共著)『方言の文法』, 岩波書店, pp. 93-136, 2006
- 佐治圭三・真田信治 監修『異文化理解と情報』, 東京法令出版, 2004/6
- 佐治圭三・真田信治 監修『日本語教授法』, 東京法令出版, 2004/6
- 佐治圭三・真田信治 監修『音声・文字・表記』, 東京法令出版, 2004/6
- 佐治圭三・真田信治 監修『文法・語彙・日本語史』, 東京法令出版, 2004/6
- 佐治圭三・真田信治 監修『言語一般』, 東京法令出版, 2004/6

- 佐治圭三・真田信治 監修『文化・社会・地域』, 東京法令出版, 2004/6
- 真田信治 (共編)『在日コリアンの言語相』, 和泉書院, 2005/1
- 真田信治 『都道府県別 気持ちが伝わる名方言 141』, 講談社, 2005/1
- 真田信治 (共編)『20世紀方言研究の軌跡——文献総目録——』, 国書刊行会, 2005/5
- 真田信治 (共編)『事典 日本の多言語社会』, 岩波書店, 2005/10
- 真田信治 (監修)『方言の絵事典』, PHP, 2006/2
- 真田信治 (編)『薩南諸島におけるネオ方言(中間方言)の実態調査』(科学研究費成果報告書), 大阪大学, 2006/2
- 真田信治 (共編)『奄美大島における言語意識調査報告』, 大阪大学大学院文学研究科真田研究室, 2006/2
- 真田信治 (編)『社会言語学の展望』, くろしお出版, 2006/3
- 真田信治 (監修)『日本のフィールド言語学 新たな学の創造にむけた富山からの提言』, 桂書房, 2006/5
- 真田信治 (監修)『韓国人による日本社会言語学研究』, おうふう, 2006/6
- 真田信治 (監修)『聞いておぼえる関西(大阪)弁入門』, ひつじ書房, 2006/12
- 真田信治 『方言は気持ちを伝える』, 岩波書店, 2007/1
- 土岐 哲 (共著)「音声研究と日本語教育」, 松岡 弘ほか編『開かれた日本語教育の扉』, スリーエー・ネットワーク, pp. 137-148, 2005/3
- 土岐 哲 (共著)「日本語教育と音声」, 縫部義憲他編『講座日本語教育学』, スリーエー・ネットワーク, pp.192-205, 2006/9
- 西口光一 (共著)『社会文化的アプローチの実際』, 北大路書房, 2004
- 西口光一 『文化と歴史の中の学習と学習者』, 凡人社, 2005
- 植田晃次 (共編著)『「共生」の内実——批判的社会言語学からの問いかけ』, 三元社, 2006
- 山下 仁 (共編著)『「共生」の内実——批判的社会言語学からの問いかけ』, 三元社, 2006
- 呉 恵卿 (共著)『韓国人による日本社会言語学』, おうふう社, 2006
- 呉 恵卿 『日本と韓国における商取引談話——売り手と買い手の相互行為を中心に——』, (未刊行)
- 高江洲頼子 (共著) 石井米雄・千野栄一編『世界のことば・出会いの表現辞典』, 三省堂, 2004/6
- 高江洲頼子 (共著) 石井米雄編『世界のことば・辞書の辞典』, 三省堂, 2006
- 服部圭子 「国際化の到来と社会教育の役割——ボランティアによる地域日本語支援活動の現場から」, 今西幸蔵・村井茂編『現代における社会教育の課題』, 八千代出版, 2006
- 服部圭子 (共著)「地域日本語支援活動の現場と社会をつなぐもの——日本語ボランティアの声から——」, 山下仁・植田晃次編『「共生」の内実——批判的社会言語学からの問いかけ』, 三元社, 2006
- 森 幸一 (共著)「第5章 ブラジル日系人家庭の食生活——戦前の農家を中心にして——」, 山本紀夫

編著『世界の食文化——中南米編』,15,農山漁村文化協会,2007/3

- 李 吉鎔 『日本語学習者におけるスタイル切換え能力の発達——韓国語母語話者を対象として——』, BookPark, 2005/4
- 李 吉鎔 (共著)『日本語研究の前衛——真田信治教授還暦記念論集』,時事日本語社(韓国ソウル), 2005/12/15
- 李 吉鎔 (共著)『社会言語学の展望』,くろしお出版,2006/3
- 李 吉鎔 (共著)『韓国人による日本社会言語学研究』,おうふう,2006/5

定期刊行物に掲載された論文

- Tsuda, Aoi “A Pragmatic perspective of multicultural wedding receptions in Japan”, *9th International Pragmatics Conference*, Riva del Garda, Italy, pp. 368-369, 2005/7
- 津田 葵 「共生を生きる日本社会——21世紀COE研究プロジェクトから——」,『社会言語科学第16回大会発表論文集』,p. 6, 2005/9
- 津田 葵 「共生を生きる日本社会——21世紀COE研究プロジェクトから——」,『適塾』,38, pp. 26-32, 2005/12
- 工藤眞由美 (共著)「宮城県登米郡中田町方言の述語のパラダイム——方言のアスペクト・テンス・ムード体系記述の試み——」,『日本語の研究』,1-1(通巻220),日本語学会,pp. 51-64, 2005/1
- 工藤眞由美 (共著)「体験的過去をめぐって——宮城県登米郡中田町方言の述語構造——」,『阪大日本語研究』,17, pp. 1-25, 2005/2
- 工藤眞由美 「グローバルジャパンにおける日本語学のあり方」,『日語日文学研究(日本語学・日本語教育学篇)』,53-1,韓国日語日文学会,pp. 1-11, 2005/5
- 工藤眞由美 「「ヨウダ」「ラシイ」とテンス」,『日語研究』,3,商務印書館,pp. 1-24, 2005/10
- 工藤眞由美 「グローバルな視点からの日本語研究」,『東方語言文化論叢』,4,華南理工大学出版社,pp. 9-22, 2006/3
- 工藤眞由美 「文の象徴的内容・モダリティー・テンポラリティーの相関性をめぐって」,『ことばの科学』,11, むぎ書房, pp. 139-182, 2006/3
- 工藤眞由美 「日本語のさまざまなアスペクト体系が提起するもの」,『日本語文法』,6-2, pp. 3-19, 2006
- 工藤眞由美 (共著)「首里方言のアスペクト・テンス・エヴィデンシャリティー」,『大阪大学大学院文学研究科紀要』,47, 2007年, p. 151-183
- 工藤眞由美 (共著)「与論方言のアスペクト・テンス・エヴィデンシャリティー」,『国語と国文学』,3月号, pp. 53-68, 2007

- 真田信治 「日本社会語言学的發展軌跡」,『語学教学と研究』,北京語言大学語言研究所,pp. 66-70, 2005/11
- 土岐 哲 「インタビュー・聞き書きと質問調査法」,『日本語学』,6月臨時増刊号, 23, 明治書院, pp. 32-43, 2004/6
- 土岐 哲 「日本語音声教育の新視点」,『バンコク日本文化センター日本語教育紀要』, 1, 国際交流基金, pp. 5-17, 2004/8
- 西口光一 「語ることをわたしたちの生態環境に位置づける」,『多文化社会と留学生交流』, 8, pp. 75-84, 2004
- 西口光一 「インターアクションの中に入る」,『多文化社会と留学生交流』, 9, pp. 19-33, 2005
- 西口光一 「在住外国人は日本社会への新メンバーか」,『多文化社会と留学生交流』, 10, pp. 61-64, 2006
- 西口光一 「言語的思考と外国語の学習と発達」,『ヴィゴツキー学』, 8, pp. 27-33, 2006
- 井脇千枝 「ブラジル日系移民社会の方言接触」,『国文学解釈と鑑賞』, 71 (7), pp. 128-136, 2006
- 呉 恵卿 「韓国の市場における商取引談話 —— 値段交渉場面における売り手と買い手のストラテジーを中心に ——」,『大阪大学言語文化学』, 15, pp. 119-134, 2006
- 簡 月眞 「リングフランカとして生きている台湾日本語の実態」,『天理台湾学会年報』, 14, pp. 21-30, 2005
- 簡 月眞 「共通語として生きる台湾日本語の姿」,『国文学解釈と鑑賞』, 70 (1), pp. 197-210, 2005
- 簡 月眞 「台湾高年層の日本語にみられる一人称代名詞」,『日本語の研究』, 2 (2), pp. 61-76, 2006
- 簡 月眞 「台湾残存日本語にみられる否定辞「ナイ」と「ン」 —— 花蓮県をフィールドに ——」,『日本語科学』, 20, pp. 5-25, 2006
- 高江洲頼子 (共著)「首里方言のアスペクト・テンス・エヴィデンシャリティー」,『大阪大学文学研究科紀要』, 47, pp. 151-179, 2007/3
- 中東靖恵 「これからの質問調査法の方角性」,『日本語学』, 23 (8), 明治書院, pp. 192-201, 2004/6
- 中東靖恵 「現代日本語におけるガ行鼻音の実態と共通語としての地位」,『ことばと文化』, 2, 長野・言語文化研究会, pp. 30-47, 2004/7
- 中東靖恵 (共著)「力士のシコ名」,『日本語学』, 24 (12), 明治書院, pp. 16-26, 2005/10
- 中東靖恵 「ブラジル日系・奥地農村地域における言語シフト —— アリアンサ移住地における言語使用の世代的推移 ——」,『岡山大学文学部紀要』, 44, 岡山大学文学部, pp. 83-95, 2005/12
- 中東靖恵 「ブラジル日系・近郊農村地域における言語シフト —— スザノ市福徳村における言語使用の世代的推移 ——」,『文化共生学研究』, 4, 岡山大学大学院文化科学研究科, pp. 55-68, 2006/3
- 中東靖恵 「ブラジル日系社会における言語の実態 —— ブラジル日系人の日本語を中心に ——」,『国文学解釈と鑑賞』, 71 (7), 至文堂, pp. 99-119, 2006/7
- 中東靖恵 「ブラジル日系社会における言語状況」,『ブラジル特報』, 1574, 日本ブラジル中央協会, pp. 9-10, 2006/7
- 森 幸一 「ブラジル沖縄系人の祖先崇拝の実践」,『アジア遊学 Intriguing Asia』, 76, pp. 86-100, 勉誠出

- 版, 2005
- 森 幸一 「ブラジルの日本料理と日本のブラジル料理」, 『食文化誌ヴェスタ (Vesta)』, 58, 味の素食の文化センター, p. 73, 2005
- 森 幸一 「ブラジルへ「旅」した日本の麺類たち」, 『食文化誌ヴェスタ (Vesta)』, 59, 味の素食の文化センター, p. 18-23, 2005
- 森 幸一 「日系を越えた日本食」, 『季刊民族学』, 114, pp. 11-13, 千里文化財団, 2005
- 森 幸一 「ブラジルの日本人と日本語 (教育)」, 『国文学解釈と鑑賞 特集南米の日本人と日本語』, 71 (7), 至文堂, pp. 6-47, 2006
- Mori, Koichi “The Structure and Significance of the Spiritual Universe of the Okinawan Cult Centre”, *Japanese Journal for Religious Studies*, 2007
- 李 吉鎔 「ブラジル日系社会言語調査の概要」, 『国文学解釈と鑑賞 特集南米の日本人と日本語』, 71 (7), pp. 90-98, 2006/7
- 高阪香津美 「多文化共生時代の外国語教育 (1) —— 公立高校におけるポルトガル語教育のいま —— 」, *Anais*, XXXVII, 2007
- 新庄あいみ (共著) 「大学の言語教育における実践的なCSCLとその質的調査 —— Web上の学習日誌から解釈される学びの多様性 —— 」, *Computer & Education*, 19, pp. 66-69, 2005
- 新庄あいみ (共著) 「協同学習の過程を探る —— 言語教育へのCSCLの活用に向けて —— 」, 『大阪大学大学教育実践センター紀要』, 2, 2006/1
- 新庄あいみ 「多言語・多文化社会における地域のボランティア日本語教室をめざして —— 接触場面にみるインターアクションの観点から —— 」, 『大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流』, 10, pp. 43-50, 2006
- 新庄あいみ 「地域日本語教育における二つの視点」, 『大阪大学言語文化学』, 16, 大阪大学言語文化学会, 2007

■ 定期刊行物以外 (論文集、報告書、図書等) に収録された論文

- 工藤真由美 「現代語のテンス・アスペクト」, 『朝倉日本語講座 6 文法2』, 朝倉書店, pp. 172-192, 2004/6
- 工藤真由美 「話し手の感情・評価と過去の出来事の表現」, 『日本語教育から研究へ』, くろしお出版, pp. 177-186, 2006
- 工藤真由美 「コミュニケーション活動と文法」, 『多様化日語教育研究』, 西安交通大学出版社, p. 5-9, 2006
- 真田信治 「方言と地名 —— 地域人の空間認識 —— 」, 吉田金彦・糸井通浩編『日本地名学を学ぶ人のために』, 世界思想社, pp. 190-201, 2004/11

- 真田信治 「旧満州に残存する日本語 —— ある朝鮮族女性の談話 —— 」,『日本語学の蓄積と展望』,明治書院,pp. 60-83,2005/5
- 真田信治 「方言の盛衰 —— 大阪ことば・素描 —— 」,『関西方言の広がりコミュニケーションの行方』,和泉書院,pp. 3-18,2005/12
- 真田信治 「大阪方言の過去・現在・未来」,『日本語の現在』,勉誠出版,pp. 189-198,2006/3
- Sanada, Shinji “Japan and Korea”, Ulrich Ammon, Norbert Dittmar, Klaus J. Mattheier, Peter Trudgill (eds.), *Sociolinguistics*, Walter de Gruyter, pp. 2021-2025, 2006
- 土岐 哲 「日本語教育の現状と今後の動向を見据えて」,『清華大学外語系日本語言文フォーラム論文要提集』,清華大学外語系日本語言文文化中心,pp. 30-31,2006/5
- 植田晃次 「「ことばの魔術」の落とし穴 —— 消費される「共生」,植田晃次・山下 仁「共生」の内実 —— 批判的社会言語学からの問いかけ」,三元社,pp. 29-53,2006
- 山下 仁 「共生の政治と言語」,植田晃次・山下 仁「共生」の内実 —— 批判的社会言語学からの問いかけ」,三元社,pp. 157-185,2006
- 簡 月眞 「中間言語」,真田信治編『社会言語学の展望』,くろしお出版,pp. 207-220,2006
- 高江洲頼子 「ウチナーヤマトグチ —— 動詞のアスペクト・テンス・ムード —— 」,工藤眞由美編『日本語のアスペクト・テンス・ムード体系 —— 標準語研究を超えて』,ひつじ書房,pp. 302-329,2004/11
- 高江洲頼子 「17節 屋取の方言」,名護市史編さん委員会編『名護市史 言語編』,pp. 304-314,編集中心
- 中東靖恵 (共著)「若者ことば・キャンパスことば」,『ケーススタディ 日本語のバリエティ』,おうふう,pp. 24-29, p. 161,2005/10
- 服部圭子 「理工系研究室における日本人の意識と変化」,『大学コミュニティにおける留学生のコミュニケーションに関する研究』(科研費助成研究基盤研究(C)／「研究代表者:三牧陽子」,pp. 113-142,2006
- 三牧陽子・内藤(都築)裕美・林 洋子・服部圭子・福良直子・藤澤好恵
「『理工系研究室文化』における規範意識と情報伝達」,『大学コミュニティにおける留学生のコミュニケーションに関する研究』(科研費助成研究基盤研究(C)／研究代表者:三牧陽子),pp. 143-146,2006
- 服部圭子・三牧陽子「理工系研究室における日本人の意識 —— 留学生への評価を中心に」,『大学コミュニティにおける留学生のコミュニケーションに関する研究』(科研費助成研究基盤研究(C)／研究代表者:三牧陽子),pp. 147-150,2006
- 森 幸一 「現代沖縄文学におけるユタ=シャーマン表象」, *Anais: III Congresso Internacional de Estudos Japoneses no Brasil, XVI Encontro Nacional de Professores Universitários de Língua, Literatura e Cultura Japonesa*, pp. 281-289, UnB. Brasília, 2005.

- 森 幸一 「グローバル状況下におけるエスニック・シャーマンとエスニック文化の生成」(Mori, Koichi, "O surgimento do shaman etnico decorrencia da Globalizacao") (二言語), 『上智大学COEプログラム報告書(仮題)』, 2007/3
- 佐藤誠子 「第三回 JR京都駅およびその周辺 京都駅地下街・中央郵便局・ハローワーク・下京区役所・駅前繁華街」, 庄司博史(まちかど多言語表示調査プロジェクトチーム代表)『まちかど多言語表示調査報告書』, 多言語化現象研究会, pp. 99-106, 2006
- 佐藤誠子 「第五回梅田周辺 梅田繁華街」, 庄司博史(まちかど多言語表示調査プロジェクトチーム代表)『まちかど多言語表示調査報告書』, 多言語化現象研究会, pp. 169-177, 2006
- 新庄あいみ 「地域日本語活動の展開に向けて」, Gertz三隅友子編『学習環境を考える 2006年度 日本語教育学会 第4回研究集会報告書』, pp. 41-48, 2006
- 布尾勝一郎 「近鉄鶴橋駅・阪急三宮駅周辺」, 庄司博史編『まちかど多言語表示調査報告書』, 多言語化現象研究会, pp. 50-54, pp. 108-113, 2006

【エッセー・評論・翻訳・書評・解説・事典(辞典)項目・その他】

- 工藤眞由美 (事典項目)「言語行動の歴史」(pp. 463-4), 「テンスの研究」(pp. 587-588), 「アスペクトの研究」(pp. 578-579), 『日本語教育事典』, 2005/10
- 真田信治 「ネオ方言はどのように生まれるのか」, 『フィールドワークは楽しい』, 岩波書店, pp. 21-38, 2004/6
- 真田信治 (書評)「言語表現は社会的環境を反映する『日本語の「配慮表現」に関する研究』」, 『東方』, 282, pp. 31-33, 2004/8
- 真田信治 「方言の行方——方言と標準語をめぐる葛藤の歴史から——」, 『方言からみた丹波』, 丹波の森協会, pp. 33-37, 2005/3
- 真田信治 「東アジアの日本語——旧統治領に残存する日本語について——」, 神戸親和女子大学国語国文学会「会報」, 35, pp. 5-7, 2005/3
- 真田信治 (事典項目)「言語の変化」(p. 540), 「方言学」(p. 579), 『新版 日本語教育事典』, 大修館書店, 2005/10
- 真田信治 「日本が侵略したアジアの人々との交わり」, 『医学と福音』, 58, pp. 7-11, 2006/1
- 真田信治 (事典項目)「社会言語学」(pp. 16), 「流行語」(pp. 147), 「toyamaken の方言」(pp. 590), 「大阪府の方言」(pp. 597), 「富山県の方言」(pp. 601), 『日本語学研究事典』, 明治書院, 2007/1
- 簡 月眞 (事典項目)「台湾の日本語と植民地」, 『事典 日本の多言語社会』, 岩波書店, pp. 319-322, 2005
- 高江洲頼子 (事典項目)「ウチナーヤマトウグチ」(pp. 265-268), 『事典 日本の多言語社会』, 岩波書店, 2005/1

- 高江洲頼子 (書評)「うちなあぐち賛歌」(比嘉 清著『うちなあぐち賛歌』、『月刊 言語』,36 (3), p. 121, 2007
- 中東靖恵 (編集協力: 岡山県方言談話資料作成)『日本のふるさとことば集成』,14, 国書刊行会, pp. 135-241, 2007/1
- 森 幸一 (事典項目)「ブラジルと日本の学術交流」(pp. 388-389), 「日系人の食生活」(pp. 394-395), 「コラム: 食文化の交流」(p. 395), ブラジル日本商工会議所編『現代ブラジル事典』, 新評論社, 2005
- 森 幸一 (辞典項目)「移民会社」, 「ウチナーグチ (海外の)」, 「沖縄差別 (海外の)」, 「勝ち組・負け組」, 「祖先祭祀 (海外の)」, 「中米移民」, 「南米移民」, 「ユタ (海外の)」, 渡辺欣雄他編著『沖縄民俗辞典』, 吉川弘文堂, 2007

講演・口頭発表等

- 津田 葵 「ことばの機能: 社会言語学的視点から」, 大阪大学基礎工学部・大学院基礎工学研究科 (科学技術論 B), 2004/7/1
- Tsuda, Aoi “Multilingual and Multicultural Aspects of Japanese Society Today: With a Special Emphasis on the Brazilian Nikkei of Eastern Hiroshima”, Japan Studies Association of Canada (JSAC) Conference, University of Victoria, Canada, 2004/10/16
- 津田 葵 「多民族・多文化社会における子どもの言語教育について: 社会言語学的アプローチ」, 多民族・多言語研究会, 岡山多民族・多言語をめざす会, 岡山カトリック教会, 2005/5/7
- 津田 葵 「共生を生きる日本社会 —— 21世紀COE研究プロジェクトから ——」, 大阪大学洪庵忌 —— 適塾の夕べ ——, 適塾記念会, 大阪市北区適塾, 2005/6/6
- Tsuda, Aoi “A Pragmatic Perspective of Multicultural Wedding Receptions in Japan”, 9th International Pragmatics Conference, Riva del Garda, Italy, 2005/7/12
- 津田 葵 「共生を生きる日本社会 —— 学校での取り組みを中心に —— 21世紀COE研究プロジェクトから」, 第16回社会言語科学会研究大会, 龍谷大学, 2005/10/1
- Tsuda, Aoi “Learner-Centered Language Education: Helping Foreign Residents Cope with the Challenges of Living in Japanese Society”, Symposium Japanese Linguistic Forum: Bridging Theories and Practices, ビクトリア大学・太平洋研究センター, カナダ・ビクトリア大学, 2007/3/9
- 工藤真由美 「時間・認識・感情 —— 現代日本語研究の視点から ——」, 中・日・韓日本言語文化研究国際フォーラム, 大連大学, 2004/7
- 工藤真由美 「日本語文法と日本語教育 —— 名詞・動詞・格を中心に ——」, 華東師範大学, 2004/11
- 工藤真由美 「現代日本語のアスペクト —— 基本的な意味と派生的な意味・機能 ——」, 華東師範大学, 2004/11

- 工藤真由美 「グローバルジャパンにおける日本語学のあり方」, 韓国語日文学会 2004 年度国際学術シンポジウム, 2004/12
- 工藤真由美 「日本語のアスペクト」, 中日国際シンポジウム, アモイ大学, 2004/12
- 工藤真由美 「複数の日本語と日本語教育」, 中国大学日語教育国際シンポジウム, 西安交通大学, 2005/8
- Kudo, Mayumi "Time, cognition and emotion. The use of the past tense in Japanese", 11th International Conference, European Association for Japanese Studies, University of Vienna, 2005/9
- 工藤真由美 「ブラジル日系移民における言語とジェンダー」, チュービンゲン大学, 2005/9
- 工藤真由美 「日本語の表現とモダリティ」, 北京大学講演, 2005/10
- 工藤真由美 「日本語の文法構造のバリエーションと言語類型論」, 北京日本語学研究センター講演, 2005/11
- 工藤真由美 「日本語のさまざまなアスペクト体系が提起するもの」, 日本語文法学会シンポジウム, 明海大学, 2005/11
- 工藤真由美 「日本語教育と日本語文法」, 黒竜江省大学日本語教育国際シンポジウム, ハルビン工業大学, 2006/10/17
- 工藤真由美 「認識的モダリティと情報構造」, 日本語学研究国際シンポジウム, 北京大学, 2006/10/21
- 工藤真由美 「文の対象的な内容・モダリティ・テンポラリティの相関性をめぐって」, 教育科学研究会・国語部会, 日本出版クラブ, 2006/6/25
- 真田信治 (共同発表)「方言音声データベースの作成と普及について —— 『日本のふるさとことば集成』の紹介」, 日本語学会 2004 年度春季大会デモンストレーション, 2004/5
- 真田信治 「旧統治領における残留日本語について」, 藤女子大学特別公開講演会, 藤女子大学日本語・日本文学科, 藤女子大学, 2006/9/8
- 真田信治 「東アジアに残存する日本語」, 群馬県立女子大学国語国文学会講演会, 群馬県立女子大学, 2006/11/18
- 土岐 哲 「『非母語話者による日本語話し言葉コーパス』の構築」(江崎哲也ほか), 日本音声学会第 309 回研究例会, 国際電気通信基礎技術研究所, 2004/6/25
- 土岐 哲 「音声教育の新環境への期待」シンポジウム「新時代の音声教育」, 第 18 回日本音声学会全国大会, 東京外国語大学, 2004/9/25
- 土岐 哲 (共同発表)「『非母語話者による日本語話し言葉コーパス』構築上の諸問題」, 2005 年広州日本語学国際学術検討会, 広東外語外貿大学, 2005/12/16-19
- 土岐 哲 「スピーチ音声の実証的研究から教育実践へ —— 『非母語話者による日本語話し言葉コーパス』研究目的との関わり —— 」(岡田祥平, 岩男考哲ほか), 第 12 回ドイツ語圏大学日本語教育研究会シンポジウム, ハンブルク大学, 2006/3/17-19
- 土岐 哲 (パネルディスカッション)「日本語教育の現状と今後の動向を見据えて」, 清華大学日本語文化

国際フォーラム, 2006/5/27

- 土岐 哲 「日本語音声教育の実践研究」, 清華大学日本語学科, 2006/5/30
- 土岐 哲 「日本語教育からの提言」, 2006 (平成 18) 年度, 日本音声学会第 20 回全国大会 (学会創立 80 周年記念シンポジウム), 2006/9/30
- 土岐 哲 「日本語音声の実証的研究と音声教育の新展開」, 第 7 回国際日本研究・日本語教育シンポジウム
「アジア太平洋地域における日本研究と日本語教育の変容と課題」, 香港中文大学日本研究学科 (設立 15 周年記念), 2006/10/29
- 土岐 哲 「日本語音声教育の新展開」, アルゼンチン日本語教師連合会研究会、ブエノスアイレス, 2006/11/6
- 土岐 哲 (公開講演)「聞き取りの教育」, オオキタ基金、ブエノスアイレス, 2006/11/10
- 西口光一 「高校生に対する日本語・適応指導の概要」, 日本語教育担当教員研修会, 大阪府教育委員会, PiaNPO, 2005/7/25
- 西口光一 「言葉の発達と教科学習」, 日本語教育担当教員研修会, 大阪府教育委員会, PiaNPO, 2005/7/25
- 西口光一 「ヴィゴツキーとバフチンの接点」, ヴィゴツキー学第 7 回大会, ヴィゴツキー学教会, 神戸市勤労会館, 2005/11/3
- 西口光一 「市民による識字・日本語の活動と支援」, 大阪府識字教育担当者連絡会議, 大阪府教育委員会, 大阪府教育センター, 2006/11/2
- 西口光一 「多言語社会と日本語習得支援」, 日本語ボランティアスキルアップ研修, (財) 京都市国際交流協会, 京都市国際交流会館, 2007/2/3
- 植田晃次 (共同発表)「共生の実践と課題——韓国系民族学校の事例を中心に」, 日本国際理解教育学会第 16 回研究大会, 岐阜大学教育学部・医学部記念会館, 2006/6/10
- 井脇千枝 「ブラジル日系社会の方言接触——アスペクト形式を中心に——」, 2005 年広州日本語学国際シンポジウム, 広東外語外貿大学, 2005/12/17
- 呉 恵卿 「日韓のニュース談話におけるナラティヴ構造——科学関連記事における『評価』を中心として」, 第 9 回メディアとことば研究会, メディアとことば研究会, 早稲田大学, 2005/3/18
- 呉 恵卿 「韓国の商取引談話における呼称——戦略的機能を中心に——」, 第 56 回朝鮮学会, 天理大学, 2005/10
- 呉 恵卿 「コミュニケーション・スタイルの日韓比較——セールズ場面における発話順番取り (turn taking) を中心に——」, 第 17 回社会言語科学会, 東洋大学, 2006/3/18
- 呉 恵卿・植田晃次 「共生の実践と課題——韓国系民族学校の事例を中心に」, 日本国際理解教育学会第 16 回研究大会, 岐阜大学, 2006/6/10
- 簡 月眞 「リンガフランカとして生きている台湾日本語の実態」, 天理台湾学会第 14 回研究大会第 1 回企画シンポジウム「いまも生きている日本語, および日本語文学について考える」, 天理大学, 2004/7

- 簡 月眞 「台湾高年層の日本語にみられるモダリティ —— 「ダロウ」と「デショウ」を中心に —— 」, 台湾日本語学会第213回例会, 台北YMCA, 2006/8
- 中東靖恵 (講演)「現代日本語のバリエーション研究 —— 地域方言・社会方言としての若者ことば・キャンパスことば —— 」, 平成16年度岡山大学留学生センター・フォーラム「現代日本語の諸相」, 岡山大学留学生センター, 2005/3/3
- 中東靖恵 「ブラジル日系・奥地農村地域における言語シフト —— アリアンサ移住地における言語使用の世代的推移 —— 」, III Congresso Internacional de Estudos Japoneses no Brasil / XVI Encontro Nacional de Professores Universitários de Língua, Literatura e Cultura Japonesa (第3回ブラジル日本研究国際シンポジウムおよび第16回全伯日本語・日本文学・日本文化学会), ブラジリア国立大学, ブラジル, 2005/9/9,
- 中東靖恵 「ブラジル日系人の言語生活 —— ブラジル日系社会における言語状況 —— 」, 長野・言語文化研究会2005年12月研究発表会, 松本市あがたの森文化会館, 2005/12/17
- 中東靖恵 「ブラジルにおける日本語教育の変遷と現状: 日本語教科書の変遷を中心に」, 日本語教育学会研究集会平成18年度第1回研究発表会, 鹿児島大学, 2006/6/10
- 中東靖恵 (講演)「ことばと社会 —— 現代日本語に見られるバリエーション —— 」, 岡山東ロータリークラブ月例会, 岡山プラザホテル, 2006/9/14
- 服部圭子 「大学における異文化間交流実践の一考察 —— 交換留学生との授業外交流活動から —— 」, 異文化間教育学会第25回大会, 同志社大学, 2004
- 服部圭子・新庄あいみ・前村奈央佳・高阪香津美
「日系ブラジル人と日本人社会の交流の現状 —— 中国地方における家庭・学校・職場・地域社会でのフィールドワーク調査より —— 」, 日本国際理解教育学会第14回研究大会, ノートルダム女子大学, 2004
- 服部圭子 「接触場面を伴う活動に関わる日本人の意識および外国人との関係性」, 日本国際理解教育学会ミニシンポジウム, 2005
- 三牧陽子・内藤(都築)裕美・林洋子・服部圭子・福良直子・藤澤好恵
「『理工系研究室文化』における規範意識と情報伝達」, 社会言語科学会第16回大会, 2005
- 服部圭子・三牧陽子「理工系研究室における日本人の意識 —— 留学生への評価を中心に」, 社会言語科学会第16回大会, 2005
- 服部圭子・内藤裕美「留学生受け入れに関する日本人の意識 —— 大学理工系研究室のケースから」, 日本国際理解教育学会第16回研究大会, 2006
- 服部圭子・森本郁代「地域日本語学習支援活動に見るコミュニティ」, 大阪ヴィゴツキー研究会, 大阪ヴィゴツキー研究会夏季合宿, 京都, 2004

- 服部圭子 「divergence」, JACET(全国大学英語教育学会) 談話分析研究会 9月例会, JACET(全国大学英語教育学会), 桃山学院大学, 2004
- 服部圭子 「foreigner talk」, JACET(全国大学英語教育学会) 談話分析研究会12月例会, JACET(全国大学英語教育学会), 大阪学院大学, 2004
- 服部圭子 「production format」, JACET(全国大学英語教育学会) 談話分析研究会3月例会, JACET(全国大学英語教育学会), 大阪学院大学, 2005
- 服部圭子 「dode-switching」, JACET(全国大学英語教育学会) 談話分析研究会6月例会, JACET(全国大学英語教育学会), 大阪学院大学, 2005
- 服部圭子 「SPEAKING」, JACET(全国大学英語教育学会) 談話分析研究会8月例会, JACET(全国大学英語教育学会), 大阪学院大学, 2005
- 服部圭子・山下隆史・御子神慶子・新庄あいみ・川島孝子
「とよなかにほんごボランティアワークショップ」, 「地域日本語活動をする人のためのワークショップ」, 「とよなかにほんご新人ボランティアワークショップ」, 「とよなかにほんご現役ボランティアフォローアップ・ワークショップ」など, 豊中国際交流協会, 豊中国際交流協会ほか, 2004-2005
- 服部圭子 「ボランティア研修」, NPO 東大阪日本語ボランティア教室, 東大阪, 2004
- 服部圭子・山下隆史・川島孝子・御子神慶子・新庄あいみ・榎井 縁・森本郁代・新矢麻紀子・御館久里恵
「日本語ボランティア入門」ワークショップ, 神戸長田公民館, 2004
- 服部圭子・山下隆史・川島孝子・御子神慶子・新庄あいみ・榎井 縁・森本郁代・新矢麻紀子・御館久里恵
「日本語ボランティアのためのスキルアップ講座」, 大阪市国際交流センター, 大阪市国際交流センター主催, 2005
- 服部圭子・新庄あいみ
「日本語ボランティア研修」, 地域日本語教室ともだちひろば, 福山市民会館, 2005
- 森 幸一 (セミナー)「ブラジルにおけるエスニック・シャーマンの生成プロセスとその神霊界構成」, サンパウロ大学大学院心理学研究科 Orientacao Intercultural プログラム, 2006/5
- 森 幸一 「日系人言語生活調査の設計に関して」, 「ブラジルにおける言語接触の諸相」, サンパウロ大学大学院日本語・日本文学・日本文化プログラム, 2006/6
- 森 幸一 (コーディネーター)「ラウンドテーブル: ブラジルの日系宗教 —— 特に宗教的改宗を巡って —— 」, 第4回国際日本研究シンポジウム・第17回日本語・日本文学・日本文化コース大学教官年次研究報告会, サンパウロ大学文学部日本語・日本文学コース及び大学院日本語・日本文学・日本文化プログラム, 2006/8
- 森 幸一 (講師) 国際交流基金サンパウロ事務所主催文化講演会「Saberes dos Sabores: 風土とフード —— 〈食〉を巡る移民史 —— 」, 2007/3

- 李 吉鎔 「韓国語母語話者の丁寧体構造の習得プロセスと要因」, 韓国日本学会 第69回研究大会 (第2回韓国日本学連合会), 東西大学校 (韓国釜山), 2004/7/10
- 李 吉鎔 「韓国語母語話者の日本語のスタイル切換えにおける過剰意識の表出」, 社会言語科学会 第16回全国大会, 龍谷大学, 2005/10/2
- 李 吉鎔 「韓国語母語話者の日本語におけるスタイル切換え項目の習得順序」, 第二言語習得研究会 第16回全国大会, 大阪外国語大学, 2005/12/11
- 李 吉鎔 「気づかれにくい韓国文化」, 神戸松蔭「土曜講座」, 神戸松蔭女子学院大学, 2006/10/21
- 服部圭子・新庄あいみ・前村奈央佳・高阪香津美
「日系ブラジル人と日本人社会の交流の現状 —— 中国地方における家庭・学校・職場・地域社会でのフィールドワーク調査より —— 」, 日本国際理解教育学会第14回研究大会, 京都ノートルダム女子大学, 2004/6/5-6
- 新庄あいみ・高阪香津美
「日系ブラジル人における言語使用の実態 —— Aさんの経験からみる日本語学習支援の可能性 —— 」, 日本国際理解教育学会第15回研究大会, 玉川大学, 2005/6/4
- 高阪香津美 「日本の高等学校におけるポルトガル語教育」, 日本グローバル教育学会第14回全国研究大会, 愛媛大学, 2006/9/2
- 高阪香津美 「日本の公立高校における英語以外の外国語教育 —— 在日ブラジル人児童とのビデオレターを通して —— 」, 外国語教育システム研究会, 京都外国語大学, 2007/2/23
- 服部圭子・新庄あいみ・前村奈央佳・高阪香津美
「地域社会におけるコミュニケーションの現状」, 日本国際理解教育学会第14回研究大会, 京都ノートルダム女子大学, 2004/6/5
- 新庄あいみ・高阪香津美
「日系ブラジル人における言語使用の実態 —— Aさんの経験からみる日本語学習支援の可能性 —— 」, 日本国際理解教育学会 第15回研究大会, 玉川大学, 2005/6/4
- 新庄あいみ 「コンピュータ支援の協同学習 (CSCL) を取り入れた授業実践 —— 大学の言語教育における調査を通して —— 」, 外国語教育学会 (JAFLE) 第9回研究報告大会, 東京外国語大学, 2005/11/6
- 新庄あいみ (ラウンドテーブル・論者) 「地域日本語活動の展開に向けて」, 日本語教育学会第4回研究集会, 徳島大学, 2006/6/24
- 新庄あいみ 「地域のボランティア日本語教室における会話の分析を通して」, 日本語教育学会第9回研究集会, 松江国際交流会館, 2006/11/25
- 布尾勝一郎 「自社および系列テレビ局の不祥事報道における新聞の隠蔽戦略について —— 第三者名義株式保有問題を題材に」, 第10回メディアとことば研究会, 東洋大学, 2005/6/24

佐藤誠子・布尾勝一郎

「大阪における多言語表示の実態とその受容について」, 多言語化現象研究会第26回研究発表会, 国立民族学博物館, 2005/12/23

布尾勝一郎

「「身内」の不祥事報道における新聞の隠蔽・自己正当化ストラテジー —— 第三者名義株式保有問題を題材に —— 」, 第19回社会言語科学会研究大会, 社会言語科学会, 東洋大学, 2006/3/19

布尾勝一郎

「「身内」不祥事報道における新聞の隠蔽・自己正当化ストラテジー —— 第三者名義株式保有問題を題材に —— 」, 世界を読み解くセミナー第5弾, TCN 茅ヶ崎方式英語会, 神戸中央校, 2006/4/9

布尾勝一郎・佐藤誠子・Woo Wai Sheng

「日本人の共生意識 —— 外国人イメージ・言語意識・言語サービスに関するインタビュー調査から —— 」, 第19回社会言語科学会大会, 社会言語科学会, 日本大学文理学部, 2007/3/3-4

モダニズムと中東欧の藝術・文化

■ 著書(編著・単著・共著の図書等)

園府寺 司 (共編著)『アヴァンギャルド宣言 中東欧のモダニズム』, 三元社, 2005/9

園府寺 司 『ゴッホ 西洋絵画の巨匠2』, 小学館, 2006/3

山崎 孝・伊東信宏 『ミクロコスモス』第1-6巻(「パルトーク集」第4、5、6巻の「概説」「成立史」「各巻解説」), 春秋社, 2006/12

伊東信宏 『東欧の村の楽師たちと20世紀音楽の前衛: ロマ(ジプシー)とクレズマーを中心に』(平成15年度-平成17年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書), 2006

三谷研爾 (共著)『言語と文化の饗宴』, 英宝社, pp. 1-370, 2006/3

三谷研爾 『プラハ・ドイツ人社会における文化的アイデンティティの形成と機能』(2003年度-2005年度 科学研究費補助金基盤研究(C) 研究成果報告書), pp. 1-49, 2006/3

■ 定期刊行物に掲載された論文

園府寺 司 (編著)「ファン・ゴッホ展覧会全史 作品移動、市場、メディアから見た美術研究への序論」(特集「展覧会と展示」), 『西洋美術研究』, 10, pp.52-63, 2004

- 園府寺 司 「ファン・ゴッホ 孤高の画家の〈現〉風景 グローバル・メガ・マーケット時代のお色直し」,『美術手帖』,20,4月号,pp. 84-88,2005/4
- 永田 靖 「演劇史としての回想 —— ボグダノフ・オルロフ「『ノーラ』を稽古するメイエルホリド」を読む」,『演劇学論集: 日本演劇学会紀要』,42, pp. 33-50,2004/11
- 永田 靖 「演劇史とナショナル・モデル —— ロシアにおける演劇史記述の諸問題」,『演劇学論叢』,7, 大阪大学大学院演劇学研究室, pp. 249-268,2004/12
- 永田 靖 「ソウルで考えたこと」,『act』,9, 国際演劇評論家協会日本センター関西支部, p. 1,2006/5
- 永田 靖 「旅の演劇」,『act』,10, 国際演劇評論家協会日本センター関西支部, p. 1,2006/8
- Nagata, Yasushi “Touring Practice, or Theatre as Contact Zone 1”,『演劇学論叢』,8, 大阪大学文学研究科演劇学研究室, pp. 220-213,2006/8
- 永田 靖 「演劇学の概説、あるいは人文学的配置」,『演劇学論集: 日本演劇学会紀要』,44, pp. 131-144, 2006/11
- 伊東信宏 (共著)「ブルガリアのチャルガ: アイデンティティ, 変革, グローバリゼーション」,『民族藝術』,21, pp. 177-184,2005/3
- Ito, Nobuhiro “Japanese composers confront Japanese tradition: works by Michio Mamiya and Minao Shibata”, *Handai Ongakugaku-ho*, 3, pp. 57-70,2005/4
- 伊東信宏 「音楽機械の夢のもつれ」,井口壽乃・園府寺 司編『アヴァンギャルド宣言: 中東欧のモダニズム』,三元社, pp. 275-276,2005/9
- 伊東信宏 「ルーマニア民俗音楽の「性格」をめぐる: エネスク《ヴァイオリン・ソナタ第3番》に関するいくつかの論点」,『待兼山論叢』,39, pp. 1-22,2005/11
- 伊東信宏 「ロマの楽師になる」,『民博通信』,111, pp. 7-9,2005/12
- 三谷研爾 「流通のディスクール キッシュ『娘飼い』における近代都市の経験」,『独文学報』,20, 大阪大学ドイツ文学会, pp. 93-113,2004/11
- 三谷研爾 「脱領域の言語 —— ブラハのユダヤ系ドイツ語作家における言語的アイデンティティ」,『ドイツ文学』,117, 日本独文学会, pp. 36-46,2005/3
- 三谷研爾 「魔都のトポグラフィー 世紀転換期のブラハにおける近代化と都市の表象」,『大阪大学文学研究科紀要』,47, pp. 47-86,2007
- 池上裕子 「反復のパラドックス —— アド・ラインハートとアンディ・ウォーホル —— 」,『西洋美術研究』,11, pp. 66-86,2004/9
- 池上裕子 「ロバート・ラウシェンバークの《ゴールド・スタンダード》」,『美術史』,158, pp. 339-355,2005/3
- 池上裕子 「アメリカのスペクタクル —— 1964年ヴェネツィア・ビエンナーレ考 —— 」,『美術史』,162,2007/3

定期刊行物以外(論文集・報告書・図書等)に収録された論文

- 関府寺 司 「モダニスト・イコノクラスムの研究」(2002年度-2004年度科学研究費補助金(基盤研究C)研究成果報告書/研究代表者:関府寺 司), 2005/3
- 永田 靖 「ロシア演劇史」,『比較演劇史の方法論の構築』(科学研究費基盤研究(B)(1)報告書), pp. 105-113, 2005/3
- 永田 靖 『「20世紀演劇」の誕生と演劇史学の研究』(科学研究費基盤研究(C)報告書), pp. 1-37, 2005/5
- Nagata, Yasushi “Juro Kara and Transvestism in Modern Japanese Theatre”, Asia-Pacific Arts Forum 2005, *UnMasking: The Art of Disguise/Disclosure in Asia-Pacific Cultures*, National Taipei University of Arts, pp. 90-94, 2005/10
- Nagata, Yasushi “Transformation of the Character — Contemporary Japanese Drama in the Cold War and Post-Cold War Era”, International Symposium of Korean Theatre Studies Association, *Innovation of Asian Theatre; Plot and Narrative*, Hanyang University, pp. 294-304, 2005/10
- 伊東信宏 「粉挽き場というトポス:《美しき水車小屋の娘》前史」, 長野順子・小田部胤久編『交響するロマン主義』(シェリング論集5), pp. 135-156, 2006/6
- 三谷研爾 「ユダヤ人のブラハ——カフカ家4代の記録から」,『チェコ学・スロバキア学レクチャー集』, 1, 関西チェコ/スロバキア協会, pp. 46-50, 2006/3
- 池上裕子 「越境と摩擦——ロバート・ラウシェンバークの《モノグラム》とストックホルム近代美術館——」,『若山映子教授退職記念論文集』, 大阪大学大学院文学研究科, 2007/3

エッセー・評論・翻訳・書評・解説・事典(辞典)項目、その他

- 関府寺 司 「俗事超え生きるミューズ、映画評「真珠の耳飾りの少女」、フェルメールと結ぶ美の密約」, 朝日新聞夕刊, p.5, 2004/5/7
- 関府寺 司 (カタログ)『ゴッホ展 Van Gogh in Context』, 東京国立近代美術館, 国立国際美術館, 愛知県美術館, 2005/3
- 関府寺 司 「ゴッホ展によせて。歴史的文脈の中で見直すゴッホ」, 東京新聞, p. 23, 2005/4/23
- 関府寺 司 「ファン・ゴッホ家の家計簿」,『国立国際美術館ニュース』, 148, pp. 2-3, 2005/6
- 関府寺 司 「ゴッホ展 見逃せぬ30点の傑作群 物語を味わうように」, 中日新聞, p. 8, 2005/7/24
- 永田 靖 「ロシア演劇は我らの同時代人!?',『act』, 創刊号, 国際演劇評論家協会日本センター関西支部, pp. 16-17, 2004/5
- 永田 靖 「バリ陥落と『ボン・ヴォヤージュ』」,『ボン・ヴォヤージュ』, 日本配給用プレスキット, Asmik Ace, pp. 18-19, 2004/10

- 永田 靖 「批評についてこう考える」、『季刊上方芸能』,155, 上方芸能, pp. 48-49, 2005/3
- 永田 靖 「パフォーマンスと社会参加」,『芸術 コミュニケーション デザイン』国際フォーラム 人文社会プロジェクト「芸術とコミュニケーションの実践的研究」, p. 8, p. 67, 2005/3
- 永田 靖 「夢の回廊 —— 頼声川演出表演工作坊『如夢之夢』を見る」,『act』, 5, 国際演劇評論家協会日本センター関西支部, pp. 18-19, 2005/5
- 永田 靖 「演劇教育インタビュー」,『日本演劇学会演劇教育プロジェクト活動報告』, 日本演劇学会, pp. 18-23, 2005/6
- 永田 靖 「如月小春」(pp. 230-236), 「渡辺えり子」(pp. 253-258), 「川村毅」(pp. 292-297), 「生田萬」(pp. 316-318), 『20世紀の戯曲』, 日本近代演劇史研究会編, 社会評論社, 2005/6
- 永田 靖 (書評)「瀬戸宏著『中国話劇成立史研究』(東方書店)」,『act』, 6, 国際演劇評論家協会日本センター関西支部, pp. 18-19, 2005/8
- 伊東信宏 (演奏会評)「コリン・デイヴィス指揮ロンドン響」, 朝日新聞文化欄, 2004/4
- 伊東信宏 (作品解説)「ドヴォルジャーク交響曲第9番ホ短調《新世界より》作品95」, 音楽之友社, pp. 3-8, 2004/4
- 伊東信宏 (演奏会評)「N響定期 (コパチンスカヤ独奏)」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2004/4/27
- 伊東信宏 (解説)「バルトーク《弦楽四重奏曲第1・4・6番》」, 静岡 AOI レジデント・カルテット演奏会, 静岡 AOI ホール, 2004/5
- 伊東信宏 (論考)「水車小屋の娘はなぜ不実なのか?」,『奏』, 21 (日本室内楽振興財団機関誌), pp. 7-8, 2004/5
- 伊東信宏 (企画)「サントリー音楽財団コンサート『対話する作曲家, 権代敦彦』」(2004/5/22, ザ・シンフォニーホール) / (インタビュー記事)「作曲家と語る」(同コンサート・パンフレット), pp. 6-7, 2004
- 伊東信宏 (演奏会評)「コンポージアム 2004 リンドベルイ『三つの協奏曲』」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2004/6/10
- 伊東信宏 (論考)「『東京の夏』が形成してくれたもの」,『第20回『東京の夏』音楽祭2004 フェスティバル・マガジン』, pp. 74-75, 2004/7
- 伊東信宏 (演奏会評)「パウル・パドゥラ・スコダ ピアノ・リサイタル」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2004/7/7
- 伊東信宏 (論考)「音楽の謀略家としてのJ・ハイドン」,『レコード芸術』, 53-8, pp. 42-44, 2004/8
- 伊東信宏 (演奏会評)「タランテッラ —— 地中海の民の音楽」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2004/8/2
- 伊東信宏 (演奏会評)「ニューヨーク・ハーレムシアター『ポーギーとベス』」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2004/9/16
- 伊東信宏 (演奏会評)「読売日響『ストラヴィンスキー・チクルス』」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2004/10/7
- 伊東信宏 (演奏会評)「クレメール&クレメラータ・バルティカ演奏会」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2004/10/28
- 伊東信宏 (論考)「パリのロシア風ナイト・クラブ: ケッセル『朝のない夜』再読」,『奏』, 22 (日本室内楽振

- 興財団機関誌), pp. 7-8, 2004/11
- 伊東信宏 (解説)「ラカトシュ・アンサンブル：正統と異端と」,『ラカトシュ・アンサンブル演奏会解説書』ザ・フェニックスホール, 2004/11/4
- 伊東信宏 (演奏会評)「二期会『イエヌーファ』」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2004/11/9
- 伊東信宏 (解説)「ハイドンとショスタコーヴィチをめぐって」(小澤征爾第34回サントリー音楽賞受賞記念コンサート解説), サントリーホール, 2004/12/12
- 伊東信宏 (演奏会評)「ソフィア国立オペレッタ『メリー・ウィドウ』」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2005/1/18
- 伊東信宏 (解説)「バルトークという一人の『青ひげ公』」, 愛知芸術文化センター演奏会プログラムノート, 2005/2
- 伊東信宏 (演奏会評)「アンサンブル・ゼフィロ」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2005/2/3
- 伊東信宏 (演奏会評)「キュッヘル・アンサンブル・ウィーン」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2005/3/31
- 伊東信宏 (解説)「終末はいつも唐突にやってくる：バルトークの形式感覚」, 東京交響楽団第525回定期演奏会プログラムノート, pp. 10-11, 2005/4
- 伊東信宏 (論考)「リゲティが見入る地図」,『奏』, 23 (日本室内楽振興財団機関誌), 日本室内楽振興財団, pp. 15-16, 2005/4
- 伊東信宏 (演奏会評)「新国立劇場『コジ・ファン・トゥ・テ』」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2005/4/7
- 伊東信宏 (演奏会評)「フェルメール・カルテット」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2005/4/28
- 伊東信宏 (演奏会評)「ブーランク《カルメル会修道女の》話」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2005/5/26
- 伊東信宏 (演奏会評)「スロヴァキア・フィルハーモニー管弦楽団」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2005/6/30
- 伊東信宏 (演奏会評)「ブロムジカ女声合唱団」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2005/7/14
- 伊東信宏 (論考)「とおやんととしての《春の祭典》」,『民族藝術学会会報』, 66, 民族藝術学会, p. 3, 2005/9
- 伊東信宏 (翻訳) シュトゥッケンシュミット著「音楽の機械化」, 井口壽乃・冨府寺 司編『アヴァンギャルド宣言：中東欧のモダニズム』, 三元社, pp. 270-271, 2005/9
- 伊東信宏 「権代敦彦「子守歌」の評」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2005/9/2
- 伊東信宏 (演奏会評)「東京シティ・フィル, J・ボンス指揮」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2005/9/15
- 伊東信宏 (書評)「関口義人著『ジプシー・ミュージックの真実』」, 図書新聞, 2005/10
- 伊東信宏 (演奏会評)「男声ア・カベラ合唱団『シャンティクリア』」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2005/10
- 伊東信宏 (演奏会評)「鈴木秀美 バッハ・無伴奏チェロ組曲」, 朝日新聞文化欄夕刊, 2005/10/6
- 伊東信宏 (論考)「夏の祭典」『奏』, 24, 日本室内楽振興財団, pp. 15-16, 2005/11
- 伊東信宏 (演奏会評)「クレール＝マリ・ルゲ ピアノリサイタル」, 朝日新聞文化欄, 2005/11/24
- 伊東信宏 (演奏会評)「若林顕ピアノリサイタル『たった一人の『第九』』」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2005/12/12
- 伊東信宏 (演奏会評)「テツラフ, フォークト デュオリサイタル」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2006/2/9

- 伊東信宏 (演奏会評)「ヴィヴァルディ『バヤゼット』」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2006/2/23
- 伊東信宏 (演奏会評)「シュタットフェルト ピアノリサイタル」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2006/3/16
- 伊東信宏 (演奏会評)「ドイツ・カンマーフィル」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2006/5/25
- 伊東信宏 (演奏会評)「バルトーク・カルテット」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2006/6/22
- 伊東信宏 (記事)「ジェルジ・リゲティを悼む」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2006/6/26
- 伊東信宏 (解説)「細川俊夫《旅人》など」, 大阪フィルハーモニー 第400回定期演奏会, 2006/7/6-7
- 伊東信宏 (演奏会評)「ゲヴァントハウス・バッハ・オーケストラ」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2006/7/20
- 伊東信宏 (項目)「バルトーク」「ロマの音楽」, 小沼純一編『あたらしい教科書8 音楽』, 2006/9
- 伊東信宏 (演奏会評)「ファビオ・ルイジ指揮ウィーン交響楽団」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2006/11/9
- 伊東信宏 (演奏会評)「ハンガリー国立ブダペスト・オペレッタ劇場『こうもり』」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2007/1/11
- 伊東信宏 (演奏会評)「コンチェルト・コペンハーゲン」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2007/1/25
- 伊東信宏 (演奏会評)「マリオ・ブルネロ『無伴奏チェロ&…』」, 朝日新聞夕刊文化欄, 2007/2/22
- 三谷研爾 (書評)「鈴木隆雄監修『オーストリア文学小百科』」, 『ドイツ文学論攷』, 46, 阪神ドイツ文学会, pp. 108-110, 2004/12
- 三谷研爾 (翻訳・解説) 井口壽乃・園府寺 司編『アヴェンギャルド宣言 中東欧のモダニズム』, 三元社, pp. 1-291, 2005/9
- 樋上千寿 (音楽CD)「オルケステル・ドレイデル／シュビール、ドレイデル!」, オルケステル・ドレイデル, 自費出版, 2006
- 樋上千寿 (音楽CD)「オルケステル・ドレイデル／Mazl Tov!(マーズル・トーヴ!)」, オルケステル・ドレイデル, 自費出版, 2007

講演・口頭発表等

- Kodera, Tsukasa “Evolution of Perspectives in Japanese Early Modern Art and its Relation to European Art”, III spotkanie historyków sztuki i konserwatorów dzieł sztuki Orientu na Wydziale Sztuk Pięknych Uniwersytetu Mikołaja Kopernika w Toruniu, 2004/6/17
- Kodera, Tsukasa AICA VII International Congress, Warsaw, 1960. ‘L’Art – Les Nations – L’Univers ‘Sztuka – Narody – Świat’ Spotkanie Japońskich i Polskich Historyków Sztuki i Muzykologów Stowarzyszenie Historyków Sztuki, Warszawa, 2004/11/16
- 園府寺 司 「ファン・ゴッホをめぐる〈物語〉の系譜」, 東京国立近代美術館, 2005/4/2
- 園府寺 司 「『芸術・国家・世界』 AICA(国際批評家連盟) ワルシャワ大会(1960年)」, 国際シンポジウム「越

- 境／モダンアート」, 大阪大学中之島センター, 2005/5/31
- 岡府寺 司 「『ファン・ゴッホの栄光のための犠牲』 やりくり上手? なファン・ゴッホ家の人々」, 国立国際美術館, 2005/6/11
- 岡府寺 司 「『ファン・ゴッホの栄光のための犠牲』 テオとヨーの家計簿に見る作品売却の軌跡」, 第31回大原美術館美術講座, 倉敷アイビースクエア・オパールホール, 2005/7/30
- 岡府寺 司 「『ファン・ゴッホの栄光のための犠牲』 テオとヨーの家計簿に見る作品売却の軌跡」, 愛知県美術館, 2005/8/27
- 岡府寺 司 「ファン・ゴッホの経済生活 —— 家計簿から見た「孤高の画家」生成の過程 ——」, 日本監査役協会関西支部, 大阪全日空ホテル万葉の間, 2005/8/30
- 岡府寺 司 「ファン・ゴッホと日本」, 大阪倶楽部, 2006/7/5
- 岡府寺 司 (招待講演)「ファン・ゴッホ 〈キリスト教〉対〈自然〉」, 弘益大学校 (Hong-Ik University) (韓国ソウル), 2006/11/10
- 永田 靖 「世界の最先端をゆく舞台芸術」, 「国境を越えた舞台芸術」, 舞台美術家協会, 大阪芸術大学, 2004/11/15
- 永田 靖 (司会)「アジア演劇への1からの研究視座」, 日本演劇学会秋の研究集会, 福岡女学院大学, 2004/11/27
- 永田 靖 「劇と場所」, 日本演劇学会分科会近現代演劇研究会上海集会, 上海戲劇学院, 2005/2/24
- Nagata, Yasushi “Sanat-Art and Social Engagement, commentator”, International Forum; Art and Communication, 2005/3/14
- 永田 靖 「演劇／歴史／国家／地域 —— グローバル化とローカル化の時代における演劇史構築の可能性」, 日本演劇学会全国大会, 大阪大学, 2005/6/19
- Nagata, Yasushi “Intercultural and Hybrid Theatre; Finland, Ukraine and Japan”, New Scholars Forum, Chair, University of Maryland, International Federation for Theatre Studies, Annual Conference, “Citizen Artist; Theatre, Culture and Community”, 2005/6/28
- Nagata, Yasushi “A Portrait of Family-Japanese Contemporary Theatre in the Postwar Era”, Lecture, Korean National University of Arts, 2005/9/30
- Nagata, Yasushi “Transformation of the Character Contemporary Japanese Drama in the Cold War and Post-Cold War Era”, International Symposium of Korean Theatre Studies Association “Innovation of Asian Theatre; Plot and Narrative”, Hanyang University, Seoul, 2005/10/1
- Nagata, Yasushi “Juro Kara and Transvestism in Modern Japanese Theatre”, Asia-Pacific Arts Forum 2005, International Conference on “(Un) Masking: The Art of Disguise / Disclosure in Asia-Pacific Cultures”, National Taipei University of Arts, 2005/10/11

- 永田 靖 (合評会)「瀬戸宏著『中国話劇成立史研究』(東方書店2005)をめぐって」, 西洋比較演劇研究会
11月例会, 成城大学, 2005/11/5
- 永田 靖 「コミュニティ・アート報告」, 人社プロ「文学・芸術の社会的媒介機能」第1回活動報告・研究交
流会, 東京大学, 2005/11/27
- 永田 靖 「アナトーリイ・キムと朝鮮系ロシア演劇の展開」, 日本演劇学会分科会近現代演劇研究会ソウル
集会, 韓国藝術綜合学校演劇院, 2006/3/4
- Nagata, Yasushi “Japanese Korean Theatre Dialogue - A Window on/from Osaka and Kyoto Theatre”, Department of
Performing Arts & Film. Chung-Ang University, 2006/3/5
- Nagata, Yasushi “Disciplinary Moves; Performance Studies Years On. Discussant”, The IV International Colloquium of
Theatre Studies, Meiji University, 2006/3/27
- 永田 靖 「藝術の変貌—— 藝術学関連学会連合公開シンポジウムをめぐって」, 第1回芸術とコミュニケー
ション研究会, 大阪大学文学研究会第1会議室, 2006/6/21
- 永田 靖 「演じられる美—— 蛭川幸雄インタビュー」, 大阪外国語大学司馬遼太郎記念学術講演会, 大阪
国際交流センター, 2006/7/17
- Nagata, Yasushi “A Cuckoo and the Atomic Bomb - How to meet the Asian Modern Theatre”, FIRT 15th World
Congress “Global vs Local”, University of Helsinki, Finland, 2006/8/8
- Nagata, Yasushi “Global vs Local”, Round Table, Chair, FIRT 15th World Congress, University of Helsinki, Finland
, 2006/8/12
- Nagata, Yasushi “A Report”, International Federation for Theatre Research, Extraordinary Congress of Internation-
al Association of Theatre Critics its 50th Anniversary, Tongkok University, Seoul, Korea, 2006/10/21
- 永田 靖 「インターカルチュラリズムの演劇再考—— ユージェニオ・バルバ演出オディン劇場『Ur-Hamlet』
をめぐって」, 近現代演劇研究会12月例会, 大阪大学文学研究科美学棟1F, PAC, 2006/12/2
- 永田 靖 「テキストとしての演出台本—— スタニスラフスキ演出台本『かもめ』(1896)を中心に」, 広域文
化表現論「テキストの生成と変容」第10回研究会, 大阪大学文学研究科中庭会議室, 2006/12/21
- Nagata, Yasushi “Puppeting a Joruri - Is it really needed to be a theatre ? ”, International Conference, “Theatre and
Democracy ”, Indian Society for Theatre Nagata, Yasushi, Research, Rajasthan University, Jaipur,
India, 2007/1/5
- 永田 靖 「老いとリアリズムの演技」, 「老いと文化」慶応義塾大学身体医文化論研究会ワークショップ, 慶
應義塾大学日吉キャンパス来往舎2階大会議場, 2007/3/1
- 永田 靖 「伝統演劇とモダニティ 総括セッション」, 近現代演劇研究会沖縄集会「伝統演劇とモダニティ」,
沖縄県立芸術大学付属研究所2階会議室, 2007/3/11
- Ito, Nobuhiro “A Moldavian Brass Band: Beyond the Symbol of a Nation”, MCE, Aspects of Central- &

East-European Arts: Art, Architecture, Theatre & Music, Osaka University, Nakanoshima Center, 2005/10/31

- 伊東信宏 「アーノンクールは語る／アーノンクールと語る」, 京都賞ワークショップ, 京都国際会議場大ホール, 2005/11/12
- 伊東信宏 「バルトーク：村の楽師と20世紀音楽の前衛」, 京都女子大学公開講座, 京都女子大学, 2005/11/19
- 伊東信宏 (講演と企画担当)「シャガールのヴァイオリン：東欧の村の楽師と20世紀の前衛音楽」(出演：トリオ・ミンストレル), ザ・フェニックスホール, 2005/12/3
- 伊東信宏 「『ルーマニア音楽』は誰に帰属するのか? : モルドヴァのプラス・バンドをめぐる」, 神戸大科学研究費講演会, 神戸大学国際文化学部, 2005/12/13
- 伊東信宏 「『バルトークと黄金分割』再考」, 日本アルバン・ベルク協会例会, タカギクラヴィア「松濤サロン」, 2005/12/21
- 伊東信宏 「ヴァイオリンを弾く身体」, 国立民族学博物館共同研究「音楽と身体に関する民族美学的研究」(代表：山田陽一), 2006/01/28
- 伊東信宏 「バルトークによるピアノ曲《ミゼット》の生成と変容」, 大阪大学大学院広域文化表現論「テクストの生成と変容」研究会, 2006/05/18
- Ito, Nobuhiro “From folk song arrangement to imaginary folk ritual: two examples from compositions of post-war Japan”, Seminar at University of Ljubljana, 2006/09/01
- 伊東信宏 「頑固者とひねくれ者：バルトークとラヴェルをめぐる」, 中之島国際音楽祭, 2006/09/26
- 伊東信宏 「チャルガに夢中：ブルガリアにおけるポップ・フォークの位置」, 人間文化研究機構連携研究「日本とユーラシアの交流に関する総合的研究」研究会, 国立民族学博物館, 2006/12/03
- 伊東信宏 「謀略家としてのハイドン」, 横浜みなとみらい小ホール, 2007/01/26
- 伊東信宏 「ハイドン「クラヴィーア・ソナタ」精読」, 渋谷松濤サロン, 2007/1/27
- 三谷研爾 「世紀転換期プラハのユダヤ人」, 神戸ユダヤ文化研究会, 2004/7/18
- 三谷研爾 「ユダヤ人のプラハ」, 関西チェコ/スロバキア協会, 2004/10/30
- 三谷研爾 「多民族都市と国民文学——プラハのドイツ文学の場合」, 比較文学会関西大会, 比較文学会関西支部, 大阪大学言語文化研究科, 2006/11/11
- Zhivkova, Stella (Performance) 第76回公民館文化祭・邦楽演奏会, 伊丹アイフォニックホール, 2004/5/9
- Zhivkova, Stella (Performance) 第77回公民館文化祭・邦楽演奏会, 伊丹アイフォニックホール, 2005/5/5
- Zhivkova, Stella (Performance) 第78回公民館文化祭・邦楽演奏会, 伊丹アイフォニックホール, 2006/4/22
- Zhivkova, Stella (Presentation) “The Phenomenon of Image-laden loci Observed in Japanese Music and Culture”, Kyoto University of Art, 2006/5/13
- Zhivkova, Stella (Workshops) “Experience Japanese Music”, lecture, explanation and translation, Sofia University,

Department of Oriental and Eastern Languages, 2006/5/31

- 樋上千寿 (レクチャー・コンサート)「ゲッソーの屋根の上で: ディアスポラ・ユダヤの文化を聴く」, オルケステル・ドレイデル (演奏), 東欧ユダヤ音楽クレズマー演奏会・講演会, 日本・ユダヤ文化研究会, ギャラリー&ホール里夢 (六甲), 2004/11/6
- 樋上千寿 (レクチャー・コンサート)「ユダヤ音楽「クレズマー」の夕べ: シャガールの町 (シュテートル) の上で」, オルケステル・ドレイデル (演奏), 新年チャペル・コンサート, 日本キリスト教団 盤上教会, 盤上教会 (東香里園), 2005/1/22
- 樋上千寿 「マルク・シャガール《ユダヤ劇場壁画》(1920) をめぐって: ハスカラ, 『脱ユダヤ化』の潮流の中で」, 美術史学会 第58回全国大会, 大阪大学 豊中校地, 2005/5/29
- 樋上千寿 (レクチャー・コンサート)「Klezmer in Shul (シナゴークでクレズマー)」, オルケステル・ドレイデル (演奏), クレズマー音楽会, 神戸・ユダヤ文化研究会・関西ユダヤ教会, オヘル・シュロモ・シナゴーク (神戸北野), 2005/12/4
- 樋上千寿 (レクチャー・コンサート)「東欧ユダヤ音楽「クレズマー」演奏」, オルケステル・ドレイデル (演奏), 現代の宗教音楽に関する講演——キリスト教, イスラーム, そしてユダヤ教の宗教音楽の新しい流れ (音楽パフォーマンスの部), 同志社大学神学部・神学研究科, 同志社大学今出川校地 寒梅館ハーディーホール, 2006/10/7
- 樋上千寿 「シャガールとクレズマー音楽」(クレズマーの生演奏付き) / パネルディスカッション「ポータブルな祖国: ユダヤ・ディアスポラの文化とスラブ」, 日本ロシア文学会 2006年度第56回定例総会・研究発表会, 京都大学吉田南総合館, 2006/10/21
- 樋上千寿 (レクチャー・コンサート)「クレズマー レクチャー・コンサート」, オルケステル・ドレイデル (演奏), 「シャガール: その愛のかげら」展関連イベント, 宇都宮美術館・下野新聞社, 宇都宮美術館, 2007/2/10-11, 3/24-25
- 池上裕子 「ロバート・ラウシェンバークの《ゴールド・スタンダード》」, 第57回美術史学会全国大会, 慶応大学, 2004/5
- Ikegami, Yûko ““Lost in Translation”? Robert Rauschenberg in Tokyo, 1964”, presented in a panel on “Metropolis”, 31st Congress of the Comité international d’histoire de l’art, Palais des Congrès, Montreal, 2004/8
- 池上裕子 「アメリカのスペクタクル——1964年ヴェネツィア・ビエンナーレ考——」, 第59回美術史学会全国大会, 名古屋大学, 2006/5

臨床と対話

※中岡成文は「岐路に立つ人文学」に収録

著書(編著・単著・共著の図書等)

- 小林傳司 (共著) 小林信一編『社会技術概論』, 放送大学出版会, 2007
- 藤田治彦 (監修・共著) 『ウィリアム・モリスとアーツ&クラフツ』, 梧桐書院, 2004/7
- 藤田治彦 (監修・共著) 『アーツ・アンド・クラフツと日本』, 思文閣出版, 2004/9
- 藤田治彦 (編) 『芸術・コミュニケーション・デザイン』(国際フォーラム論文集), 2005/3
- 藤田治彦 (共編) 『倉敷2005「芸術と福祉」国際会議論集』, 倉敷2005「芸術と福祉」国際会議実行委員会, 2005/7
- 藤田治彦 『天体の図像学: 西洋美術に描かれた宇宙』, 八坂書房, 2006/1

定期刊行物に掲載された論文

- 池田光穂 「経済開発の寓話: グアテマラ・クチュマタン高原のコミュニティからの通信」, 『文学部論叢(地域科学篇)』, 85, 熊本大学文学会, pp. 45-67, 2005
- 池田光穂 「ファントム・メディシン: 帝国医療の定義をめぐるエッセイ」, 『熊本文化人類学』, 4, pp. 93-98, 2005
- 池田光穂 「グローバルポリティクス時代におけるボランティア: 〈メタ帝国医療〉としての保健医療協力」, 『地域研究』, 7 (2), 地域研究企画交流センター, pp. 169-182, 2006
- 小林傳司 「コミュニケーションデザイン・センター(CSCD)という冒険」, 『電子情報通信学会技術研究報告』, 106 (146), pp. 27-31, 2006/7
- 藤田治彦 「杜甫と意匠——曹覇・龍馬を描く」, 『なごみ』, 淡交社, pp. 70-73, 2006/1
- 藤田治彦 「漢文から和文へ——文字と言葉のロマン」, 『なごみ』, 淡交社, pp. 70-73, 2006/2
- 藤田治彦 「芙蓉と木米——同源の書画と工芸」, 『なごみ』, 淡交社, pp. 70-73, 2006/3
- 藤田治彦 「国東の小宇宙——条理ひとたび立てば」, 『なごみ』, 淡交社, pp. 70-73, 2006/4
- 藤田治彦 「高橋由一と福地桜痴」, 『なごみ』, 淡交社, pp. 70-73, 2006/5
- 藤田治彦 「雲井織——意匠登録第一号」, 『なごみ』, 淡交社, pp. 70-73, 2006/6
- 藤田治彦 「不忍池をめぐる——龍池会の美術とアート」, 『なごみ』, 淡交社, pp. 70-73, 2006/7
- 藤田治彦 「流行の門を叩く——三井呉服展の新意匠」, 『なごみ』, 淡交社, pp. 70-73, 2006/8
- 藤田治彦 「古い家と新しい文学——島崎藤村の『家』」, 『なごみ』, 淡交社, pp. 70-73, 2006/9

- 藤田治彦 「さまざまな意匠——モダニズムの機械と装飾」,『なごみ』,淡交社,pp.70-73,2006/10
- 藤田治彦 「清らかな意匠——谷口吉郎とル・コルビュジエ」,『なごみ』,淡交社,pp.70-73,2006/11
- 藤田治彦 「千年の意匠——光悦と宗達」,『なごみ』,淡交社,pp.70-73,2006/12
- Atsumi,Tomohide “Socially Constructed Motivation of Volunteers: A theoretical Exploration”, *Progress in Asian social psychology*,4, pp. 13-17,2004
- Atsumi,Tomohide & Okano,K., “Disaster Relief from Kobe and Its Significance in Bam, Iran Earthquake”,『東京大学地震研究所彙報』(The Bulletin of the Earthquake Research Institute),2004,pp.163-170,2004
- Atsumi,Tomohide « Le séisme du Japon, huit ans après Kobe : Volontaires, risques et dangers », *Les annales de la recherche urbaine*,95, pp. 63-69,2004
- 渥美公秀 「語りのグループ・ダイナミックス:語るに語り得ない体験から」,『大阪大学大学院人間科学研究科紀要』,30,pp.159-173,2004
- 渥美公秀・鈴木勇・菅磨志保・柴田慎士・杉万俊夫
「災害ボランティアセンターの機能と課題:宮城県北部地震を事例として」,『京都大学防災研究所年報』,47(B),pp.81-87,2004
- 菅磨志保・立木茂雄・渥美公秀・鈴木勇
「災害ボランティアを含めた被災者支援システムに関する一考察:宮城県北部地震における災害救援ボランティアセンターの事例より」,『地域安全学会論文集』,6,pp.333-340,2004
- 渥美公秀 「防災教育をデザインする」,『自然災害科学』,24(4),pp.350-355,2005
- 渥美公秀 「障害をもつ学生との出会いを演出する:災害救援と防災活動に学ぶ」,『想像と実践』,5,pp.10-13,2005
- 高玉潔・渥美公秀・加藤謙介・関嘉寛 「台湾集集大地震における慈済功德会の活動」,『ボランティア学研究』,5,pp.147-164,2005
- Okano,K. & Atsumi,Tomohide, “Situation of Iranian NGOs and the role for the recovery and the reconstruction of Bam”,『東京大学地震研究所彙報』(The Bulletin of the Earthquake Research Institute),2005,pp.171-177,2005
- 諏訪見一・渥美公秀 「学生による災害時のボランティア活動と状況的関心:新潟県中越地震におけるfromHUSの活動から」,『ボランティア学研究』,6,pp.71-95,2005
- 山口悦子・渥美公秀・池宮美佐子・平井祐範・倭和美・新宅治夫・山野恒一
「小児医療現場におけるボランティア活動とアート活動:ナラティブ・アプローチの視点から」,『ボランティア学研究』,5,pp.115-143,2005
- 渥美公秀 「防災教育のフロンティア」,『自然災害科学』,2月号,2006
- 渥美公秀 「第1章 NNPSの年次大会より」, *CHAT Technical Reports*,4, pp. 13-24,2006

- 渥美公秀・菅磨志保「減災コミュニケーションツールのデザインに向けて：CSCD 減災コミュニケーションデザイン・プロジェクトの概要」,『大阪大学大学院人間科学研究科紀要』, 32, pp. 195-209, 2006
- 諏訪晃一・渥美公秀「大学発の災害ボランティア活動の記録：新潟県中越地震におけるfromHUSの活動」,『大阪大学大学院人間科学研究科紀要』, 32, pp. 231-251, 2006
- 渥美公秀「災害ボランティアの動向：阪神・淡路大震災から中越地震を経て」,『大阪大学人間科学研究科紀要』, 2007
- 高玉潔・渥美公秀「災害ボランティア経験者が語った「智恵」」, SYN(大阪大学大学院人間科学研究科ボランティア人間科学講座紀要), 2007
- 高玉潔・渥美公秀・池田ゆかり・加藤謙介・諏訪晃一・関嘉寛・宮本匠「台湾における村落復興過程の事例：埔里鎮桃米里のまち再建」,『自然災害学研究』, 2007
- Atsumi, Tomohide “Aviation with Fraternal Twin Wings over the Asian Context”, *Asian Journal of Social Psychology*, 2007
- Morita T, Sakaguchi Y, Hirai K, Tsuneto S, Shima Y, “Desire for death and requests to hasten death of Japanese terminally ill cancer patients receiving specialized inpatient palliative care”, *J Pain Symptom Manage*, 27-1, pp. 44-52, 2004
- Masumoto K, Takai T, Tsuneto S, Kashiwagi T, “Influence of motoric encoding on forgetting function of memory for action sentences in patients with Alzheimer’s disease”, *Perceptual and Motor Skills*, 98, pp. 299-306, 2004
- Morita T, Hirai K, Sakaguchi Y, Tsuneto S, Shima Y, “Family-perceived distress about appetite loss and bronchial secretion in the terminal phase”, *J Pain Symptom Manage*, 27(2), pp. 98-99, 2004
- Morita T, Hirai K, Sakaguchi Y, Tsuneto S, Shima Y, “Family-Perceived Distress From Delirium-Related Symptoms of Terminally Ill Cancer Patients”, *Psychosomatics*, 45(2), pp. 107-113, 2004
- Morita T, Hirai K, Sakaguchi Y, Maeyama E, Tsuneto S, Shima Y, “Quality Assurance Committee, Japanese Association of Hospice and Palliative Care Units Measuring the quality of structure and process in end-of-life care from the bereaved family perspective”, *J Pain Symptom Manage*, 27(6), pp. 492-501, 2004
- Sakaguchi Y, Tsuneto S, Takayama K, Tamura K, Ikenaga M, Kashiwagi T, “Tasks perceived as necessary for hospice and palliative care unit bereavement services in Japan”, *J Palliat Care*, 20(4), pp. 320-323, 2004
- Shiozaki M, Morita T, Hirai K, Sakaguchi Y, Tsuneto S, Shima Y, “Why are bereaved family members dissatisfied with specialised inpatient palliative care service? A nationwide qualitative study”, *Palliative Medicine*, 19(4), pp. 319-327, 2005
- Fukui T, Takahashi O, Rahman M, Iino K, Uchitomi Y, Ogawa S, Kita M, Kimijima I, Kondo H, Shino M, Takumi Y, Tsuneto S, Hamaguchi K, Matsumoto M, Mukaiyama T, Yamamuro M, Watanabe A, Setoyama

- O, Hiraga K, "Clinical effectiveness of evidence-based guidelines for pain management of terminal cancer patients in Japan", *JMAJ*, 48(5), pp. 216-223, 2005
- Masumoto K, Yamaguchi M, Sutani K, Tsuneto S, Fujita A, Tonoike M, "Reactivation of physical motor information in the memory of action events", *Brain Res*, 1101(1), pp. 102-109, 2006
- 坂口幸弘・恒藤 暁・柏木哲夫・高山圭子・田村恵子・池永昌之
「わが国のホスピス・緩和ケア病棟における遺族ケアの提供体制の現状」, 『心身医学』, 44 (9), pp. 698-703, 2004
- 坂口幸弘・高山圭子・田村恵子・池永昌之・恒藤 暁・柏木哲夫
「わが国のホスピス・緩和ケア病棟における遺族ケアの実施方法 (2) : 遺族のサポートグループの現状」, 『死の臨床』, 27 (1), pp. 81-86, 2004
- 本家裕子, 恒藤 暁, 柏木哲夫 「がん終末期ケアにおけるソーシャルワーク: 実態調査および専門的役割についての検証」, 『医療と福祉』, 37 (1), pp. 45-50, 2004
- 辰巳有紀子・羽尻充子・中村尚美・当日雅代・恒藤 暁・柏木哲夫・橋本 悟・藤田綾子
「ICU 患者家族のニーズの抽出とニーズ測定尺度の開発」, 『日集中医誌』, 12 (2), pp. 111-118, 2005
- 坂口幸弘・池永昌之・田村恵子・恒藤 暁
「遺族のリスク評価法の開発」, 『死の臨床』, 28 (1), pp. 87-93, 2005
- 岡本禎晃・恒藤 暁・松田陽一・金村誠哲・井上隆弥・田墨恵子・入江由美子・黒川信夫・上島悦子
「がん性疼痛に対して2枚のフェンタニル貼付剤を24時間の時間差で48時間ごとに貼付することにより鎮痛効果と副作用が改善した一症例」, 『緩和医療学』, 8 (3), pp. 287-290, 2006
- 赤澤正人・西牧真里・坂口幸弘・恒藤 暁
「養護教諭を対象としたデス・エデュケーションに関する意識調査: 学校現場の生と死を教えることについて」, 『ホスピスケアと在宅ケア』, 38 (3), pp. 195-200, 2006
- 恒藤 暁 「緩和医療における "Total Pain" の考え方」, 『臨床麻酔』, 28 (3), pp. 581-588, 2004
- 恒藤 暁 「緩和ケア病棟の活動と展望」, 『現代医療』, 36 (6), pp. 1203-1209, 2004
- 恒藤 暁 「緩和医療: わが国の現状」, 『日本内科学会雑誌』, 93 (7), pp. 1460-1465, 2004
- 恒藤 暁 「ホスピスとは何か」, 『痛みと臨床』, 4 (4), pp. 379-384, 2004
- 恒藤 暁 「癌性疼痛に対する薬物療法」, 『コンセンサス癌治療』, 3 (4), pp. 181-183, 2004
- 恒藤 暁 「悪い知らせを伝える」, 『治療増刊号』, 87, pp. 768-770, 2005
- 恒藤 暁 「がん緩和医療と精神的援助」, 『臨床精神薬理』, 9 (5), pp. 1087-1092, 2006
- 稲葉一人 「医療紛争と医療訴訟 (4) 司法の立場から」, *Cardiovascular Med-Serg*, 6 (2), メディカルレビュー社, pp. 79-82, 2004/5

- 稲葉一人 「日本及び諸外国に見る ADR の現状・課題・展望」,『土地問題双書』,35,有斐閣,2004/5
- 稲葉一人 (共著)「犯罪捜査における DNA データベース」, *Studies*, 7, 科学技術文明研究所, 2004/6
- 稲葉一人 (共著)「司法解剖における遺族への情報開示の問題点」,『法学セミナー』,49 (7), 日本評論社, 2004/7
- 稲葉一人 「患者の論理・医者 の論理 (第 15 回) 診療ガイドラインと説明義務」, *JIM*, 14 (7), 医学書院, pp. 624-628, 2004/7
- 稲葉一人 「診療ガイドラインと法的問題」, *Medico*, 35 (9), 2004/9
- 稲葉一人 「医療・介護従事者の守秘義務と医療・介護情報の保護」,『治療「知って得する各科のノウハウ」』, 87, 南山堂, 2005/3
- 稲葉一人 「看護と個人の情報の保護」,『月刊ナースデータ』, 26 (3), 日経研出版, pp. 5-12, 2005/3
- 稲葉一人 「個人情報保護法とガイドラインに備える」, *Medical ASAHI*, 34 (4), 朝日新聞社, 2005/4
- 稲葉一人 「個人情報保護法施行を機に考える現場での対応の実際」,『看護学雑誌』, 69 (6), 医学書院, pp. 601-607, 2005/5
- 稲葉一人 「和解あれこれ —— 元裁判官から見た当事者たちの姿」,『JCA ジャーナル』, 日本商事仲裁協会, 2005/6
- 稲葉一人 「ADR・調停を学ぶために」,『JCA ジャーナル』, 日本商事仲裁協会, 2005/8
- 稲葉一人 「『診療行為に関連した死亡の調査分析に係るモデル事業』における紛争解決システム」,『医療安全』, 6, エルゼビア・ジャパン, pp. 31-35, 2005
- 稲葉一人 「21 世紀の基盤作り (ADR) —— 調停トレーニングの現場から・ADR・調停を学ぶために」,『JCA ジャーナル』, 52 (8), 日本商事仲裁協会, p. 19, 2005/8
- 稲葉一人 (共著)「医療におけるマネジメント」(6回連載),『看護部長通信』, 3 (4) (pp. 28-31, 2005), 3 (5) (pp. 85-91, 2005), 3 (6) (pp. 51-57, 2005), 4 (1) (2006), 4 (2) (2006), 4 (3) (2006), 日経研, 2005-2006
- 稲葉一人 「個人情報保護と研究倫理」,『医学のあゆみ』, 215 (4), 医歯薬出版, pp. 235-239, 2005/10
- 稲葉一人 (共著)「終末期における治療打ち切りを法的にどう解釈するか」, *Medical ASAHI*, 34 (10), 朝日新聞社, 2005/10
- 稲葉一人 「医療関連死をめぐる法的背景」,『病理と臨床』, 23 (12), 2005/12
- 稲葉一人 「メディアエーションの考え方と実践」,『看護展望』, 31 (3), メディカルフレンド, pp. 83-87, 2006
- 稲葉一人 「メディアエーションの試みと医療 ADR」,『看護展望』, 31 (4), メディカルフレンド, pp. 86-90, 2006
- 稲葉一人 「メディアエーションの担い手のためのトレーニング」,『看護展望』, 31 (4), メディカルフレンド, 2006
- 稲葉一人 「治療やケアにかかわる紛争を防ぐために」,『呼吸器ケア』, 4 (6) (通巻 41 号), メディカ出版, pp. 68-77, 2006/6
- 稲葉一人 「これだけ知っておきたい個人情報保護」(3回連載),『脳神経雑誌』, 34 (5) (pp. 557-541), 34 (6)

(pp. 635-640), 34 (7) (pp. 765-770), 医学書院, 2006/5-7

- 稲葉一人 「調停を広げる」, 『JCAジャーナル』, 53 (9), 日本商事仲裁協会, pp. 26-31, 2006/9
- 稲葉一人 「個人情報保護と疫学的研究の狭間」, 『生命倫理』, 16 (1) (通巻17号), 日本生命倫理学会, pp. 61-66, 2006/9
- 加藤謙介 「『地域猫』活動における「対話」の構築過程 —— 横浜市磯子区の事例より —— 」, 『ボランティア学研究』, 6, pp. 49-69, 2006

■ 定期刊行物以外(論文集、報告書、図書等)に収録された論文

- 池田光穂 「民族誌のメイキングとリメイキング：マーガレット・ミードがサモアで見いだしたものの行方」, 太田好信・浜本満編『メイキング人類学』, 世界思想社, pp. 113-135, 2005
- 池田光穂 「「持続可能性」の意味：医療人類学からみた保健医療プロジェクトの持続可能性に関する学際研究」, 『インドネシア母子保健手帳プログラムに関する学際的調査報告書』, 大阪大学人間科学研究科ボランティア人間学教室, pp. 42-59, 2005
- 池田光穂 「医療人類学の立場からみた保健医療協力プロジェクトの持続可能性に関する学際研究」, 『平成16年度厚生労働省国際医療研究委託費・研究報告集』, 国立国際医療センター, pp. 239-240, 2005
- 池田光穂 「水俣が私に会ったとき：社会的関与と視覚表象」, 丸山定巳・田口宏昭・田中雄次編『水俣からの想像力：問い続ける水俣病』, 熊本出版文化会館, pp. 123-146, 2006
- 池田光穂 「ホンジュラス調査から私が学んだもの：医療人類学からみた保健医療プロジェクトの持続可能性に関する学際研究」, 『保健医療プロジェクトの持続可能性に関する学際研究調査報告書』, 大阪大学人間科学研究科ボランティア人間学教室, 2006
- 池田光穂 「国民国家概念がさほど有効ではなくなった今日において、私たちは“国”際保健医療協力の持続可能性に何を期待することができるのか：その学際研究の可能性についての諸考察」, 『保健医療プロジェクトの持続可能性に関する学際研究調査報告書』, 大阪大学人間科学研究科ボランティア人間学教室, 2006
- Ikeda, Mitsuho “Reflexiones sobre la violencia politica y la antropologia: la actualidad guatemalteca”, Kazuyasu Ochiai (coord.), *Mundo maya: Contribuciones de los antropologos japoneses*, Centro de Estudios Mayas, UNAM (メキシコ自治大学マヤ研究センター), Merida, Universidad Nacional Autonoma de Mexico. pp. 179-210, 2006
- 恒藤 暁 「厚生労働科学研究 医療技術評価総合研究事業「STAS (Support Team Assessment Schedule) 日本語版スコアリングマニュアル：緩和ケアにおけるクリニカル・オーディットのために」」, 緩和

- 医療提供体制の拡充に関する研究班, pp. 1-57, 2004
- 恒藤 暁 「ホスピス緩和ケア白書2005」, 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団「ホスピス緩和ケア白書2005」編集委員会, pp. 1-86, 2005
- 恒藤 暁 「厚生労働科学研究 医療技術評価総合研究事業「STAS (Support Team Assessment Schedule) 日本語版スコアリングマニュアル: 緩和ケアにおけるクリニカル・オーディットのために (第2版)」」, 緩和医療提供体制の拡充に関する研究班, pp. 1-63, 2005
- 恒藤 暁 「ホスピス・緩和ケアに関する意識調査 —— 人生観と死生観との関連 ——」, 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団, pp. 1-51, 2006
- 恒藤 暁 『ホスピス緩和ケア白書2006』, 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団「ホスピス緩和ケア白書2006」編集委員会, pp. 1-113, 2006
- 恒藤 暁 「厚生労働科学研究費補助金 ヒトゲノム・再生医療等研究事業「脳死臓器提供を承諾した家族の心情と臓器移植コーディネーターによるドナー家族ケアに関する経年的調査研究」平成17年度総括・分担研究報告書」, (朝居朋子, 大宮かおり, 米虫圭子, 坂口幸弘, 櫻井悦夫, 恒藤 暁, 中西健二, 原 美幸), pp. 11-82, 2006
- 稲葉一人 (共著)「医療情報 —— 個人情報、医療（診療）情報、遺伝情報の保護と共有」, 『生命倫理と医療倫理』, 金芳堂, 2004/9
- 稲葉一人 「裁判外紛争解決手続の利用の促進に関する法律の成立とその解説」, 『市民と法』, 民事法研究会, 2005/2
- 稲葉一人 「事例で考える個人情報保護法」, 『眼科と経営』, プリメド社, 2005/10
- 稲葉一人 (共著)「守秘義務と個人情報保護」, 『入門医療倫理I』, 勁草出版, 2005/10
- 稲葉一人 「法の基礎」, 『入門医療倫理I』, 勁草出版, 2005/10
- 家高 洋 「社会実証実験における〈市民参加〉」, 『ロボット社会実証実験のための外部評価の方法の確立及びガイドラインの作成』(平成17年度受託研究報告書), pp. 15-33, 2006/4
- 家高 洋 「マーケティング理論におけるロボット社会実証実験」, 『ロボット社会実証実験のための外部評価の方法の確立及びガイドラインの作成』(平成18年度受託研究報告書), 2007/3
- Kato, Kensuke & Atsumi, Tomohide, "Hospitality in the care: A case of dog therapy at a geriatric institute", Kashima, Y., Endo, Y., Kashima, E., Leung, C., and McClure, J. (Eds.), *Progress in Asian Social Psychology*, 4, Seoul, Korea, Kyoyook-kwahak-sa, pp. 201-215, 2005

■ エッセー・評論・翻訳・書評・解説・事典(辞典)項目、その他

- 池田光穂 (書評)「花瀨馨也『精霊の子供 —— コモロ諸島における憑依の民族誌』, 横浜, 春風社, 2005年」,

- 『文化人類学』, 71 (2), pp. 266-269, 2006/9
- 池田光穂 (書評)「飯島渉『マalariaと帝国——東アジアの広域秩序』, 東京大学出版会, 2005年」, 『日本歴史』, 706, pp. 125-127, 2007/3
- 小林傳司 (事典項目)「コンセンサス会議」, 『リスク学事典』, 阪急コミュニケーションズ, pp. 386-389, 2006
- 藤田治彦 「ウィリアム・モリスのイギリス・1・ウォルサムストウとエビングの森」, 『英語教育』, 53 (7), 大修館書店, 巻頭グラビア頁, 2004/10
- 藤田治彦 「ウィリアム・モリスのイギリス・2・モールバラ校とエイヴベリ」, 『英語教育』, 53 (9), 大修館書店, 巻頭グラビア頁, 2004/11
- 藤田治彦 「ウィリアム・モリスのイギリス・3・オックスフォード」, 『英語教育』, 53 (10), 大修館書店, 巻頭グラビア頁, 2004/12
- 藤田治彦 「ウィリアム・モリスのイギリス・4・レッド・ハウスからクイーン・スクエアへ」, 『英語教育』, 53 (11), 大修館書店, 巻頭グラビア頁, 2005/1
- 藤田治彦 「ウィリアム・モリスのイギリス・5・ケルムスコットとコッツウォルズ地方」, 『英語教育』, 53 (12), 大修館書店, 巻頭グラビア頁, 2005/2
- 藤田治彦 「ウィリアム・モリスのイギリス・6・テムズ川の流れに」, 『英語教育』, 53 (13), 大修館書店, 巻頭グラビア頁, 2005/3
- 藤田治彦 (書評)「田中正明『デザイン研究ノート』」, 『デザイン理論』, 46, pp. 210-211, 2005/5/30
- 藤田治彦 (書評)「熊倉功夫・吉田憲司共編『柳宗悦と民藝運動』」, 『民族藝術』, 22, pp. 193-196, 2006/3/31
- 渥美公秀 「ボランティア活動の活発な展開：新潟県中越地震を事例に」, 『21世紀ひょうご』, 91, pp. 14-21, 2005
- 渥美公秀 「変化する風景の中で：新しいグループ・ダイナミックスと統計」, 『データランド大阪』, 673, pp. 1-2, 2005
- 渥美公秀 「災害に強いコミュニティのために」, CEL, 73, pp. 39-42, 2005
- 渥美公秀 「市民参加はどう進むのか」, 『広報かたの』, 平成17年1月号, 2006
- 渥美公秀 「統計の窓」, 『データランド大阪』, 2007
- 渥美公秀 「災害に強いコミュニティのために」, CEL, 2007
- 家高 洋 (翻訳) 山口一郎・鷲田清一監訳『B・ヴァルデンフェルス, 講義・身体現象学』, pp. 285-358, 知泉書館, 2004

講演・口頭発表等

- 池田光穂 基調講演「医療通訳と人権を考える：医療人類学の視点」, 医療通訳研究会 (MEDINT) 4周年

- 記念公開シンポジウム, 西宮市大学交流センター, 2006/4/16
- 池田光穂 「記憶=記録の悪魔: ドキュメントにおける記憶(声)とジャズレコードの記録(刻印)について」, 分科会「音的近代/民族誌的近代: 音の記録史から声の文字化を再考する」(代表者: 太田好信), 日本文化人類学会第40回研究大会, 東京大学駒場キャンパス, 2006/6/4
- 小林傳司 「日本におけるサイエンスコミュニケーションの課題」, 科学を語り合う——サイエンスコミュニケーションの方法と実践, 日本大学カザルスホール, 2006/5/23
- 小林傳司 「科学技術と社会: 科学技術コミュニケーションの視点から」, 第8回五感産業フォーラム, 大阪科学技術センター, 2006/5/29
- 小林傳司 「今なぜ科学技術コミュニケーションが求められているのか」, 平成18年度農林水産関係研究リーダー研修, 農林水産省, 筑波事務所農林交流センター, 2006/7/6
- 小林傳司 「コンセンサス会議の現状と今後」, 総研レクチャー「科学と社会的合意形成」, 総合研究大学院大学, 葉山, 2006/7/26
- Kobayashi, Tadashi “Governance of Technoscience: Two turning points in Japan”, EASTS conference at Taipei, 2006/8
- 小林傳司 「未知なる事態に於ける科学者の役割と責任」, 「薬害エイズと医療: 生命を育む思想」, MERS, ドーンセンターホール, 2006/10/14
- 小林傳司 「コミュニケーションの意義と手法」, 平成18年度環境影響評価研修, 環境省, 環境調査研修所, 2006/11/16
- 小林傳司 「日本の1970年代科学論の再検討」, 科学技術社会論学会第5回年次研究大会, 北海道大学, 2006/11/11
- 小林傳司 「科学技術に踏み込む人文社会科学」, 日本学術会議第一部冬季公開シンポジウム「人文社会科学の学術における役割」, 日本学術会議, ホテル阪急インターナショナル, 2006/12/14
- 小林傳司 「研究者と科学コミュニケーション」, 学問と社会のあり方——研究成果の発信、その現状と将来の展望, 総合地球環境学研究所, 2007/2/1
- 小林傳司 「科学技術と社会のコミュニケーション——PAからPEへ——」RC-53特別研究会, 東京大学生産技術研究所, 2007/2/13
- Fujita, Haruhiko “Changing Ways of Arts, Geido”, XVI International Congress of Aesthetics, Rio de Janeiro, 2004/7/22
- Fujita, Haruhiko “History and Philosophy of Design History Forum, 1998-2004”, 4th International Conference on Design History & Design Studies, Guadalajara, 2004/11/4
- 藤田治彦 「細やかなデザインと文化変容の可能性」, 第19期・芸術学研究連絡委員会シンポジウム「アートの力——文化変容の可能性」, 京都大学大学院文学研究科新館第3講義室, 2005/12/18
- 藤田治彦 「欧州、日本、台湾の生活工芸運動史」, 台湾生活工芸運動2005国際会議, 華山創意文化園区

- (台北), 2005/12/18
- 藤田治彦 「從威廉莫里斯到藝術工藝運動」, 台湾生活工藝運動2005國際會議, 華山創意文化園區(台北), 2005/12/18
- Fujita, Haruhiko “Tradition and Innovation in Japanese Design”, Design Workshop “Tradition and Innovation: a Comparison between Italian and Japanese Design”, Aula Magna, Faculty of Engineering, University of Bologna, 2006/2/21
- Fujita, Haruhiko “Design Theory and History of Modern Japan”, a fellow lecture for the Institute of Advanced Studies, Residenza di Studi Superiori, University of Bologna, 2006/2/22
- Fujita, Haruhiko “Future of History: Design and Design Identity in Japan” (第5回デザイン史デザイン学国際会議基調講演), 2006/8/25
- Fujita, Haruhiko “Japanese Crafts for the 21st Century: from the past looking to the future” (日本大使館・大英博物館・日英20世紀工芸ワークショップ基調講演), 在英国日本国大使館(ロンドン), 2006/9/8
- Fujita, Haruhiko “Meanings of the 6th ICHACM and the 3rd ICHSM” (公州2006「芸術と福祉」国際会議講演), 2006/10
- 池宮美佐子・山口悦子・渥美公秀
「患者・家族・職員の入院生活やボランティア活動に対する意識：アンケート調査を通じて」, 日本グループ・ダイナミックス学会第51回大会, 南山大学, 2004/5
- Kato, K. & Atsumi, Tomohide, “Preliminary consideration about collaborative practice through interview method: A case study of the great Chi-Chi earthquake in Taiwan, 1999”, 日本グループ・ダイナミックス学会第51回大会, 南山大学, 2004/5/8
- 松原 崇・渥美公秀 「他者との出会いについて：「身の置き所のなさ」を巡って」, 日本グループ・ダイナミックス学会第51回大会, 南山大学, 2004/5
- Takano, N. & Atsumi, Tomohide, “Collective remembering of The Great Hanshin-Awaji Earthquake (4): School trip to DRI”, 日本グループ・ダイナミックス学会第51回大会, 南山大学, 2004/5
- Yamaguchi, E, Ikemiya, M. & Atsumi, Tomohide, “Changes in norms at a hospital: The improvement of hospital life at a pediatric division”, 日本グループ・ダイナミックス学会第51回大会, 南山大学, 2004/5
- Atsumi, Tomohide “Relief from Kobe with Long-Term perspectives toward the Bam Earthquake: How can we share experiences in disaster relief?”, Fourth Annual IIASA-DPRI Forum INTEGRATED DISASTER RISK MANAGEMENT: Challenges of Implementation, Italy, 2004/7
- Takano, N. & Atsumi, Tomohide, “Collective remembering of The Kobe Earthquake (6): Museum for whom?”, 28th International Congress of Psychology, International Congress of Psychology, Beijing, 2004/8
- 加藤謙介・渥美公秀 「インタビューにおける語りの場：台湾集集大地震の被災者に対する聞き取りの事例」, 日本心理

学会第68回大会, 関西大学, 2004/9/13

渥美公秀 「続・ボランティアの知: 震災10年を前に」, 組織学会2005年度年次大会, 2004/10

山口悦子・池宮美佐子・平井祐範・倭和美・新宅治夫・山野恒一・渥美公秀

「療養環境を生活の場と捉えた小児がん患児のトータルケアに関する総合的研究」, 日本小児がん学会第20回大会, 京都, 2004/11

渥美公秀 「震災10年: 神戸から中越・インド洋へ」, 国際ボランティア学会第6回大会シンポジウム, 大阪大学, 2005/2

高玉潔・渥美公秀・関嘉寛・加藤謙介

「台湾集集大地震における慈濟功德会の活動」, 国際ボランティア学会第6回大会, 大阪大学, 2005/2

高野尚子・渥美公秀 「阪神・淡路大震災の伝承に関する一考察」, 日本グループ・ダイナミクス学会第52回大会, 神戸国際会議場, 2005/3

山口悦子・渥美公秀 「医療現場における集団変容プロセス: 小児病棟の療養環境改善活動を通じて」, 日本グループ・ダイナミクス学会第52回大会, 神戸国際会議場, 2005/3

Atsumi, Tomohide “Educational tools for disaster mitigation: exploring collective activity theory”, ISCAR, Sevilla, Spain, 2005

渥美公秀 「災害ボランティアセンターのグループ・ダイナミクス: ボランティアの知——新潟県中越地震の事例」, 日本心理学会第69回大会, 慶應義塾大学, 2005/9

渥美公秀 「災害時のボランティア活動」, 日本心理学会公開シンポジウム: 事故と安全の心理学: 安全と心理学研究の展開, 大阪大学中之島センター, 2005/11

渥美公秀・関嘉寛 「減災コミュニケーションデザインの研究に向けて (1): CASiFiCAの概要」, 国際ボランティア学会第7回大会, 文教大学, 2006/2

関嘉寛・渥美公秀 「減災コミュニケーションデザインの研究に向けて (2): 日本におけるCASiFiCAの事例」, 国際ボランティア学会第7回大会, 文教大学, 2006/2

高野尚子・渥美公秀 「語りによる阪神・淡路大震災の伝承に関する一考察」, 国際ボランティア学会第7回大会, 文教大学, 2006/2

Atsumi, Tomohide, Kao, Y. Kato, T. Miyamoto, T. Seki, Y. Suga, M. Suwa, K. Nakagami-Yamaguchi, E., “Design of Revitalization Processes in Rural Areas: Lessons from Tao-Mi to Chuetsu”, The 6th Japan-Taiwan Joint Seminar on Natural Hazard Mitigation, 2006/10

渥美公秀 「減災コミュニケーションデザインの研究に向けて (3): 協働の実践と対話」, 日本心理学会第70回大会, 福岡国際会議場, 2006/11

渥美公秀・関嘉寛・菅磨志保

- 「減災コミュニケーションデザインの研究に向けて (4) : 協働的実践と成果の表現」, 自然災害学会, 2006/11
- 家高 洋 (パネリスト) シンポジウム「認知症のケアと家族」, 京都市立長寿すこやかセンター, 京都市立長寿すこやかセンター, 2005/3/4
- Kato, Kensuke & Atsumi, Tomohide, “Preliminary consideration about collaborative practice through interview method: A case study of the great Chi-Chi earthquake in Taiwan, 1999”, 日本グループ・ダイナミックス学会第51回大会, 南山大学, 2004/5/8
- 加藤謙介 (共同発表)「インタヴューにおける語りの場: 台湾集集大地震の被災者に対する聞き取りの事例」, 日本心理学会第68回大会, 関西大学, 2004/9/13
- 加藤謙介 「話題提供: 『ロボットを介したケア』—— 高齢者施設におけるロボット介在活動の事例から —— (ヒューマン・アニマル・ボンド: 動物を介したケア・ロボットを介したケアの可能性)」, 日本心理学会第68回大会, 関西大学, 2004/9/14
- 加藤謙介 「『地域猫』実践におけるボランティアのかかわり」, 国際ボランティア学会第6回大会, 大阪大学, 2005/2/20
- Kato, Kensuke “Group conflict in the community over ‘community cats’: Preliminary considerations about a social problem from the perspective of constructionism”, 日本グループ・ダイナミックス学会第52回大会, 神戸国際会議場, 2005/3/20
- Kato, Kensuke “Mediational process between two claims about ‘community cats’”, Asian Association of Social Psychology 6th biennial conference, Victoria University of Wellington, New Zealand, 2005/4/4
- 加藤謙介 「ロボットをめぐる社会的言説に関する予備的考察: 新聞記事の内容分析より」, 計測自動制御学会第6回システムインテグレーション部門講演会 (SI2005), 熊本電波工業専門高等学校, 2005/12/16
- 加藤謙介 「『地域猫』実践におけるボランティアのかかわりに関する予備的考察 (2): 横浜市西区の事例より」, 第7回国際ボランティア学会大会, 文教大学, 2006/2/19
- Kato, Kensuke “Five steps of dialogues in ‘community cats’ activity: Cases in Nishi, and Isogo-ward, Yokohama city”, 日本グループ・ダイナミックス学会第53回大会, 日本グループ・ダイナミックス学会, 武蔵野大学, 2006/5/27
- 加藤謙介 (共同発表)「共同研究プロジェクト「〈人文学の討議空間〉のデザイン」について」, FIT2006 第5回情報科学技術フォーラム, 情報処理学会, 電子情報通信学会情報・システムソサイエティ (ISS) およびヒューマンコミュニケーショングループ (HCG), 福岡大学, 2006/9/6
- Kato, Kensuke “Introduction of ubiquitous network system for security and safety in urban community: Preliminary consideration from the perspective of activity theory”, SCIS&ISIS2006, 東京工業大

学,2006/9/22

加藤謙介 「指定討論：ヒューマン・アニマル・ボンド——動物型ロボットの可能性——」,日本心理学会第70回大会,福岡国際会議場,2006/11/4

屋良朝彦 「薬害エイズと予防原則」,日本生命倫理学会第16回年次大会,鳥取環境大学,2004/11/28

屋良朝彦 「薬害エイズと予防の原則」,第10回社会と臨床研究会・研究発表,社会と臨床研究会・大阪大学大学院文学研究科,大阪大学豊中キャンパス中庭会議室,2004/5/29

屋良朝彦 「予防原則の可能性と限界」,ワークショップ「予防原則は〈使える〉か」,リスク論を軸とした科学技術倫理の基礎研究(科学研究費補助金 基盤研究B2 代表者 蔵田伸雄・北海道大学),北海道大学人文社会科学総合教育研究棟W409会議室,2004/9/12

屋良朝彦 (ファシリテーター)「臨床哲学Cafe&Bar・死について考える」(哲学カフェ、ソクラテック・ダイアローグ),岡山済生会病院・緩和ケア病棟の月例学習会「生と死を考える会」,岡山市岡山済生会病院,2004/2/16

屋良朝彦 ネオ・ソクラテック・ダイアローグ「What risk to take?」参加(ファシリテーター:ベアー・リテヒ(ウィーン高等研究所、オーストリア),臨床コミュニケーションのモデル開発と実践(文部科学省科学技術振興調整費 科学技術政策提言)・大阪大学大学院文学研究科臨床哲学研究室,2004/2/25-26

その他

■ 著書(編著・単著・共著の図書等)

柏木隆雄 (共著)『レクチュールの冒険』,朝日出版社,2005

藤本武司 (共著)『レクチュールの冒険』,朝日出版社,2005

森 宣雄 (共編著)『戦後初期沖縄解放運動資料集』全3巻,不二出版,2004/11-2005/10

■ 定期刊行物に掲載された論文

柏木隆雄 「幸田露伴 螺旋の回廊」,『文学』,1・2月号,岩波書店,pp.75-82,2005/1

Kashiwagi, Takao “Cent ans d’études balzacienes au Japon”, *Studi Francesi*, 145, Anno XLIX, gennaio-aprile, pp. 65-72, 2005

柏木隆雄 「モーパッサン「首飾り」を読む」1-4,『ふらんす』,4-7月号,2006/4-7

■ 定期刊行物以外（論文集、報告書、図書等）に収録された論文

- 柏木隆雄 「『美しき諷い女』カトリヌ・レスコーとは誰か」,『視覚芸術と比較文化』,大手前大学,2004/5
- 柏木隆雄 「ゾラ、紅葉、荷風——明治文学の間テクスト性——」,『ゾラの可能性』,藤原書店,pp. 299-329,2005/6
- 柏木隆雄 「バルザック『無神論者』の「謎」の構造」,『シュンボシオン——高岡幸一教授退職記念論集』,朝日出版社,pp. 175-184,2006/3
- 柏木隆雄 「『フランス』との邂逅」,宇佐美斉編『日仏交感の近代,文学・美術・音楽』,京都大学出版会,pp. 4-27,2006/5
- Kashiwagi, Takao “Les revenants et les démons dans les *Contes de pluie et de lune*”, in *Figures du fantastique dans les contes et nouvelles*, sous la direction de Francis Cransac et Régis Boyer, Publications Orientalistes de France / Association À la Rencontre d'Écrivains..., pp. 67-79, 2006
- 森 宣雄 「潜在主権と軍事占領 思想課題としての沖縄戦」,『帝国の戦争経験』(『岩波講座 アジア・太平洋戦争』第4巻),岩波書店,pp. 235-264,2006

■ エッセー・評論・翻訳・書評・解説・事典(辞典)項目、その他

- 柏木隆雄 「懷徳堂講座の思い出」,『懷徳堂だより』,懷徳堂記念会,2004/4
- 柏木隆雄 「国立大学の新しい出発」,読売新聞夕刊(大阪本社版),2004/4/2
- 柏木隆雄 「講義情報」,読売新聞夕刊(大阪本社版),2004/4/8
- 柏木隆雄 「倦まず怠らず」,読売新聞夕刊(大阪本社版),2004/4/19
- 柏木隆雄 「私のプティット・マドレーヌ」,読売新聞夕刊(大阪本社版),2004/4/24
- 柏木隆雄 (座談会)「八犬伝(再読)」,『文学』,5-6月号,岩波書店,pp. 2-21,2004/5
- 柏木隆雄 「宣長と秋成」,読売新聞夕刊(大阪本社版),2004/5/7
- 柏木隆雄 「平成の懷徳堂」,読売新聞夕刊(大阪本社版),2004/5/13
- 柏木隆雄 「天国のような場所」,読売新聞夕刊(大阪本社版),2004/5/17
- 柏木隆雄 「共通語」,読売新聞夕刊(大阪本社版),2004/5/22
- 柏木隆雄 「グローバルな言語」,読売新聞夕刊(大阪本社版),2004/6/2
- 柏木隆雄 「包丁の外国語」,読売新聞夕刊(大阪本社版),2004/6/22
- 柏木隆雄 「私のフランス語会話事始め」,『室報』,49,大阪大学文学研究科・文学部国際交流センター,pp. 2-3,2004/9/30
- 柏木隆雄 「南仏の『作家と出会う会』に参加して」,読売新聞夕刊(大阪本社版),2004/10/4
- 柏木隆雄 「フランス山峡の『雨月物語』」,『懷徳』,73,pp. 2-4,懷徳堂記念会,2005/2

- 柏木隆雄 「フランス文学研究室についての評価と提言」,『名古屋大学大学院文学研究科外部評価ピア・レビュー報告書』,名古屋大学大学院文学研究科,pp. 291-294, 2005/3
- 柏木隆雄 (書評)「ジャック・オリガス著『物と眼 明治文学論集』」,『比較文学』,47,2004,pp. 144-147, 2005/5
- 柏木隆雄 「Le Diable à Paris 復刻を喜ぶ」,『新刊速報』,Athena Press,pp. 2-3, 2005/5
- 柏木隆雄 「堀口博信氏の画業」,『堀口博信画集』私家版,p. 1, 2005/8
- 柏木隆雄 (書評)「小倉孝誠著『フロベール「感情教育」—— 歴史、革命、愛 —— 』」,『ふらんす』,11月号,p. 68, 2005/10
- 柏木隆雄 「重建懷徳堂復元模型成る」,『懷徳堂センター報 2006』,大阪大学文学研究科・文学部懷徳堂センター, 2006/2
- 柏木隆雄 「図書館あれこれ」,『大阪大学図書館ニューズレター』, 2006/3
- 柏木隆雄 「文学部玄関ロビーに重建懷徳堂復元模型」,『阪大文学部同窓会ニュース』,大阪大学文学部同窓会, 2006/3
- 柏木隆雄 (書評)「La Fortune de Victor Hugo」,『人環フォーラム 2006』,18, 京都大学人間環境学研究科,p. 69, 2006/3
- 柏木隆雄 「懷徳堂サロンのこと」,『懷徳堂記念会だより』,74, 2006/4
- 柏木隆雄 「大学「改革」と文学研究の現状」,『IDE 現代の高等教育』,486,pp. 29-34, 2006/11
- 藤本武司 (辞典項目)「アカデミー・フランセーズ」,「アンドロマック」,「オラース」,「古典主義」,「コメディエー＝フランセーズ」,「ビュール・コルネイユ」,「三単一の規則」,「フェードル」,「舞台は夢」,「ブリタニキュス」,「ベレニス」,「ポリュクト」,「ボワロー」,「ラシーヌ」,「ル・シッド」,『フランス文学小辞典』,朝日出版社, 2007

講演・口頭発表等

- Kashiwagi, Takao “Démons et revenants dans l’*Ugetsumonogatari* (*Contes de pluie et de lune*) d’Ueda Akinari, communication faite à la neuvième Rencontre d’Aubrac, « Aubracadabra : Figures du fantastique dans les contes et nouvelles —— conférences, contes, films », Sr-Chély d’Aubrac, 2004/8/27
- 柏木隆雄 (ミニ・レクチャー)「横のものを縦にする —— 日本近代文学の秘密 —— 」,大阪大学総合博物館第3回企画展,中之島センター, 2004/9/18
- 柏木隆雄 「幕末日本とフランス」,京都大学人文研究所, 2004/12/18
- 柏木隆雄 「洋学の系譜」,三重日仏協会,津市, 2005/3/27
- 柏木隆雄 「古書の魅力 —— 水島荘文庫由来 —— 」,「温故知新」,追手門大学公開講座,茨木市, 2004/4/12

- 柏木隆雄 「学ぶことの楽しみ」, 懷徳堂サロン講演, 大阪大学中之島センター, 2005/5/22
- 柏木隆雄 「古文の魅力 —— 穀山焼き討ち三体 (司馬遼太郎, 頼山陽, 新井白石)」, JCB 社員教養講座, 大林ビル (JCB 大阪本社), 2005/6/8
- 柏木隆雄 (ミニ・レクチャー)「文学における時空」, 大阪大学総合博物館第4回企画展, 大阪大学中之島センター, 2005/9/18
- 柏木隆雄 「懷徳堂の過去と現在」, ハービス6階会議室「サロン・ド・K」, 2005/9/21
- 柏木隆雄 “How did the Japanese learn the Dutch?”, 大阪大学グローニンゲン事務所開所式・記念シンポジウム講演, 大阪大学, グローニンゲン大学, 2005/10/24
- 柏木隆雄 「パリの魅力 —— 本を片手に歩く ——」, 神戸女学院教育文化振興めぐみ会, ヒルトン・ホテル, 2005/11/1
- 柏木隆雄 「大阪商人の教智 —— 懷徳堂の過去と現在」, 西日本社長会講演, JCB グループ, 天津プリンスホテル, 2005/11/10
- 柏木隆雄 「月と酒」, 懷徳堂サロン講演, 法然院, 2005/11/18
- 柏木隆雄 「『文学部』は何ををするところか —— 子規の墓碑銘をめぐる ——」, 大阪大学大学院工学研究科フロアンティア機構講座, 丸亀高校・今治西高校・尾道北高校・観音寺第一高校 共催, 扇町ビル, 2006/1/31
- 柏木隆雄 「正岡子規の墓碑銘を読む」, 小西嘉幸教授退官記念講演会, 大阪市立大学, 2006/3/25
- 柏木隆雄 「フランス人の見た幕末日本」, 三重日仏協会, 津市, 2006/3/26
- 柏木隆雄 「幸田露伴の世界」1-8, 懷徳堂古典講座, 中之島センター, 2006/4-12
- 柏木隆雄 「フランス小説の魅力」, 第3回懷徳堂サロン, 京都長楽館, 2006/4/15
- 柏木隆雄 「西洋文学受容のありかた —— 夏目漱石, 太宰治を例として」, 神戸市立外国語大学英文研究室, 2006/7/21
- 柏木隆雄 「日本文学とフランス文学」, 放送大学面接授業, 天王寺センター, 2006/8/18-19
- 柏木隆雄 「魯迅『藤野先生』と太宰治『惜別』について」, 同済大学講演, 上海, 2006/11/3
- 柏木隆雄 「魯迅『藤野先生』と太宰治『惜別』について」, 華東師範大学講演, 上海, 2006/11/3
- 柏木隆雄 「正岡子規の自筆墓碑銘をめぐる」, 上海外国語大学講演, 上海, 2006/11/6
- 柏木隆雄 「文章の力 —— 子規と漱石を中心に ——」, 樟蔭セミナー, 観音寺第一高校, 2006/11/11
- 柏木隆雄 「私の「なかじきり」 —— 私の中に生きる松工 ——」, 松阪工業高校, 2006/12/13
- 藤本武司 「文学の中の「人間」 —— フランス各世紀に見られる人間観・人間表象の変遷をたどる —— : 17世紀」, 大阪大学フランス語フランス文学会研究会 60 回記念シンポジウム —— 「フランス文学小事典」刊行にあたって, 大阪大学フランス語フランス文学会, 大阪大学待兼山会館, 2007/3/3
- 森 宣雄 「〈鳥の自由〉のはばたく鳥 戦後奄美の隠れて在る主体の変様経験」, カルチュラル・タイフーン

2005 in 京都, 同実行委員会, 立命館大学, 2005/7/2

MORI, Yoshio "Reification of Occupation on Okinawa: A Reply to Kuan-Hsing Chen's Independent Problem in Asia", The 2005 Inter-Asia Cultural Studies Conferences in Seoul, Korean National University of Arts, 2005/7/23

加藤健介・森 宣雄・久保田美生

「共同研究プロジェクト「〈人文学の討議空間〉のデザイン」について」, FIT2006 第5回情報科学技術フォーラム, 情報処理学会, 電子情報通信学会情報・システムソサイエティ (ISS) およびヒューマンコミュニケーショングループ (HCG), 福岡大学, 2006/9/6





データブック2004-2006

Interface Humanities Data Book 2004-2006

発行日 2007年3月31日

編集 三谷研爾・藤本武司

編集補助 足立和彦

発行 大阪大学 21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5

大阪大学大学院文学研究科内 COE事務局

デザイン 西田優子

印刷 有限会社松本工房

